甲府市文化財調査報告 16

秋山氏館跡

— 甲府市都市計画街路高畑町昇仙峡線建設工事に伴う発掘調査報告書 —

2001

甲　府　市
甲府市教育委員会

序

近年、私たちを取り巻く交通事情は年々悪化し、本市におきましても通勤・通学時間帯を問わず、中心街に向かう主要道路各所において慢性的な交通渋滞が起こっております。この度調査の運びになりました秋山氏館跡もそのような道路事情の中で、東西を結ぶ道路として期待されている都市計画街路高畑町昇仙峡線の建設工事に伴って発生した緊急発掘調査でございます。調査につきましては、計画街路の最後の一区間ということで地元、市民などからの一刻も早い開通を願う声もあり、本市都市整備部との協議を進める中で発掘調査と道路工事の調整をとりつつ発掘調査を進めました。

さて、秋山氏館跡の所在する高畑は、甲府市の中西部、荒川の右岸に位置し、昔から甲府方面と身延方面をつなぐ交通の要路ともなっている場所でございます。しかしながら、甲府市南部から南西部一帯は、多くの河川が入り組み、昔は大規模な氾濫の被害を受けていた地域という印象があり、この度調査を実施致しました高畑も、荒川の氾濫のために遺跡はあまり残されていないのではないかと見られてきました。

ところが実際に調査してみますと、人々が大地に刻み込んだ溝や建物の柱跡、生活で使用した様々な道具など貴重な資料が多数発掘されました。この遺跡の名称ともなっております秋山氏の居館に関わると考えられる堀、小規模土塁、建物跡なども検出され、江戸時代前期に屋敷を画していた溝跡からは、漆椀や箸などの木製品を始め、土器・陶磁器など多くの生活道具がまとまって発見されました。また、平安時代と考えられます巨大な溝跡も発見されました。

調査した中には洪水の痕跡も確認されましたが、災害に遭い、苦闘しながらも平安時代から現代に至るまで連綿と続いた人々の営みが発掘調査によって確認され、改めて先人たちの労苦と努力に頭の下がる思いが致しました。現代に生きる私たちも、過去の人々の英知に学び、よりよい環境・社会の形成に向けて尽力してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、調査にあたりまして地元自治会をはじめ、関係各位に大変な御理解と御協力を賜りました。心より御礼申し上げますとともに、本市文化財保護行政の更なる推進に引き続き御助力をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成13年3月

甲府市教育委員会
教育長　金　丸　　晃

例　　言

1．本書は山梨県甲府市高畑一丁目地内に所在する秋山氏館跡の発掘調査報告書である。
2．本調査は、甲府都市計画街路高畑町昇仙峡線拡幅工事に伴う調査であり、甲府市教育委員会が主体となり実施した。
3．試掘調査は、志村憲一（文化財主事）が担当し、平成11・12年度発掘調査は、佐々木満（文化財主事）・山﨑雅恵（富山大学人文科学研究科修了）が担当した。
4．現地調査の期間及び調査面積は以下の通りである。

A地区	平成11年6月21日～平成11年12月3日	調査面積約480㎡	
C地区	平成11年12月6日～平成11年12月28日	調査面積約80㎡	
B地区	平成12年7月21日～平成12年10月17日	調査面積約280㎡	
B地区拡張区試掘調査	平成12年12月20・21日	調査面積約10㎡	合計850㎡

5．本書の執筆は、佐々木満・山﨑雅恵が分担し、文末にそれぞれの文責を記した。図化作業は中村里恵・栗田かず子を中心に行った。
6．国土座標の設置は㈱日測、航空写真測量は㈱シン技術コンサルにそれぞれ委託した。
7．出土した金属製品、木製品の保存処理は㈶帝京大学山梨文化財研究所に委託した。
8．本書の編集は、市瀬文彬（文化芸術課長）を責任者とし、佐々木満が行った。
9．本書に係る出土遺物及び記録図面、写真などは甲府市教育委員会で保管している。
10．発掘調査及び報告書の作成にあたっては、次の諸氏及び機関から御指導・御協力を賜った。記して厚く感謝申し上げる。

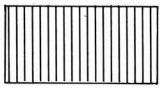
山梨県教育委員会学術文化財課　㈶帝京大学山梨文化財研究所　高畑中部自治会
高畑南西自治会
秋山輔正　岡野秀典　川道　亨　鈴木　稔　成田涼子　内藤かおり　新津　健
橋口定志　萩原三雄　畑　大介　平野　修　藤沢良祐　堀内秀樹　水本和美
森原明廣　山下孝司　（敬称省略）

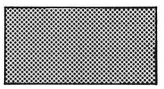
調査・整理参加者及び協力者

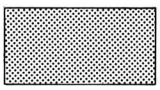
（発掘調査）	荒木昭彦	雨宮英郎	飯室久美恵	岡　悦子	小沢菊太郎
	小沢四郎	岸本美苗	栗田宏一	栗田かず子	小池孝男
	小池幹子	小宮通子	坂本しのぶ	佐田金子	佐田　昇
	清水公子	末木義光	鈴木竜司	高添美智子	塚原澄子
	中村孝一	花曲敬子	樋口　進	平出俊男	藤森善広
	藤森美那	保坂邦雄	三井裕一郎	渡辺　茂	
（東京大学）	児嶋貴行	斉藤拓弥	酒井有里佳	高橋大地	根岸　洋
	初鹿野博之	平山大地	松本貴智		
（国学院大学）	神庭さつき				
（室内整理）	飯室久美恵	岡　悦子	長田由美子	倉田勝子	栗田かず子
	小池幹子	小林明美	小宮通子	坂本しのぶ	関本芳子
	武井美知子	高添美智子	知見寺照子	塚原澄子	平沢則子
	舟木照子	渡辺百合子			

凡　　例

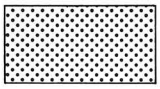
1．現地調査における地区割りはＸ－39295・Ｙ6015ラインを基準として５ｍグリッドを設定している。
2．本書付図中に掲載した地図は、平成３年度甲府都市計画図2500分の１・10000分の１を用いた。
3．遺構断面土層の色調及び遺物観察表中の色調は、『標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修　1997後期）に基づいている。
4．本書に記載した方位は真北を基準としている。
5．全体図・実測図の縮尺は、図中に示した通りである。
6．セクション図に表記されている水平線の数値は、海抜高度を表し、単位はｍである。また、セクションポイント表記のＥ・Ｗ・Ｓ・Ｎは東西南北を表し、同じ遺構で複数の断面観察を行っているところはアルファベットで表記している。
7．ピット・土壙・出土遺物に関わる詳細情報は、各観察表を参考にされたい。
8．本書作成に際して引用・参考にした文献は一括して文書最後に記載した。
9．本書に使用した記号マーク及びスクリーントーンは以下のとおりである。


木


骨


焼　土

須恵器


灰釉陶器

目　　次

序
例　言
調査・整理参加者及び協力者
凡　例
目　次
挿図・挿表目次

第１章　調査の概要
第１節　調査に至る経緯……1
第２節　試掘調査と基本層位……1
第３節　調査の方法……1
第４節　調査の経過……2

第２章　秋山氏館跡の概要
第１節　遺跡の立地……4
第２節　歴史的環境……4

第３章　遺構と遺物
第１節　堀跡……7
第２節　土塁跡……7
第３節　水溜状遺構・埋甕……8
第４節　建物跡・柱穴列……8
第５節　溝　　跡……10
第６節　土　　壙……14
第７節　集石遺構……20
第８節　井 戸 跡……23
第９節　竪穴状遺構……24
第10節　出土遺物……25

第４章　考　察
第１節　古　代……93
第２節　中　世……94
第３節　近　世・近　代……98

第５章　結　語……103

引用・参考文献……104
写真図版……105～114

挿図・挿表目次

図１　調査区域とグリッド配置図 …… 3
図２　秋山氏館跡周辺遺跡分布図 …… 6
図３　１号堀跡・１号土塁跡 …… 27
図４　１号堀跡、１号土塁跡、１号・２号水溜状遺構・１号埋甕 …… 28
図５　１号・２号建物跡、１号柱穴列 …… 29
図６　３号・４号建物跡 …… 30
図７　５号建物跡、２号・３号柱穴列 …… 31
図８　５号・７号・８号・11号・12号溝跡 …… 32
図９　６号建物跡、１号～４号・６号溝跡 …… 33
図10　９号・10号溝跡 …… 35
図11　13号・17号・20号・21号溝跡 …… 36
図12　１号石垣、14号・15号溝跡 …… 37
図13　18号・19号溝跡、60号土壙 …… 38
図14　18号・19号・22号溝跡、60号土壙土層断面図 …… 39
図15　１号～16号土壙 …… 40
図16　17号・19号・21号・23号～33号土壙 …… 41
図17　36号～43号・45号～52号土壙 …… 42
図18　53号～56号・58号・61号～69号・71号・72号・79号土壙 …… 43
図19　18号・20号・22号・44号・57号・59号・73号・76号～78号・80号～83号土壙 …… 44
図20　34号・35号・70号・74号・75号土壙、１号～３号集石遺構 …… 45
図21　４号～10号・13号集石遺構 …… 46
図22　11号・12号・14号～16号集石遺構、１号～４号井戸跡、１号竪穴状遺構 …… 47
図23　２号～６号竪穴状遺構 …… 48
図24　１号堀跡出土遺物(1) …… 49
図25　１号堀跡(2)、１号土塁跡出土遺物 …… 50
図26　１号・２号・７号～10号・13号(1)溝跡出土遺物 …… 51
図27　13号(2)～15号(1)溝跡出土遺物 …… 52
図28　15号溝跡出土遺物(2) …… 53
図29　15号溝跡出土遺物(3) …… 54
図30　15号溝跡出土遺物(4) …… 55
図31　15号溝跡出土遺物(5) …… 56
図32　15号溝跡出土遺物(6) …… 57
図33　15号溝跡出土遺物(7) …… 58
図34　15号溝跡出土遺物(8) …… 59
図35　15号溝跡出土遺物(9) …… 60
図36　15号溝跡出土遺物(10) …… 61
図37　15号溝跡出土遺物(11) …… 62
図38　15号溝跡出土遺物(12) …… 63
図39　17号・18号(1)溝跡出土遺物 …… 64
図40　18号溝跡出土遺物(2) …… 65
図41　18号(3)・19号(1)溝跡出土遺物 …… 66
図42　19号溝跡出土遺物(2) …… 67

図43　19号溝跡出土遺物(3)…… 68
図44　19号(4)・22号(1)溝跡出土遺物…… 69
図45　22号溝跡出土遺物(2)…… 70
図46　22号溝跡出土遺物(3)…… 71
図47　1号～3号・6号・7号土壙出土遺物…… 72
図48　11号・18号・22号・24号～27号・29号・30号土壙出土遺物…… 73
図49　30号・34号土壙出土遺物…… 74
図50　35号・44号・53号・54号・57号・61号(1)土坑出土遺物…… 75
図51　61号(2)・62号・65号・73号・74号土壙、1号・2号集石遺構出土遺物…… 76
図52　2号・3号・5号～8号・10号・12号～15号集石遺構出土遺物…… 77
図53　1号・2号井戸跡、1号・4号・6号竪穴状遺構出土遺物…… 78
図54　ピット出土遺物、金属製品…… 79
図55　調査区一括…… 80
図56　22号溝跡想定図・秋山氏館跡中世遺構変遷図…… 97
図57　秋山氏館跡近世遺構変遷図…… 102
図58　15号溝跡陶磁器一覧・碗皿産地別割合…… 102
図59　甲府城関係遺跡出土鍋島…… 102

表1　ピット・土壙観察表…… 81～83
表2　出土遺物観察表…… 84～92

［付　図］

秋山氏館跡航空写真測量全体図1
秋山氏館跡航空写真測量全体図2

第１章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

甲府都市計画街路・高畑町昇仙峡線（高畑工区）の開発工事に先立ち、平成10年10月２日付け、都発第10―11号により甲府市長名で本市都市整備部から周知の埋蔵文化財包蔵地秋山氏館跡の発掘調査が通知された。通知を受け、平成10年10月12日～21日まで試掘調査を実施し、平安時代から近代に至る遺構・遺物が良好な状態で包蔵されていることが確認されたため、平成11年度から本調査を行うこととなった。

しかし、調査着手時点で調査対象地区中央部分の用地が未買収であったために、全体を３分割する形で西側をＡ地区、中央部をＢ地区、東側をＣ地区とし、平成11年度にＡ・Ｃ地区、平成12年度にＢ地区の調査を段階的に実施した（図１）。

調査対象となる計画街路予定地は東西約70ｍ、南北約15ｍで、面積約1050㎡であるが、現地は民家が隣接し、既存道路は道幅が狭く交通量も多い。そのため対象面積すべてを調査することは危険であると判断し、隣接地からやや引いたところで調査を実施した。Ｃ区については、調査区北側に防火水槽が埋設されていたこともあり、調査面積は大幅に狭いものとなった。したがって、最終的な調査面積は約850㎡である。

第２節　試掘調査と基本層位

試掘調査は、当初は地下の状況把握を目的に、人力で２ｍ四方のグリッド５か所を掘削した。結果的に複数の時代の遺物とともに遺構の存在が確認されたため、トレンチによる確認作業に移行した。表土は重機により掘削を行い、確認面以下は人力により掘削及び確認作業を行っている。試掘ではＡ地区で60㎡、Ｃ地区で10㎡の面積を調査し、ピット・溝跡・水溜状遺構等を検出するとともに、地形が南側へ緩やかに傾斜している状況が把握された。遺物も平安時代のものを中心に、近世・近代まで出土することが確認された。

本調査地区の土壌は、基本的に砂質で、粘性が弱い。言い換えれば水の浸透性・速乾性に優れた土壌である反面、保水性・耐水性が弱いといった特徴がある。基本層位は、表土から約60㎝前後のレベルで暗褐色砂質土が覆い、直下に洪水によると考えられる粗粒砂層が５～10㎝程度堆積している。下層は黒褐色砂質土が微妙に変化しながら堆積し、断面中で３面ほど遺構面を確認できた。

土層堆積状況から、遺構面は近世で２面、中世で１面存在することが想定され、上層の近世面から調査することとし、最終的に中世面までの調査を目標とした。

第３節　調査の方法

平成11年度の調査対象であるＡ・Ｃ地区については、６月21日から面積的に規模の大きいＡ地区の調査に着手し、終了後速やかにＣ地区の調査を実施した。試掘調査の成果に基づき、重機により概ね粗粒砂層レベルまで全体の掘削を行った。砂層は広範囲に確認されたものの、主に調査区中央から南側に限り堆積が認められた。また、南側も帯状に砂層が途切れていたことから、土塁状の高まりの存在を確認した。よって、この段階から人力による調査へと移行した。Ｂ・Ｃ地区の調査においても重機による掘削レベルは、Ａ地区の調査成果に基づいて設定し、土層の変化に応じて随時掘削作業を進めた。

甲府市においては、近年本格的な調査が市内各所で行われているため、他遺跡群との関連性を考える上で共通の方向性を持たせる必要性があると考え、X・Y座標で計算された国土座標による基準杭を導入した。調査区内は木杭により５ｍ四方の碁盤目状のグリッドを設定し、北から南へＡ～Ｉまでのアルファベットと、西から東へ１～15までの算用数字を付して表記した（図１）。各グリッドは北西隅にあたる杭を基準とし、グリッド番号はアルファベットと算用数字を組合せたものを名称として用いた。遺構実測、遺物取り上げに際しては、すべてグリッドに合わせて記録した。個々の遺構は平面形態の確認後、ピットなど小型の遺構は半截、土壙など大型の遺構は二分法、或は四分法を用い、断ち割りによって断面観察を行った後、完掘した。

第４節　調査の経過

平成11年度（Ａ地区・Ｃ地区）調査

Ａ地区（調査期間：1999.６.21～1999.12.３）

６月21日　重機による表土除去を開始。平行して精査、遺構確認。
６月22日　１号堀跡確認。
６月29日　重機による表土掘削終了。全体精査。中央に土層観察用ベルトを残す。
７月５日　１号土塁跡、根石列確認。
７月６日～18日　雨等による天候不順のため作業中断
７月22日　１号堀跡、１号土塁跡検出。
８月２日　東京大学・国学院大学学生調査参加。
８月３日　１号堀跡掘削開始（部分調査）。調査区杭打ち。グリッドを設定する。
８月９日　甲府市内の小学生発掘体験。
９月９日　検出した幕末～近代遺構の全体撮影。
10月22日　重機による堀跡の掘削開始。中央に残したベルトを除去。
10月23日　堀際の杭列検出。午後、地元住民を対象に遺跡見学会を行う。参加者約70名。
10月25日　シン技術コンサルによるＡ地区１回目の航空写真測量を実施。
10月26日　遺構検出面下層の精査及び掘削開始。
10月27日　集石墓群の調査を開始。
10月29日　ピット、土壙新たに検出、随時掘削。
11月16日　22号土壙墓検出、掘削。
11月19日　山梨文化財研究所　畑大介氏来訪。
11月20日　１号土塁跡下より新たに集石墓を検出。
11月22日　Ａ地区２回目の航空写真測量を実施。
11月26日　山梨文化財研究所　畑大介氏来訪。22号土壙墓の骨を取りあげる。30号土壙及び13号溝跡の存在を確認し掘削。
12月１日　豊富村教育委員会　岡野秀典氏来訪。
12月２日　秋山氏館跡Ａ地区の調査を終了する。
12月３日　事務所等後片付け。

Ｃ地区（調査期間：1999.12.６～1999.12.28）

12月６日　重機による表土剝ぎ及び人力による掘削開始。全体精査。
12月７日　近代の水溜めを検出。この他ピット、土壙を検出。随時掘削。
12月８日　調査区杭打ち。グリッド設定。

12月15日　74号・75号土壙の骨を検出。
12月16日　山梨文化財研究所　畑大介氏来訪。
12月17日　平行して工事立会を行っていたＡ地区より石組み井戸を検出。Ｃ地区のピット群はほぼ完掘終了。Ｃ地区１回目の航空写真測量を実施する。
12月20日　遺構検出面下層の掘削開始。精査、遺構検出後、随時掘削。
12月21日　74号土壙の骨を取りあげる。
12月22日　75号土壙の骨を取りあげる。
12月28日　Ｃ地区２回目の航空写真測量を実施。平成11年度調査を終了する。

平成12年度（Ｂ地区）調査
Ｂ地区（調査期間：2000．7．21～2000.10.17）
７月21日　重機による調査区表土剝ぎを開始。
７月22日　表土剝ぎ終了。全体精査開始。
７月24日　調査区杭打ち。グリッドの設定。
８月２日　遺構確認終了。土壙・ピット群の掘削を開始。
８月４日　調査区西壁において地境の石垣検出。
８月９日　15号溝掘削開始。
８月４日～18日　午後雷雨が続き、午前中の多くを現場の排水や復旧作業に費やす。
８月24日　豊富村教育委員会　岡野秀典氏来訪。
９月１日　豊島区教育委員会　橋口定志氏、成田涼子氏、水本和美氏来訪。
９月７日　シン技術コンサルによる１回目の航空写真測量を実施。
９月12日　11日からの雨が記録的な集中豪雨となり現場全体が水没。
９月19日　18・19溝跡掘削開始。
10月５日　サブトレンチを掘削し、22号溝跡の状況を把握。
10月12日　２回目の航空写真測量を実施。
10月17日　現場撤収。
12月20日　調査区南側の残地と既存水路解体部分の試掘。15・18・19溝跡延長を確認。
12月21日　試掘調査終了。

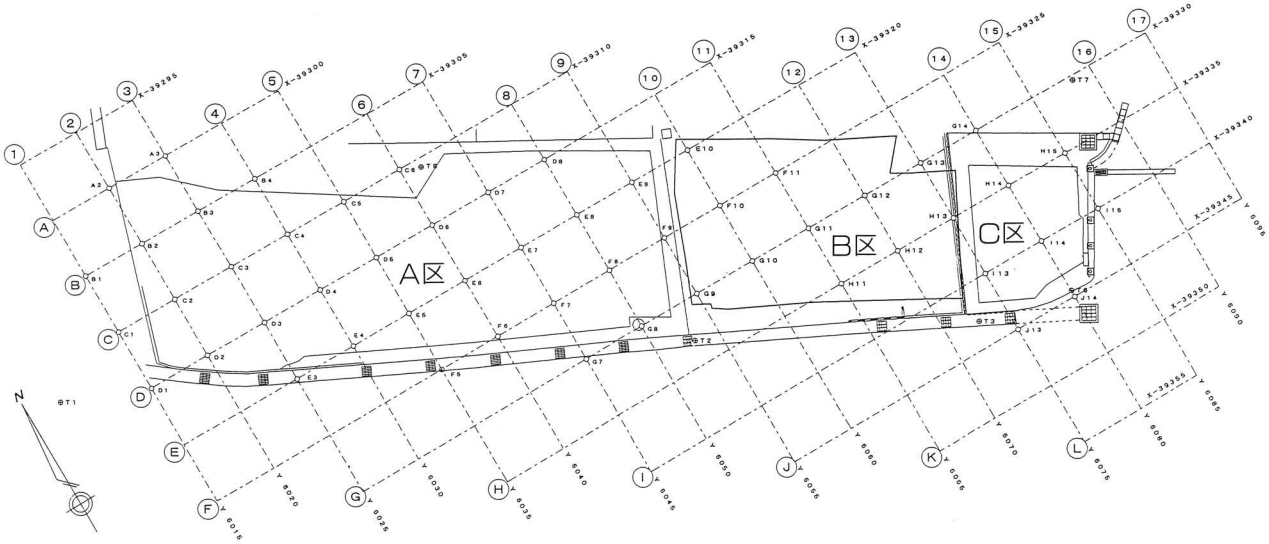


図１　調査区域とグリッド配置図

第２章　秋山氏館跡の概要

第１節　遺跡の立地

秋山氏館跡は、甲府市街地西部を南に流下する荒川中流域西岸の自然堤防上、標高265ｍに立地する。荒川は秩父山地を源に甲府盆地を南流する。流長34㎞、流域面積182㎢、甲府市の主要河川であり、金石橋付近より西南方向に広がる荒川扇状地を形成し、市最南端の大津町で笛吹川と合流する。荒川は音羽橋付近から天井川の傾向を示し、これまで下流域一帯に多くの水害を引き起こしてきた。

秋山氏館跡の所在する甲府市高畑の地名は、文献史料には〝高畠〟として記載されており、周囲より比較的高地になっていたことからその名がついたといわれる。1997年度地形図をみると、遺跡は東西約100ｍ、南北約130ｍの範囲に展開しており、現在は多くが住宅地となっている。

第２節　歴史的環境

秋山氏館跡周辺に所在する上石田遺跡、上石田Ｂ遺跡、宮北遺跡、大北河原遺跡、久保北河原遺跡などの分布状況からみると、河川により形成された自然堤防や微高地上に古くから集落が点在していた様子がわかる。上石田遺跡では縄文時代中期中葉から後葉にかけての３軒の住居址と大量の土器と石器が出土し、低地に営まれた縄文集落遺跡として注目を浴びた。他の遺跡はいずれも平安時代の集落と考えられ、平安期に新たな開発者による集落経営が展開されたものと考えられる（図２）。

甲府市域は、奈良・平安時代には甲斐国の旧山梨郡・巨麻郡に属し、荒川が両郡の境であったともいわれる。現在でも設置された郷名を遺称とする地名が多く残っており、高畑の一帯を、巨麻郡の東端にあたる青沼郷の一部とする見方もある。奈良時代には、高畑に治水の神を祀った住吉神社が勧請されたとの記録があり（『甲斐国志』巻ノ60）、水害の絶えなかった土地柄を窺うことができよう。

中世の高畑は、一条郷あるいは青沼郷の一部となり、甲斐源氏の庶流である一条氏の支族、高畠氏が治めていたといわれている（『甲斐国志』巻ノ95）。一条氏を最初に称したのは、武田信義の男、忠頼である。忠頼は甲府市中心部から南東にかけて展開していたと考えられる一条郷を本拠とし、一条小山の地（現甲府城跡）に居館を構え一条氏を称した。しかし、一時は鎌倉幕府と肩を並べるほどの勢力を誇った甲斐源氏も、勢力拡大を恐れた頼朝により忠頼以下板垣兼信、安田義定が次々と失脚させられる中で、一条氏の名跡は一旦途絶えてしまう。その後、忠頼の弟で頼朝の寵愛を受けていた武田信光の四男、信長が一条氏を名乗り、その子信行が高畠氏を称している。高畠氏は『一蓮寺過去帳』に記載があるが、以後の行方は明らかではない。戦国時代には、高畑で秋山越前守虎康の名がみられる。

秋山氏は一条氏と同じく甲斐源氏であり、加賀美遠光の長男、光朝を祖とする一族である。光朝は山梨県甲西町秋山村を根拠とし、秋山氏を称した。秋山虎康は、武田信玄の次男竜宝の付け人であったとの記録がある（『甲陽軍鑑』品第17・『甲斐国志』巻ノ109）。いつ頃から高畑に居住するようになったかは不明である。武田氏滅亡後、女子を穴山梅雪の養女として家康に献じており、越前守虎康の子孫は江戸幕府の旗本となっている。『甲斐国志』（巻ノ44）によると、かつて長慶寺という寺があり、高畠村南境の笠屋天神の宮寺であ

ったが、洪水で罹災し北山筋に移転している。移転に際して、納められていた虎康の位牌も移したことが記載されているが、現在寺院の所在は不明である。

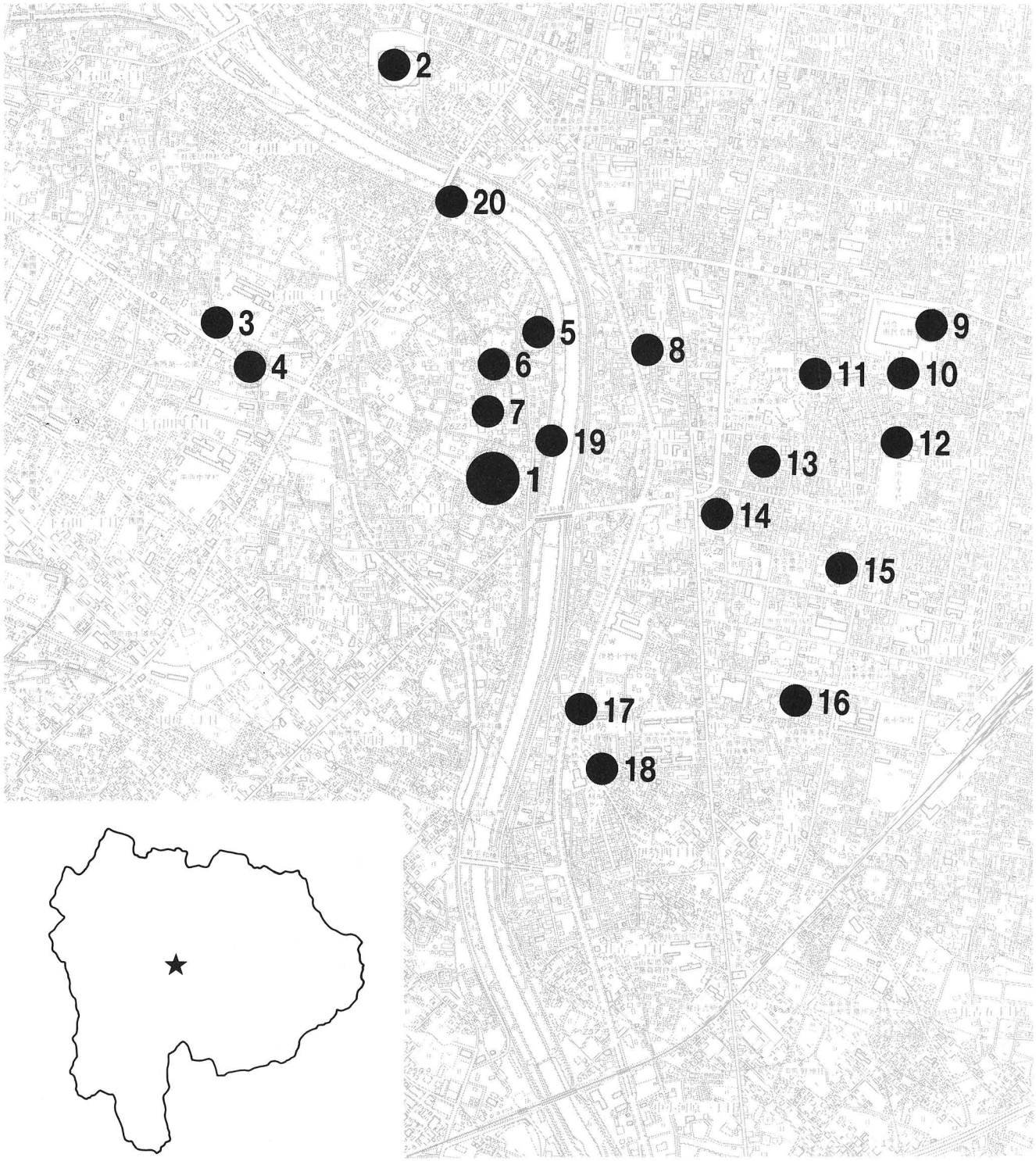
『甲斐国志』によると、高畑内には秋山虎康と別系統の秋山氏の存在も記述されている。武田信玄の重臣であり、織田軍によって美濃岩村城で刑死した秋山伯耆守信友の男、民部右衛門にゆかりのある秋山孫右衛門も高畑に居住していたことが記録されている(『甲斐国志』巻ノ109)。時期的には徳川幕府が成立する前後のことであり、武田滅亡後に出仕し、移封されたか、新たに士官して登用されたものか、どのような経緯で当地に居を構えることになったのかは不明である。

秋山孫右衛門は民部右衛門、荘兵衛、平太夫、兵助と相続した家系であるが、『甲斐国志』では孫右衛門は宝永2年(1705)には高畑に住すとある。何れにしても虎康の系統ではないと判断されるため、本遺跡は、民部右衛門に縁のある秋山氏の館跡ないしは屋敷跡であると推測されている。しかし、秋山輔正氏蔵の秋山家文書にある家系図及び万延元年(1860)に大和郡山の柳沢氏に出された奉公願書と『甲斐国志』の記載に異なるところもあるため、詳細は現段階では不明と言わざるを得ないが、秋山家文書によると、慶長10年には高畑に居を構えたことが記載されている。

武田氏滅亡後に入国した徳川家康は、武田家の旧家臣団、寺社、各郷村の所領安堵を行うと共に起請文を差しださせ、本格的な領国経営に着手している。高畠に関するものでは、天正10年(1582)11月20日に青沼助兵衛に本領の高畠において「高畠之内定物」として5貫文、同年12月3日には市川以清斎元松に本領として「高畠本在家」300貫文、12月12日には志村又左右衛門尉に本領として「高畠内塩屋分」18貫文を安堵している。『一蓮寺過去帳』に文明16年(1484)2月24日に高畠で「シホ屋」逆修と記載されているが、同一の塩屋であろうか。

高畑は甲府方面と身延方面をつなぐ交通の要路として古くから利用されていたらしく、一条小山あたりから南下し、「高畑の渡し」から荒川を渡り、高畑村から下石田を経由して駿州路西路にでる旧身延路を利用するルートと、山梨郡西青沼村で甲州道中と分かれ、「西条渡し」を利用して荒川を渡り、高畑村と上石田村の境を南西に進み駿州路に至る河内道を利用するルートがある。

「高畑の渡し」は、古代・中世から使われていた古道と伝えられ、道沿いに高畑住吉神社がある。「高畑の渡し」に関しては秋山家文書や万延元申年五月の高畑村議定書に渡しの維持管理を近圏の郷村で請け負っていた記録があり、生活に関わる渡しとして利用されていたものと思われるが、主に人の往来手段としての渡し舟であったようである。現在「高畑の渡し」は千秋橋、「西条の渡し」は荒川橋として利用されている。



1，秋山氏館跡　2，寿町遺跡　3，上石田B遺跡　4，上石田遺跡
5，久保北河原遺跡　6，大北河原遺跡　7，渋沢遺跡　8，千松院遺跡
9，青沼遺跡　10，青沼三丁目遺跡　11，太田町遺跡　12，湯田一丁目遺跡
13，伊勢町遺跡　14，食糧工場遺跡　15，幸町A遺跡　16，幸町B遺跡
17，木俣遺跡　18，般舟院跡　19，高畑の渡し　20，西条の渡し

図２　秋山氏館跡周辺遺跡分布図

第３章　遺構と遺物

２年度に渡る分割調査であり、かつ調査区中央部にあたるＢ区が最終の12年度調査となってしまったため、時期別または調査順を整理して遺構番号を付すことができず、遺構の性格等に応じて適時番号を付している。調査区全体で堀跡１、土塁跡１、水溜状遺構２、埋甕１、建物跡６、柱穴列３、溝跡22、土壙83、集石遺構16、井戸跡４、竪穴状遺構６、石垣１、ピット408が検出された。本文中にある重複関係で溝跡など大型の遺構についてはピットとの切り合い関係は省略している。また、出土遺物では図化可能であったものについては、番号を記載しているが、図化できないものもあるため、主な出土品のみを列記し、時期の明確なものについては具体的な年代を提示している。

第１節　堀跡

１号堀跡（図３・４・24・25）

調査区西側Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ１～３を中心に検出された。堀跡は屋敷地の南西隅が検出されている。堀跡は江戸初期に秋山氏が屋敷地を造成した段階で掘削され、その後徐々に拡張が行われ戦後くらいまで高畑周辺の生活用水として機能していたようである。南北は調査区外へ広がるが、南端は「Ｌ」字状に東へ曲がり、既存道路と重複していく。屋敷地内に当たる東側には小規模な土塁が設けられているほか、護岸として木杭列が３列検出され、堀のラインの推移が確認された。西側は調査区外に立ち上がりがあると考えられる。総延長は不明であるが、堀幅は約８ｍと考えられる。堀跡は大きく４時期の変遷が確認され、１期には南端で大きく東へ屈曲し、既存道路方向に展開する。南には一部に１号石積が施される。２期には木杭に横板を渡して１号石積以東を部分的に閉鎖し、流路の変更を行っている。３期には南北方向を木杭により直線的に改修し、隅部は完全に封鎖し、小規模な桝池状施設を設ける。４期の最終段階には３期の内側に木杭列を打ち流路を直線化し、調査区北側に淡水魚用の魚桝が設けられる。１期は江戸期、２期は幕末～明治、３期は大正、４期は昭和と考えられる。

重複関係：なし。
出土遺物：１～30。他土師器、須恵器等古代から近現代までの遺物多数。漆椀１点出土。
時　　期：近世初頭～現代。

第２節　土塁跡

１号土塁跡（図３・４・25）

１号堀跡東から調査区南側にかけて確認された小規模な高まりで、調査段階では幕末～明治の洪水による砂層が土塁跡検出部分で帯状に途切れていたため確認できた。上部は削平されて基底部のみ検出されたため、全容は不明である。残存値で幅は北側で約3.20ｍ、南側で５ｍ、高さは残存値で約0.3ｍ程度であった。堀の形状に合わせて南東部は屈曲している。

重複関係：11号集石遺構、32・33号遺構を切る。
出土遺物：31～41。他に漳州窯系青花皿も数点含む。
時　　期：近世初頭～近代。

第３節　水溜状遺構・埋甕

１号水溜状遺構（図４）

Ａ区の調査区中央Ｄ６グリッドから検出されたが、平面形はほぼ方形で、四面に木杭を打ち込んで横板を渡したもので壁面を補強していた。下層は粘土質の土が堆積しており、水が溜められていた状況が明確にわかった。

重複関係：２号溝跡を切る。
出土遺物：図化遺物なし。かわらけ。
時　　期：近代。

２号水溜状遺構（図４）

Ｃ区南東隅から検出されたが、遺構の平面形は隅丸方形で北・西側には丸太が設置されていた。南・東側は調査区外に展開しているため、全容は不明であるが、遺構の立ち上がり部分には根による小さな穴が無数に確認されているため、立ち上がり部には生け垣が廻っていたと考えられる。

重複関係：21号溝跡を切る。
出土遺物：図化遺物なし。在地土器、瀬戸美濃・肥前陶磁器、ガラス製品等。
時　　期：近代。

１号埋甕（図４）

甕の体部から口縁部にかけてはすでに失われており、底部付近のみ出土した。中からはウリ科植物の種子も出土しているため、水甕というよりも厠遺構である可能性もある。掘り方の径は約46cmである。

重複関係：なし。
出土遺物：図化遺物なし。甕底部他、金属製品。
時　　期：幕末～近代か。

第４節　建物跡・柱穴列

１号建物跡（図５）

Ｃ４グリッド内で確認されている。ピット146・167には径約15cm前後の柱材が残存しており、柱間は南北約1.85ｍ、東西約3.60ｍである。主軸は南北方向で、柱間は南北約1.90ｍ、東西は3.40ｍ・3.60ｍと東西が若干歪む。

重複関係：12号溝跡、30・35号土壙、４号集石遺構を切る。
出土遺物：図化遺物なし。ピットからは土師器等が出土。
時　　期：江戸期か。

２号建物跡（図５）

Ｄ６・７グリッド内で確認された建物跡で、主軸は東西方向である。柱間は東西約1.90ｍ・2.30ｍ、南北約2.20ｍである。

重複関係：１・２号溝跡に切られる。３号建物跡、２号柱穴列との重複関係は不明。
出土遺物：図化遺物なし。ピットからは土師器等が出土。
時　　期：江戸期か。

3号建物跡（図6）

D6・7グリッド内で確認され、1号建物跡同様ピット28・96・209からは径約15cmの柱材が検出されている。建物の主軸は南北方向で、柱間は南北が約1.90m、東西が約2.40m～2.50mである。

重複関係：1・2号溝跡に切られ、2号建物跡、2号柱穴列との重複関係は不明。

出土遺物：図化遺物なし。ピットからは土師器、肥前磁器が出土。

時　　期：江戸期。

4号建物跡（図6）

中世面の調査段階でD7・E7グリッド内において確認された建物跡で、主軸は南北方向で、柱間は南北が約2.10m・1.60m、東西約1.90m前後である。

重複関係：1・2号溝跡に切られ、28号土壙、2号井戸跡を切る。

出土遺物：図化遺物なし。ピットからは土師器等が出土。

時　　期：中世か。

5号建物跡（図7）

G11グリッド内で検出された建物跡である。主軸は東西方向で、柱間には場所により違いがあるが、南北約2m前後、東西1.95m・2.70m前後である。

重複関係：4号竪穴状遺構を切る。

出土遺物：図化遺物なし。ピット内から土師器等が出土。

時　　期：江戸後期か。

6号建物跡（図9）

A区南壁際付近で小石を集めて根石とした建物跡が確認されている。土塁跡の一部を利用しているためか、北側より一段高い場所で検出されており、秋山家に所蔵されている屋敷絵図内に描かれている長屋門の基礎と考えられる。

重複関係：8号溝跡、11・15・21・23・27・36号土壙、2・3・6・12号集石を切る。

出土遺物：なし。

時　　期：江戸後期から近代。

1号柱穴列（図5）

C7・D8グリッドにかけて確認された。柱列主軸は東西方向で、柱間は1.80m～2.10mである。

重複関係：1・3・7号溝跡に切られ、18号土壙を切る。

出土遺物：図化遺物なし。ピット内から土師器等出土。

時　　期：江戸期か。

2号柱穴列（図7）

D6グリッド付近で確認され、主軸方向は南北で、柱間は1.90m・2.10mである。北側は調査区外に展開すると考えられる。

重複関係：1・2号溝跡、9号土壙に切られる。2・3号建物跡との重複関係は不明。

出土遺物：図化遺物なし。ピットから土師器等出土。

時　　期：江戸期か。

３号柱穴列（図７）
　Ｄ７・Ｅ８グリッドで確認され、主軸は東西方向である。柱間は1.70ｍ～2.10ｍ。
重複関係：４号建物跡と重複するが、前後関係は不明。
出土遺物：図化遺物なし。ピットから土師器等出土。
時　　期：中世～近世。

第５節　溝跡

１号溝跡（図９・26）
　洪水により堆積した砂層の除去後に検出された東西方向に延びる溝跡であり、長さ約25ｍ、幅約1.20ｍである。平面形は所々で歪んでおり、西はＣ４グリッド内の土塁手前で終わっている。水の流れた痕跡はなく、聞き取り調査では近代に畑が存在していたことが確認されたため、畑の畝のようなものと考えられる。
重複関係：３号溝跡に切られる。
出土遺物：42・43。古代から近代までの遺物。
時　　期：近代。

２号溝跡（図９・26）
　１号溝跡と並行して検出されている。中央で部分的に浅くなり途切れるが、長さは約26ｍ、幅約1.40ｍである。西はＤ４グリッド内で終わっているものの、東は調査区外に延びている。やはり、水の流れた痕跡はなく、畑の畝と考えられる。
重複関係：３号溝跡、１号水溜状遺構に切られる。
出土遺物：44～48。古代から近代までの遺物。
時　　期：近代。

３号溝跡（図９）
　Ｄ８グリッド内で南へ屈曲し、Ｅ８グリッド内で止まっている。それ以降は撹乱と試掘段階で掘削されていることもあり確認できなかった。長さは約13ｍ、幅約0.4ｍ程度で、遺構の性格は不明である。
重複関係：１・２・６号溝跡を切る。
出土遺物：図化遺物なし。他に土師器等。
時　　期：近代。

４号溝跡（図９）
　東西約3.30ｍ、幅約0.8ｍであり、１・２号溝跡と形状や方向が類似することから、畑の畝と考えられる。
重複関係：なし。
出土遺物：図化遺物なし。他に土師器等。
時　　期：近代。

５号溝跡（図８）
　Ｂ３・Ｃ３グリッド内の土塁跡基底部から検出された溝跡で、当初は木杭と横板が存在したため土塁の土留めと考えられたが、掘削したところ水の流れた痕跡が認められたため、溝跡として扱った。長軸は南北約6.70ｍ、幅約0.5ｍであった。

重複関係：土塁を切る。
出土遺物：図化遺物なし。他に土師器、瓦等。
時　　期：19世紀以降。

６号溝跡（図９）
　Ｄ８グリッド内で検出されたが、北側は撹乱により破壊されているため全体の規模や方向性は不明である。主軸は東西方向で約80㎝、幅約30㎝であった。
重複関係：３号溝跡に切られる。
出土遺物：遺物なし。
時　　期：近代。

７号溝跡（図８・26）
　Ｃ７・Ｄ７グリッド内で検出された溝跡で、北側は調査区外に延びていると考えられるが、南側は１号溝跡に切られたところで途切れている。主軸は南北方向で約4.30ｍ、幅約１ｍである。
重複関係：１・２・３号溝跡に切られ、18号土壙を切る。
出土遺物：49～51。土師器、灰釉陶器少量。
時　　期：江戸後期か。

８号溝跡（図８・26）
　Ｆ７・８グリッドにかけて検出されているが、Ｆ８内で北側に屈曲し、弱く湾曲しながら調査区外に延びる。主軸は東西方向で約8.30ｍ、幅約0.6ｍである。何らかの区画性のある溝跡と考えられる。
重複関係：11号土壙に切られ、３・６・12号集石遺構を切る。
出土遺物：52～54。土師器、在地土器等。
時　　期：中世後半。

９号溝跡（図10・26）
　Ｃ６・Ｄ６・Ｅ６グリッド内で検出され、主軸は南北方向で北側は調査区外に展開し、南側はＥ６内で止まっている。検出された範囲で長さ約9.80ｍ、幅は中央部分が狭まるため北側で約1.70ｍ、南側で約2.20ｍである。堆積状況から水は常に溜まっていたと考えられるが、上層は人為的に埋め戻され、確認面上では硬化していた。
重複関係：１・２号溝跡、１号水溜状遺構に切られ、22・29号土壙、８号集石遺構、１号井戸跡を切る。
出土遺物：55～57。土師器、須恵器、灰釉陶器、瀬戸美濃陶器等小片多数。
時　　期：中世後半～近世初頭か。

10号溝跡（図10・26）
　Ｂ４・Ｃ５グリッド内の調査区壁際において検出され、北側半分は調査区外に展開していると考えられる。主軸は東西方向で約7.20ｍ、幅約1.60ｍである。平面形は不整形で全体に浅く、自然流路と思われる。
重複関係：12・13号溝跡、30号土壙を切る。
出土遺物：58・59。土師器少量。
時　　期：近世か。

11号溝跡（図８）

調査区中央Ｅ５グリッド内で検出された。長軸は東西方向で約5.35ｍ、幅約0.3ｍ。８号溝跡が延長上に存在しており、何らかの関連があるものと考えられる。

重複関係：14・19号土壙に切られ、９号集石遺構を切る。

出土遺物：図化遺物なし。他に土師器少量。

時　　期：中世後半～近世初頭。

12号溝跡（図８）

Ｃ４グリッド内で確認されたが、南側は判然としなかったため全体を検出することができなかった。検出された範囲で長軸は南北方向で約5.50ｍ、幅約0.3ｍである。

重複関係：１号建物跡に切られ、13号溝跡、30号土壙を切る。

出土遺物：図化遺物なし。他に土師器、在地土器等。

時　　期：中世。

13号溝跡（図11・26・27）

Ｃ４・Ｄ４グリッドにおいて調査終了間際に検出された。そのため南側については部分的に未調査のまま終了した。主軸は南北方向で30号土壙に北側を切られるため、残存していた範囲で長さ約3.50ｍ、幅約0.8ｍであるが、調査区北壁30号土壙に切られた13号溝跡のセクションが確認できたため、溝跡は調査区北側に延びていたものと考えられる。また覆土上層には拳大から人頭大程度の礫まで多数の礫が投げ込まれていた。

重複関係：12号溝跡、30号土壙に切られ、22号溝跡を切る。

出土遺物：60～68。土師器、須恵器、灰釉陶器、在地土器、白磁、常滑、石製品等多数。

時　　期：15世紀～16世紀。

14号溝跡及び１号石垣（図12・27）

Ｂ区西壁際の１号石垣基底部から検出された溝跡で、主軸は南北方向で長さ約8.50ｍ、幅約0.15ｍである。１号石垣の側溝と考えられる。１号石垣は割石などを２段程度積み上げているが、基底部には松材と思われる胴木を杭で押えながら渡し、その上から石を積み上げている。検出地点は調査区Ａ・Ｂ区の境界であると同時に、昔の地境でもある位置で検出されたため、秋山氏屋敷と外部とを区画する施設であったと考えられる。

重複関係：15・22号溝跡を切る。

出土遺物：69～71。在地土器、瀬戸美濃・肥前陶磁器。

時　　期：18世紀中葉から19世紀末。

15号溝跡（図12・27～38）

Ｅ９・Ｆ９・Ｇ９グリッドを中心に検出され、主軸は南北方向で長さ約14.70ｍ、最大幅約2.50ｍである。南側には部分的に石積が施されており、石積裏側にはもう１条の溝跡が確認されたため、15号溝跡は当初Ｆ９・Ｇ９グリッド付近で東側に弱く屈曲しながら流れていたものを、ある段階で石積により封鎖し、新たに直線的な水路に改修したことが判明していた。したがって、調査段階では石積で封鎖された水路を旧路とし、直線の水路を新路として取り扱った。後日調査区南側の既存水路解体前に調査をしたところ水路の延長が確認され、旧路はそのまま南側に延びることが確認され、新路は西側に屈曲することが判明した。15号溝跡はＡ・Ｂ区の境界に位置するため、１号石垣が構築される以前の地境の溝跡と考えられる。また、同遺構からは時期的に一括性の高い様々な遺物群が出土してい

る。それについては、出土遺物第10節並びに考察を参照されたい。
重複関係：14号溝跡、３号竪穴状遺構、37号土壙に切られ、22号溝跡を切る。
出土遺物：72～302・593・594。他には中国青磁、木製農具、用途不明漆製品等多数。
時　　期：17世紀～18世紀初頭か。

16号溝跡（全体図参照）
Ｂ区調査区南側で検出され、南側半分は調査区外に展開している。主軸は東西方向で長さ14ｍ、最大幅0.7ｍである。全体図に記載されていないが、東側はＣ区まで延びていた。
重複関係：３号井戸跡に切られ、17号溝跡を切る。
出土遺物：図化遺物なし。他に瀬戸美濃陶磁器、瓦少量。
時　　期：近代。

17号溝跡（図11・39）
Ｂ区東側Ｇ13・Ｈ12グリッド内で検出され、平面形は不整形である。主軸は南北方向で長さ約９ｍ、最大幅で約1.10ｍである。床面には無数の小さな穴が検出されたため、溝跡は生け垣の跡ではないかと考えられる。
重複関係：16号溝跡に切られ、22号溝跡を切る。
出土遺物：303～305。土師器、灰釉陶器、肥前陶磁器等少量。
時　　期：18世紀中葉以降。

18号溝跡（図13・14・39～41）
主軸を南北方向に有し、調査区外南北方向にさらに延びている。15号溝跡に隣接し、北から南へ緩やかに傾斜しており、長さは検出した範囲で14.5ｍで、溝幅は北側が約1.80ｍに対し、南側がやや膨んで約2.20ｍ前後である。土層堆積をみると、上層では水の流れた薄い砂層も数層確認できたため、雨水程度の流水があったと考えられるが、基本的には低い場所に水が溜まる程度であったと見られる。
重複関係：15号溝跡に切られ、60号土壙、19・22号溝跡を切る。
出土遺物：306～343・589。
時　　期：16世紀前半～17世紀初頭。

19号溝跡（図13・14）
18号溝跡東に隣接して検出されたが、上層は無数の礫が充塡されており、礫の中からは多数の窪み石が出土した。主軸は南北方向で長さ約12.70ｍ、最大幅約2.80ｍであり、Ｆ９・10グリッドに存在する60号土壙跡も19号溝跡に付随する施設であると考えられる。溝跡はＢ区試掘調査において延長が検出されたが、試掘調査区内で止まっていた。性格は不明であるが、何らかの区画溝であると考えられる。
重複関係：40号土壙、18号溝跡に切られ、61号土壙、22号溝跡を切る。
出土遺物：344～388・591・592。土師器、須恵器、灰釉陶器、在地土器、常滑、石製品等。
時　　期：15世紀～16世紀。

20号溝跡（図11）
Ｂ区北側から検出された溝。主軸は東西方向で長さ約9.70ｍ、最大幅約0.9ｍである。水の流れた痕跡はなく、遺構の性格は不明であるが、何らかの区画溝と考えられる。
重複関係：19号溝跡に切られ、57号土壙を切る。

出土遺物：図化遺物なし。他に土師器、在地土器。
時　　期：15世紀か。

21号溝跡（図11）
　H14グリッド内で検出され、主軸は南北方向である。長さは4.50m、幅約1mで底部は所々根穴が見られたため、生け垣ではないかと考えられる。
重複関係：62号土壙、2号水溜状遺構に切られ、65・69号土壙、22号溝跡を切る。
出土遺物：図化遺物なし。他に土師器少量。
時　　期：江戸期か。

22号溝跡（図14）
　主軸を東西方向に有する22号溝跡は、平成11年度段階ではその存在は確認されたものの、規模や範囲については不明のままであったが、平成12年度B区調査において、サブトレンチを入れ幅約9.20m以上の巨大な溝跡であることが判明した。総延長などは不明であるが、少なくとも調査区の約8割がこの遺構が埋没した上に展開していたことになる。したがって、調査当初は旧河川ではないかとも考えられたが、堆積状況を見ると下層に砂層の堆積は見られるものの、礫等は含まれず、穏やかな水流が確保されていたことと、下層において明瞭に遺構のラインが確認できたため、単なる自然水路ではなく人工的に造り出された水路であると判断した。下層からは甲斐型IX・X期の遺物を主体とした遺物群が出土し、中には墨書土器も数点含まれていた。
　22号溝跡はF11グリッド付近から立ち上がりが不明瞭となり、すぐ北側で22号溝跡からは軸が外れていく大きな落ち込みが検出された。中からは甲斐型XI期を主体とする土器群が出土したため、当初は22号溝跡を切る23号溝跡として扱ったが、22号溝跡内で南側の立ち上がりがまったく見られなかったため、22号溝跡の埋没過程で投げ込まれた上層の遺物群と判断した。また、調査区A・B区の境目付近で22号溝跡の北側の立ち上がりはまったく捉えられなくなり、E10グリッド付近から調査区北壁にかけては連続した堆積となり、15号溝跡の存在したE10グリッド下層からはさらにまとまった甲斐型IX・X期の土器を主体とする遺物群が出土したことから、22号溝跡はE10グリッド付近で大きく膨らむと同時に、別方向からもう1条の溝跡が入り込むのではないかと想定した。遺構の切り合いも最も激しい場所であり、遺構の切り合い関係等は明確にできなかったものの、遺物については22号溝跡の上層として扱った。詳しくは「第4章　考察」において図示しているため参照されたい。
　最終的な埋没時期については、中世段階には水路として既に機能していなかったと考えられるが、最上層から15世紀前後と見られる土器類が出土していることから、多少の窪地が残っていたと思われる。
重複関係：調査区内で最も下層の遺構であるため、多数の遺構に切られる。
出土遺物：下層出土遺物　389～416・上層出土遺物　417～425。
時　　期：9世紀後半～10世紀後半を主体とする。　　（佐々木満）

第6節　土壙

　調査段階では、出土遺物などから土壙墓とみられた遺構もすべて土壙として取り上げているため、図のみ別途分けて提示している。図化遺物のない土壙、性格不明な土壙については一覧表にまとめ掲載している。

1号土壙（図15）
　Ｆ８グリッドで検出した土壙である。平面形は円形、長軸64cm、短軸60cm、確認面からの深さ70cmを測る。遺構の性格は不明。
重複関係：なし。
出土遺物：426。
時　　期：近代。

2号土壙（図15）
　Ｆ８グリッドで検出した土壙である。平面形は楕円形、長軸92cm、短軸67cm、確認面からの深さ25cmを測る。遺構の性格は不明。
重複関係：ピット95を切る。
出土遺物：427。
時　　期：江戸後期。

3号土壙（図15）
　Ｆ９グリッドで検出した土壙である。遺構の北側約半分は調査区外に展開していると考えられるが、平面形はほぼ円形。長軸約191cm、短軸約110cm、確認面からの深さ94cmを測る。遺構の性格は当初出土品や堆積状況から井戸と考えられたが、１号竪穴状遺構とセットで厠である可能性もある。
重複関係：８号土壙、１・６号竪穴状遺構を切る。
出土遺物：428～436。
時　　期：18世紀中葉～19世紀。

6号土壙（図15）
　Ｅ７グリッドで検出した土壙である。平面形は不整形、長軸約253cm、短軸約208cm、確認面からの深さ約29cmを測る。遺構の形状から植栽痕と思われる。
重複関係：９号土壙を切る。
出土遺物：437～443。
時　　期：19世紀。

7号土壙（図15）
　Ｄ７グリッドで検出した土壙である。平面形はほぼ円形であり、直径約98cm、確認面からの深さ19cmを測る。遺構の性格は不明。
重複関係：１号溝跡、ピット62・65・86を切る。
出土遺物：444。
時　　期：時期不明。

11号土壙（図15）
　Ｆ６・７グリッドで確認した土壙である。調査区の壁に一部かかるが、遺存部分で、平面形はほぼ円形、長軸約287cm、短軸約238cm、確認面からの深さ86cmを測る。遺構埋土はほぼ一括の砂である。南側堀跡と連続していた可能性が考えられる。
重複関係：ピット136・156に切られ、８号溝跡を切る。
出土遺物：445・446。
時　　期：18世紀前半か。

18号土壙（図19）

Ｃ７、Ｄ７グリッドで検出した土壙である。調査区北壁に一部かかるが、平面形はほぼ楕円形、長軸約220cm、最大幅約101cm、確認面からの深さ約14cmを測る。出土したかわらけは、標高261.000～261.500ｍの高さで半円形に配置されており、周辺から馬の歯や骨の細片が出土している。何らかの祭祀跡と考えられる。

重複関係：ピット116に切られる。

出土遺物：447～454。

時　　期：中世。

20号土壙（図19）

Ｅ５・６グリッドで検出した土壙である。一部調査区の壁にかかるが、平面形はほぼ円形、長軸は約119cm、短軸は約110cm、確認面からの深さ約50cmを測る。土壙の側壁からは腐食した状態の桶の側板を検出しており、埋桶跡と考えている。

重複関係：なし。

出土遺物：図化遺物なし。他に土師器等。

時　　期：江戸期。

22号土壙（図19）

Ｃ６グリッドで検出した土壙である。平面形はほぼ楕円形、長軸は260cm、短軸は154cm、確認面からの深さ16cmを測る。22号土壙からは人骨が出土している。骨は遺存状態が悪く、頭蓋骨の半分と一部小片を検出したのみである。被葬者はあおむけの状態で埋葬されており、体の両側にあたる位置から六道銭を出土している。

重複関係：９号溝跡に切られる。

出土遺物：455。他に土師器。

時　　期：15～16世紀。

24号土壙（図16）

Ｄ８・９グリッドで検出した土壙で、平面形は円形であり、直径約140cm、確認面からの深さ42cmを測る。

重複関係：１号竪穴状遺構に切られる。

出土遺物：456・457。他須恵器等。

時　　期：10世紀後半。

25号土壙（図16）

Ｃ７グリッドで検出した溝である。平面形は不整楕円形、長軸は約102cm、短軸は76cm、確認面からの深さ31cmを測る。

重複関係：２号竪穴状遺構を切る。

出土遺物：458。

時　　期：10世紀後半。

26号土壙（図16）

Ｄ８グリッドで検出した土壙である。一部調査区の壁にかかるが、平面形はほぼ楕円形であると思われる。遺存部分で、長軸約75cm、短軸約51cm、確認面からの深さ約20cmを測る。遺構の性格は不明。

重複関係：34号土壙を切る。
出土遺物：459・460。他かわらけ等。
時　　期：中世か。

27号土壙（図16）
　Ｆ７グリッドで検出した土壙である。一部調査区の壁にかかるが、平面形は不整円形、遺存部分で長軸約92cm、短軸70cm、確認面からの深さ約９cmと浅い土壙である。
重複関係：23号土壙に切られる。
出土遺物：461。
時　　期：15世紀～16世紀。

29号土壙（図16）
　Ｃ６グリッドで検出した土壙である。９号溝跡に切られるが、遺存部分で平面形は不整楕円形、長軸約120cm、短軸約87cm、確認面からの深さ16cmを測る。
重複関係：９号溝跡に切られる。ピット221を切る。
出土遺物：462・463。
時　　期：15世紀～16世紀。

30号土壙（図16）
　Ｃ４・５グリッドで検出した土壙である。一部調査区の壁にかかるが、平面形は不整楕円形で長方形に近い形をしている。長軸約403cm、短軸約276cm、確認面からの深さ約60cmを測る。今回検出した土壙の中では最大の土壙である。
重複関係：12・13号溝跡に切られる。
出土遺物：464～478。
時　　期：15世紀～16世紀

34号土壙（図20）
　Ｄ８グリッドで検出した土壙である。平面形は不整楕円形、長軸約206cm、短軸約147cm、確認面からの深さ約30cmを測る。土壙覆土より、多量の焼土塊を面的に検出している。焼土塊には、骨の細片が多量に含まれており、火葬遺構、もしくは埋葬に伴う荼毘所ではないかと思われる。
重複関係：26号土壙に切られる。
出土遺物：479～484。他土師器、かわらけ等
時　　期：15世紀～16世紀。

35号土壙（図20）
　Ｂ４、Ｃ４グリッドで検出した土壙である。平面形は隅丸長方形、長軸約253cm、短軸約179cm、確認面からの深さ約40cmを測る。遺構は中ほどで一段深く掘り込まれており、覆土には多量の焼土片、骨の細片が混じる。土壙床面中央部やや西側からは、面的に焼土塊が検出されている。34号土壙と同じく火葬遺構、もしくは埋葬に伴う荼毘所ではないかと思われる。
重複関係：ピット162に切られる。
出土遺物：485～488。他土師器、かわらけ等。
時　　期：15世紀～16世紀。

44号土壙（図19）
　H12グリッドで検出した土壙。平面形は円形、直径は約150cm、確認面からの深さ約50cmを測る。土壙の側壁に沿って竹製の桶のタガを検出しており、埋桶と考えている。
重複関係：なし。
出土遺物：489～495。他に下駄、曲物等。
時　　期：18世紀後半。

53号土壙（図18）
　G12グリッドで検出した土壙である。平面形は不整円形、長軸は125cm、短軸は約90cm、確認面からの深さ18cmを測る。遺構の性格は不明。
重複関係：42・46号土壙に切られる。
出土遺物：496。他土師器等。
時　　期：16世紀。

54号土壙（図18）
　F11グリッドで検出した土壙である。平面形はほぼ円形、長軸は146cm、短軸は144cm、確認面からの深さ24cmを測る。遺構の性格は不明。
重複関係：57号土壙に切られる。
出土遺物：497・498。他土師器等。
時　　期：16世紀。

57号土壙（図19）
　F11グリッドで検出した土壙である。平面形はほぼ円形、長軸は189cm、短軸は182cm、確認面からの深さ60cmを測る。土壙上面からは地輪が検出された。土壙内には一段の掘り込みがあり、埋土からは骨の細片を検出しており土壙墓と考えている。
重複関係：54号土壙に切られる。
出土遺物：499～502。他土師器、かわらけ等。
時　　期：15～16世紀。

59号土壙（図19）
　F12、G12グリッドで検出した土壙である。平面形は楕円形、長軸は166cm、短軸は約85cm、確認面からの深さ20cmを測る。土壙内からは骨の細片を検出しており、土壙墓と考えている。
重複関係：56号土壙に切られる。
出土遺物：図化遺物なし。他土師器等。
時　　期：15世紀～16世紀か。

60号土壙（図13・14）
　F９・10、G９・10にかけて検出した土壙である。平面形は不整形、遺存部分で長軸334cm、短軸296cm、確認面からの深さ86cmを測る。19号溝跡の張り出し部分とみられる。
重複関係：58号土壙を切る。
出土遺物：590。他古瀬戸後Ⅳ新の卸目大皿、かわらけ等。
時　　期：15～16世紀。

61号土壙（図18）
　E10グリッドで検出した土壙である。調査区の壁に一部かかるが、遺存部分で平面形は楕円形、長軸180cm、短軸119cm、確認面からの深さ30cmを測る。
重複関係：19号溝跡に切られる。
出土遺物：503～505。他須恵器長頸壺等。
時　　期：10世紀後半。

62号土壙（図18）
　H14グリッドで検出した土壙である。調査区の壁が一部かかる。平面形はほぼ円形、遺存部分で長軸178cm、短軸125cm、確認面からの深さ38cmを測る。遺構の性格は不明。
重複関係：66・67号土壙、21号溝跡を切る。
出土遺物：506～508。他に在地擂鉢、肥前磁器等。
時　　期：18世紀後半。

65号土壙（図18）
　H14グリッドで検出した土壙である。平面形は不整形、長軸130cm、短軸121cm、確認面からの深さ39cmを測る。遺構の性格は不明。
重複関係：69・71号土壙を切る。
出土遺物：509。他土師器、須恵器等。
時　　期：16世紀。

70号土壙（図20）
　H13グリッドで検出した土壙である。平面形は楕円形、長軸128cm、短軸102cm、確認面からの深さ17cmを測る。骨等は出土しなかったが、遺構の形状、出土遺物から土壙墓とみられる。
重複関係：78号土壙を切る。
出土遺物：580・581。他土師器等。
時　　期：15世紀～16世紀。

73号土壙（図19）
　I13グリッドで検出した土壙である。調査区の壁に一部かかり、平面形は不明である。遺存部分で、長軸74cm、短軸35cm、確認面からの深さ16cmを測る。
重複関係：68号土壙に切られる。
出土遺物：510・511。
時　　期：17世紀後半～18世紀前半。

74号土壙（図20）
　H13グリッドで検出した土壙である。平面形は楕円形、長軸238cm、短軸154cm、確認面からの深さ12cmを測る。土壙内から人骨を検出している。遺存状態は悪く、部分的に検出できたのみである。
重複関係：なし。
出土遺物：512・513。他に土師器、かわらけ等。
時　　期：15～16世紀。

75号土壙（図20）
　G13グリッドで検出した土壙である。調査区の壁が一部かかるが、平面形は方形、遺存部分で長軸274cm、短軸約238cm、確認面からの深さ19cmを測る。土壙内から人骨を検出している。骨は最も遺存状態がよく、北枕西向きで体を屈めて埋葬されていた。骨は奥歯に銅製品が挟まれており、背の中ほどに古銭を６枚出土している。
重複関係：なし。
出土遺物：582～587。他土師器等。
時　　期：15世紀～16世紀。

79号土壙（図18）
　H14グリッドで検出した土壙で、平面形は楕円形、長軸159cm、短軸99cm、確認面からの深さ12cmを測る。土壙の形状などから、土壙墓と考えられる。
重複関係：69号土壙に切られる。
出土遺物：588。
時　　期：15世紀～16世紀。

80号土壙（図19）
　Ｅ６グリッドで検出した土壙である。平面形はほぼ円形、長軸42cm、短軸38cm、確認面からの深さ約４cmを測る。土壙内より、桶の底を検出しており、埋桶跡と考えられる。
重複関係：なし。
出土遺物：図化遺物なし。他に土師器等。
時　　期：江戸期。

83号土壙（図19）
　Ｂ区拡張区Ｉ12グリッドで検出した土壙である。平面形は円形、直径約40cm、確認面からの深さ約５cmを測る。土壙内より桶の底を検出しており、埋桶跡と考えられる。
重複関係：なし。
出土遺物：なし。
時　　期：江戸期か。

第７節　集石遺構

　集石遺構と扱った遺構は、１号集石遺構を除き、集石墓と判断している。集石墓は土葬による土壙墓と区別する意味で、土壙中に石を組んだもの、埋設段階で石を投げこんだもの、敷きつめたものも含めた火葬墓を示している。

１号集石遺構（図20）
　Ｅ６グリッドで検出した集石である。範囲のみ確認したものである。
重複関係：なし。
出土遺物：514。
時期：江戸期か。

２号集石遺構（図20）
　Ｅ６グリッドで検出した集石である。平面形は長軸134cm、短軸122cm、確認面からの深

さ24cmを測る。
重複関係：15号土壙に切られる。
出土遺物：515～517。
時　　期：15～16世紀。

3号集石遺構（図20）
F8グリッドで検出した集石である。平面形はほぼ円形、長軸147cm、短軸146cm、確認面からの深さ43cmを測る。一部他の遺構に切られるが、2～3段の石積を壁面にめぐらし、中央部に石を充塡している。しかし、東側下部からは石組が検出されなかったため、当初から3面のみ石組であったと考えられる。埋土に骨の細片が混じるものの、蔵骨器は検出していない。検出状況から、火葬してのち埋葬されたものと考えている。
重複関係：12号集石を切る。8号溝跡に切られる。
出土遺物：518・519。
時　　期：15～16世紀。

4号集石遺構（図21）
C4グリッドで検出した集石である。平面形はほぼ円形、長軸97cm、短軸87cm、確認面からの深さ31cmを測る。土壙底部中央は一段深く掘り込まれている。
重複関係：土塁下から検出している。ピット172に切られる。
出土遺物：図化遺物なし。遺構確認段階で12号集石遺構531と類似する青磁口縁が出土している。
時　　期：15～16世紀か。

5号集石遺構（図21）
D4グリッドで検出した集石である。平面形は楕円形、長軸は128cm、短軸は84cm、確認面からの深さ34cmを測る。埋土には骨の小片が混じる。
重複関係：13号溝跡を切る。
出土遺物：520。
時　　期：15～16世紀か。

6号集石遺構（図21）
F7・8グリッドで検出した集石である。一部撹乱を受けるが、遺存部分で平面形は不整形、長軸173cm、短軸158cm、確認面からの深さ34cmを測る。
重複関係：8号溝跡に切られる。
出土遺物：521～523。
時　　期：15世紀～16世紀。

7号集石遺構（図21）
D5グリッドで検出した集石である。平面形は楕円形、長軸167cm、短軸117cm、確認面からの深さ22cmを測る。埋土には骨の細片が多量に混じっていた。
重複関係：13号集石遺構を切る。11号溝跡に切られる。
出土遺物：524～527。
時　　期：15～16世紀。

8号集石遺構（図21）
　E５グリッドで検出した集石である。９号溝跡に切られているため、平面形は不明であるが検出した部分は方形を呈する。遺存部分で長軸132cm、短軸94cm、確認面からの深さ23cmを測る。検出部分での石積は一段であり、中央部に石を充塡している。
重複関係：９号溝跡に切られる。
出土遺物：528。
時　　期：16世紀前半か。

9号集石遺構（図21）
　E５グリッドで検出した集石である。平面形は不整円形、長軸161cm、短軸131cm、確認面からの深さ22cmを測る。
重複関係：なし。
出土遺物：図化遺物なし。他土師器等。
時　　期：15～16世紀か。

10号集石遺構（図21）
　D４グリッドで検出した集石である。平面形はほぼ円形、長軸172cm、短軸148cm、確認面からの深さ14cmを測る。集石埋土より火を受けた人骨の一部が出土している。
重複関係：なし。
出土遺物：529・530。
時　　期：15～16世紀。

11号集石遺構（図22）
　D３グリッドで検出した集石である。平面形は円形、直径約90cm、確認面からの深さ24cmを測る。集石は土壙上部を覆う形で配置され、内部に充塡されていない。埋土より人骨の一部が検出されている。
重複関係：土塁に切られる。
出土遺物：図化遺物なし。他に土師器等。
時　　期：15～16世紀。

12号集石遺構（図22）
　F８グリッドで検出した集石である。平面形は不整楕円形、長軸約150cm、短軸約130cm、確認面から深さ17cmを測る。他の遺構と切り合うため、石は部分的に残っていた。
重複関係：36号土壙、３号集石遺構、８号溝跡に切られる。
出土遺物：531・532。
時　　期：15～16世紀。

13号集石遺構（図21）
　D４・５グリッドで検出した集石である。平面形は不整円形、長軸約180cm、短軸約140cm、確認面からの深さ23cm程を測る。石はまばらであり、埋土から骨の細片を検出している。
重複関係：７号集石遺構、11号溝跡に切られる。
出土遺物：533～536。
時　　期：15～16世紀。

14号集石遺構（図22）
　Ｄ４・５グリッドで検出した集石である。平面形はほぼ円形、長軸97cm、短軸82cm、確認面からの深さ約20cmを測る。埋土からは焼けた骨の細片を検出している。
重複関係：13号溝跡を切る。
出土遺物：537。
時　　期：15～16世紀か。

15号集石遺構（図22）
　Ｉ12・13グリッドで検出した集石である。平面形はほぼ円形、直径約130cm、確認面からの深さ約30cmを測る。集石はまばらであるが、埋土に骨の細片を検出している。
重複関係：ピット389・404・406、68号土壙に切られる。
出土遺物：538。
時　　期：16世紀前半～中葉。

16号集石遺構（図22）
　Ｂ区拡張区Ｊ11グリッドから検出した集石である。平面形はほぼ円形、直径約70cmを測る。壁面付近に石組が部分的に検出された。
重複関係：81号土壙に切られる。
出土遺物：図化遺物なし。他に土師器等。
時　　期：15～16世紀か。

第８節　井戸跡

１号井戸跡（図22）
　Ｃ６グリッドで検出した井戸である。重機掘削中に検出したため、平面図のみ図示している。平面形は円形、掘り込み部分は確認していないが、石積直径約76cm、確認面から石積直上までの深さ約90cmを測る。
重複関係：なし。
出土遺物：539～542。
時　　期：15世紀～16世紀。

２号井戸跡（図22）
　Ｅ８グリッドで検出した井戸である。平面形は円形、直径約120cm、確認面からの深さ98cmを測る。
重複関係：ピット165に切られる。
出土遺物：543～546。
時　　期：15世紀～16世紀。

３号井戸跡（図22）
　Ｈ10グリッドで検出した井戸である。平面形は円形、直径約100cm、確認面からの深さ約90cmを測る。
重複関係：16号溝跡に切られる。
出土遺物：図化遺物なし。他に土師器、瀬戸美濃陶磁器等。
時　　期：近代。

４号井戸跡（図22）
Ｈ12グリッドで検出した井戸で、調査区の壁に一部かかるが、遺存部分で平面形はほぼ円形、直径約134cm、確認面からの深さ約60cmを測る。
重複関係：22号溝跡を切る。
出土遺物：図化遺物なし。他に土師器等。
時　　期：不明。

第９節　竪穴状遺構

１号竪穴状遺構（図22）
Ｄ８グリッドで検出した遺構である。調査区の壁に一部かかるが、遺存部分で平面形は方形、長軸305cm、短軸300cm、確認面からの深さ26cmを測る。
重複関係：12号土壙に切られ、６号竪穴状遺構、24号土壙を切る。
出土遺物：547～550。
時　　期：18世紀～19世紀。

２号竪穴状遺構（図23）
Ｃ７・８グリッドで検出した遺構である。調査区の壁に一部切られるが、遺存部分で平面形はほぼ方形、長軸607cm、短軸ほぼ40cm、確認面からの深さ14cmを測る。
重複関係：25号土壙、ピット172に切られる。
出土遺物：図化遺物なし。他に土師器等。
時　　期：不明。

３号竪穴状遺構（図23）
Ｅ10グリッドで検出した遺構である。調査区の壁が一部かかるが、平面形がほぼ方形、面の南部分中央に一段段差が設けられている。遺存部分で長軸270cm、短軸162cm、確認面からの深さ38cmを測る。
重複関係：15号土壙を切る。
出土遺物：図化遺物なし。他に瀬戸美濃・肥前陶磁器等。
時　　期：19世紀以降か。

４号竪穴状遺構（図23）
Ｇ11グリッドで検出した遺構である。平面形はほぼ方形、長軸421cm、短軸357cm、確認面からの深さ41cmを測る。ほぼ完形で検出しており、竪穴状遺構のなかでは最も大きい。
重複関係：ピット276・288・294、49号土壙に切られる。
出土遺物：551～553。他に焼けた壁土と思われる焼土塊等が多数出土。
時　　期：15世紀。

５号竪穴状遺構（図23）
Ｅ11グリットで検出した遺構である。調査区の北壁に一部かかるが、遺存部分で平面形がほぼ方形、長軸337cm、短軸60cm、確認面からの深さ16cmを測る。
重複関係：なし。
出土遺物：図化遺物なし。他に土師器等。
時　　期：江戸期か。

６号竪穴状遺構（図23）

Ｄ８グリッドで検出した遺構である。直上を１号竪穴状遺構に切られているが、遺存部分で平面形がほぼ方形、長軸264cm、短軸246cm、確認面からの深さ約20cmを測る。

重複関係：３・24号土壙、１号竪穴状遺構に切られる。

出土遺物：554～558。他に土師器、須恵器等。

時　　期：10世紀前半か。　（山﨑雅恵）

第10節　出土遺物

秋山氏館跡では、古墳時代～近現代まで幅広い遺物が出土している。図化したものは各遺構単位にまとめて掲載しているが、金属製品については全体的に縮尺が他と異なるため、一括して掲載している。

１～30までは１号堀跡の出土で７の青緑釉輪禿皿や11の瀬戸美濃鉄釉碗のような17世紀後半代の遺物も散見できるが、主体は16・17・18のような18世紀後半～19世紀代の資料である。昭和まで使用されていたため、新しい時代のものも数多く存在した。15は須玉町で一時期焼かれていた小倉焼の行平鍋の把手で、20は「事変記念」と印刷されており、満州事変の記念として製作された徳利である。

31～41は１号土塁跡から出土した。31の大窯３段階後半の瀬戸美濃灰釉皿から33の志野織部鉄絵皿、37の黄瀬戸折縁鉢といった第１小期の遺物までが比較的まとまっている。図化はできなかったが、陶胎の漳州窯系青花皿等も少量出土している。中には34のような14世紀代の美濃系の山茶碗も出土している。

溝跡出土遺物については、42・44は瀬戸美濃天目茶碗で17世紀前半、46は瀬戸美濃の壺で17世紀前半の製品である。１・２号溝跡は近代の遺構であるため、下層のものが混入したと考えられる。52は瓦質擂鉢で在地のものと考えられる。53は常滑の壺の底部である。58は内耳鍋であるが、16世紀代のものに比べ器壁は厚く、土質もやや精緻であることから16世紀以前のものと考えられる。60～68までが13号溝跡の資料であるが、60は瓦質の茶釜で61は瓦質内耳鍋である。62は硯の破片で部分的に墨の痕跡が残されていた。63は内耳鍋か擂鉢の破片を磨いて作られた土製円盤である。66～68はかわらけで、器壁は比較的薄く、直線的に立ち上がる。いずれも15世紀代と考えられる。69は肥前の蛇ノ目高台の染付皿で18世紀後半であるが、同じ皿の破片がもう１個体分出土している。70は18世紀後半の色絵筒茶碗と考えられるが、通常のものに比べてやや口径が小さい。71は18世紀後半に類例のある鍋島の染付皿である。鍋島については第４章において考察を加えることとする。

72～302までが15号溝跡一括資料である。主な時代は17世紀後半～18世紀初頭と考えられる。72～116までがかわらけである。56～173までが瀬戸美濃・肥前陶器であり、圧倒的に碗が多く、特に尾呂茶碗が多数を占める。皿は159の灰釉皿、160の菊皿、161の青緑釉輪禿皿の３点のみで、84は唐津二彩鉢である。陶磁器については、第４章で若干の考察を加えているため参照されたい。174は古瀬戸中期の合子であり、底部に墨書がある。175～196までは肥前磁器でやはり碗が圧倒的に多く、時期的にも17世紀後半のものが主体を占める。175～180までは17世紀後半以降の碗であるが、181は高尾窯の製品で18世紀初頭の製品である。188は小型の香炉であるが、陶磁器では唯一完形品であった。190は陶胎染付の灰おとしであり、189・193は色絵の製品、194・195はいわゆる初期伊万里である。197～201は瀬戸擂鉢である。

202～204は瓦で、図化していないが、他にも平瓦が出土している。17世紀代の屋敷建物にどの程度まで使用されていたか不明であるが、部分的に瓦を葺いた建物が存在したよう

である。205～214は焙烙鍋、215～218は土器香炉で、219は焼塩壺の蓋である。図化できなかったが、焼塩壺の身も出土しており、蓋と合わせて１個体存在していたようである。混入品では、226が甲斐型Ⅶ期の坏であり、底部には「大○」と書かれた墨書が確認され、下の字は「親」ではないかと見られている。230～234は15号溝旧路の遺物であるが、234は「Ｓ」字状口縁台付甕である。235～247までは漆椀の蓋で、248～261までが漆椀である。261は１点のみ旧路から出土している。262も漆製品であるが、器台であろうか。263～298までは木製品で、曲物や桶、箸、農具、櫛、下駄等生活に関わる様々な道具が見られる。299～302は石製品である。303～305は17号溝跡の遺物で、303は18世紀後半である。

306～343までは18号溝跡出土遺物で、年代的に16世紀後半から17世紀初頭の遺物群が主体を占める。19号溝跡と切り合っているため、古い段階の遺物も多数混入している。321は火鉢と考えられ、内外面は黒色処理されている。325・326は焙烙鍋で、中世段階の内耳鍋から焙烙鍋に変化したものと考えられ、器高は17世紀後半段階の焙烙と16世紀段階の内耳鍋の中間的な高さであり、16世紀末～17世紀初頭段階で煮沸形態に変化が生じたものと考えられる。陶磁器は327は大窯２・３段階の天目茶碗、328は第１小期の志野織部鉄絵皿、329は大窯３後半段階の初山小坏、330は大窯３段階の鉄釉皿である。擂鉢も333・334の２個体分出土し、333は大窯３後半段階である。また337は中津川産と推定されている製品である。339は志戸呂の鉢と考えられる。341は漆の杓子である。

344～388までは19号溝跡の出土遺物で、369は茶釜であるが、瓦質で肩部にミガキが入る。茶釜に関しては、瓦質のものは基本的にミガキを施し、土師質のものは部分的に削り調整が施される程度である。371は白磁輪花皿、372は青磁碗で、中国陶磁器はこの２点のみであった。374は瀬戸美濃祖母懐壺の底部で、375～377は常滑甕の口縁部資料であり、いずれも13世紀後半～14世紀初頭のものである。378・379は混入品であるが、甲斐型坏の底部で、墨書で「安」・「小介」の文字が確認できる。おそらく下層に存在する22号溝跡に関連する遺物と考えられる。380・381は漆椀である。いずれも外面黒漆、内側朱漆である。同一個体とも考えられたが、接点がなく若干径が異なったため別個体として扱った。

389～425は22号溝跡出土遺物で、甲斐型Ⅸ～Ⅺ期を主体とする遺物群である。墨書土器では、392が「太」、393が「小介」、418・420が「安」、394・395・400・401は不明であるが、395は「円」か「田」であろうか。419は記号であろうか。398は内外面黒色処理された付高台の坏か碗、405・406は高坏であるが、406は脚部が８角に面取りされたもので、県下でもこれまでのところ出土例は少ない資料である。

土壙資料も様々なものが出土しているが、442は景徳鎮の青花である。30号土壙の資料が15世紀～16世紀段階のものとして比較的まとまっており、471・472は常滑である。44号土壙は埋桶であったが、490・491・492とも18世紀後半の資料であり、492は京・信楽産の色絵半球碗と考えられる。500は五輪塔の地輪で、57号土壙北側に据えてあったが、元の位置であるかは不明である。

集石遺構については、資料がいずれも小破片であり、復元実測したものが多い。中でも523・531は青磁碗であり、７号集石遺構底面からは526・527の土錘が２個体出土した。538は瀬戸美濃の灰釉皿であり、大窯２段階のものである。

井戸跡、竪穴状遺構、ピットについては、２号井戸跡から543の白磁皿、４号竪穴状遺構から551の青磁盤が出土している。ピット183の569は土製の犬だろうか。

調査区遺物では600が線刻の甲斐型坏で、605～607が緑釉陶器碗、608は古瀬戸後Ⅳ新の卸目大皿、609は12世紀後半の常滑甕である。615は大窯３後半の折縁皿、616は唐津向付である。622・623は17世紀後半の美濃菊皿で、624も17世紀後半の美濃鉄絵皿である。628は唐津碗であろうか。

（佐々木満）

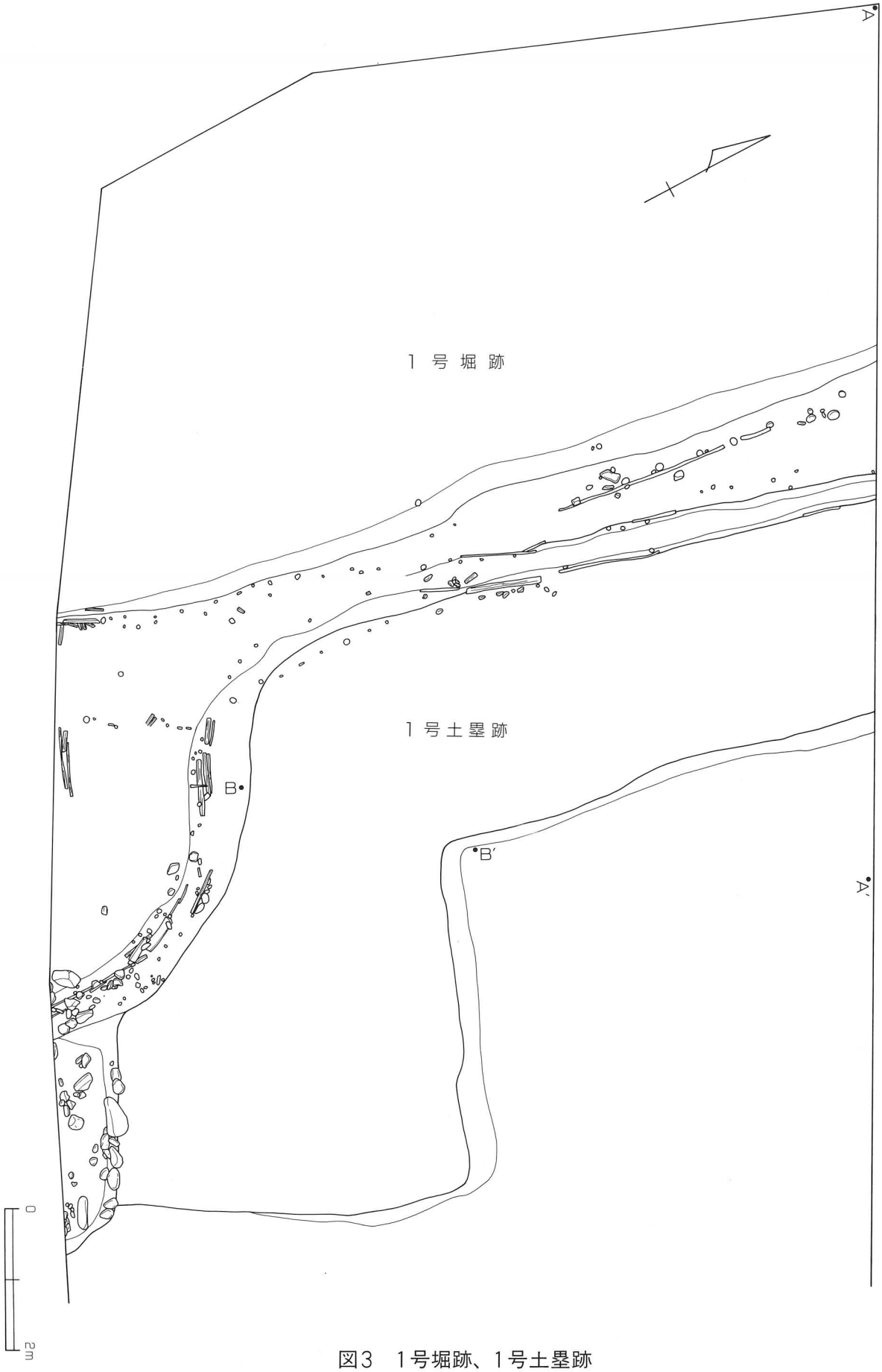
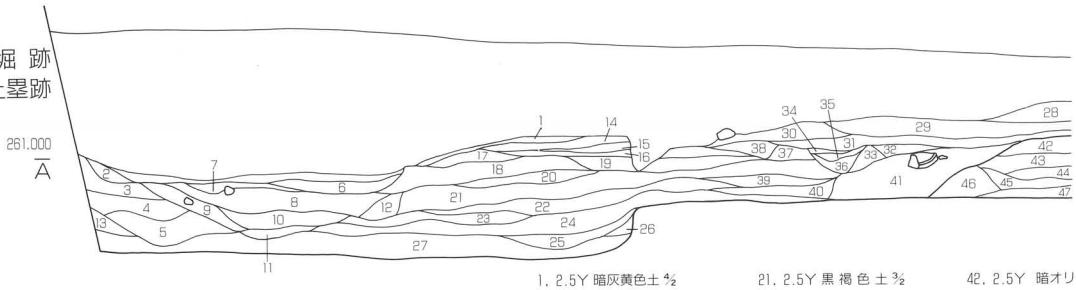
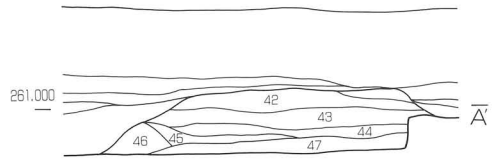


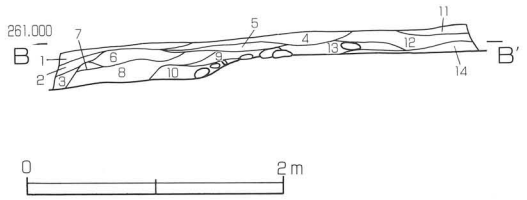
図3　1号堀跡、1号土墨跡

1号 堀 跡
1号土塁跡



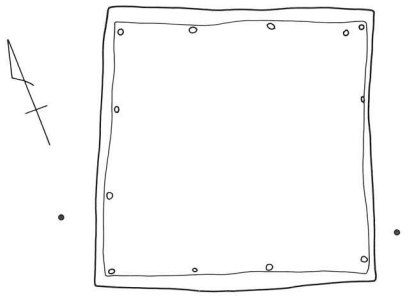
1. 2.5Y 暗灰黄色土 4/2
2. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/2
3. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/2
4. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/2
5. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/1
6. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 3/3
7. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/2
8. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/2
9. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/2
10. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/1
11. 2.5Y 黄 灰 色 土 4/1
12. 2.5Y 黄 灰 色 土 6/1
13. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/1
14. 2.5Y 暗灰黄色土 4/2
15. 2.5Y オリーブ褐色土 4/3
16. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/2 シルト質。
17. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/2
18. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 3/3
19. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/2
20. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/2
21. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/2
22. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/1
23. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/1
24. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/1
25. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/1
26. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/1
27. 2.5Y 黄 灰 色 土 4/1
28. 2.5Y 暗灰黄色土 4/2
29. 2.5Y 暗灰黄色土 4/2
30. 2.5Y 暗灰黄色土 4/2
31. 2.5Y 暗灰黄色土 4/2
32. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 3/3
33. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 3/3
34. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/2
35. 2.5Y 黄 褐 色 土 5/3
36. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 3/3
37. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 3/3
38. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 3/3
39. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/2
40. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/2
41. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/2
42. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 3/2
43. 10YR 灰黄褐色土 4/2
44. 10YR 黒 褐 色 土 3/2
45. 10YR 灰黄褐色土 4/2
46. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/2
47. 10YR 灰黄褐色土 4/2

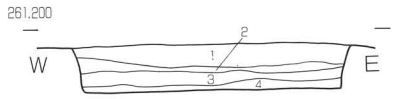




1. 2.5Y 暗灰黄色土 4/3 炭化物多い。粘性なし。
2. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/2
3. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/1 炭化物少量。粘性ややあり。
4. 2.5Y 暗灰黄色土 4/2 粘性なし。
5. 2.5Y 暗灰黄色土 4/2 土粒やや粗。
6. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/1 炭化物微量。粘性なし。
7. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/2
8. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/1 土粒粗い。粘性なし。
9. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/2
10. 2.5Y 黒 褐 色 土 3/1 土粒細かい。粘性なし。
11. 10YR 灰黄褐色土　炭化物若干。
12. 2.5Y 暗灰黄色土 4/2 炭化物、焼土少量。
13. 2.5Y 暗灰黄色土 4/2 粘性ややあり。しまり強い。
14. 2.5Y 黄 灰 色 土 4/1 炭化物、焼土少量。粘性なし。

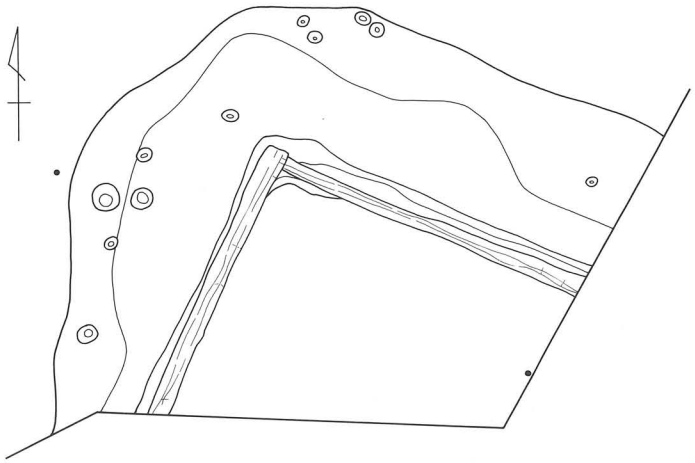
1号水溜

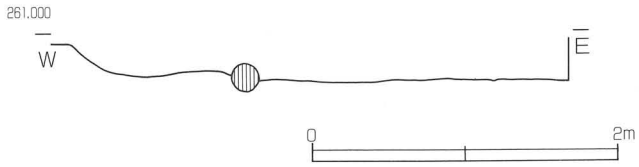




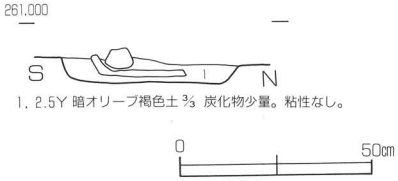
1. 2.5Y 暗灰黄色土 4/2 部分的に礫含む。炭化物少量。
2. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2 灰白色粗粒砂主体。
3. 2.5Y 黄 灰 色 土 4/1 炭化物微量。粘性あり。
4. 2.5Y 黄 灰 色 土 4/1 粗粒砂多く含む。粘性弱。

2号水溜





1号埋甕



1. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 3/3 炭化物少量。粘性なし。

図４　1号堀跡、1号土塁跡、1号・2号水溜状遺構、1号埋甕

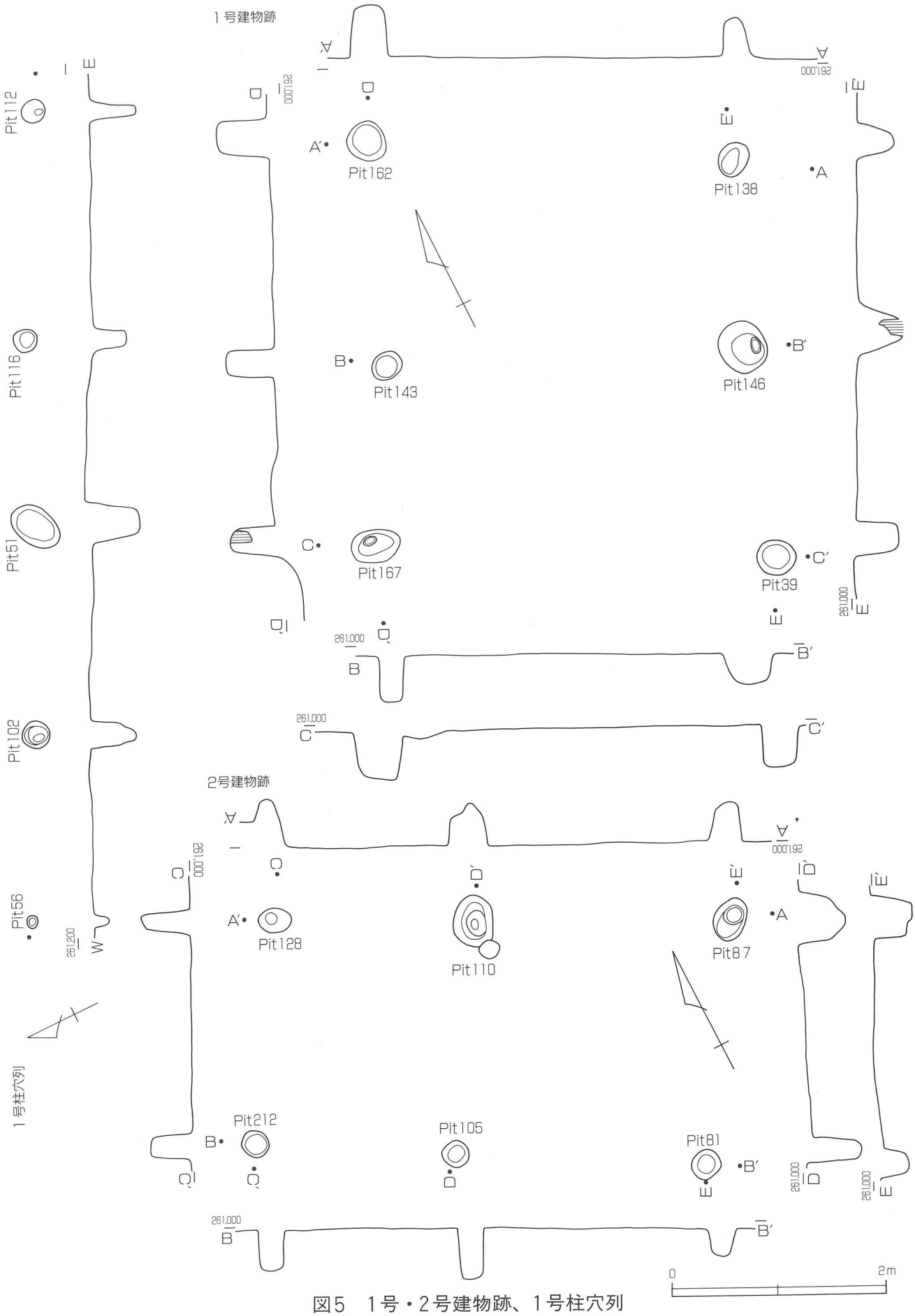


図5　1号・2号建物跡、1号柱穴列

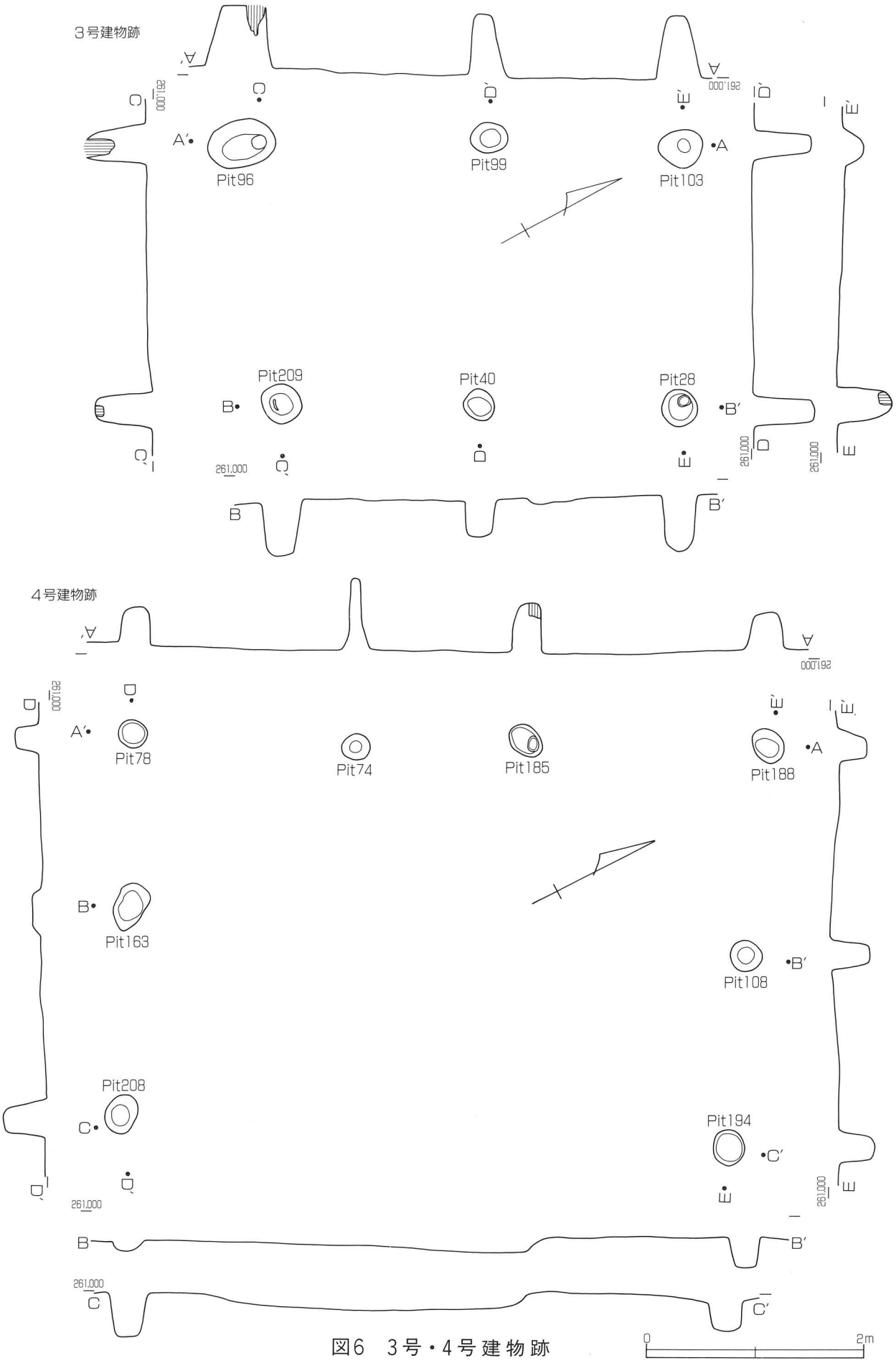

3号建物跡
Pit96
Pit99
Pit103
Pit209
Pit40
Pit28
261.000
4号建物跡
Pit78
Pit74
Pit185
Pit188
Pit163
Pit108
Pit208
Pit194
0
2m

図6　3号・4号建物跡

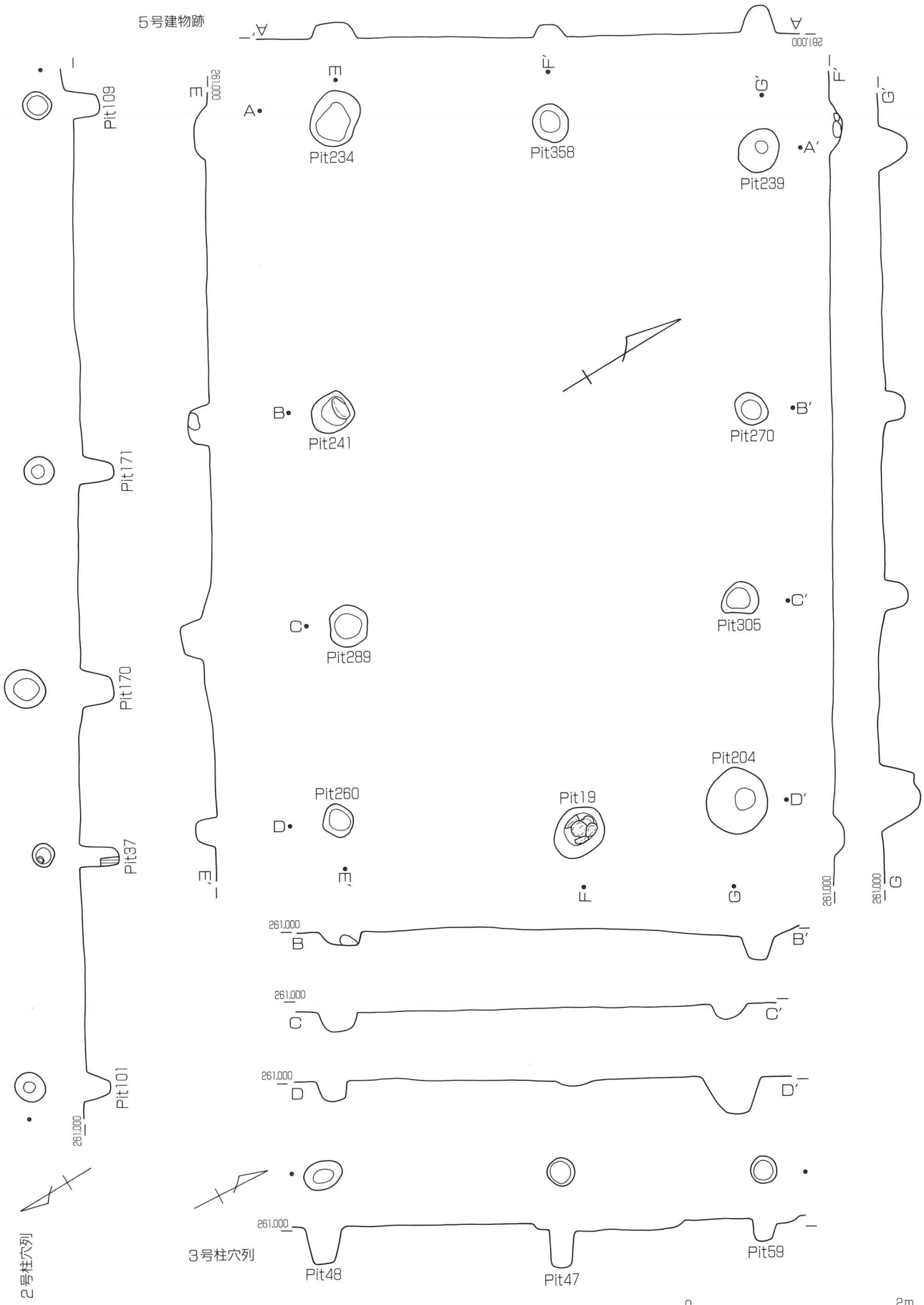


図7　5号建物跡、2号・3号柱穴列

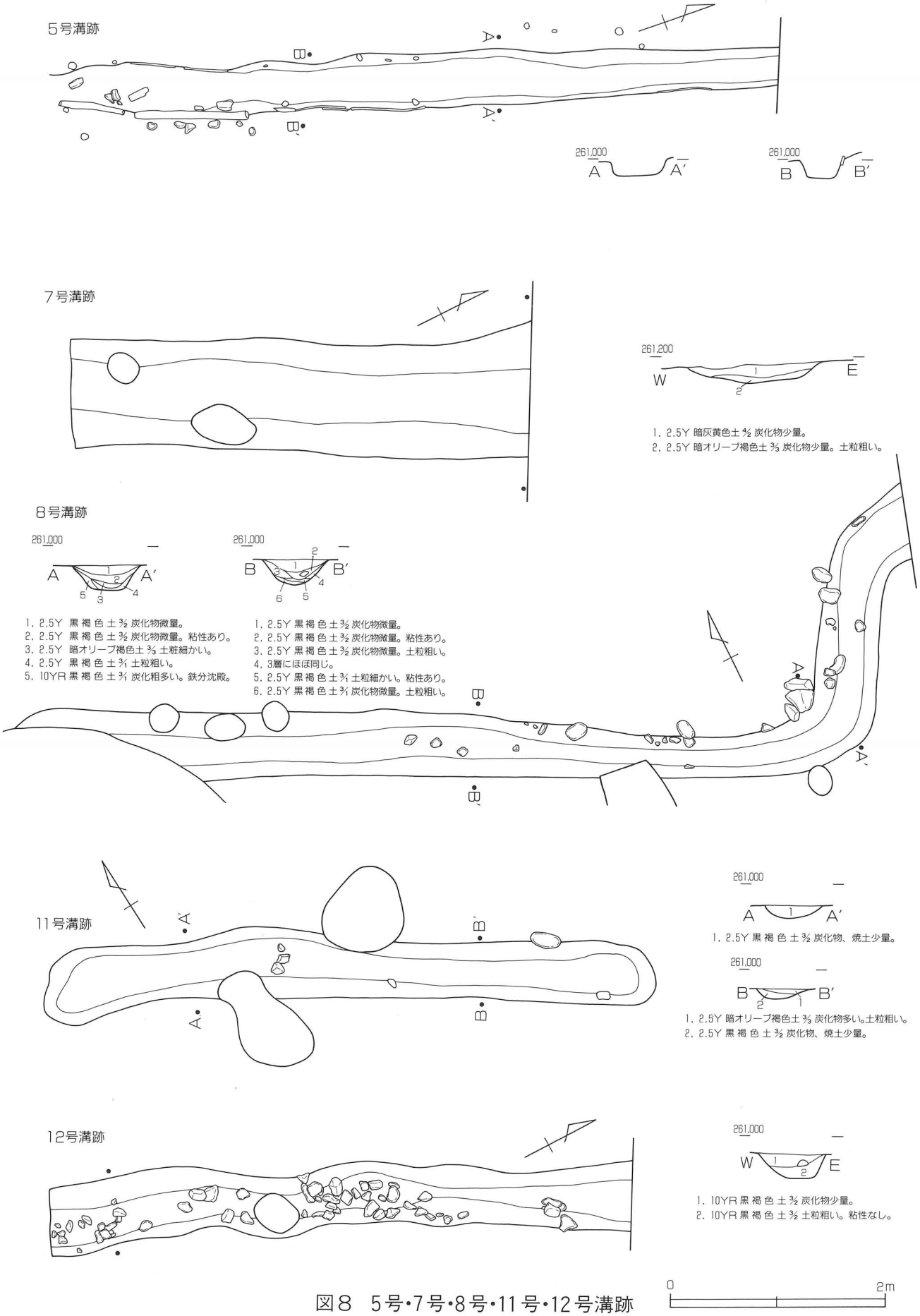


図8　5号・7号・8号・11号・12号溝跡

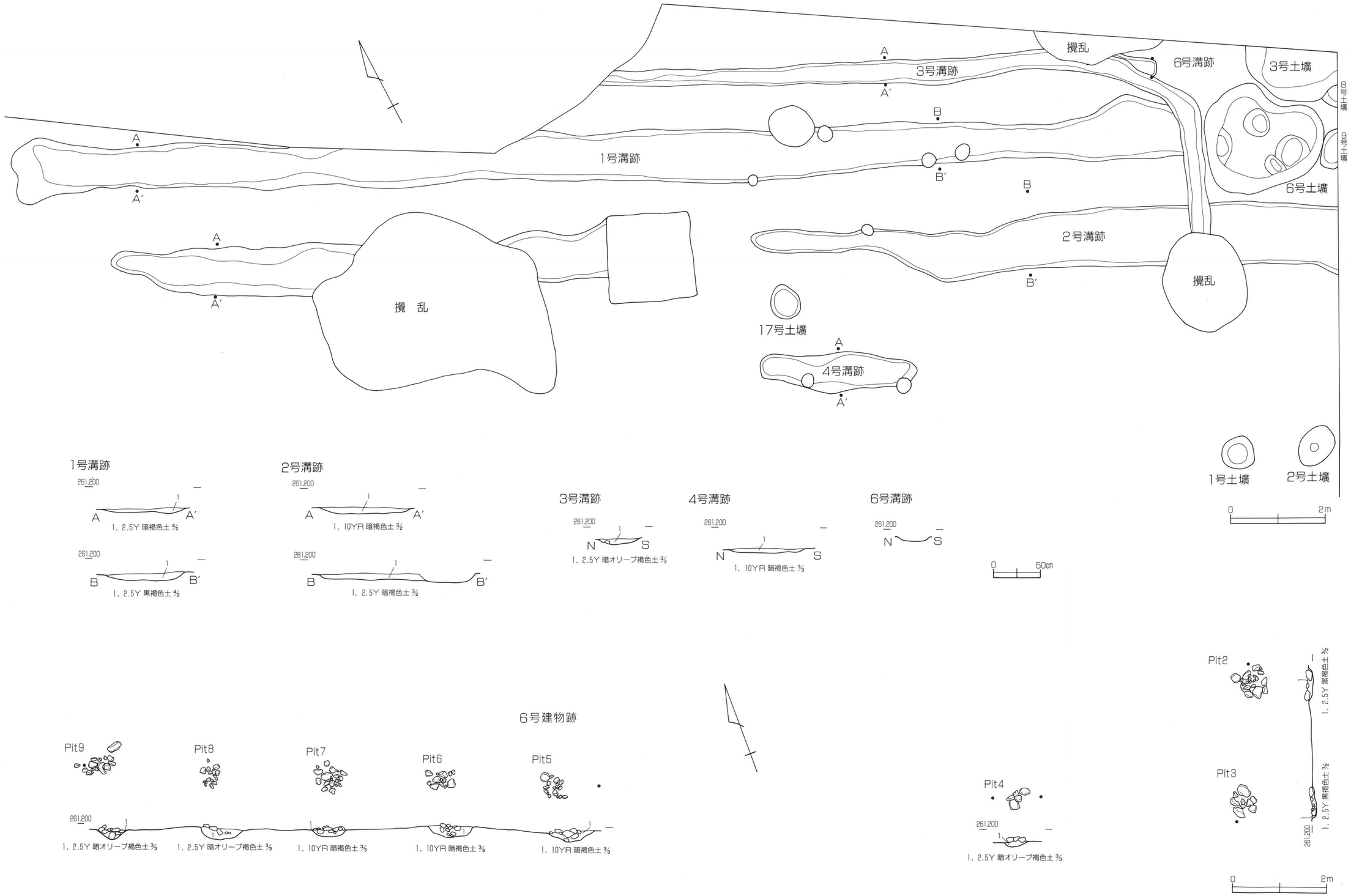


図9　6号建物跡、1～4・6号溝跡

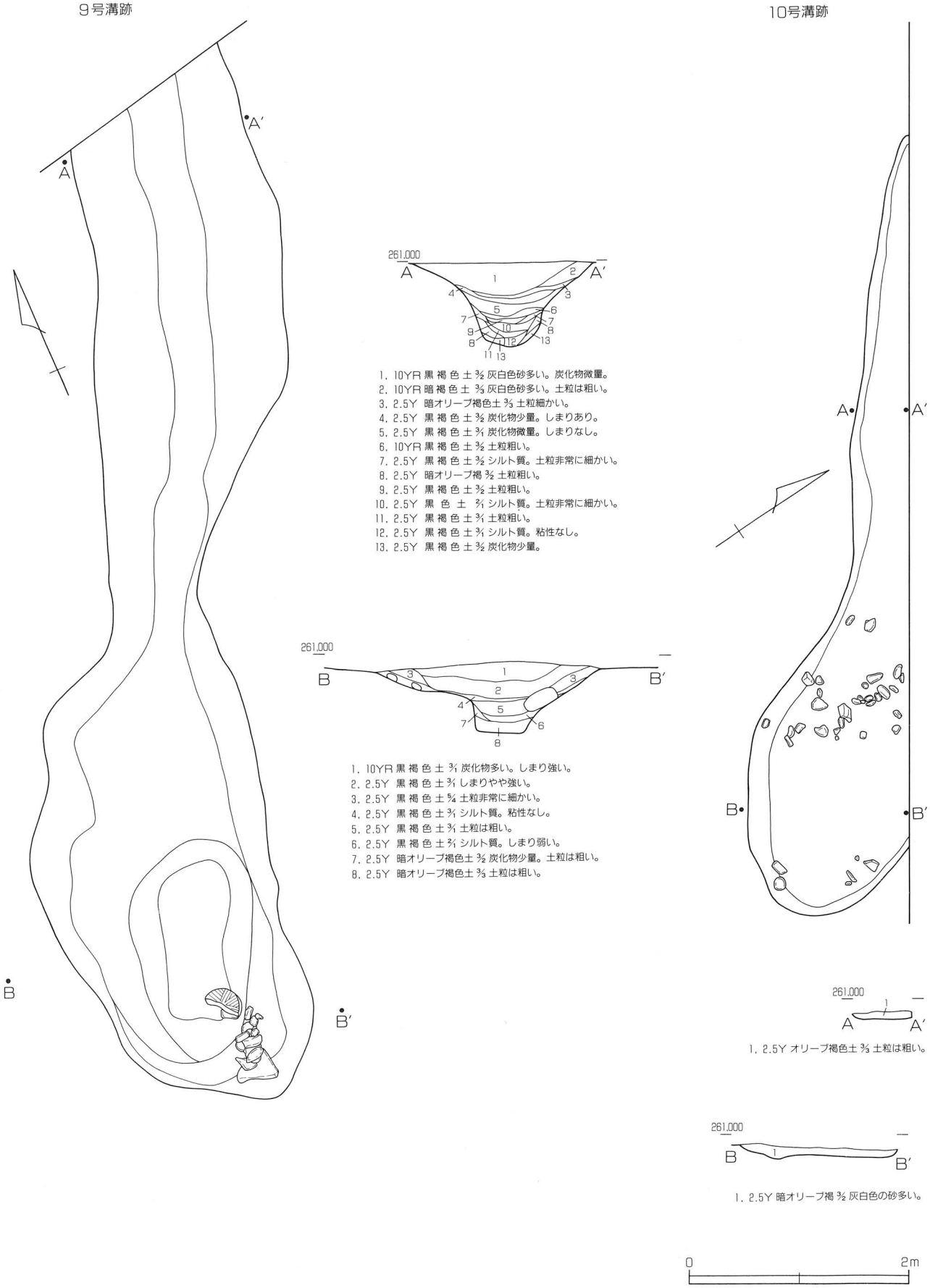

9号溝跡
10号溝跡
A
A′
B
B′
261.000
1. 10YR 黒褐色土 3/2 灰白色砂多い。炭化物微量。
2. 10YR 暗褐色土 3/3 灰白色砂多い。土粒は粗い。
3. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 3/3 土粒細かい。
4. 2.5Y 黒褐色土 3/2 炭化物少量。しまりあり。
5. 2.5Y 黒褐色土 3/1 炭化物微量。しまりなし。
6. 10YR 黒褐色土 3/2 土粒粗い。
7. 2.5Y 黒褐色土 3/2 シルト質。土粒非常に細かい。
8. 2.5Y 暗オリーブ褐 3/2 土粒粗い。
9. 2.5Y 黒褐色土 3/2 土粒粗い。
10. 2.5Y 黒色土 2/1 シルト質。土粒非常に細かい。
11. 2.5Y 黒褐色土 3/1 土粒粗い。
12. 2.5Y 黒褐色土 3/1 シルト質。粘性なし。
13. 2.5Y 黒褐色土 3/2 炭化物少量。
1. 10YR 黒褐色土 3/1 炭化物多い。しまり強い。
2. 2.5Y 黒褐色土 3/1 しまりやや強い。
3. 2.5Y 黒褐色土 5/4 土粒非常に細かい。
4. 2.5Y 黒褐色土 3/1 シルト質。粘性なし。
5. 2.5Y 黒褐色土 3/1 土粒は粗い。
6. 2.5Y 黒褐色土 2/1 シルト質。しまり弱い。
7. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 3/2 炭化物少量。土粒は粗い。
8. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 3/3 土粒は粗い。
1. 2.5Y オリーブ褐色土 3/3 土粒は粗い。
1. 2.5Y 暗オリーブ褐 3/2 灰白色の砂多い。
0
2m

図10　9号・10号溝跡

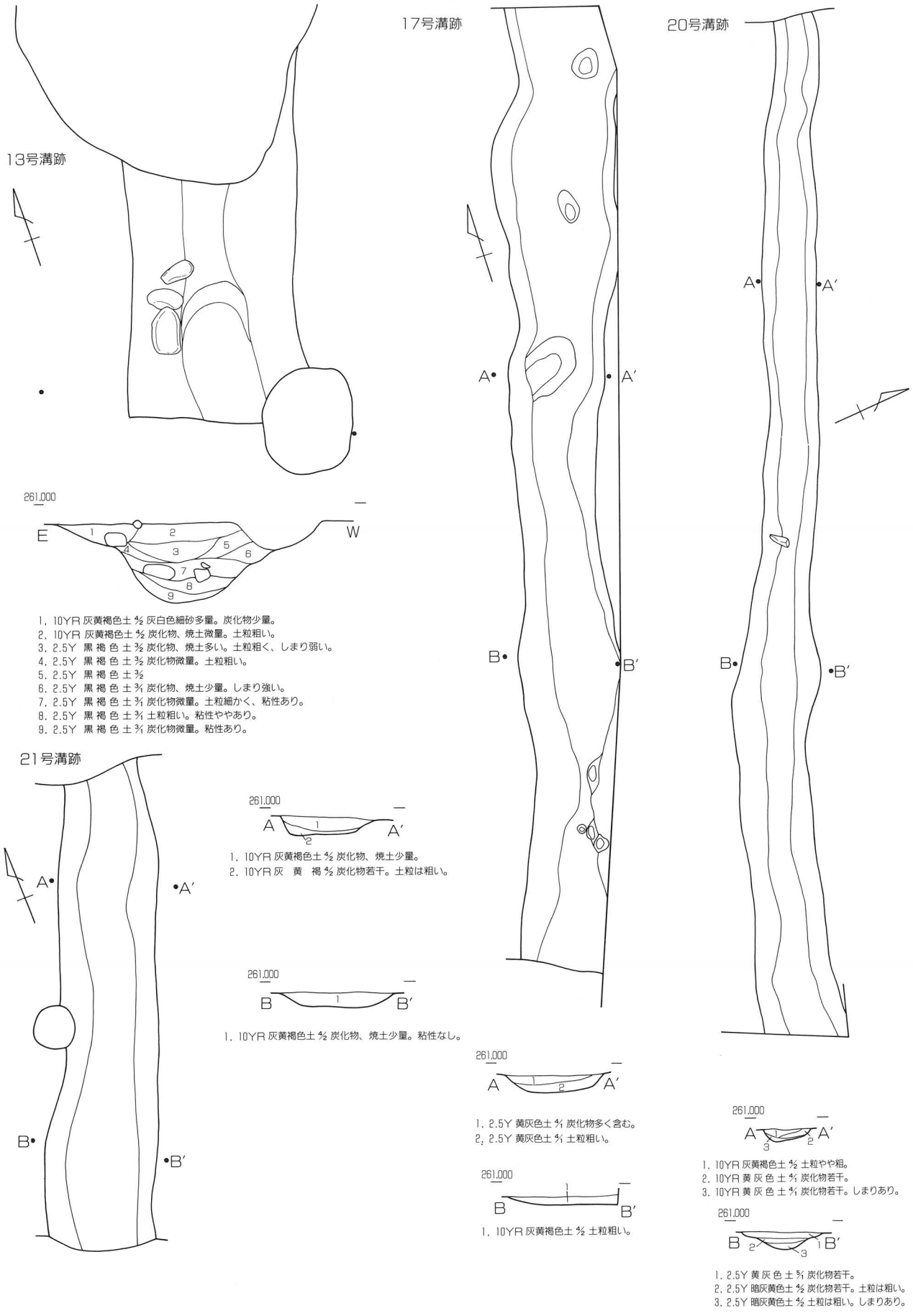


図11　13号・17号・20号・21号溝跡

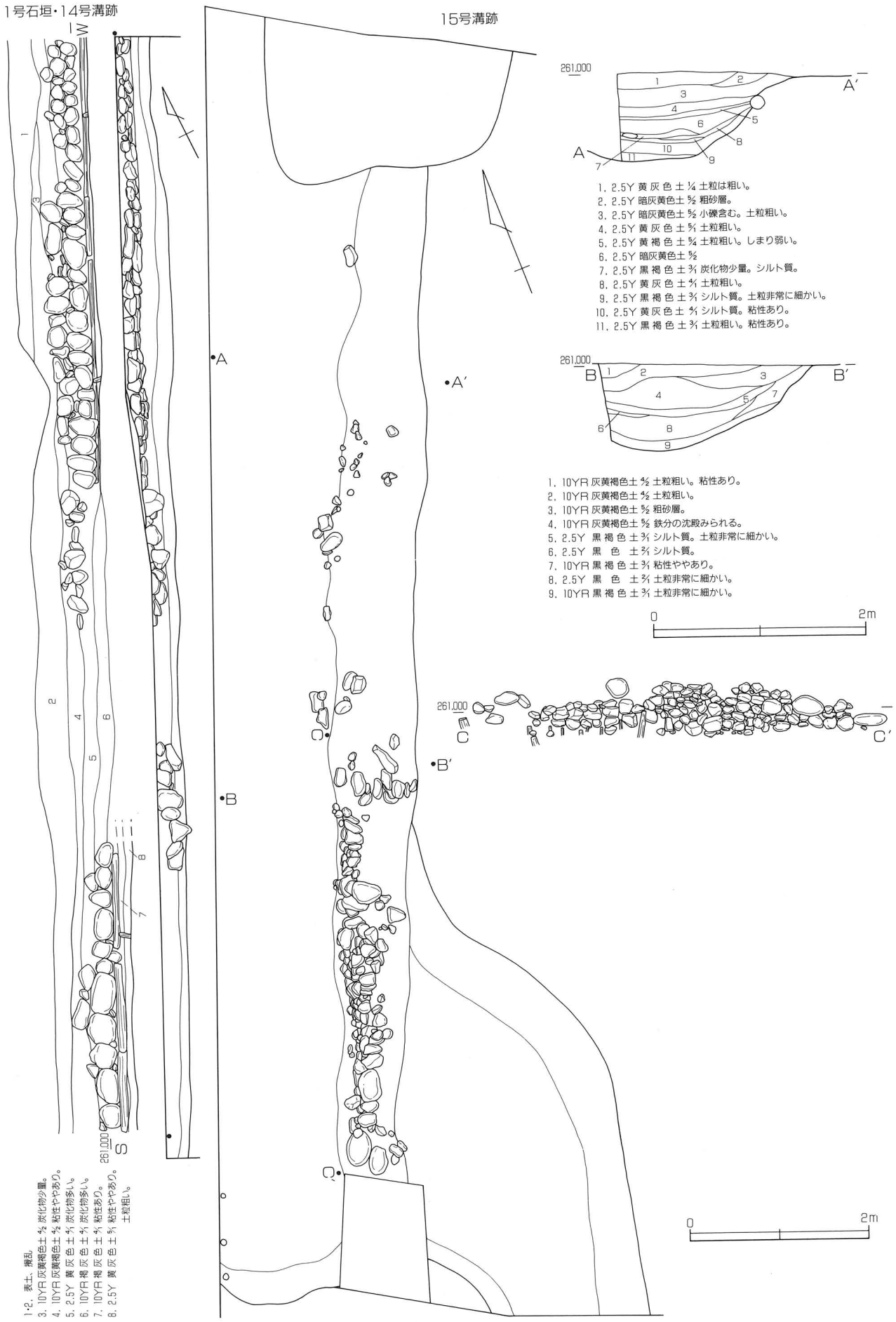


図12　1号石垣、14号・15号溝跡

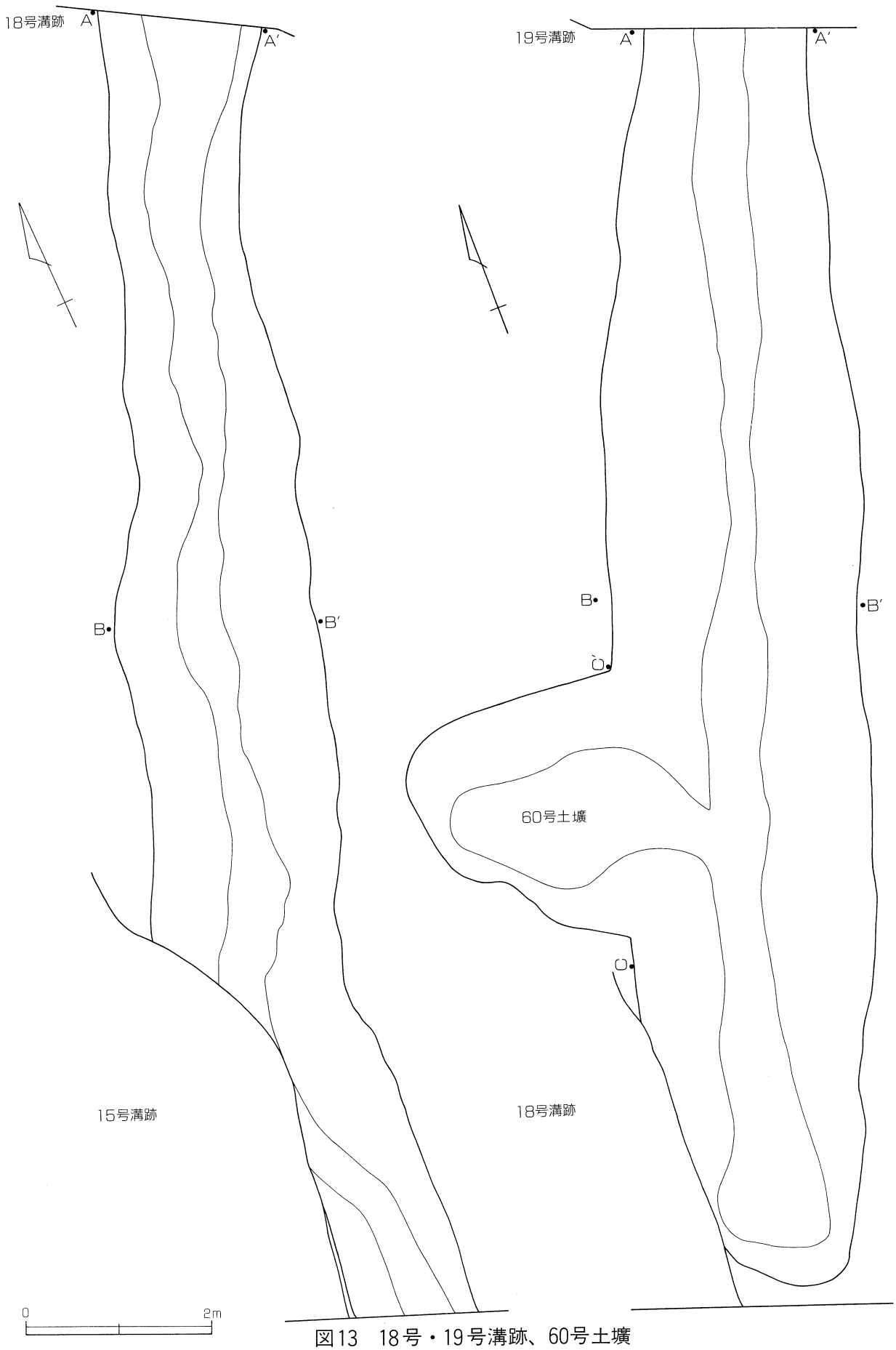
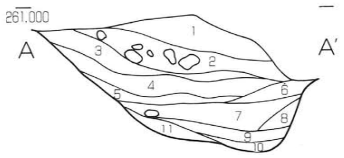


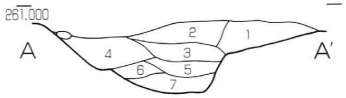
図13　18号・19号溝跡、60号土壙

18号溝跡



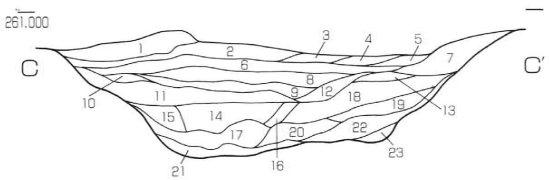
1. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性ややあり。
2. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性強い。土粒粗い。
3. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性ややあり。土粒細かい。
4. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性ややあり。土粒粗い。
5. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性あり。土粒やや粗い。
6. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性なし。
7. 2.5Y 黒褐色土 3/1 粘性ややあり。
8. 2.5Y 黒褐色土 3/1 シルト質。土粒細かい。
9. 2.5Y 黒褐色土 3/1 粘性あり。土粒やや粗。
10. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性ない。砂層。
11. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2 粘性なし。土粒やや粗。

19号溝跡

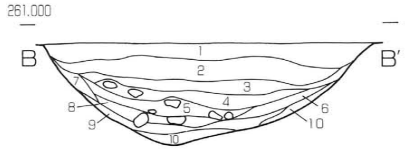


1. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性ややあり。
2. 2.5Y 黄灰色土 5/1 土粒やや粗。
3. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2 粘性なし。
4. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性ややあり。土粒やや粗。
5. 2.5Y 黄褐色土 5/4 土粒細かい。
6. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性なし。
7. 2.5Y 黒　色　土 2/1 粘性あり。土粒非常に細かい。

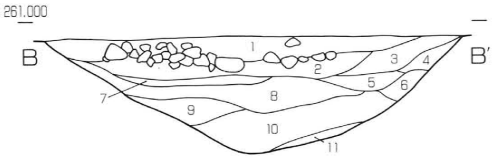
60号土壙



1. 10YR 灰黄褐色土 4/2 炭化物、焼土多い。
2. 10YR 灰黄褐色土 4/2 粘性強。しまりあり。
3. 10YR 褐灰色土 5/1 粘性強。しまりあり。
4. 10YR 褐灰色土 5/1 粘性あり。土粒細かい。
5. 10YR 灰黄褐色土 4/2 粗砂層。
6. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性強。しまりあり。
7. 10YR 褐灰色土 5/1 炭化物多い。土粒粗い。
8. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性あり。しまりあり。
9. 2.5Y 黒褐色土 3/1 粘性強。しまりあり。
10. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性あり。しまりあり。
11. 2.5Y 黄灰色土 5/1 土粒は粗い。
12. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性あり。
13. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性強。土粒はやや粗。
14. 2.5Y 黒褐色土 3/2 粘性あり。土粒粗い。
15. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2 粘性なし。しまりなし。
16. 2.5Y 黒褐色土 3/2 ややシルト質。
17. 2.5Y 黒褐色土 3/2 粘性ややあり。
18. 2.5Y 黄褐色土 5/1 炭化物若干含む。
19. 2.5Y 黒褐色土 3/1 土粒やや粗。
20. 2.5Y 黒　色　土 2/1 粘性ややあり。
21. 2.5Y 黒褐色土 3/1 粘性ややあり。
22. 2.5Y 黒褐色土 3/1 細砂多く混じる。
23. 2.5Y 黒褐色土 3/1 粘性ややあり。

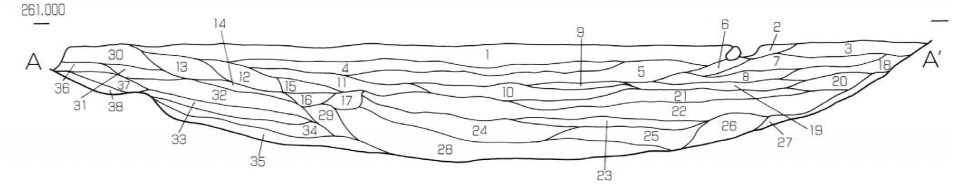


1. 2.5Y 黄灰色土 5/1 炭化物、焼土若干。
2. 2.5Y 黄灰色土 5/1 炭化物多い。土粒粗い。
3. 2.5Y 黄灰色土 5/1 炭化物若干。粘性ややあり。
4. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性あり。しまりあり。
5. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性強い。
6. 2.5Y 黄灰色土 5/1 土粒やや細かい。
7. 5Y　オリーブ褐色土 3/1 粘性やや強。しまりあり。
8. 2.5Y 黒褐色土 3/2 粘性やや弱。土粒粗い。
9. 2.5Y 黒褐色土 3/1 植物、材を含む泥層。
10. 5Y　オリーブ黒色土 3/1 粘性強い。土粒やや粗。

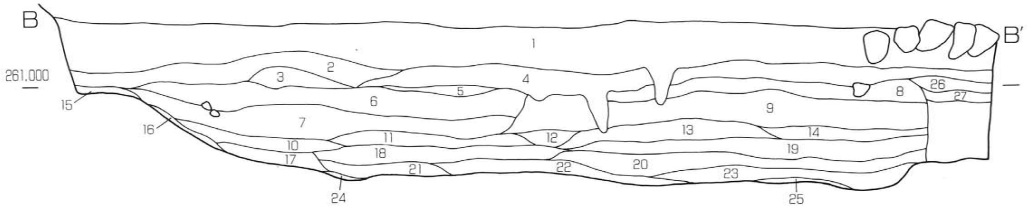


1. 10YR 灰黄褐色土 4/2 炭化物、焼土多い。
2. 10YR 褐灰色土 5/1 土粒やや粗。
3. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粗砂層。
4. 2.5Y 黄灰色土 5/1 炭化物若干。
5. 2.5Y 黄灰色土 5/1 灰黄色砂多い。
6. 2.5Y 黄灰色土 5/1 炭化物、焼土多い。
7. 2.5Y 黄灰色土 5/1 炭化物若干。
8. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性あり。
9. 2.5Y 黒褐色土 3/1 灰白色の砂混じる。
10. 2.5Y 黒褐色土 3/1 粗砂層。
11. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2 土粒粗い。

22号溝跡



1. 2.5Y 褐灰色土 5/2 炭化物、焼土多い。
2. 2.5Y 灰黄色土 5/2 土粒細かい。
3. 2.5Y 灰黄褐色土 5/2 炭化物多い。
4. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2 炭化物、焼土多い。
5. 2.5Y 黄灰色土 5/1 土粒はやや粗。
6. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性ややあり。しまりあり。
7. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2 土粒は粗い。
8. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2 粗砂層。
9. 2.5Y 暗灰黄褐色土 5/2 土粒は粗い。
10. 2.5Y 黄灰色土 5/1 炭化物若干。粘性ややあり。
11. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性ややあり。土粒はやや粗。
12. 10YR 灰黄褐色土 5/2 炭化物、焼土多い。
13. 2.5Y 灰黄褐色土 5/2 土粒は粗い。
14. 10YR 褐灰色土 5/1 粘性なし。
15. 2.5Y 黄灰色土 5/1 炭化物若干。しまりあり。
16. 2.5Y 黄灰色土 5/1 土粒はやや粗。
17. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性ややあり。しまりあり。
18. 2.5Y 黄灰色土 5/1 鉄分の沈殿層あり。
19. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2 土粒は細かい。
20. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性ややあり。しまりあり。
21. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性ややあり。土粒細かい。
22. 2.5Y 黄灰色土 5/1 炭化物、焼土含む。
23. 2.5Y 黄灰色土 5/1 炭化物多い。
24. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粗砂層。
25. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2
26. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2 炭化物多い。
27. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2 砂層。
28. 2.5Y 黄灰～暗黄灰色土 5/1～5/2
29. 2.5Y 黒褐色土 3/1 粘性なし。
30. 10YR 灰黄褐色土 5/2 黄褐色粗砂混。
31. 10YR 褐灰色土 5/1 粘性あり。しまりあり。
32. 10YR 褐灰色土 5/1 炭化物、焼土含む。
33. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2 炭化物多い。
34. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性ややあり。
35. 2.5Y 黄灰色土 5/1 土粒はやや粗。
36. 2.5Y 黄灰色土 5/1 炭化物、焼土多い。
37. 2.5Y 黄灰色土 5/1 土粒はやや粗。
38. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2 砂層。



1. 表土、攪乱
2. 10YR 褐灰色土 5/1 土粒粗い。
3. 10YR 灰黄褐色土 5/2 粘性あり。しまりあり。
4. 10YR 褐灰色土 5/1 土粒細かい。
5. 10YR 褐灰色土 5/1 土粒やや粗。
6. 10YR 褐灰色土 5/1 炭化物、焼土多い。
7. 2.5Y 黄灰色土 5/1 炭化物、焼土多い。
8. 10YR 褐灰色土 5/1 土粒やや細かい。
9. 2.5Y 黄灰色土 5/1 土粒粗い。
10. 2.5Y 黄灰色土 5/1 炭化物多い。
11. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性ややあり。しまりあり。
12. 2.5Y 暗灰黄色土 5/1 炭化物、焼土多い。
13. 2.5Y 黄灰色土 5/1 土粒はやや粗。
14. 2.5Y 黒褐色土 3/2 粘性ややあり。しまりあり。
15. 10YR 褐灰色土 5/1 土粒は粗い。
16. 2.5Y 黒褐色土 3/2 土粒細かい。粘性あり。
17. 2.5Y 黄灰色土 5/1 土粒は粗い。
18. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性ややあり。しまりあり。
19. 2.5Y 黄灰色土 5/2 砂層。粘性なし。
20. 2.5Y 黒褐色土 3/2 土粒は粗い。
21. 2.5Y 黒褐色土 3/1 粘性あり。
22. 2.5Y 黒褐色土 3/1 粘性ややあり。
23. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2 土粒粗い。
24. 2.5Y 黒褐色土 3/1 粘性あり。しまりあり。
25. 2.5Y 黄灰色土 5/1 土粒は細かい。
26. 2.5Y 黄灰色土 5/1 土粒は粗い。
27. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性あり。しまりあり。

0　2m

図14　18号・19号・22号溝跡、60号土壙　土層断面図

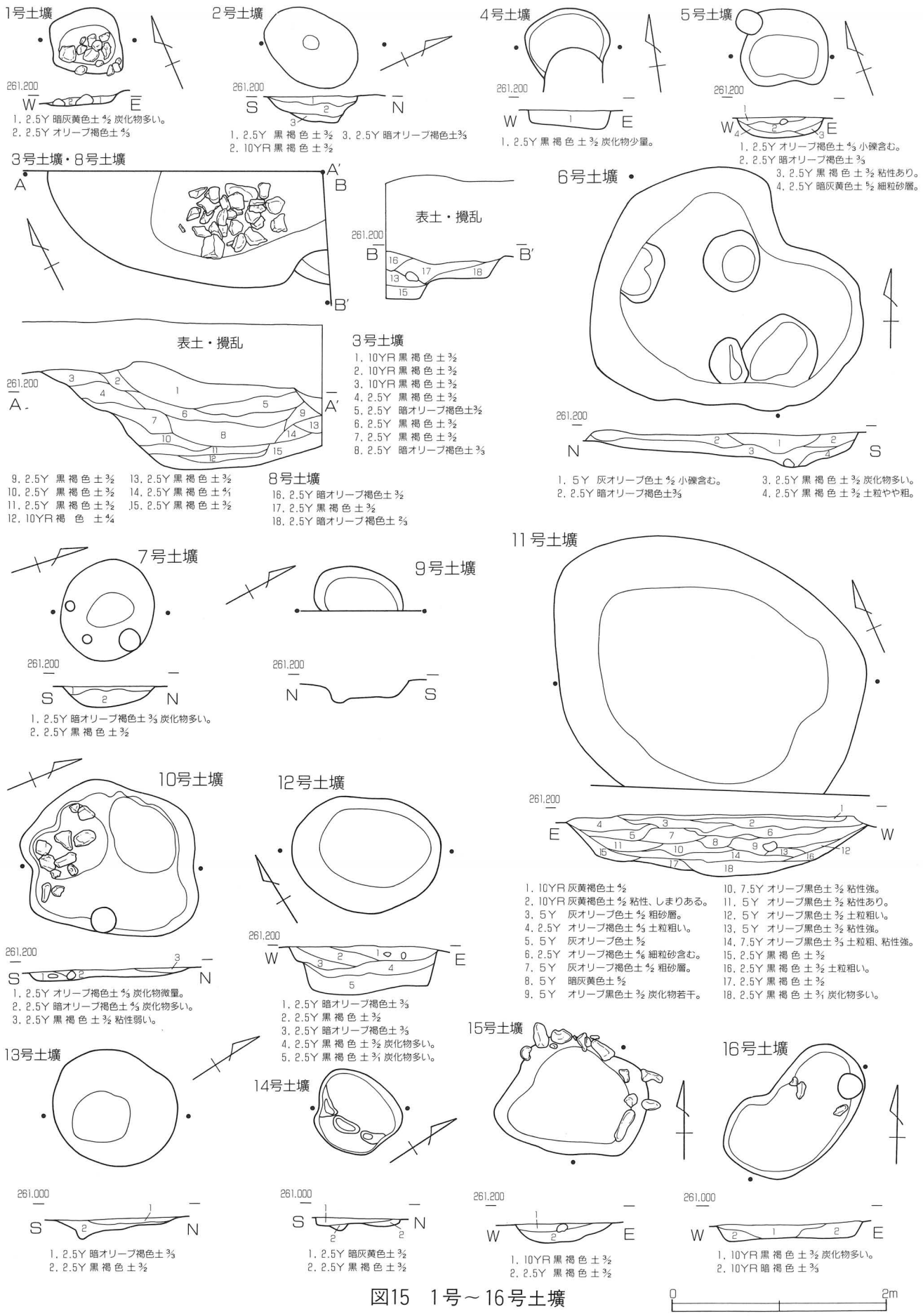

1号土壙
261.200
W
E
1. 2.5Y 暗灰黄色土 4/2 炭化物多い。
2. 2.5Y オリーブ褐色土 4/3
2号土壙
261.200
S
N
1. 2.5Y 黒褐色土 3/2 3. 2.5Y 暗オリーブ褐色土3/3
2. 10YR 黒褐色土 3/2
4号土壙
261.200
W
E
1. 2.5Y 黒褐色土 3/2 炭化物少量。
5号土壙
261.200
W
E
1. 2.5Y オリーブ褐色土 4/3 小礫含む。
2. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 3/3
3. 2.5Y 黒褐色土 3/2 粘性あり。
4. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2 細粒砂層。
3号土壙・8号土壙
A
A′
B
B′
表土・攪乱
261.200
B
B′
表土・攪乱
261.200
A
A′
3号土壙
1. 10YR 黒褐色土 3/2
2. 10YR 黒褐色土 3/2
3. 10YR 黒褐色土 3/2
4. 2.5Y 黒褐色土 3/2
5. 2.5Y 暗オリーブ褐色土3/2
6. 2.5Y 黒褐色土 3/2
7. 2.5Y 黒褐色土 3/2
8. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 3/3
9. 2.5Y 黒褐色土 3/2
10. 2.5Y 黒褐色土 3/2
11. 2.5Y 黒褐色土 3/2
12. 10YR 褐色土 4/4
13. 2.5Y 黒褐色土 3/2
14. 2.5Y 黒褐色土 4/1
15. 2.5Y 黒褐色土 3/2
8号土壙
16. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 3/2
17. 2.5Y 黒褐色土 3/2
18. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 2/3
6号土壙
261.200
N
S
1. 5Y 灰オリーブ色土 4/2 小礫含む。
2. 2.5Y 暗オリーブ褐色土3/3
3. 2.5Y 黒褐色土 3/2 炭化物多い。
4. 2.5Y 黒褐色土 3/2 土粒やや粗。
7号土壙
261.200
S
N
1. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 3/3 炭化物多い。
2. 2.5Y 黒褐色土 3/2
9号土壙
261.200
N
S
11号土壙
261.200
E
W
1. 10YR 灰黄褐色土 4/2
2. 10YR 灰黄褐色土 4/2 粘性、しまりある。
3. 5Y 灰オリーブ色土 4/2 粗砂層。
4. 2.5Y オリーブ褐色土 4/3 土粒粗い。
5. 5Y 灰オリーブ色土 5/2
6. 2.5Y オリーブ褐色土 4/6 細粒砂含む。
7. 5Y 灰オリーブ褐色土 4/2 粗砂層。
8. 5Y 暗灰黄色土 5/2
9. 5Y オリーブ黒色土 3/2 炭化物若干。
10. 7.5Y オリーブ黒色土 3/2 粘性強。
11. 5Y オリーブ黒色土 3/2 粘性あり。
12. 5Y オリーブ黒色土 3/2 土粒粗い。
13. 5Y オリーブ黒色土 3/2 粘性強。
14. 7.5Y オリーブ黒色土 3/3 土粒粗、粘性強。
15. 2.5Y 黒褐色土 3/2
16. 2.5Y 黒褐色土 3/2 土粒粗い。
17. 2.5Y 黒褐色土 3/2
18. 2.5Y 黒褐色土 3/1 炭化物多い。
10号土壙
261.200
S
N
1. 2.5Y オリーブ褐色土 5/3 炭化物微量。
2. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 4/3 炭化物多い。
3. 2.5Y 黒褐色土 3/2 粘性弱い。
12号土壙
261.200
W
E
1. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 3/3
2. 2.5Y 黒褐色土 3/2
3. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 3/3
4. 2.5Y 黒褐色土 3/2 炭化物多い。
5. 2.5Y 黒褐色土 3/1 炭化物多い。
13号土壙
261.000
S
N
1. 2.5Y 暗オリーブ褐色土 3/3
2. 2.5Y 黒褐色土 3/2
14号土壙
261.000
S
N
1. 2.5Y 暗灰黄色土 3/2
2. 2.5Y 黒褐色土 3/2
15号土壙
261.200
W
E
1. 10YR 黒褐色土 3/2
2. 2.5Y 黒褐色土 3/2
16号土壙
261.000
W
E
1. 10YR 黒褐色土 3/2 炭化物多い。
2. 10YR 暗褐色土 3/3
0
2m

図15 1号～16号土壙

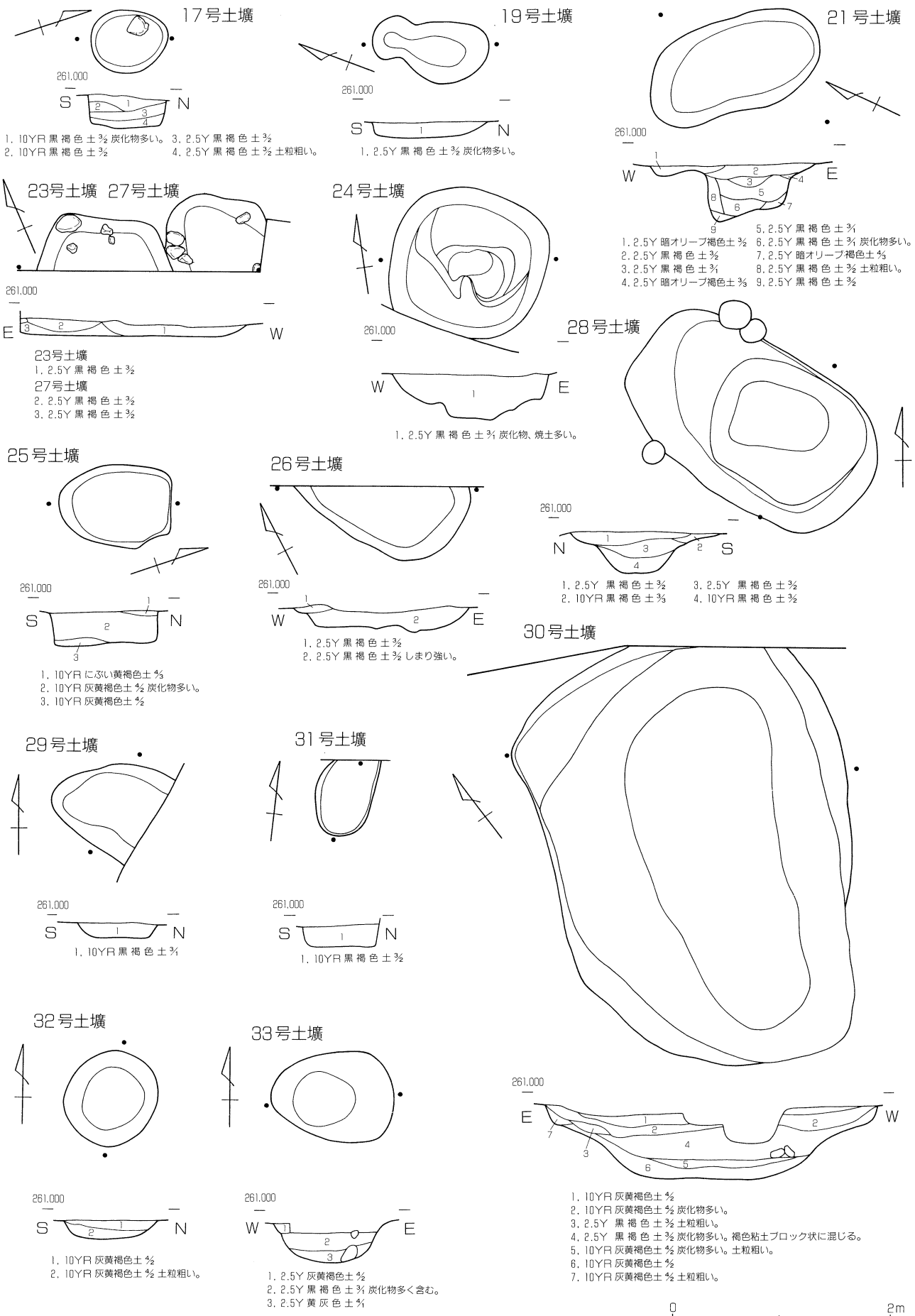


図16　17号・19号・21号・23号～33号土壙

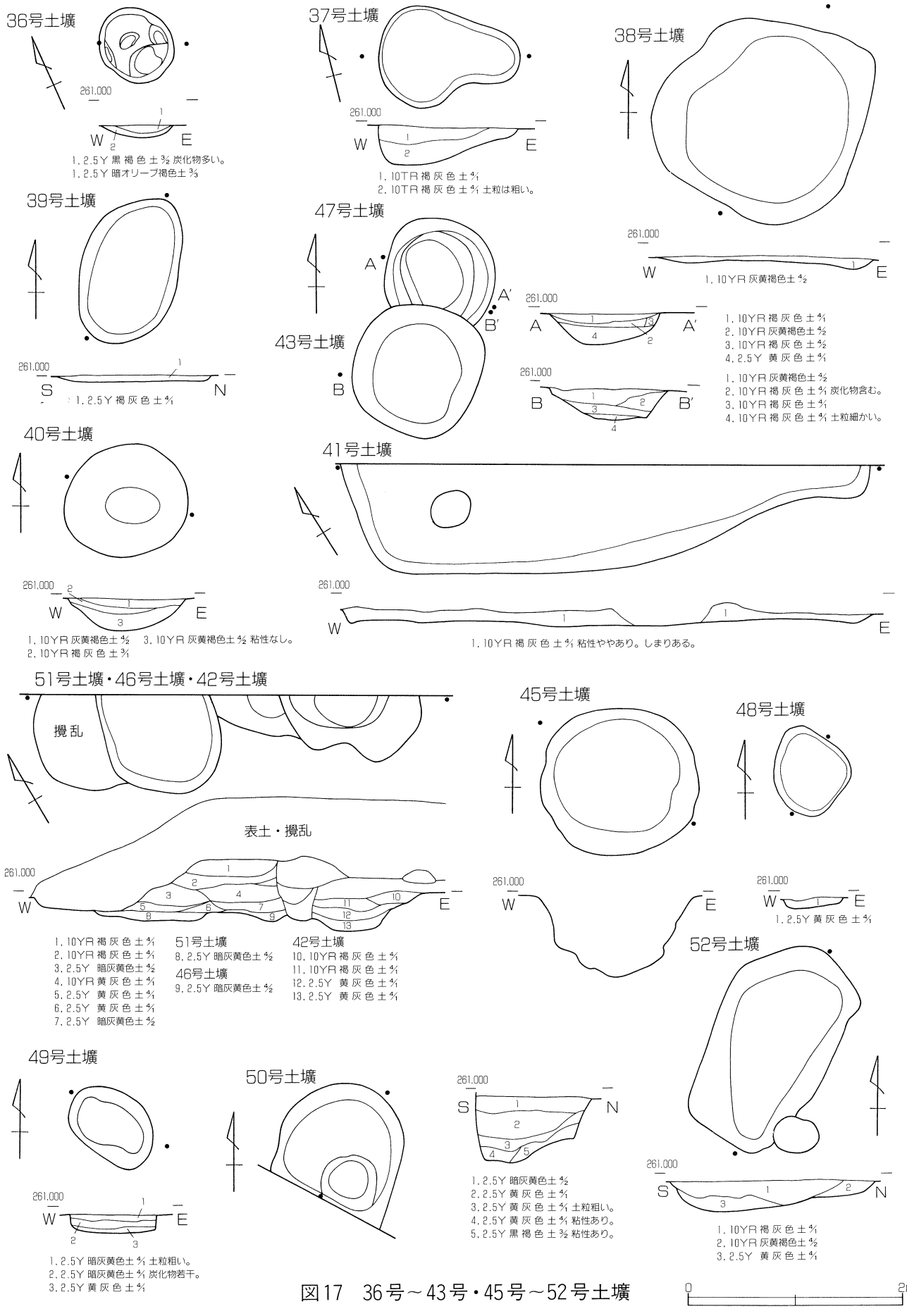


図17　36号～43号・45号～52号土壙

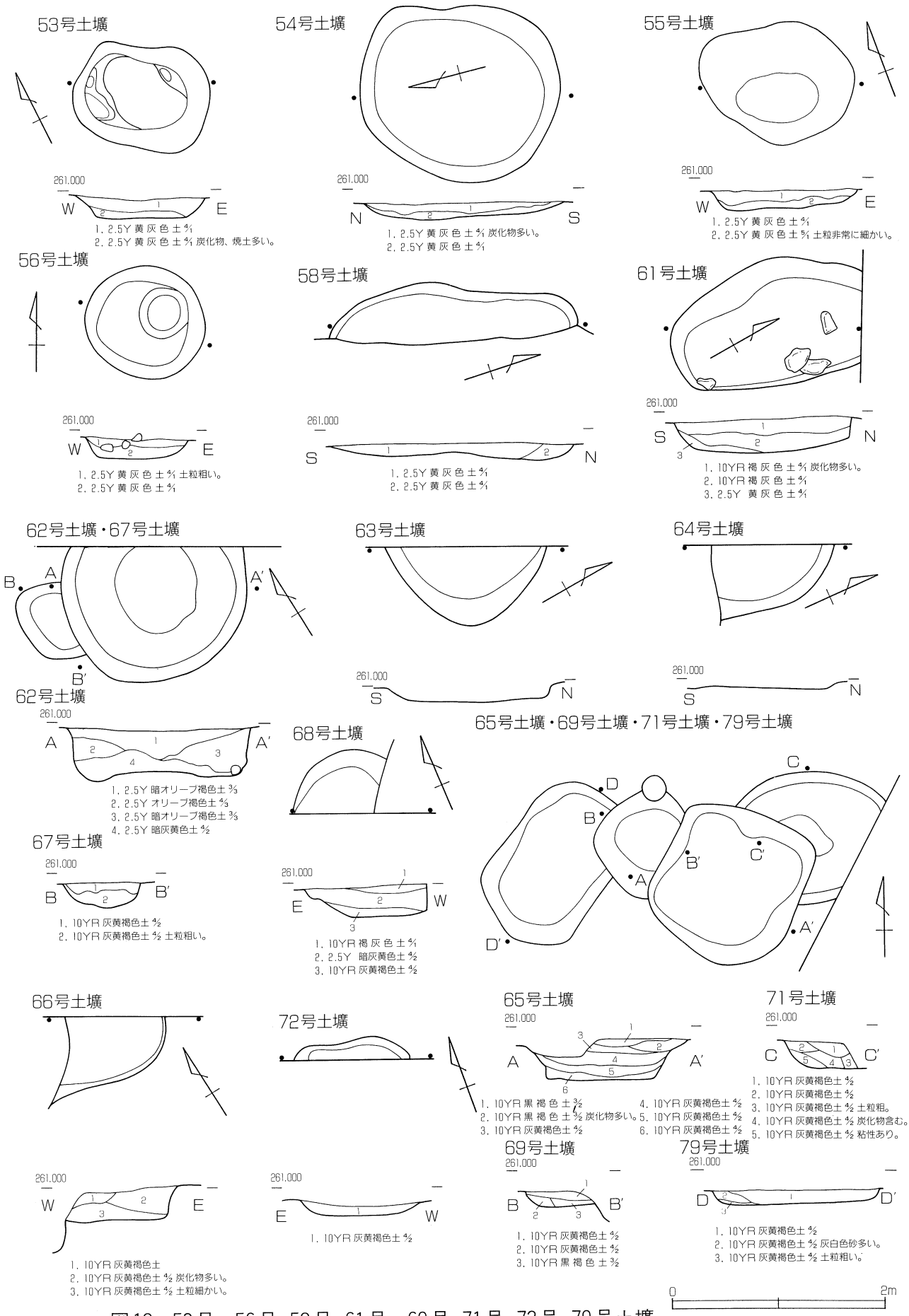


図18　53号～56号・58号・61号～69号・71号・72号・79号土壙

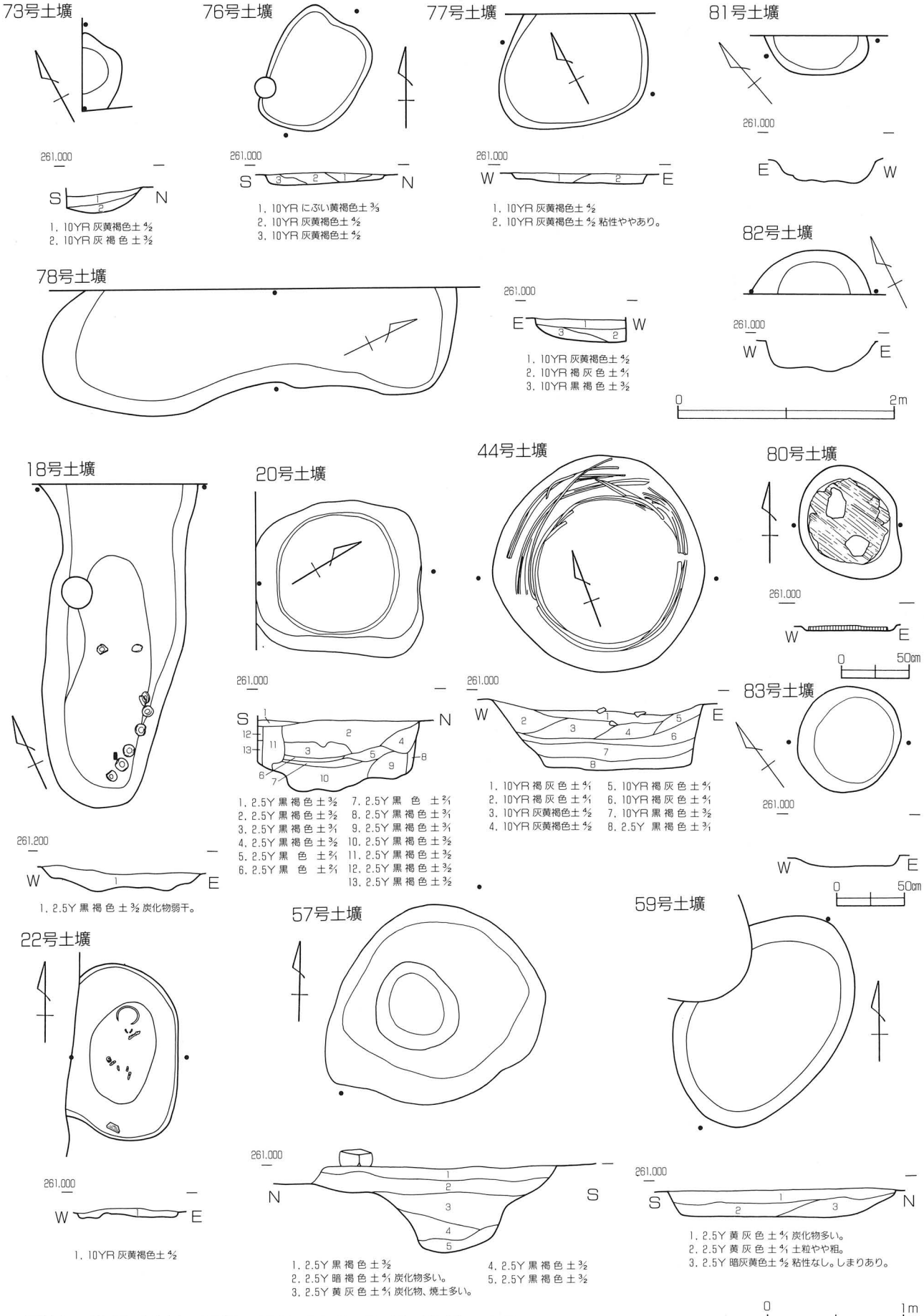


図19　18号・20号・22号・44号・57号・59号・73号・76号～78号・80号～83号土壙

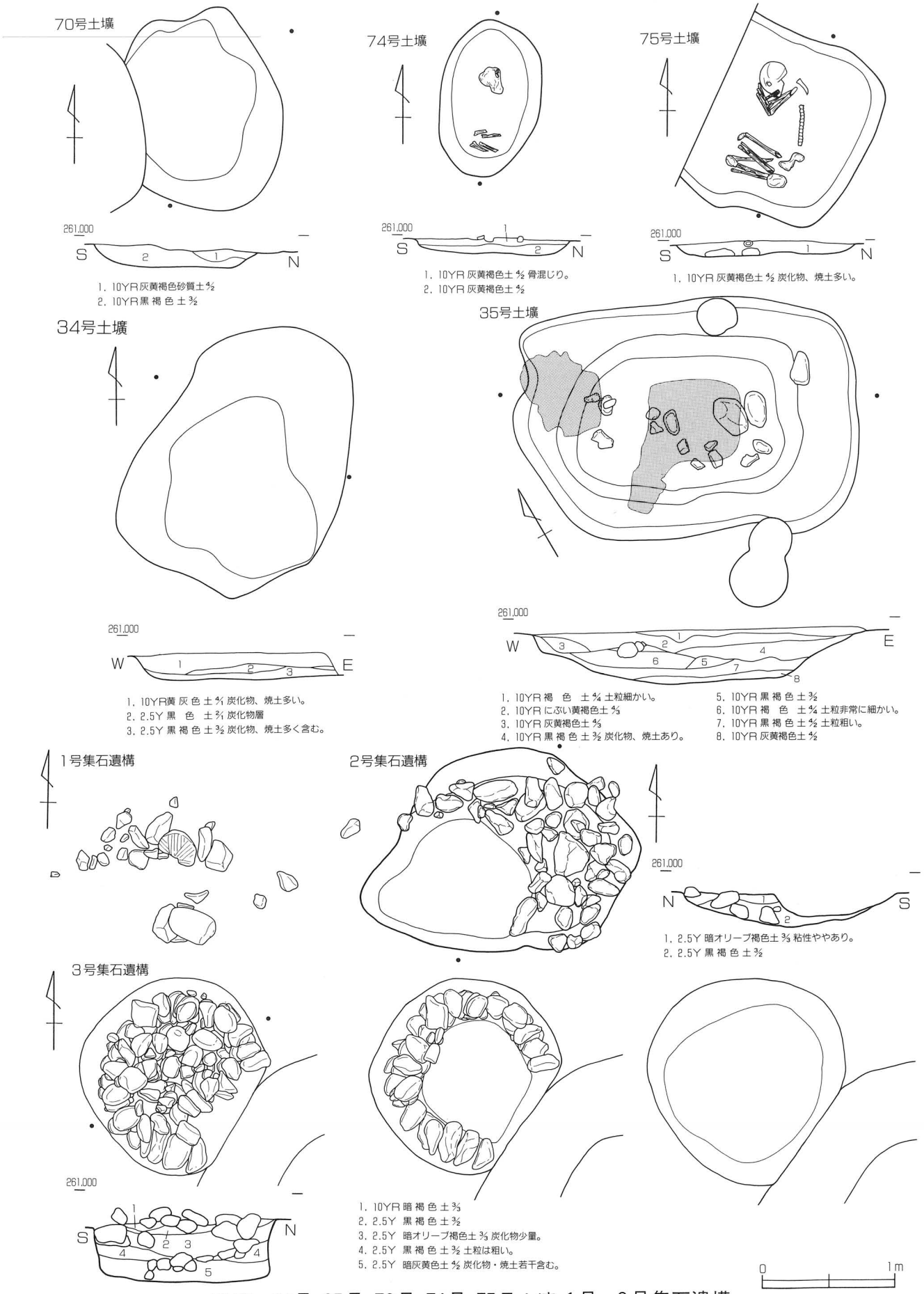


図20　34号・35号・70号・74号・75号土壙、1号～3号集石遺構

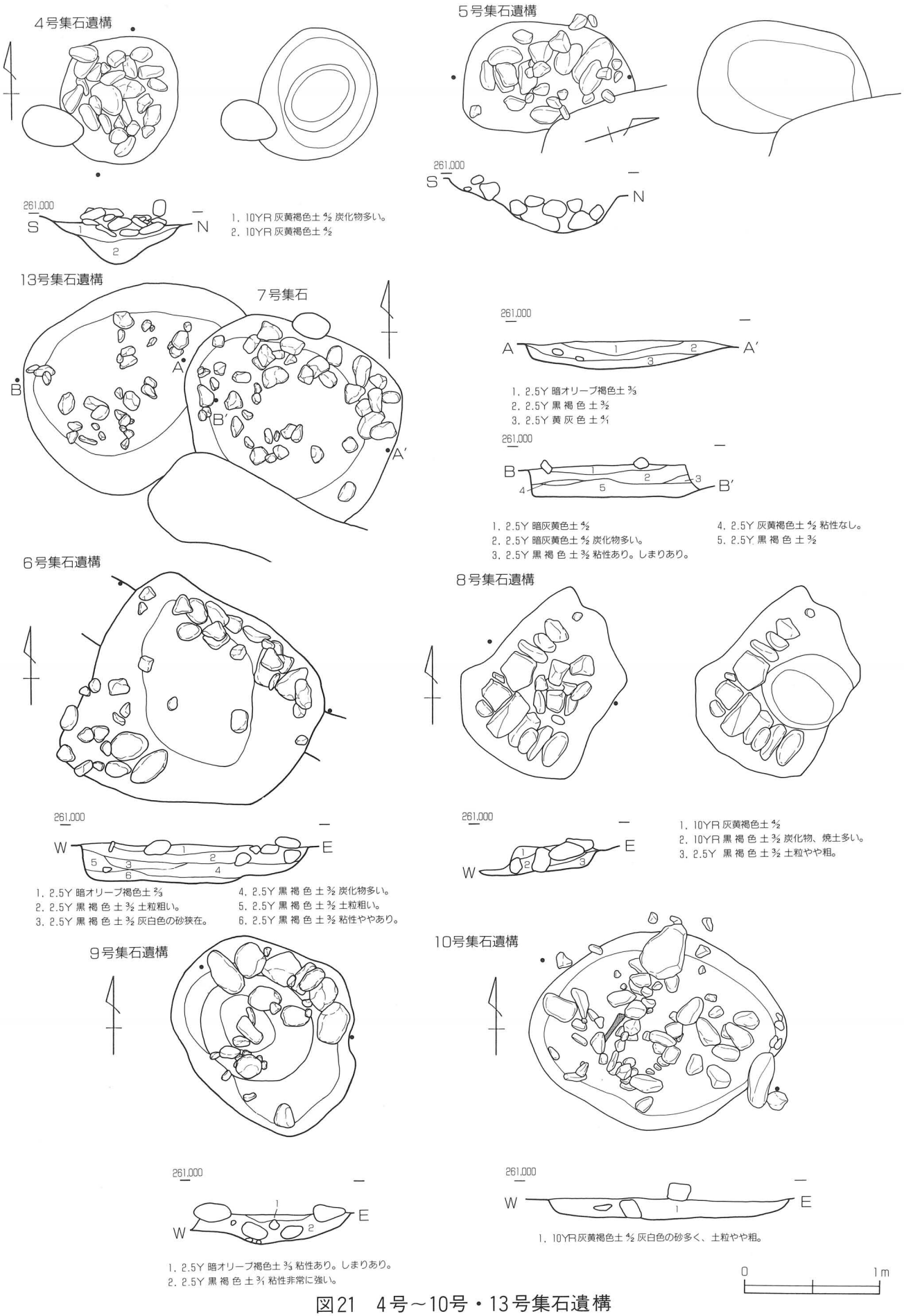


図21　4号～10号・13号集石遺構

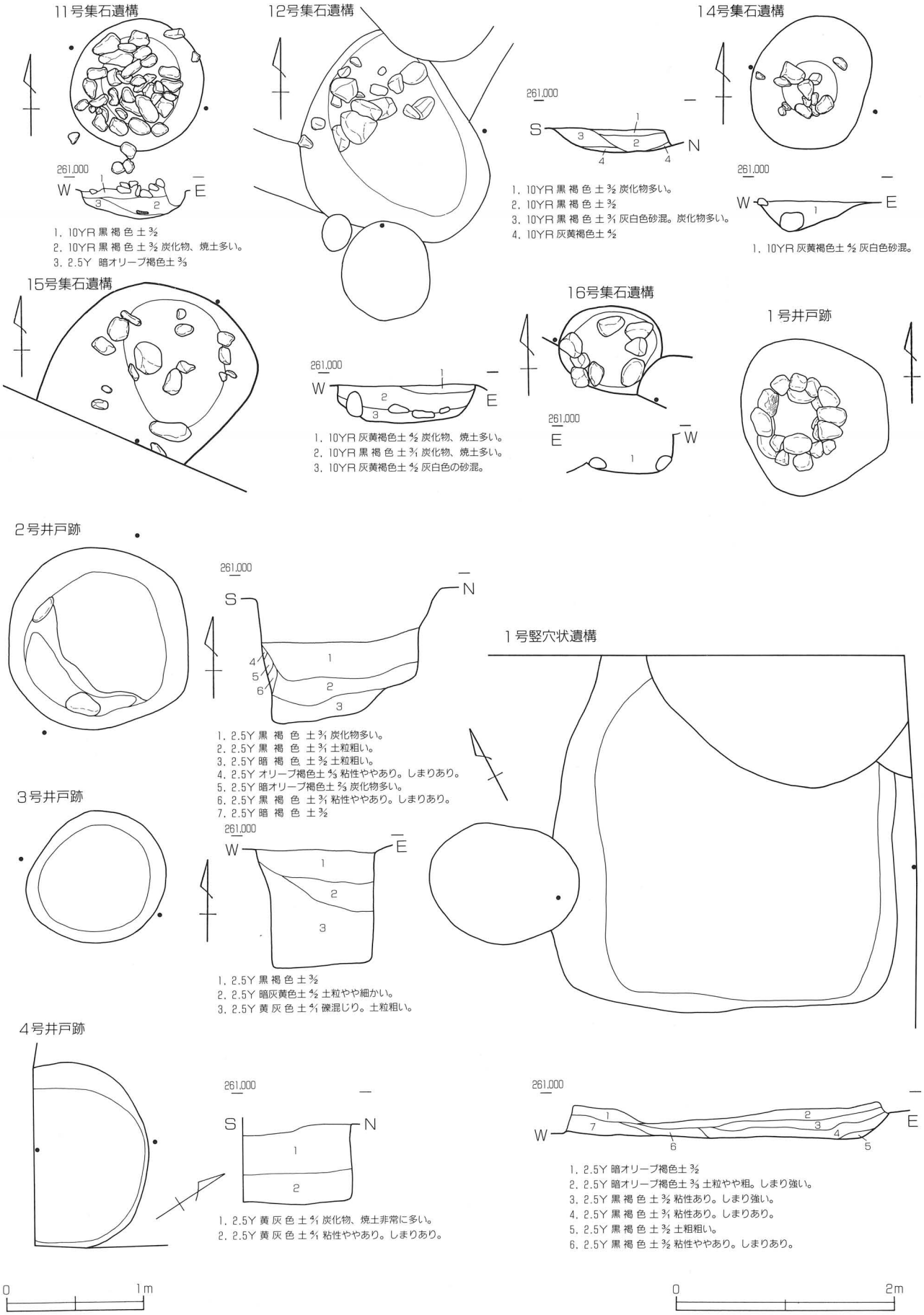
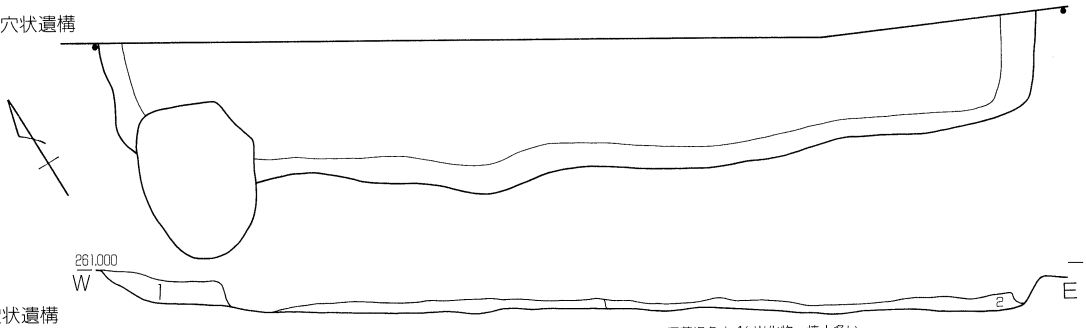


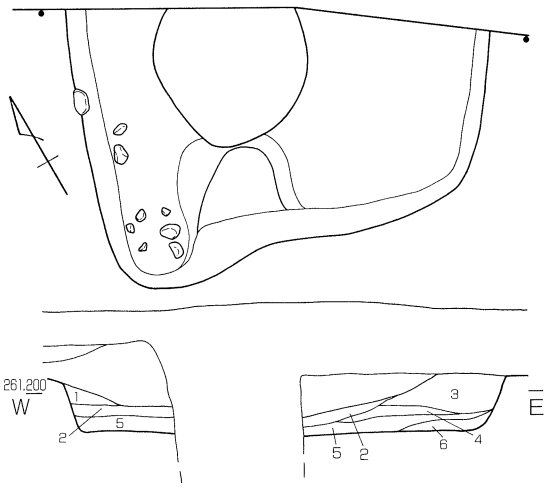
図22　11号・12号・14号～16号集石遺構、1号～4号井戸跡、1号竪穴状遺構

2号竪穴状遺構



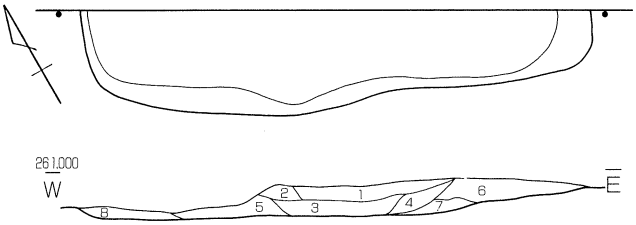
1. 10YR 灰黄褐色土 5/2 岩化物、焼土多い。
2. 10YR 黒褐色土 3/2 土粒やや粗。

3号竪穴状遺構



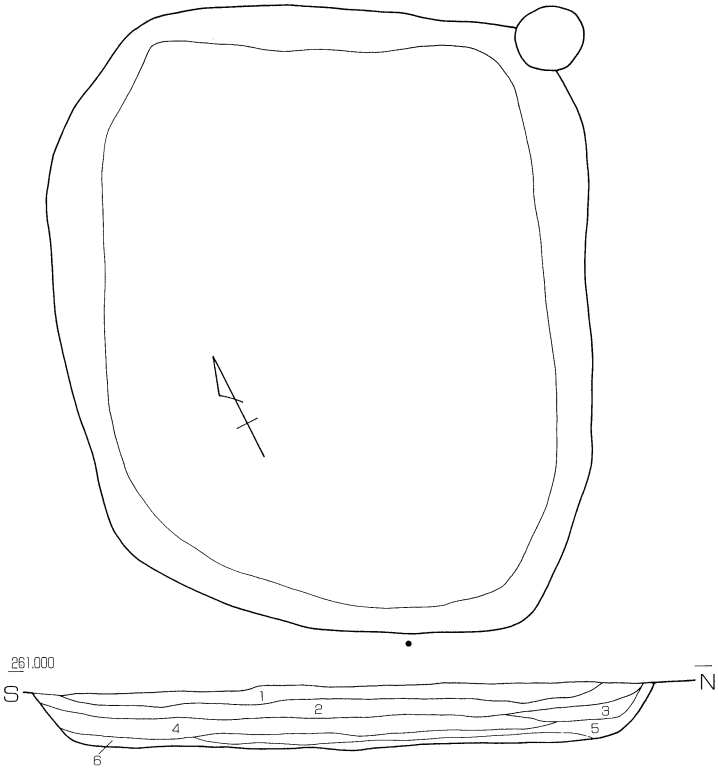
1. 2.5Y 黄灰色土 5/1 炭化物多い。
2. 2.5Y 黄灰色土 5/1 土粒やや粗。
3. 2.5Y 黄灰色土 5/1 炭化物やや多い。
4. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性ややあり。しまりあり。
5. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性ややあり。土粒粗い。
6. 2.5Y 黄灰色土 5/1 炭化物非常に多く含む

4号竪穴状遺構



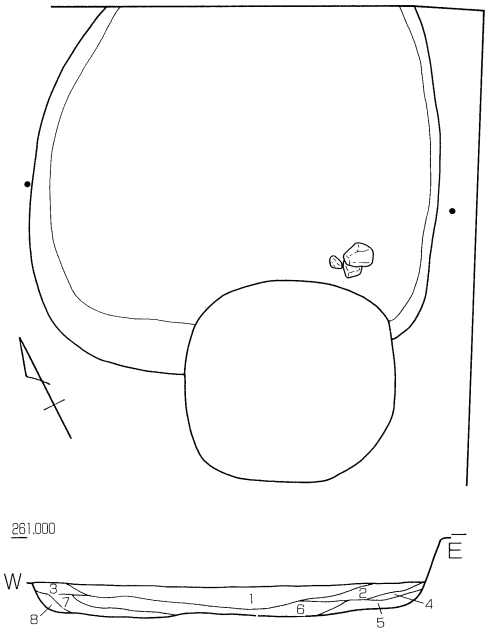
1. 2.5Y 黄灰色土 5/1 炭化物非常に多い。
2. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2 粘性ややあり。しまりあり。
3. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2 粘性ややあり。土粒細かい。
4. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2 炭化物、焼土多い。
5. 2.5Y 黄灰色土 5/1 粘性ややあり。しまりあり。
6. 2.5Y 黄灰色土 5/1 炭化物非常に多い。
7. 2.5Y 黄灰色土 5/1 炭化物外い。
8. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2 粘性なし。しまりなし。

5号竪穴状遺構



1. 2.5Y 暗灰黄色土 5/2～4/2 炭化物多い。
2. 2.5Y 暗灰黄色土 4/2 炭化物、焼土多い。
3. 2.5Y 黄灰色土 5/1 土粒やや細かい。
4. 2.5Y 黄灰色土 5/1 土粒やや粗。
5. 2.5Y 暗灰黄色土 5/1 粘性なし。
6. 2.5Y 黒褐色土 3/2 粘性ややあり。

6号竪穴状遺構



1. 2.5 Y 黒褐色土 3/2
2. 2.5 Y 黒褐色土 3/2 炭化物多い。
3. 2.5 Y 黒褐色土 3/2 粘性ややあり。しまりあり。
4. 2.5 Y 黒褐色土 3/2 粘性なし。しまりあり。
5. 2.5 Y 黒褐色土 3/2 灰白色砂を含む。
6. 2.5 Y 黒褐色土 3/2 粘性やや弱く、しまりある。
7. 2.5 Y 黒褐色土 3/2 土粒はやや粗。
8. 2.5 Y 暗オリーブ褐 3/3 炭化物微量。粘性なし。

図23　2号～6号竪穴状遺構

0　2m

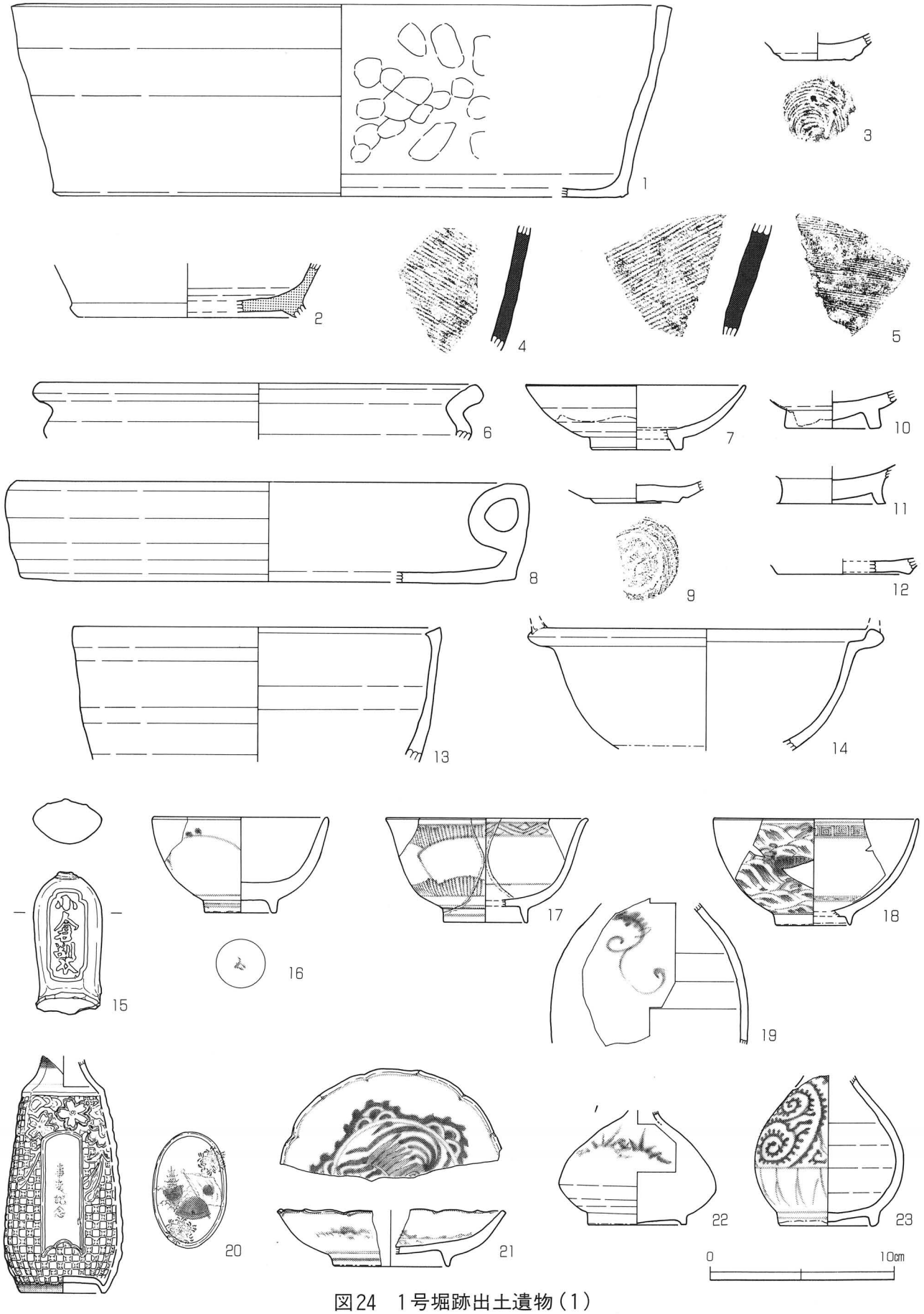


図24　1号堀跡出土遺物（1）

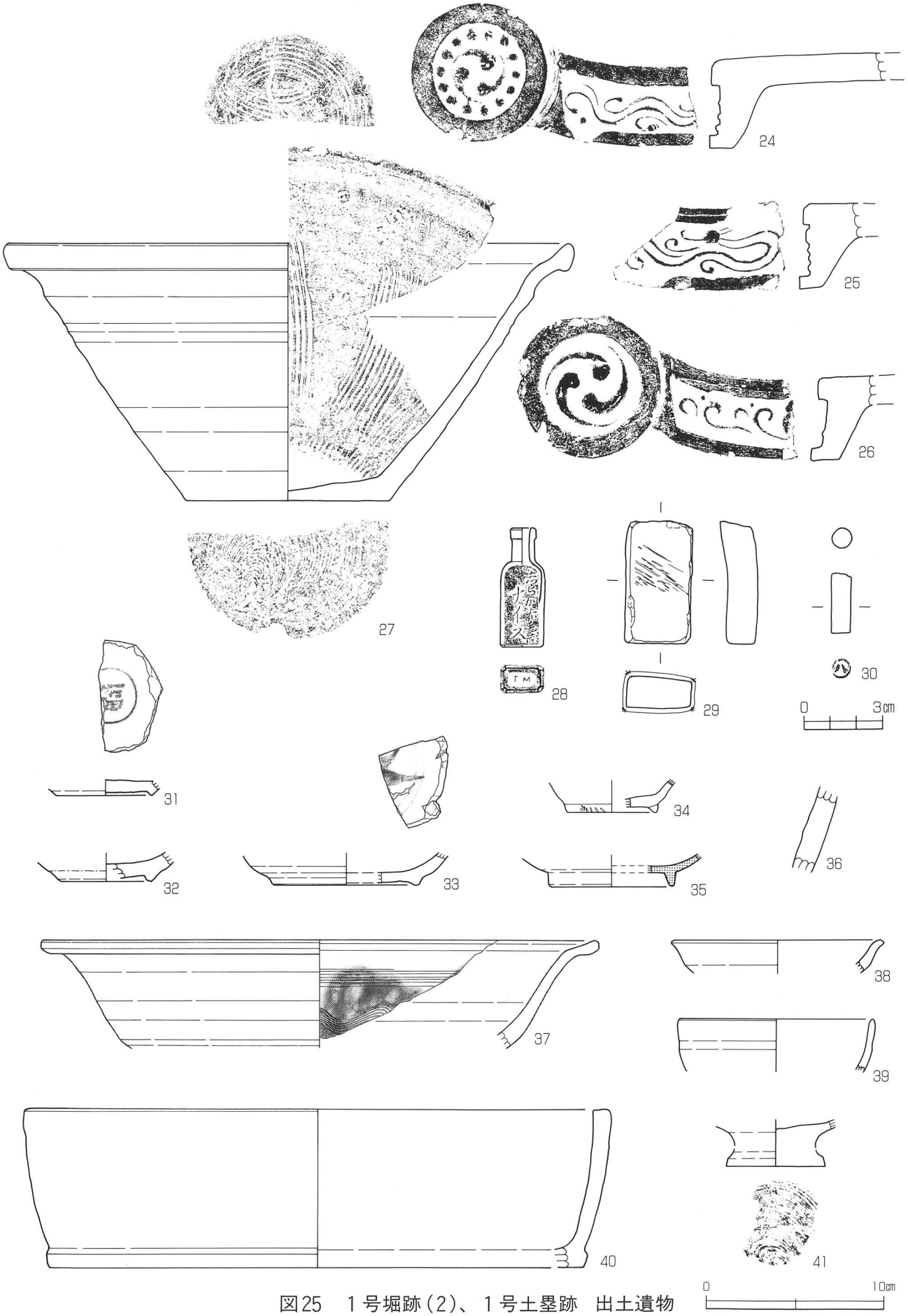


図25　1号堀跡(2)、1号土墨跡　出土遺物

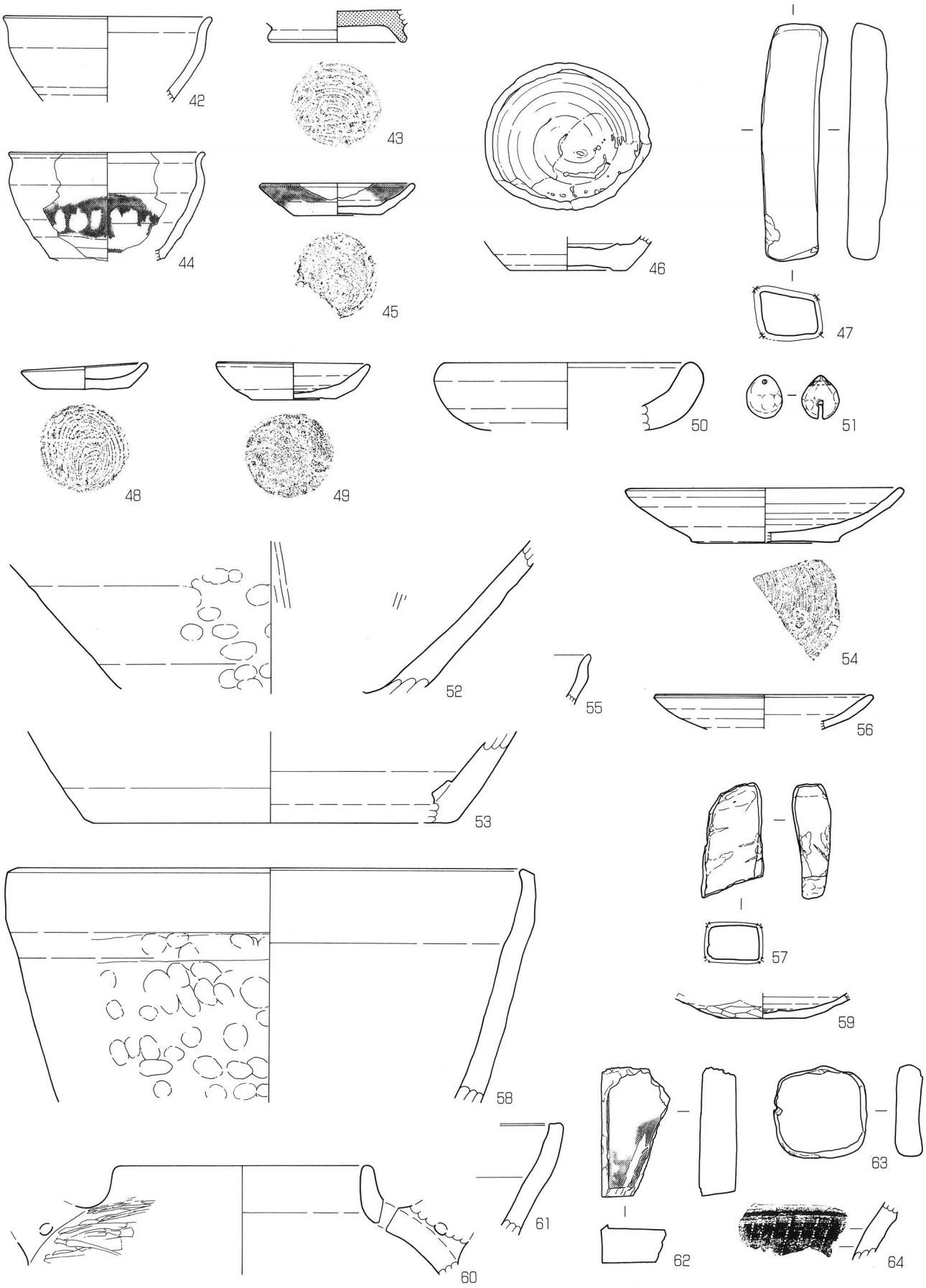


図26　1号・2号・7号～10号・13号（1）溝跡出土遺物

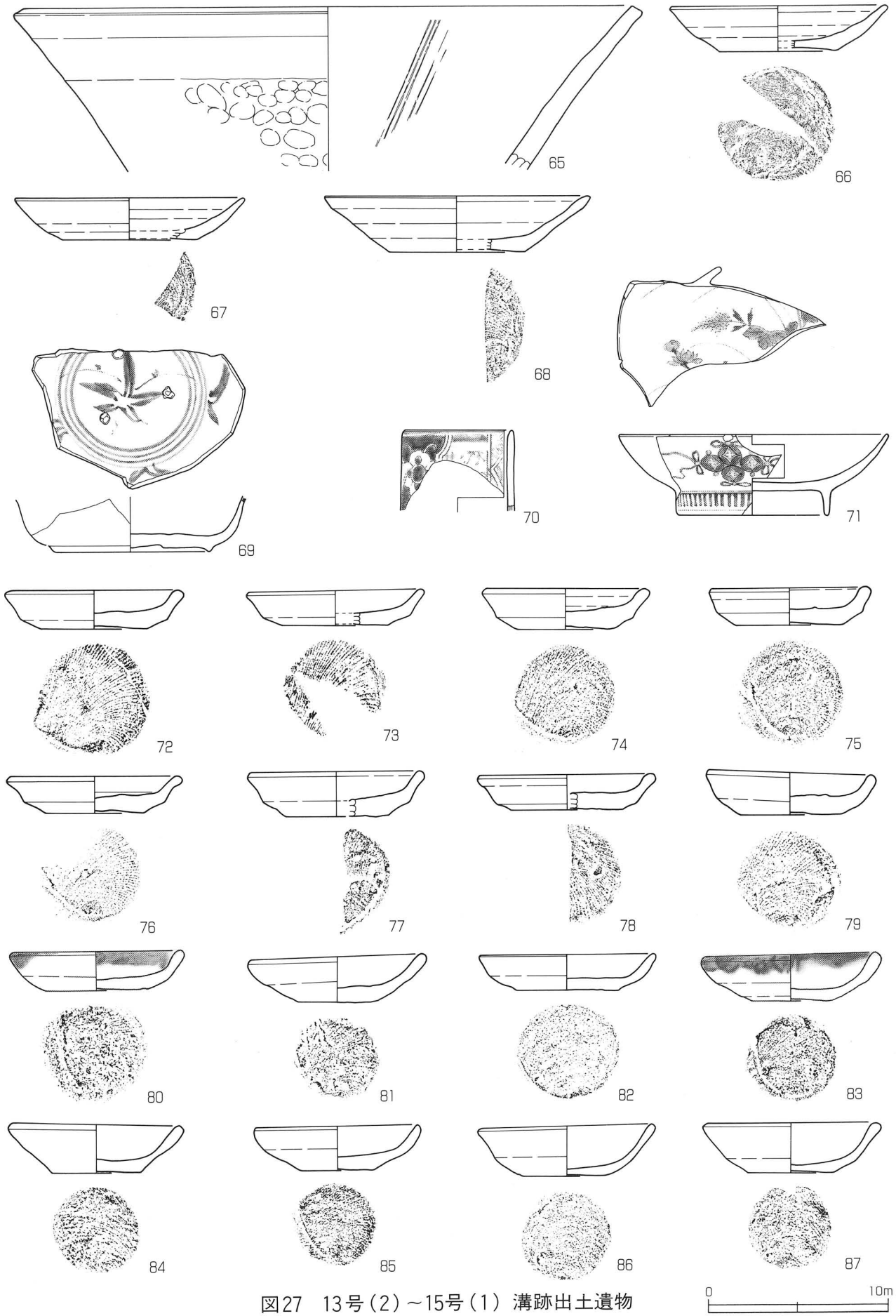


図27　13号（2）～15号（1）溝跡出土遺物

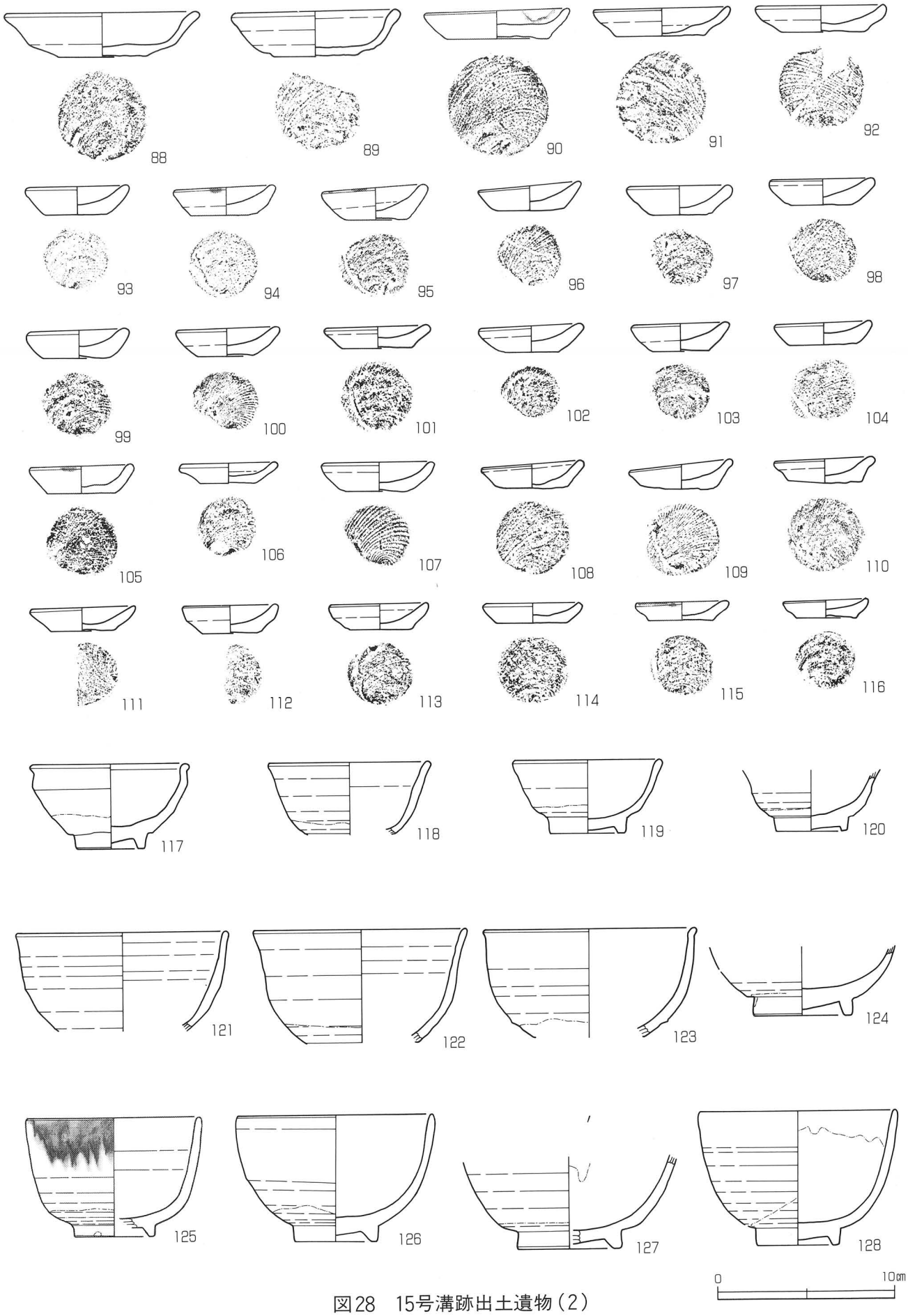


図28　15号溝跡出土遺物（2）

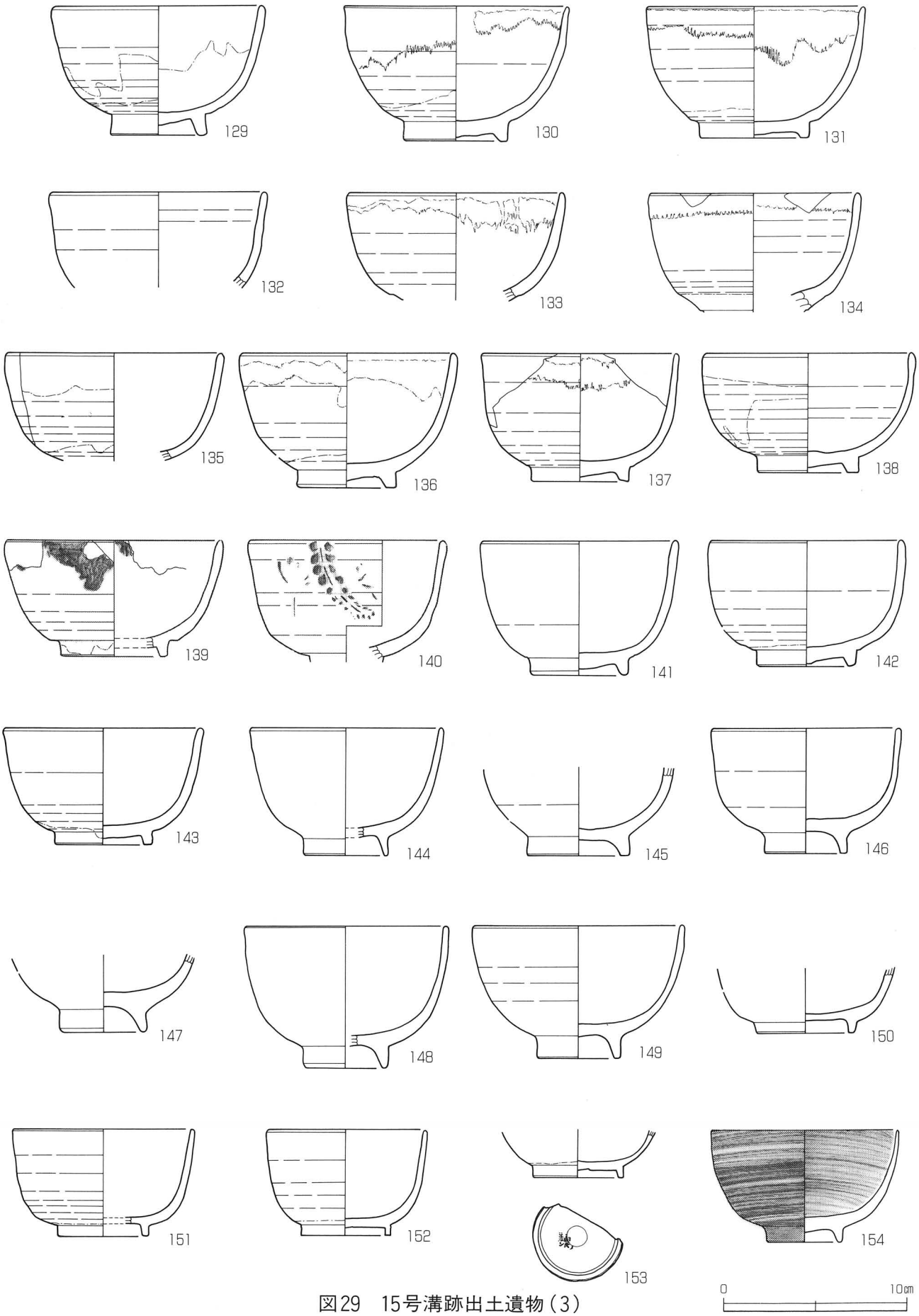


図29　15号溝跡出土遺物（3）

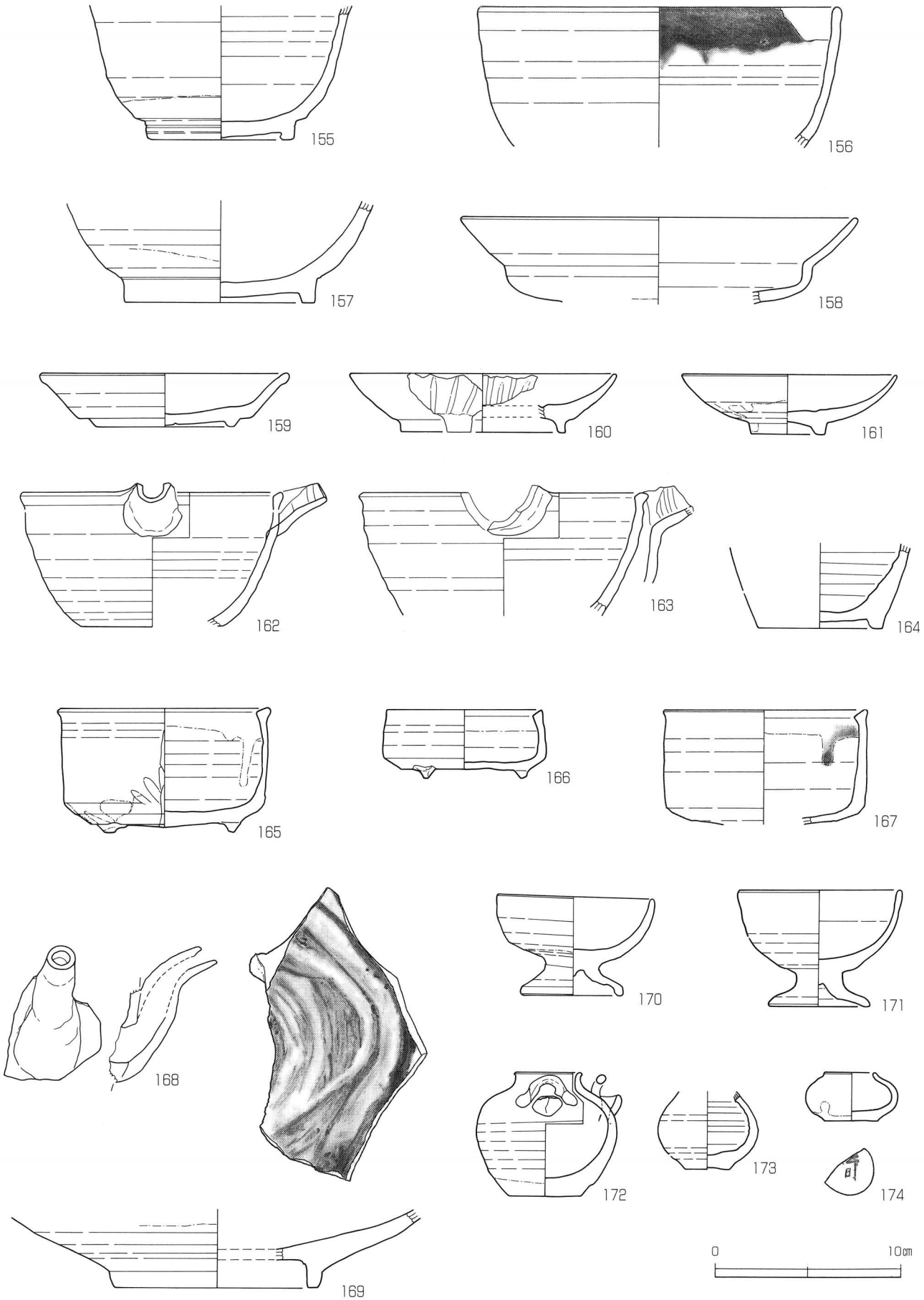


図30　15号溝跡出土遺物（4）

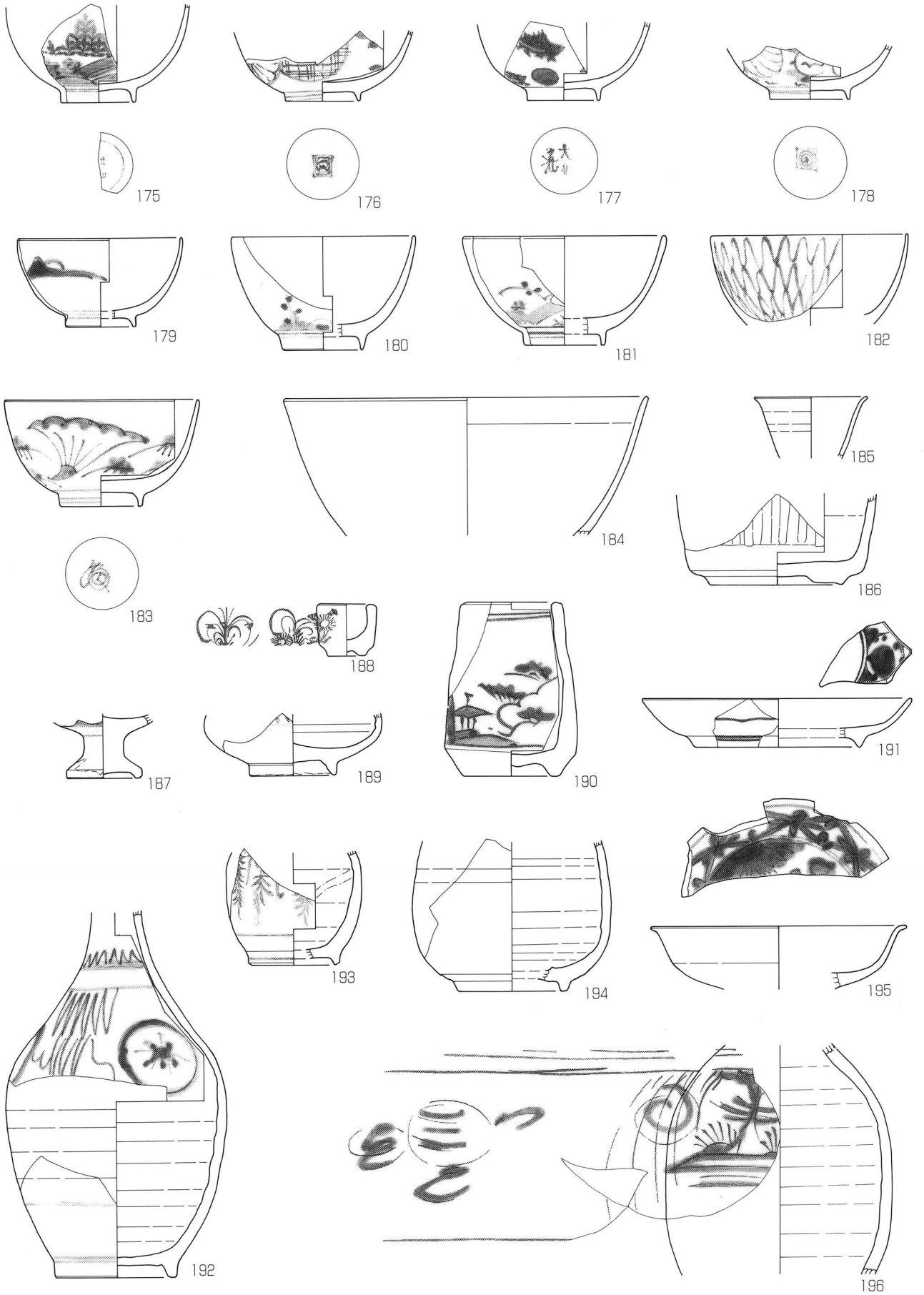


図31　15号溝跡出土遺物（5）

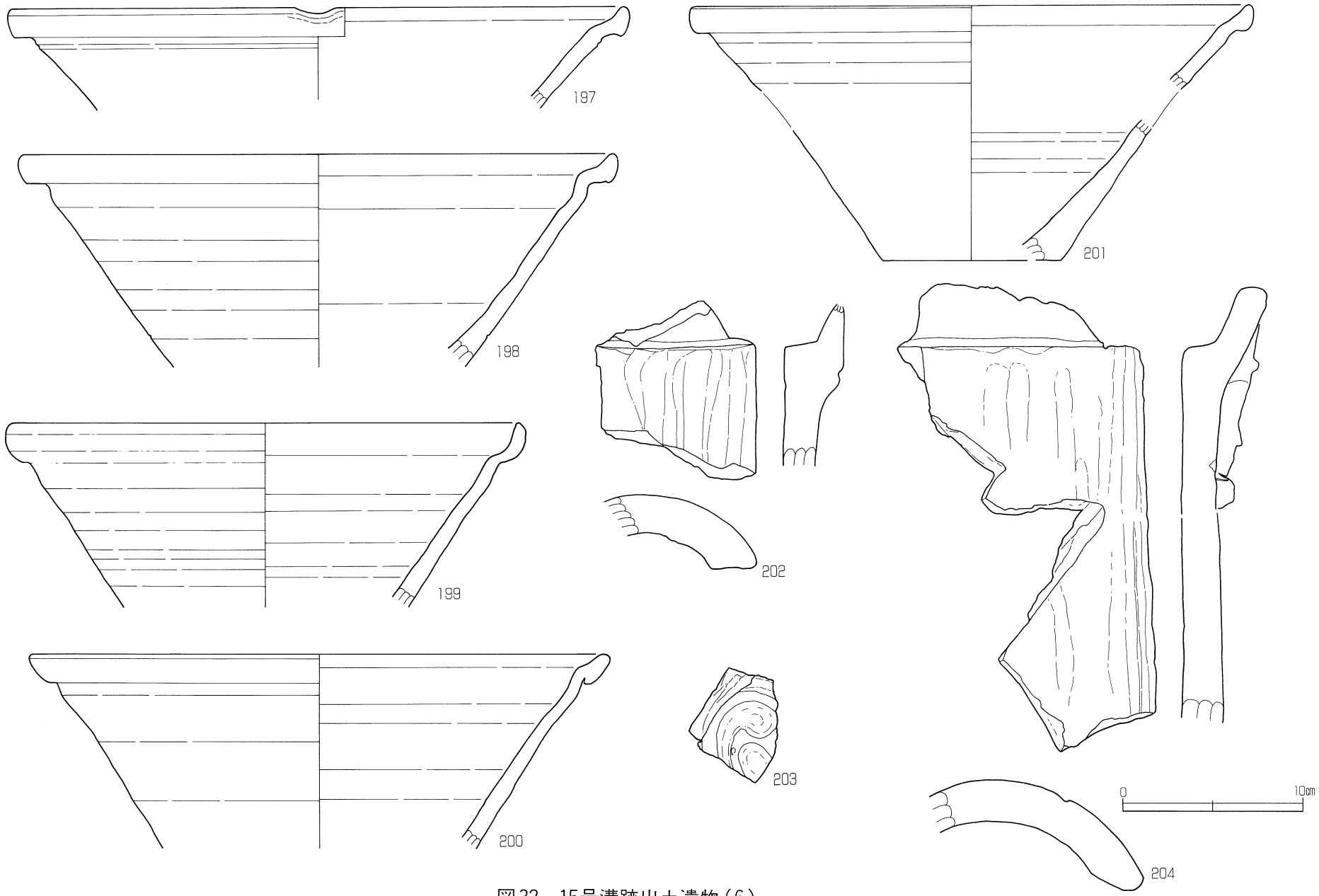


図32　15号溝跡出土遺物（6）

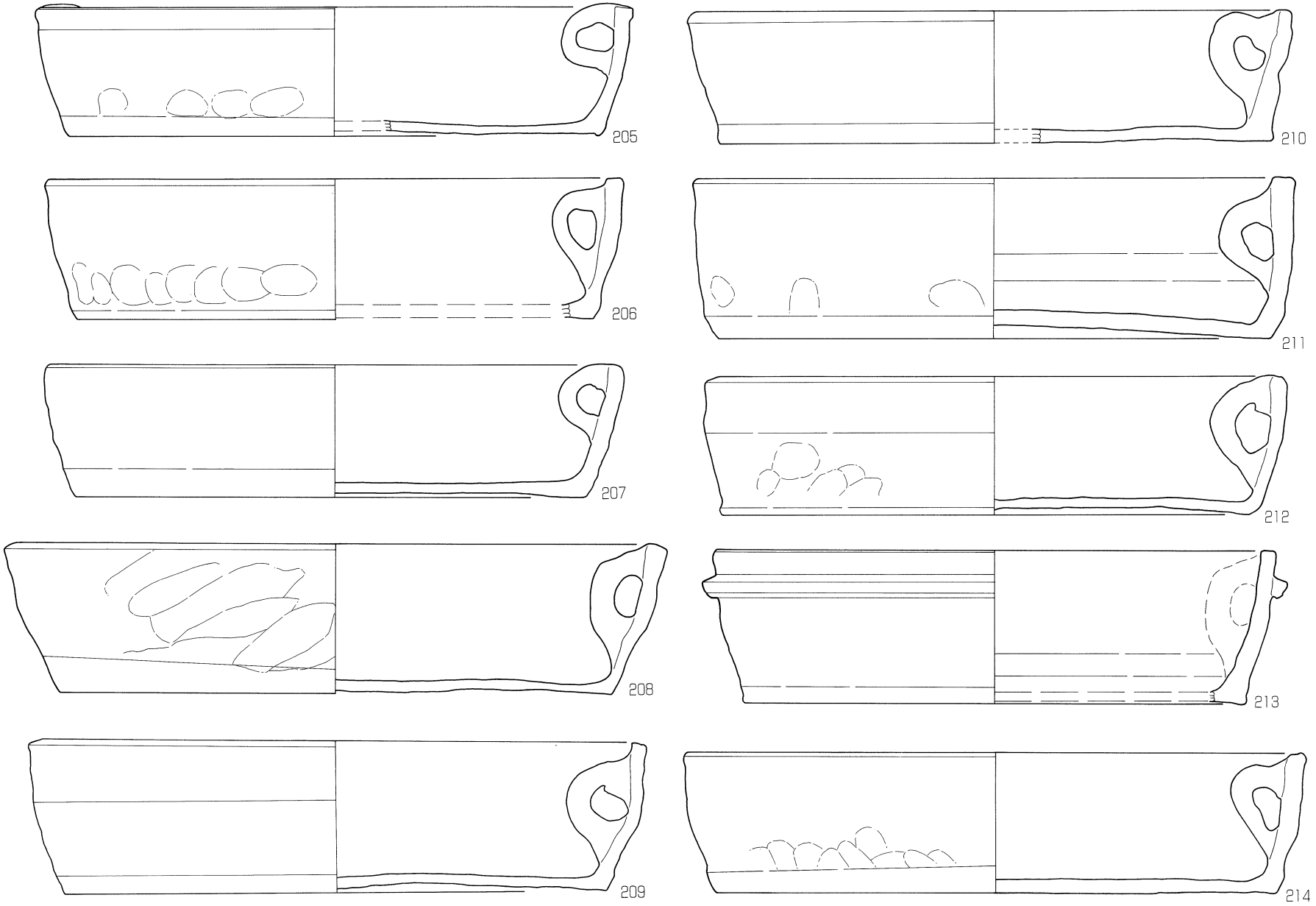


図33　15号溝跡出土遺物（7）

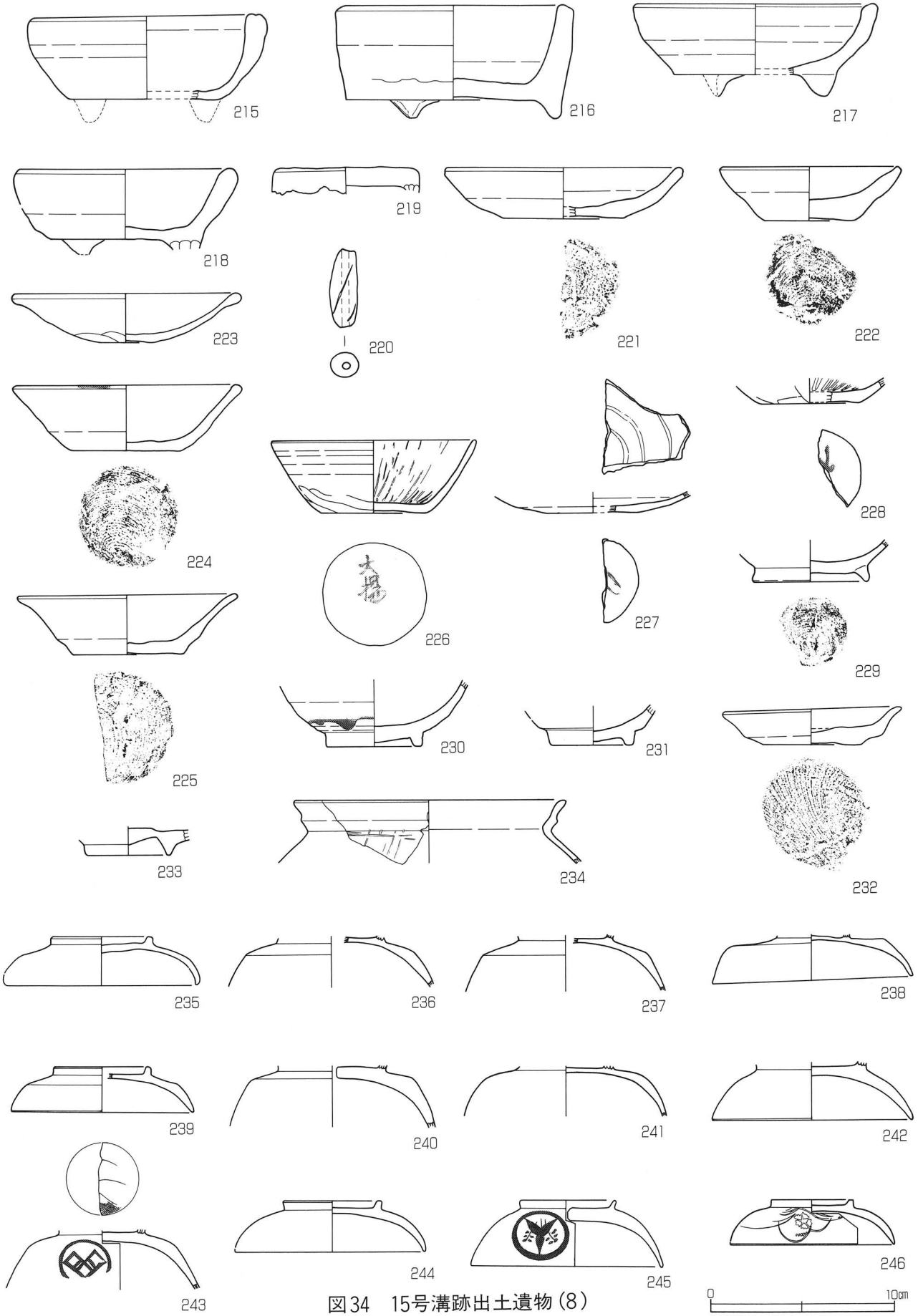


図34　15号溝跡出土遺物（8）

図35　15号溝跡出土遺物（9）

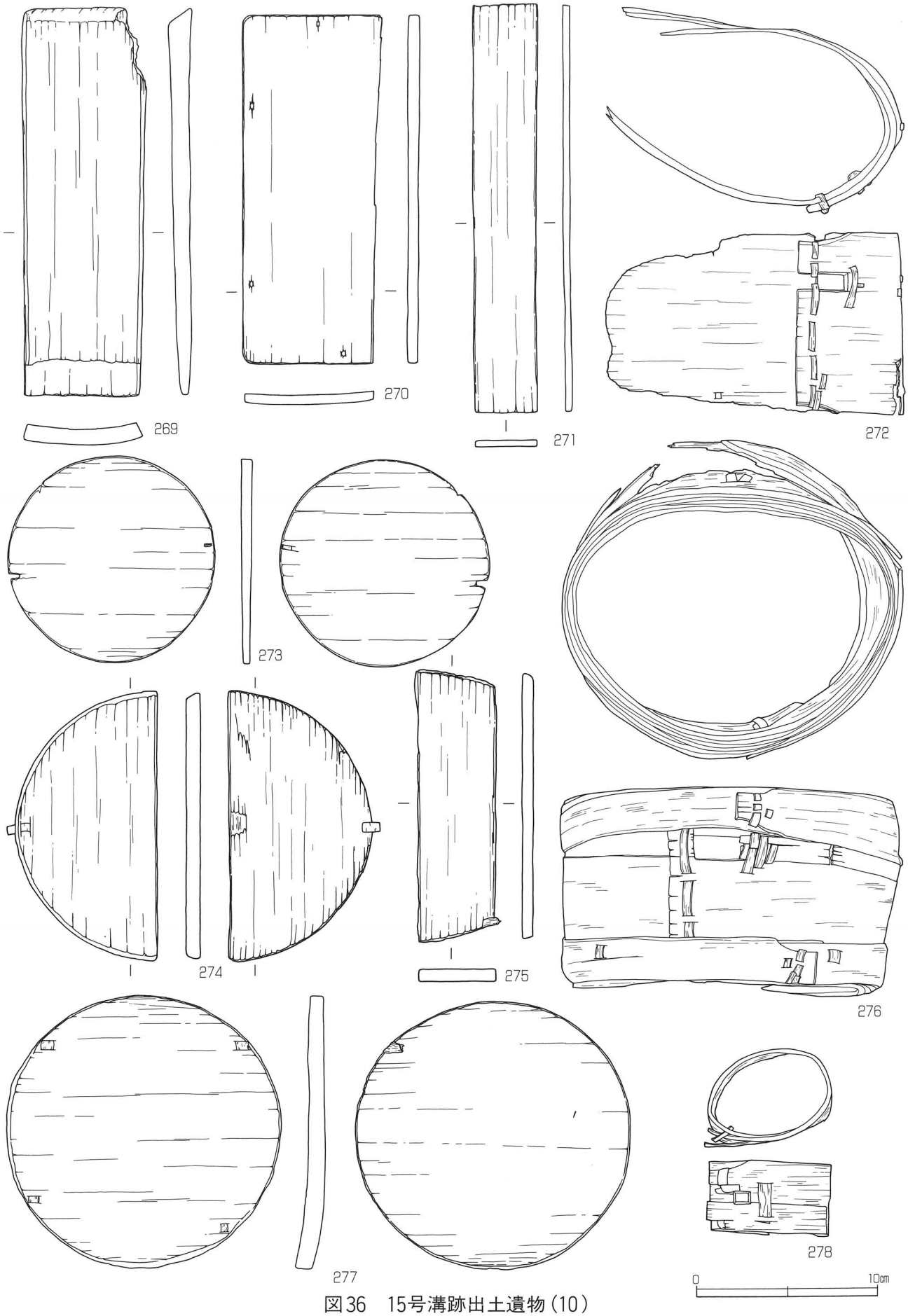


図36　15号溝跡出土遺物（10）

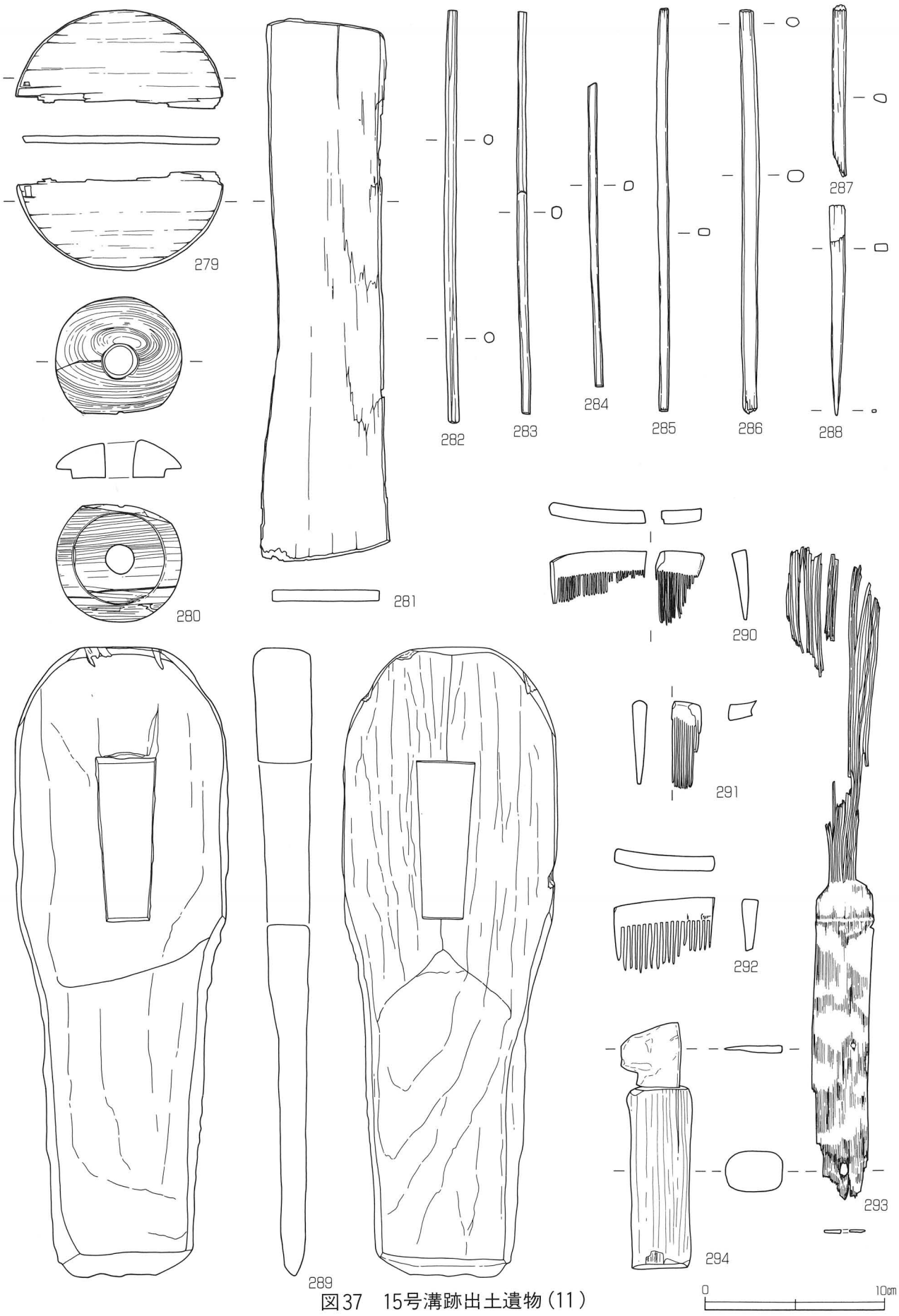


図37　15号溝跡出土遺物（11）

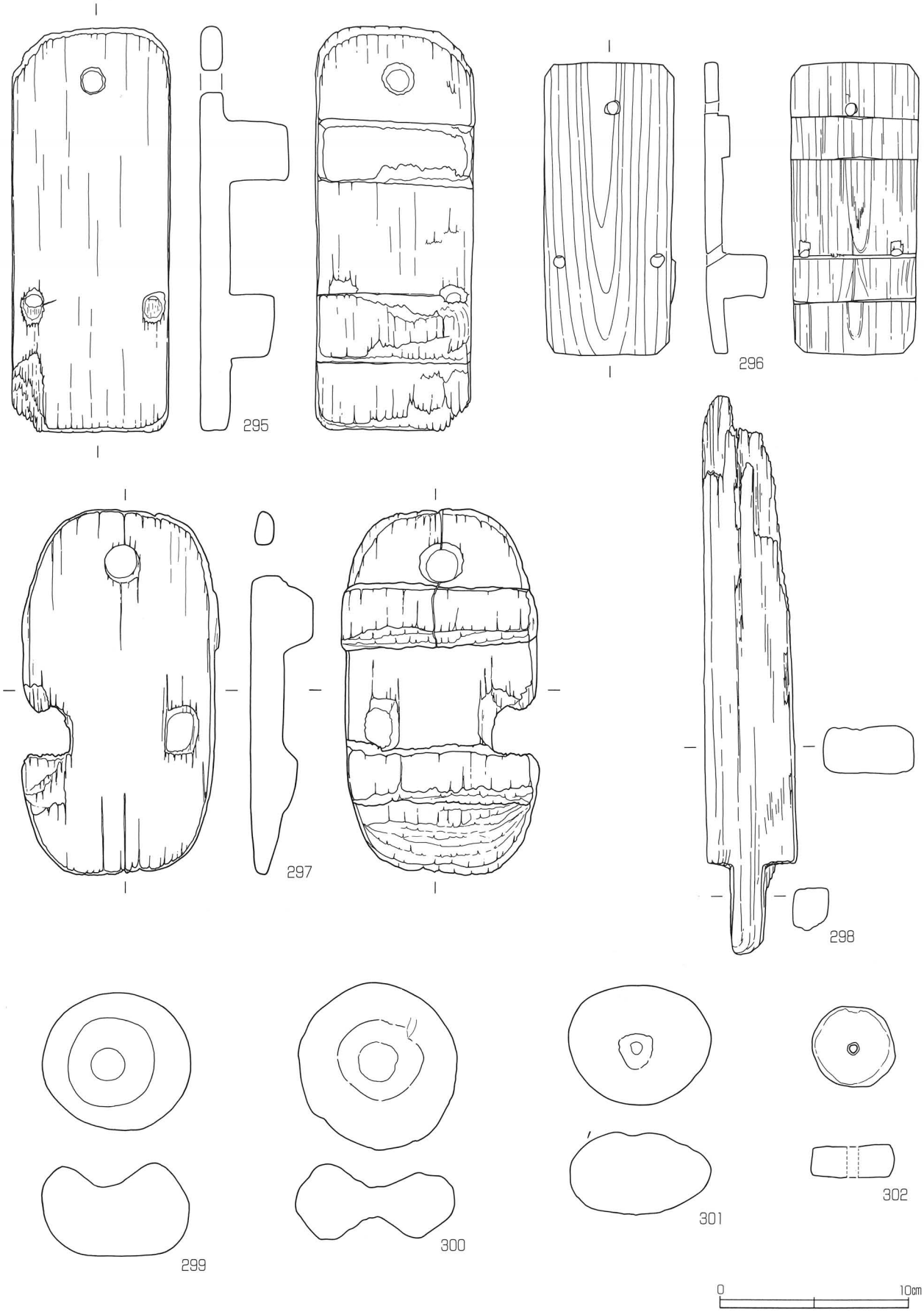


図38　15号溝跡出土遺物（12）

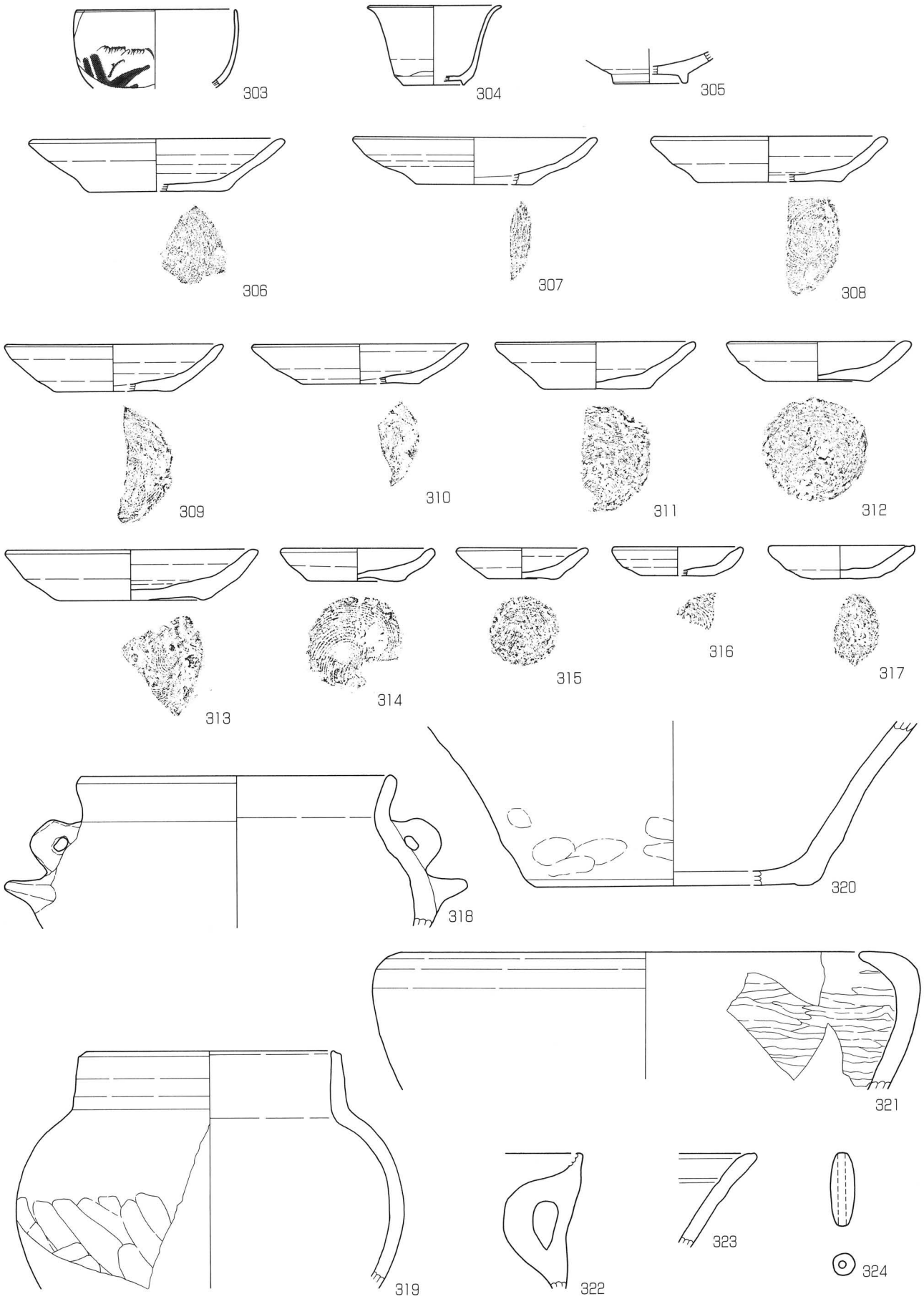


図39　17号・18号（1）溝跡出土遺物

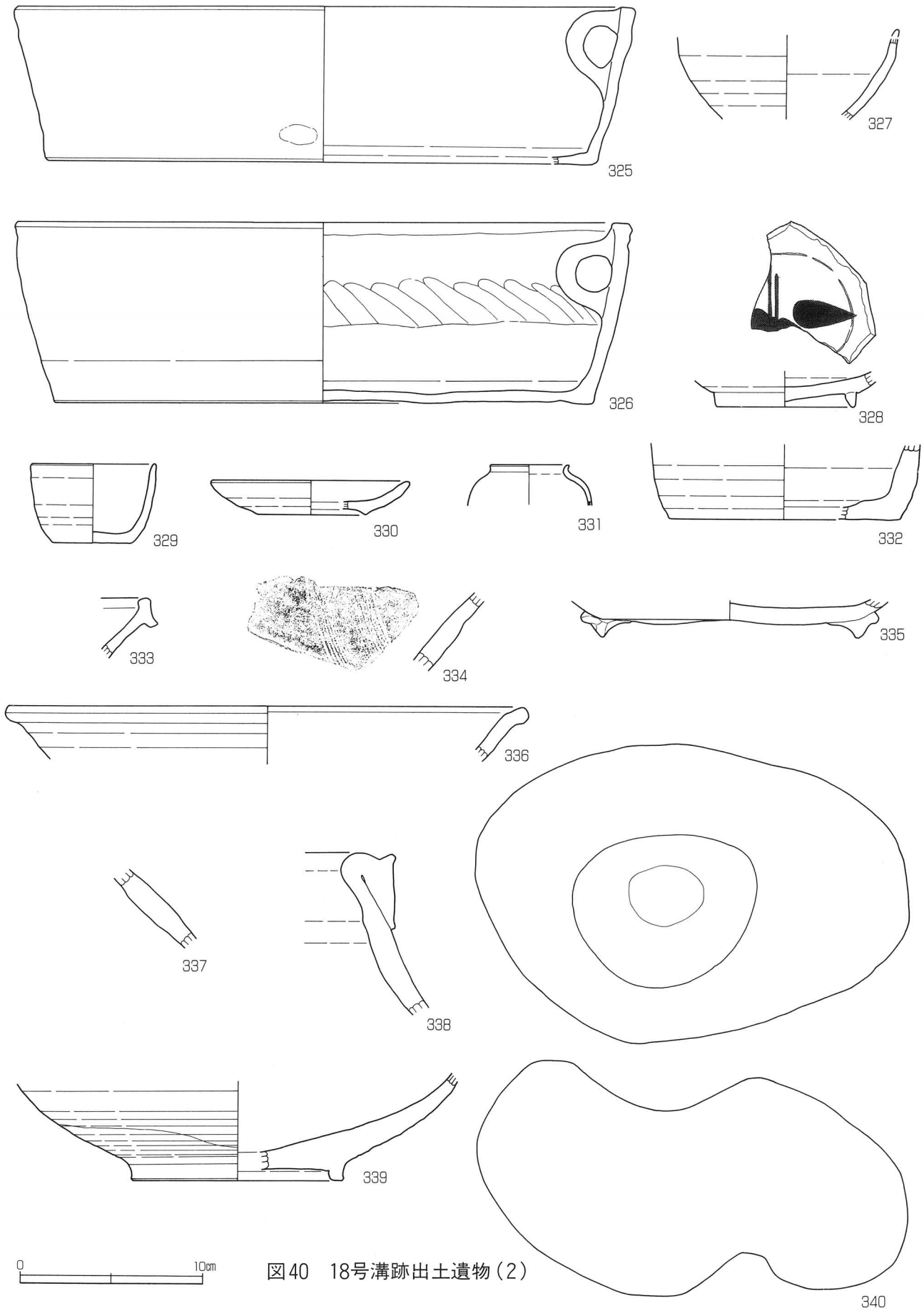


図40　18号溝跡出土遺物（2）

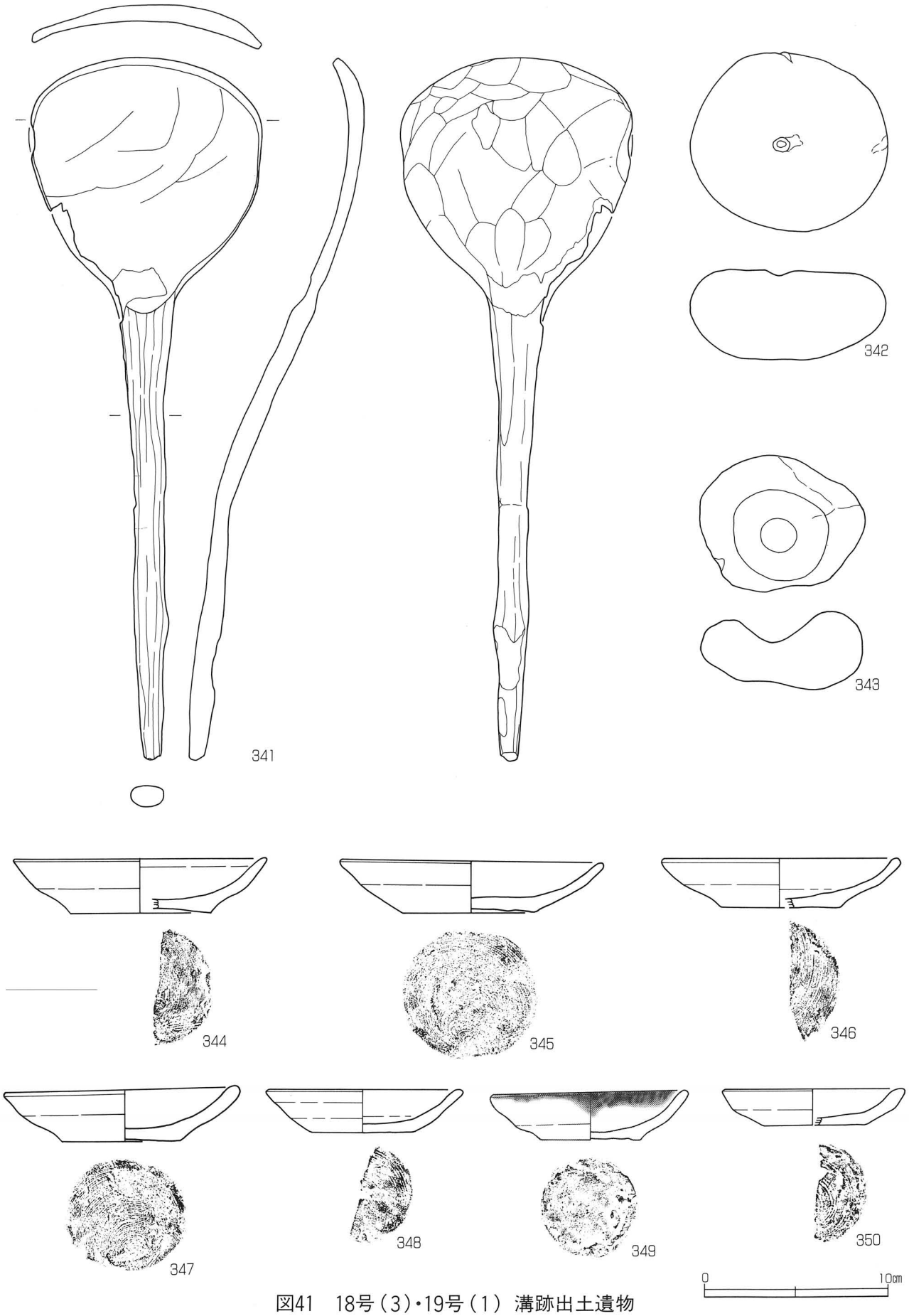


図41　18号（3）・19号（1）溝跡出土遺物

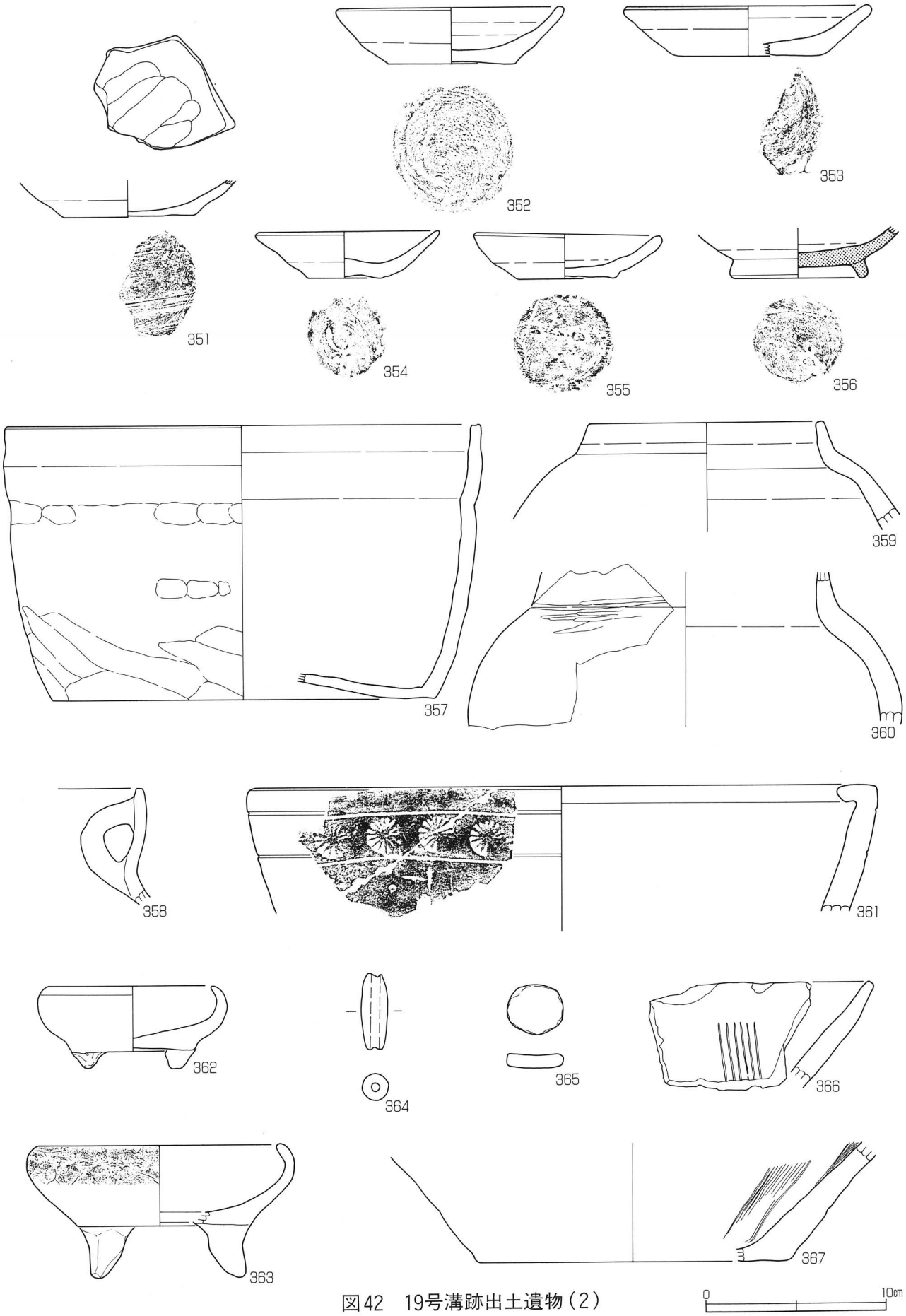


図42　19号溝跡出土遺物（2）

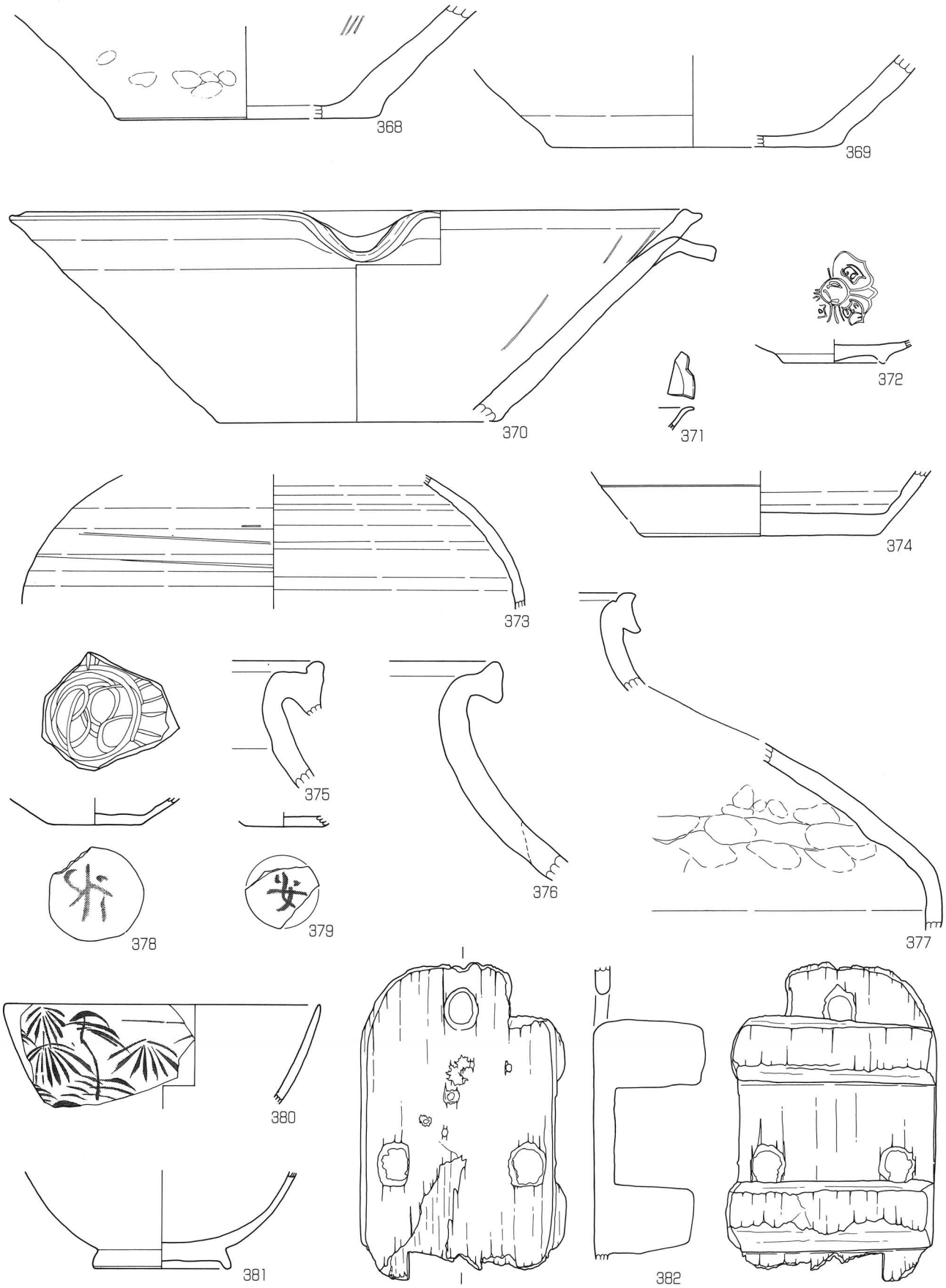


図43　19号溝跡出土遺物（3）

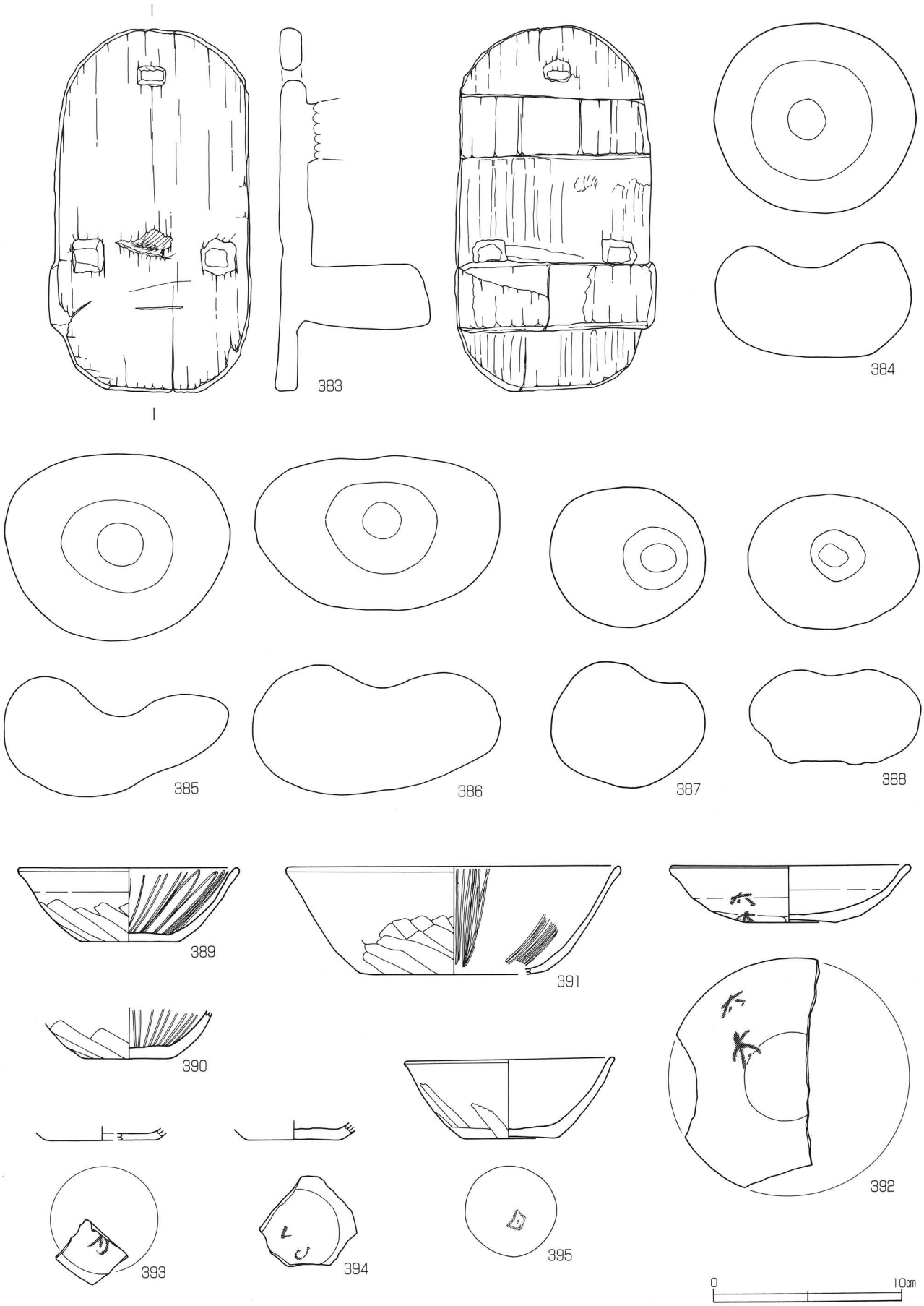


図44　19号（4）・22号（1）溝跡出土遺物

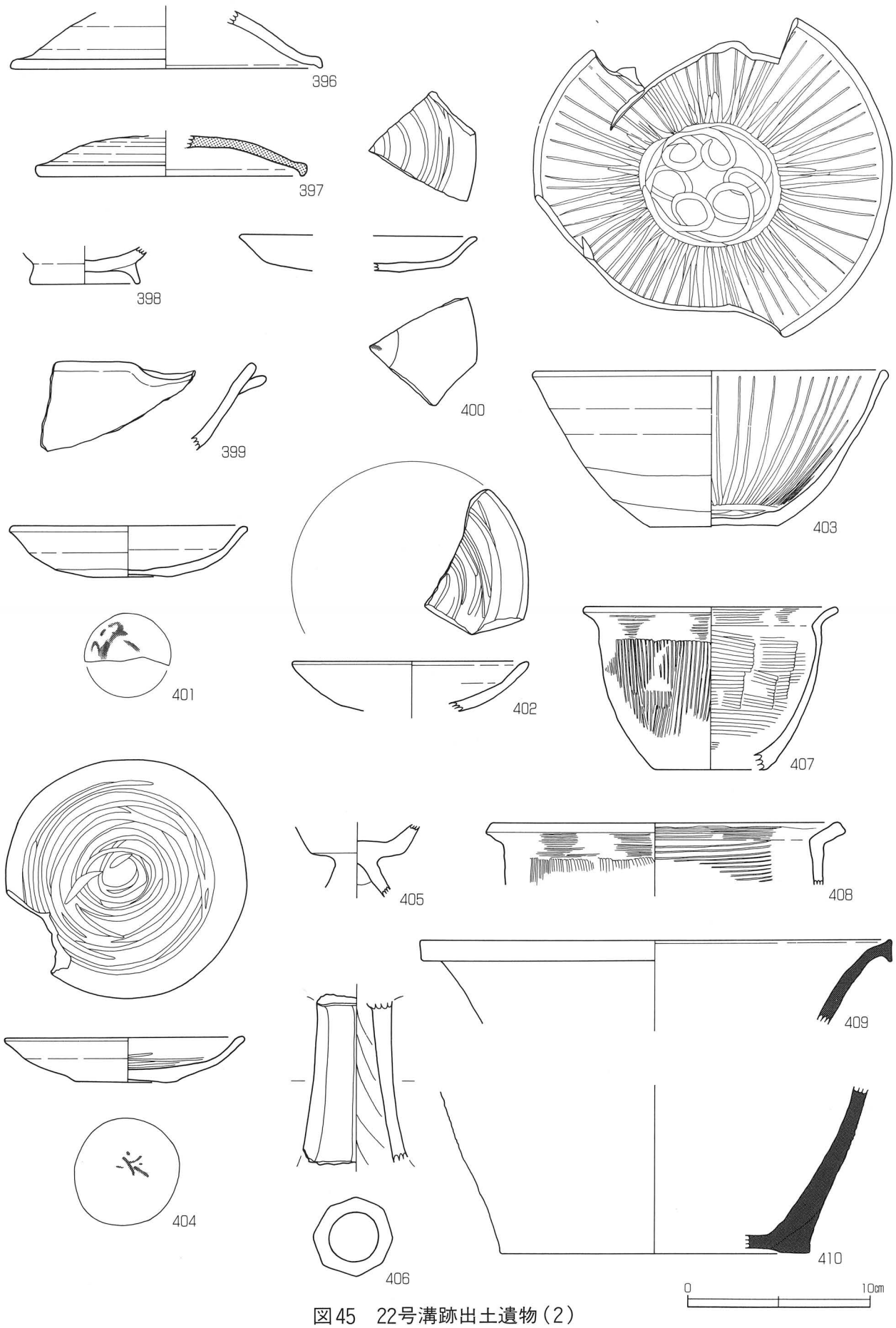


図45　22号溝跡出土遺物（2）

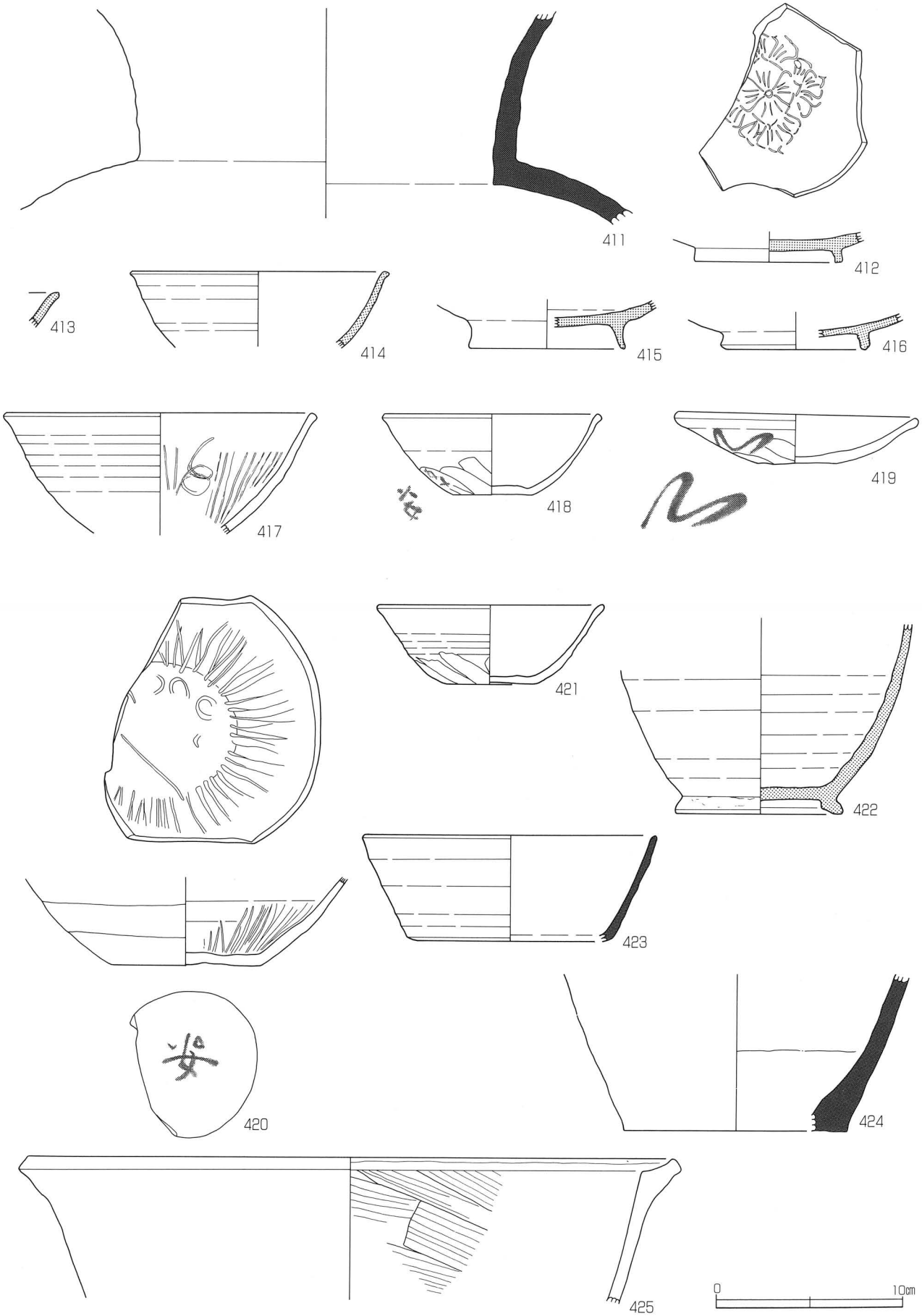


図46　22号溝跡出土遺物（3）

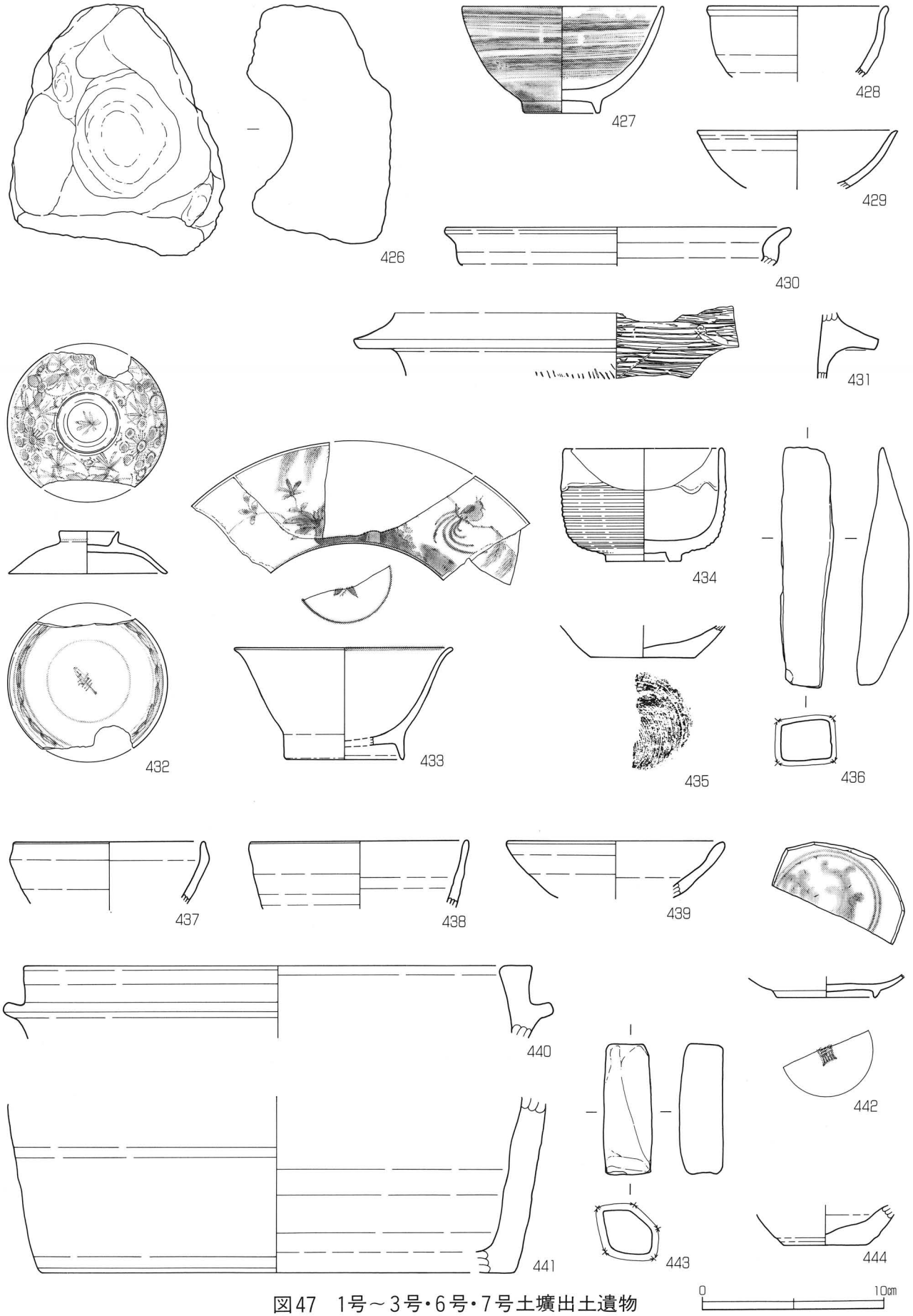


図47　1号～3号・6号・7号土壙出土遺物

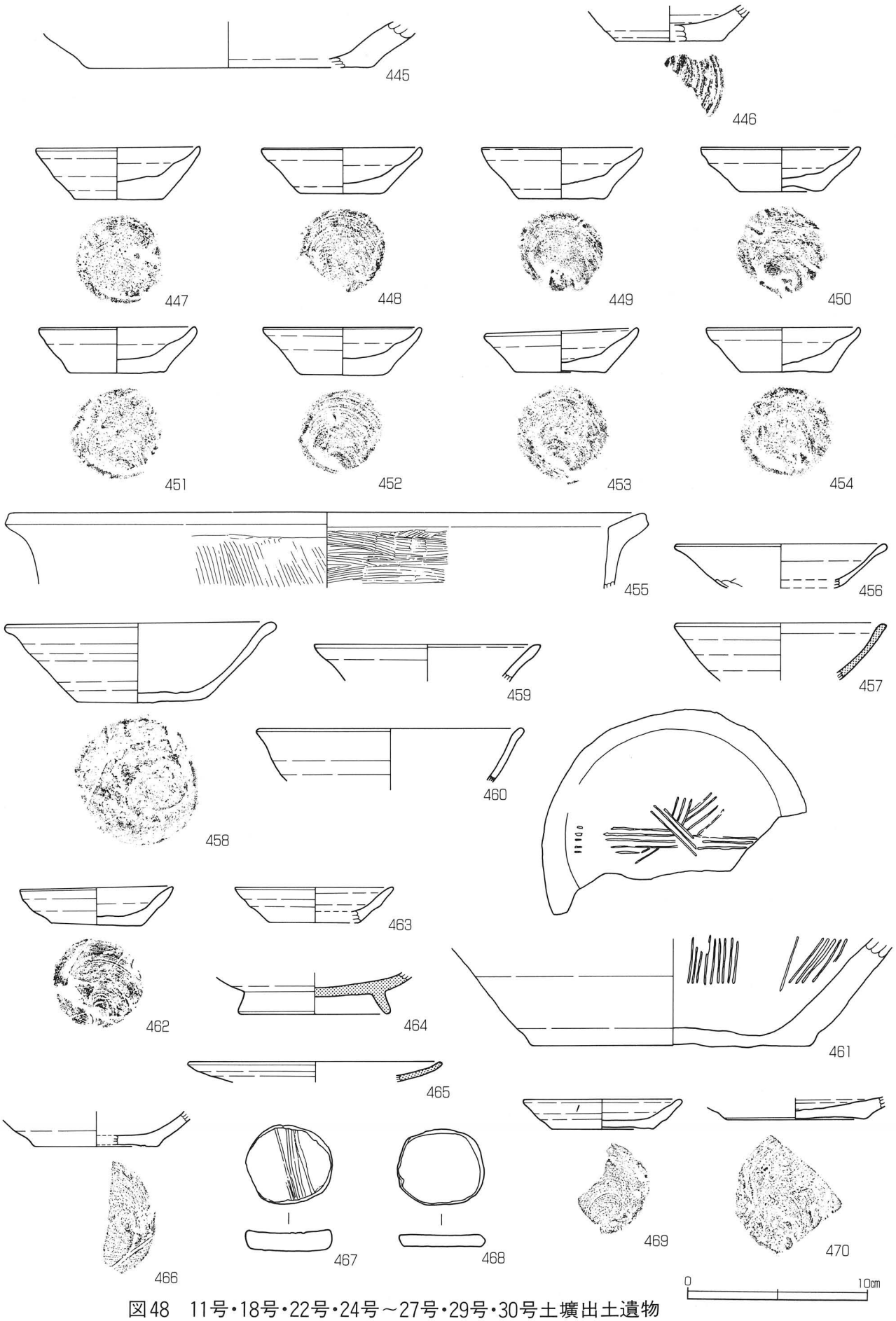


図48　11号・18号・22号・24号～27号・29号・30号土壙出土遺物

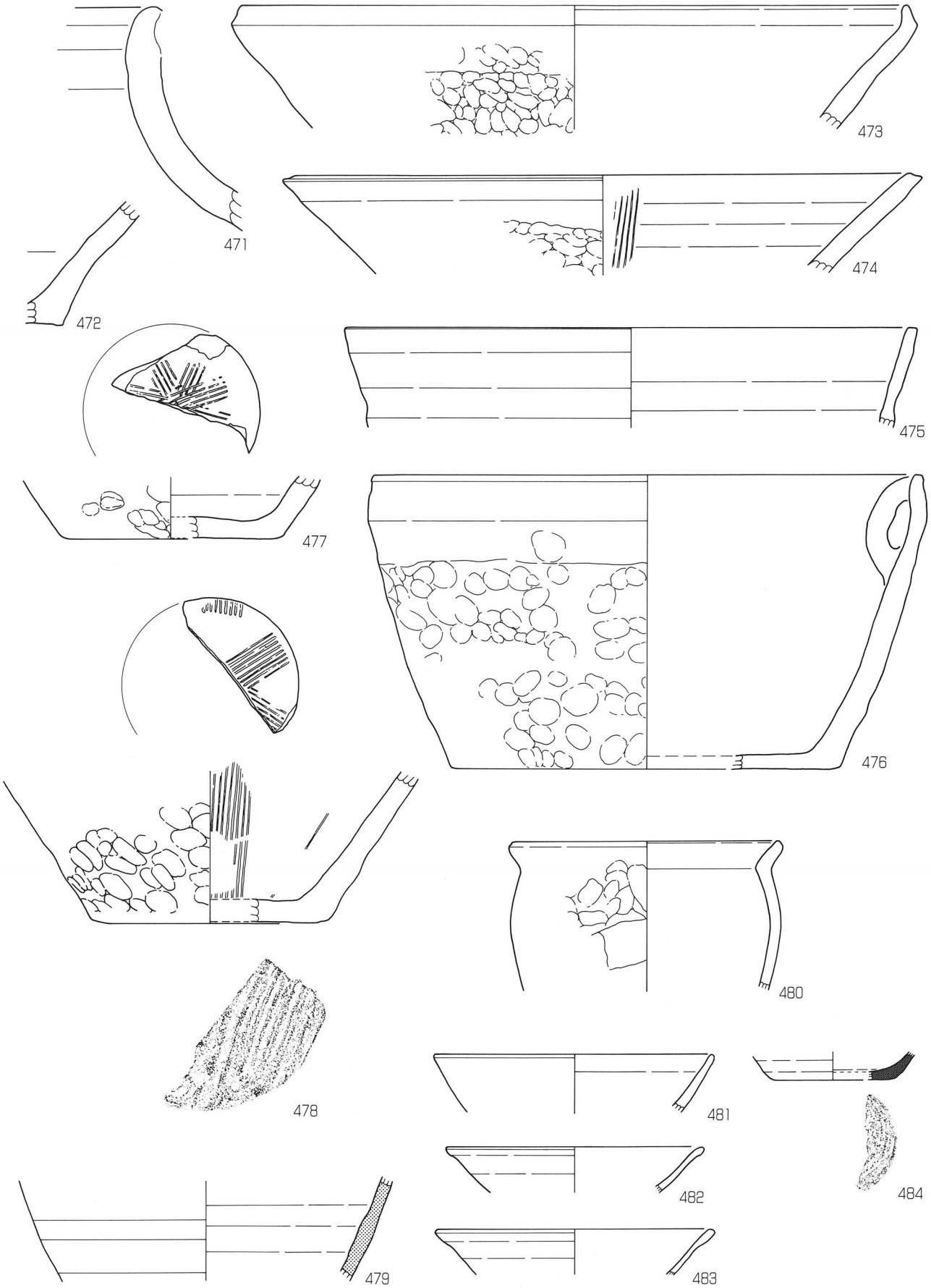


図49　30号・34号土壙出土遺物

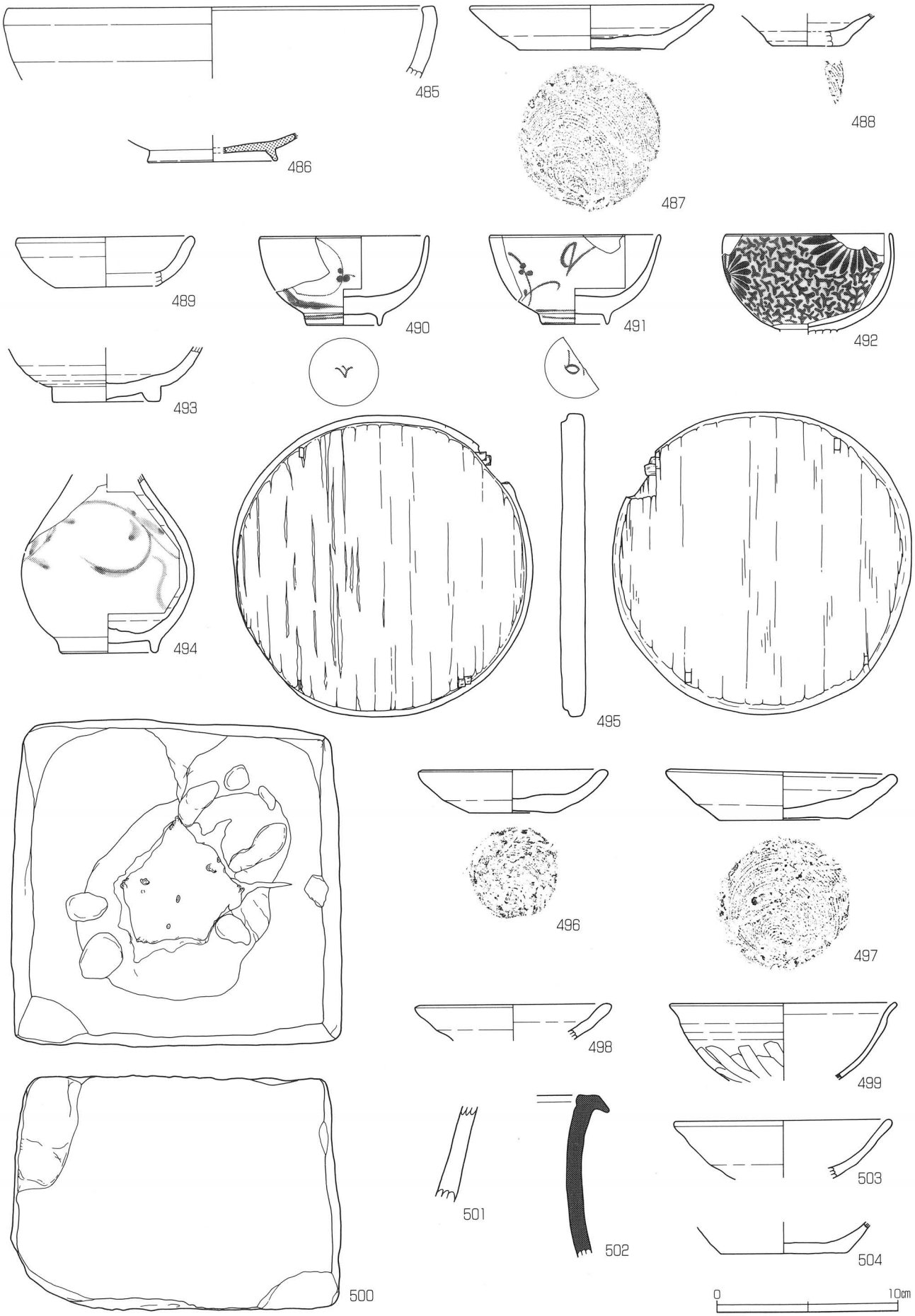


図50　35号・44号・53・54号・57号・61号（1）土壙出土遺物

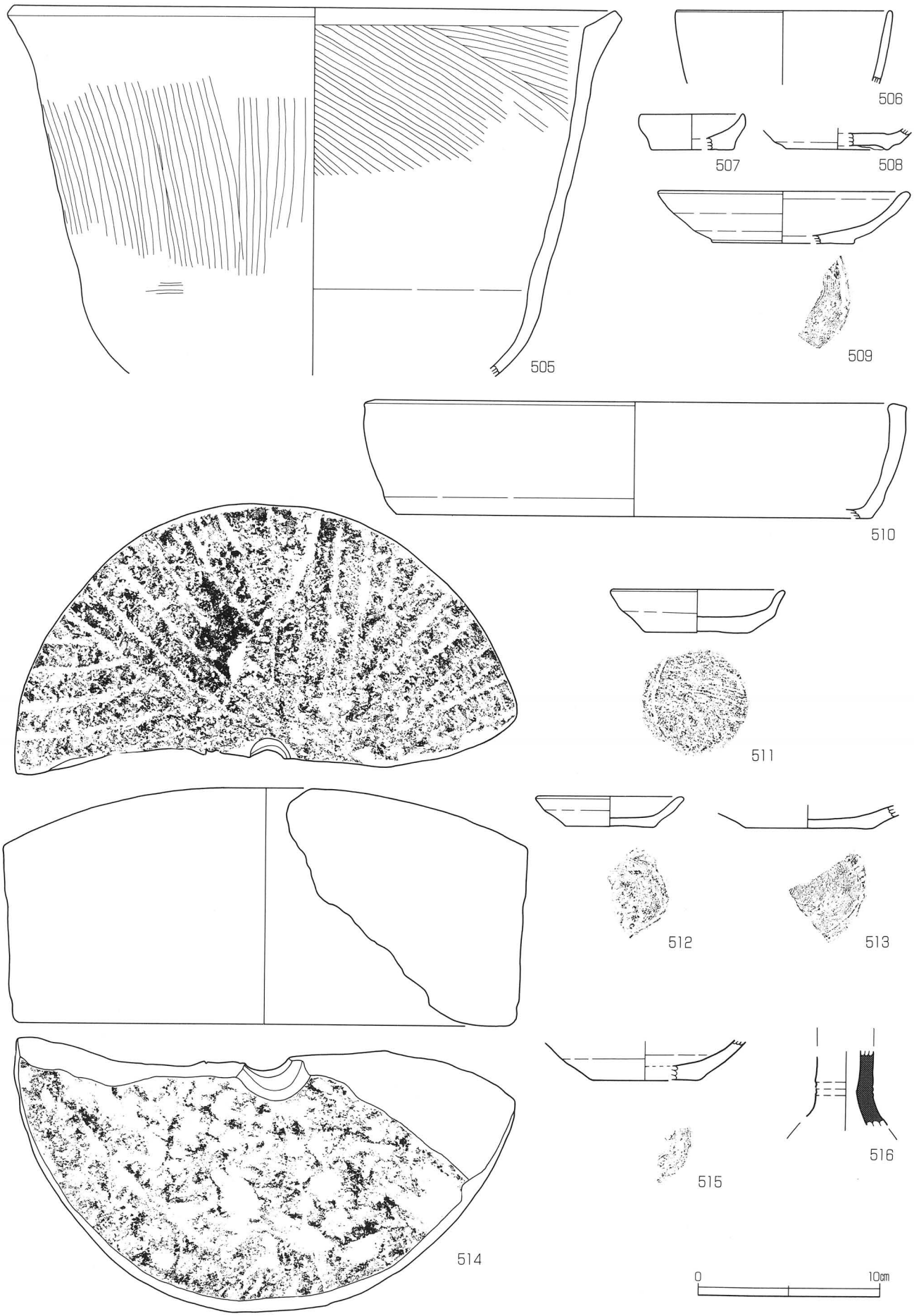


図51　61号（2）・62号・65号・73号・74号土壙、1号・2号集石遺構出土遺物

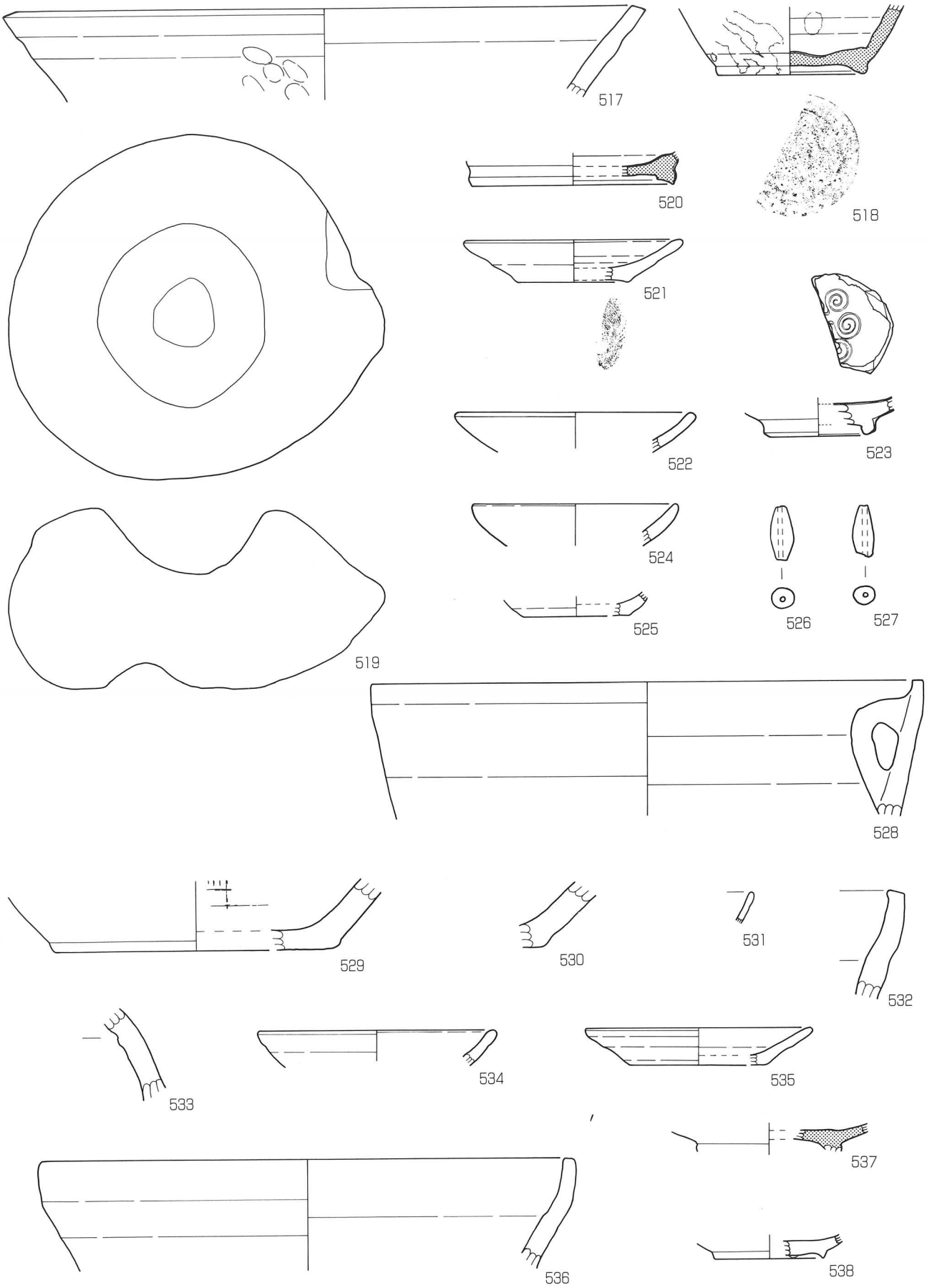


図52　2号・3号・5号～8号・10号・12号～15号集石遺構出土遺物

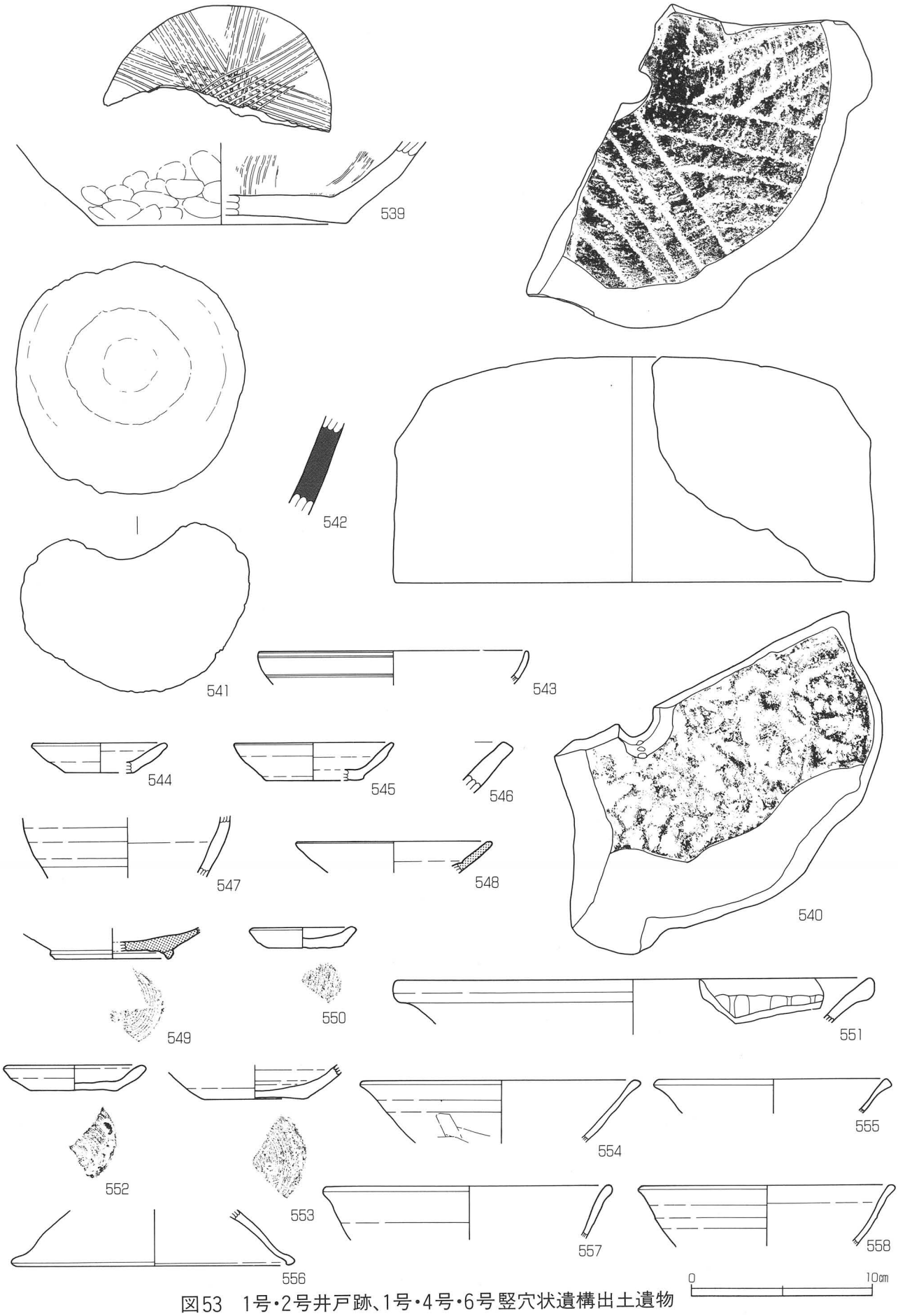


図53　1号・2号井戸跡、1号・4号・6号竪穴状遺構出土遺物

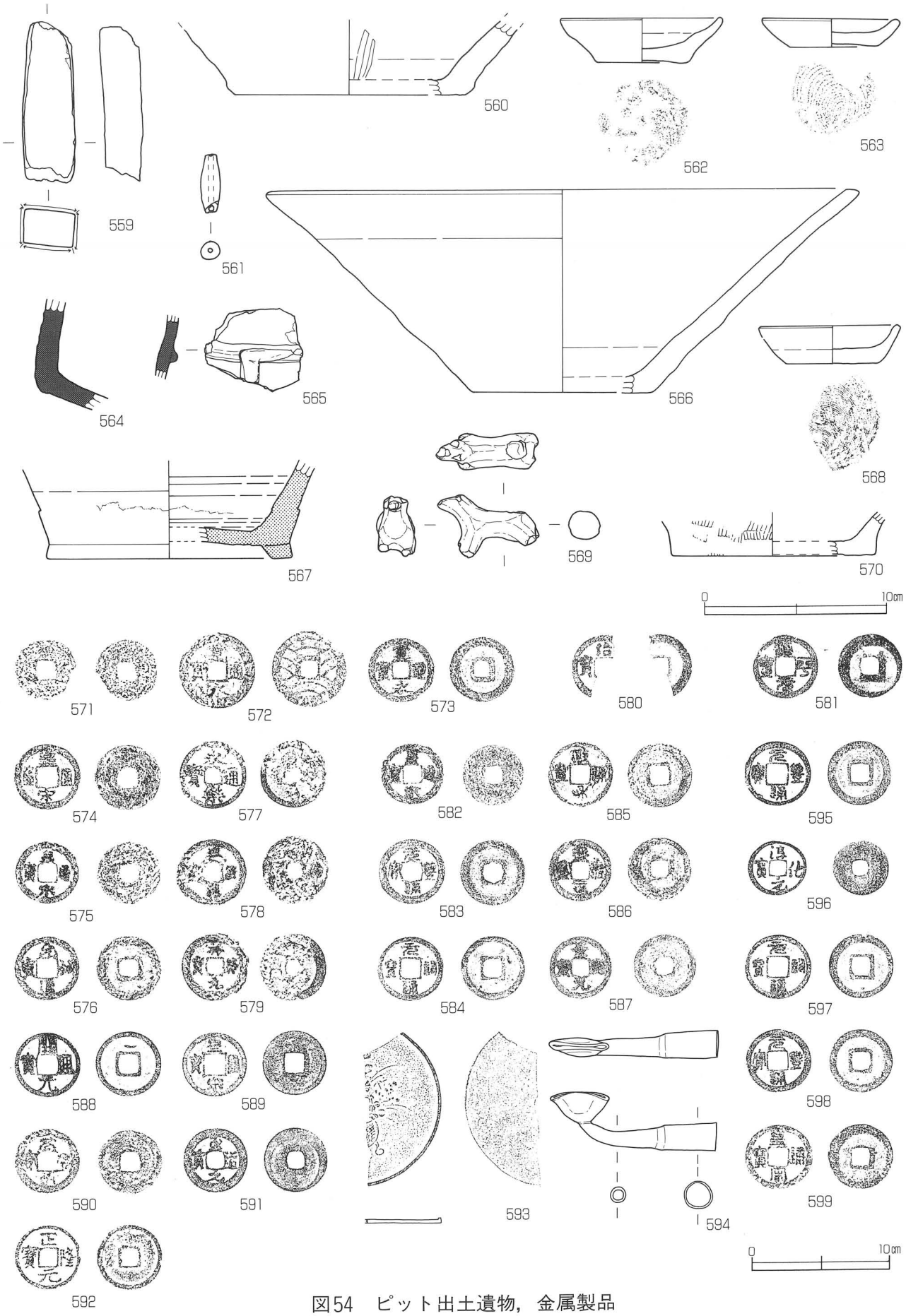


図54　ピット出土遺物，金属製品

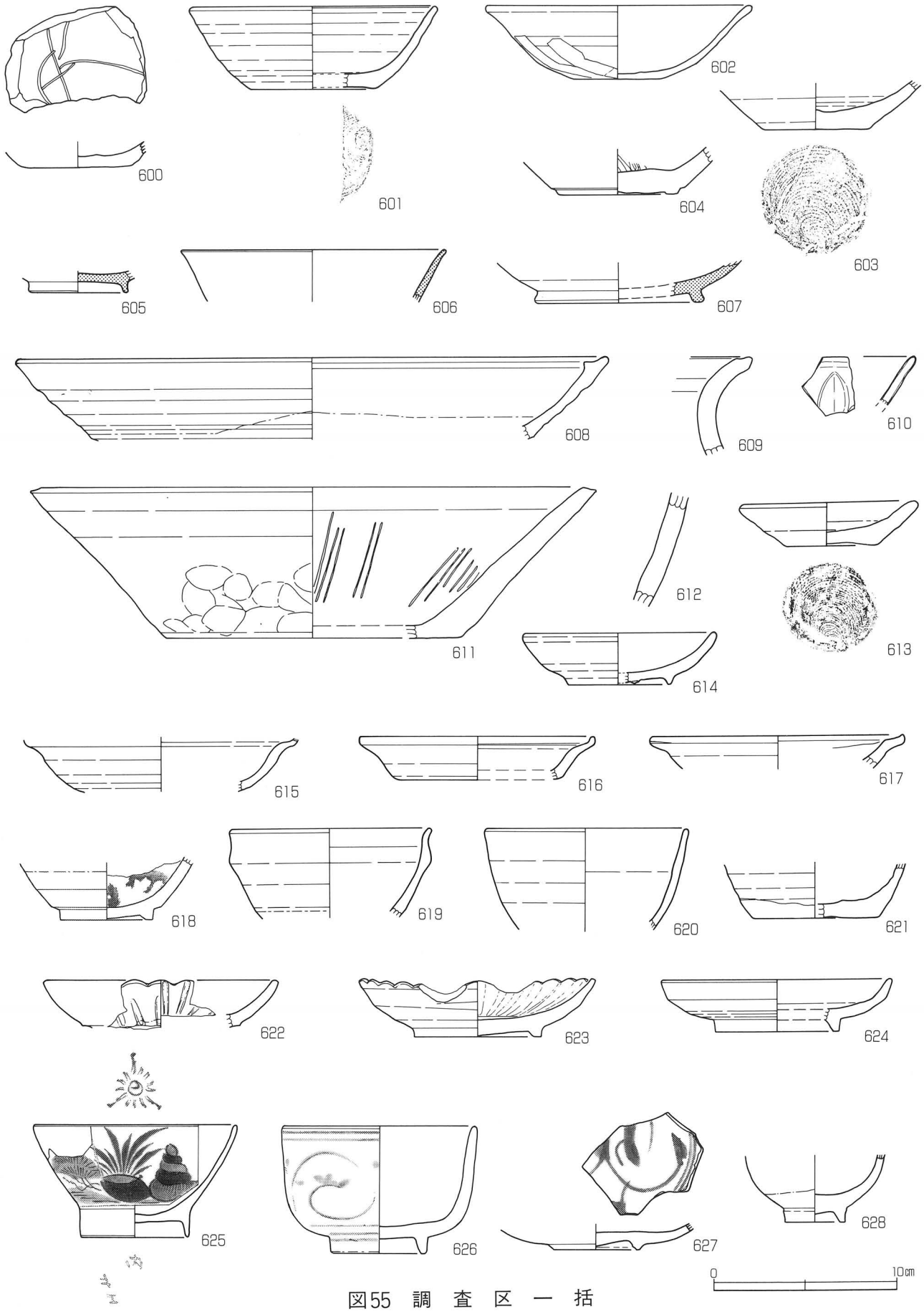

600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
0
10cm

図55 調 査 区 一 括

表１　ピット・土壙観察表

単位：cm　（　）は現存値

番号	平面形態	長径	短径	深さ	備　　考
Pit 1	—	47	39	12	
Pit 2	—	(53)	(43)	6	
Pit 3	—	50	42	7	
Pit 4	—	41	—	14	
Pit 5	—	43	40	23	
Pit 6	—	50	42	21	
Pit 7	—	53	50	12	
Pit 8	—	45	—	31	
Pit 9	—	57	24	24	
Pit10	円形	(18)	—	26	Pit11と重複
Pit11	円形	(11)	—	7	Pit10と重複　Pit34を切る
Pit12	略円形	26	21	14	４号溝跡を切る
Pit13	楕円刑	33	30	12	
Pit14	略円形	30	25	21	
Pit15	略円形	23	19	6	４号溝跡を切る
Pit16	円形	28	—	63	
Pit17	略円形	31	28	3	１号溝跡を切る
Pit18	略円形	28	25	20	
Pit19	略円形	50	38	85	
Pit20	略円形	23	21	27	
Pit21	略円形	18	—	35	
Pit22	円形	33	32	9	
Pit23	略円形	20	15	26	
Pit24	円形	10	—	30	
Pit25	略円形	19	17	8	
Pit26	略円形	20	17	22	
Pit27	楕円形	18	15	13	
Pit28	円形	34	31	47	
Pit29	略円形	34	28	36	
Pit30	円形	10	—	21	
Pit31	不整円形	26	22	22	
Pit32	楕円形	42	34	34	
Pit33	楕円形	53	38	16	
Pit34	略円形	28	24	48	Pit11に切られる
Pit35	略円形	37	36	8	
Pit36	楕円形	32	25	42	
Pit37	円形	20	19	11	
Pit38	略円形	36	33	16	
Pit39	略円形	36	32	—	
Pit40	略円形	29	26	52	
Pit41	不整楕円形	48	44	10	
Pit42	略円形	28	24	14	
Pit43	略円形	29	27	14	
Pit44	楕円形	34	28	29	
Pit45	不整円形	70	63	10	
Pit46	略円形	25	22	23	５号土壙を切る
Pit47	円形	25	24	33	１号溝跡に切られる
Pit48	不整楕円形	40	24	34	
Pit49	略円形	17	16	16	
Pit50	円形	10	—	57	
Pit51	円形	(35)	34	56	３号溝跡に切られる
Pit52	略円形	(21)	(18)	28	２号溝跡に切られる
Pit53	円形	24	22	21	
Pit54	略円形	23	21	4	
Pit55	円形	15	14	23	２号溝跡に切られる
Pit56	円形	11	—	14	
Pit57	不整円形	22	18	8	１号溝跡を切る
Pit58	略円形	32	31	46	１号溝跡を切る
Pit59	(円形)	(22)	(31)	21	３号溝跡に切られる
Pit60	略円形	36	33	37	
Pit61	円形	10	—	21	
Pit62	円形	21	20	33	７号土壙に切られる
Pit63	円形	17	13	16	Pit83を切る
Pit64	円形	9	8	18	
Pit65	円形	8	—	19	７号土壙・２号溝跡に切られる
Pit66	不整円形	17	14	25	
Pit67	不整円形	18	17	35	２号溝跡に切られる
Pit68	略円形	31	27	58	１号溝跡に切られる
Pit69	円形	10	—	15	
Pit70	円形	14	13	24	
Pit71	円形	8	—	22	
Pit72	楕円形	33	28	53	
Pit73	略円形	29	24	30	
Pit74	円形	23	—	23	
Pit75	円形	15	—	24	
Pit76	円形	20	19	31	２号溝跡に切られる
Pit77	円形	13	—	32	２号溝跡に切られる
Pit78	円形	13	—	28	２号溝跡に切られる
Pit79	円形	6	—	26	
Pit80	楕円形	23	16	37	
Pit81	円形	27	25	26	
Pit82	円形	23	22	38	
Pit83	略円形	17	(14)	13	Pit63に切られる

番号	平面形態	長径	短径	深さ	備　　考
Pit84	円形	36	33	49	
Pit85	円形	20	—	23	
Pit86	円形	8	—	19	６号土壙、１号溝跡に切られる
Pit87	楕円形	41	29	27	
Pit88	円形	14	—	29	
Pit89	楕円形	62		28	
Pit90	不整円形	24	20	27	
Pit91	略円形	23	—	12	
Pit92	不整楕円形	36	24	13	
Pit93	円形	19	15	17	
Pit94	円形	19	18	23	
Pit95	楕円形	42	33	16	２号土壙に切られる
Pit96	楕円形	60	43	56	
Pit97	略円形	19	16	21	Pit110を切る
Pit98	円形	9	8	14	
Pit99	略円形	32	27	59	
Pit100	略円形	29	28	24	
Pit101	略円形	29	26	21	７号溝跡を切る
Pit102	略円形	27	24	24	
Pit103	不整円形	41	35	58	１号溝跡を切る
Pit104	略円形	27	24	16	
Pit105	略円形	23	22	26	
Pit106	略円形	24	20	32	１号溝跡を切る
Pit107	略円形	27	24	38	１号溝跡を切る
Pit108	略円形	29	28	27	
Pit109	円形	25	24	41	
Pit110	楕円形	50	36	41	Pit97を切る
Pit111	略円形	27	25	29	１号溝跡を切る
Pit112	略円形	24	23	37	
Pit113	略円形	24	21	27	
Pit114	不整楕円形	57	34	49	１号溝跡に切られ、７号溝跡を切る
Pit115	略円形	24	21	18	３号溝跡を切る
Pit116	略円形	24	22	27	18号土壙を切る
Pit117	不整円形	26	23	42	１号溝跡に切られる
Pit118	略円形	23	22	41	16号土壙を切る
Pit119	円形	11	—	14	１号竪穴状遺構に切られる
Pit120	楕円形	41	36	23	
Pit121	略円形	23	20	31	
Pit122	略円形	54	51	34	
Pit123	円形	26	—	38	
Pit124	不整円形	19	16	7	
Pit125	(円形)	(24)	—	8	
Pit126	円形	16	—	16	Pit92を切る
Pit127	(円形)	(28)	(26)	16	28号土壙に切られる
Pit128	円形	22	—	34	
Pit129	略円形	28	27	27	
Pit130	不整円形	28	24	19	１号溝跡に切られる
Pit131	略円形	25	23	13	１号溝跡に切られる
Pit132	略円形	28	26	23	１号溝跡に切られる
Pit133	楕円形	34	25	37	10号溝跡に切られる
Pit134	円形	44	43	24	
Pit135	略円形	30	29	9	１号溝跡に切られる
Pit136	円形	25	24	44	11号土壙、８号溝跡を切る。
Pit137	円形	28	25	41	８号溝跡を切る
Pit138	楕円形	34	27	35	
Pit139	円形	19	16	11	２号溝跡に切られる
Pit140	略円形	21	17	11	
Pit141	楕円形	27	21	23	８号溝跡を切る
Pit142	円形	11	10	21	
Pit143	円形	26	26	4	
Pit144	円形	28	25	26	
Pit145	略円形	32	30	14	
Pit146	略円形	49	44	37	12号溝跡に切られる
Pit147	円形	28	26	21	
Pit148	円形	27	—	49	
Pit149	略円形	49	47	18	Pit151を切る
Pit150	略円形	32	30	37	２号溝跡に切られる
Pit151	円形	7	—	36	Pit147に切られる
Pit152	円形	24	—	39	10号溝跡に切られる
Pit153	不整円形	24	19	12	11号土壙を切る
Pit154	略円形	12	9	18	11号溝跡に切られる
Pit155	楕円形	51	41	34	
Pit156	略円形	30	24	40	
Pit157	略円形	66	62	69	
Pit158	略円形	28	25	13	
Pit159	略円形	26	24	42	
Pit160	楕円形	47	28	17	
Pit161	略円形	68	66	31	
Pit162	略円形	38	35	42	
Pit163	不整楕円形	44	28	7	
Pit164	円形	22	21	21	
Pit165	略円形	27	25	42	２号井戸跡を切る
Pit166	楕円形	31	26	32	

単位：cm　(　)は現存値

番号	平面形態	長径	短径	深さ	備　　考
Pit167	楕円形	47	29	43	4号集石を切る
Pit168	不整円形	55	42	16	2号溝跡に切られる
Pit169	不整円形	37	24	7	
Pit170	円形	36	35	28	
Pit171	不整円形	28	26	9	
Pit172	(不整円形)	(51)	(27)	12	
Pit173	略円形	35	30	53	
Pit174	円形	27	—	10	
Pit175	略円形	28	24	21	
Pit176	不整円形	43	38	23	
Pit177	略円形	25	23	31	
Pit178	楕円形	28	26	31	
Pit179	略円形	34	30	16	
Pit180	楕円形	36	34	15	
Pit181	不整円形	56	51	18	
Pit182	(円形)	(29)	—	40	
Pit183	(円形)	(41)	—	27	
Pit184	円形	18	—	31	3号溝跡に切られる
Pit185	(円形)	25	—	48	28号土壙を切る
Pit186	略円形	38	35	24	28号土壙を切る
Pit187	(円形)	19	—	12	
Pit188	楕円形	34	27	18	
Pit189	略円形	24	23	18	
Pit190	略円形	26	25	40	
Pit191	略円形	26	24	16	
Pit192	円形	24	—	12	Pit126に切られる
Pit193	楕円形	29	24	18	
Pit194	楕円形	32	26	23	
Pit195	楕円形	30	28	14	
Pit196	不整円形	39	35	25	
Pit197	略円形	23	18	18	
Pit198	略円形	21	18	26	
Pit199	不整楕円形	32	24	24	
Pit200	楕円形	27	18	14	
Pit201	不整楕円形	47	36	12	
Pit202	略円形	29	28	29	
Pit203	楕円形	72	65	23	Pit219に切られる 1号住居を切る
Pit204	円形	23	—	6	
Pit205	楕円形	36	25	25	8号溝跡を切る
Pit206	略円形	27	24	14	8号溝跡を切る
Pit207	楕円形	19	17	7	
Pit208	略円形	39	37	37	
Pit209	略円形	34	32	71	
Pit210	円形	48	44	47	
Pit211	略円形	20	17	18	
Pit212	略円形	27	22	28	
Pit213	円形	11	—	29	2号溝跡に切られる
Pit214	略円形	39	37	17	
Pit215	円形	29	—	31	28号土壙を切る
Pit216	楕円形	60	44	17	
Pit217	略円形	28	24	37	Pit210に切られる 1号竪穴状遺構を切る
Pit218	略円形	27	25	13	
Pit219	円形	28	—	61	1号竪穴状遺構を切る Pit203を切る
Pit220	略円形	14	11	13	34号土壙を切る
Pit221	不整楕円形	41	36	26	29号土壙に切られる
Pit222	楕円形	15	11	13	12号集石遺構を切る
Pit223	円形	41	40	63	
Pit224	略円形	45	39	30	
Pit225	略円形	39	33	19	
Pit226	円形	34	—	14	
Pit227	円形	32	28	21	
Pit228	略円形	39	38	30	
Pit229	略円形	38	33	14	40号土壙に切られる
Pit230	円形	28	—	7	
Pit231	略円形	39	34	7	
Pit232	略円形	42	36	13	
Pit233	略円形	40	38	18	
Pit234	楕円形	52	40	12	
Pit235	略円形	21	17	8	
Pit236	円形	23	—	8	
Pit237	略円形	38	37	16	
Pit238	略円形	36	31	17	
Pit239	楕円形	42	35	21	
Pit240	円形	60	—	18	
Pit241	略円形	38	31	18	
Pit242	略円形	56	51	26	
Pit243	楕円形	44	35	11	
Pit244	円形	32	—	22	
Pit245	略円形	38	28	15	
Pit246	楕円形	43	32	19	

番号	平面形態	長径	短径	深さ	備　　考
Pit247	略円形	40	37	22	
Pit248	楕円形	57	40	19	
Pit249	楕円形	46	32	14	
Pit250	略円形	38	31	22	
Pit251	略円形	43	36	19	
Pit252	円形	26	24	20	
Pit253	不整円形	50	44	18	
Pit254	円形	24	20	11	
Pit255	円形	20	18	10	
Pit256	円形	16	—	8	
Pit257	円形	27	26	8	
Pit258	略円形	37	31	6	
Pit259	略円形	39	32	21	
Pit260	円形	28	26	12	
Pit261	略円形	39	38	12	
Pit262	円形	29	—	25	
Pit263	略円形	34	30	23	
Pit264	略円形	46	39	6	
Pit265	略円形	70	63	38	
Pit266	円形	28	24	9	
Pit267	略円形	28	24	21	
Pit268	円形	37	34	16	
Pit269	円形	32	—	10	
Pit270	略円形	32	28	12	
Pit271	円形	46	40	8	16号溝跡に切られる
Pit272	略円形	37	34	24	16号溝跡に切られる
Pit273	不整円形	36	28	16	
Pit274	略円形	30	27	16	
Pit275	不整円形	38	30	16	
Pit276	円形	45	42	14	Pit280を切る
Pit277	円形	30	25	9	
Pit278	略円形	36	32	7	Pit278に切られる
Pit279	略円形	38	34	19	18号溝跡、19号溝跡を切る
Pit280	(円形)	36	42	10	52号土壙を切る
Pit281	略円形	47	43	10	
Pit282	不整楕円形	44	34	30	
Pit283	略円形	31	28	16	
Pit284	不整円形	36	28	10	
Pit285	円形	36	35	16	
Pit286	楕円形	24	18	6	
Pit287	円形	38	37	30	
Pit288	略円形	29	25	20	
Pit289	円形	37	35	16	
Pit290	略円形	36	34	23	
Pit291	略円形	34	28	16	
Pit292	円形	34	32	12	
Pit293	不整円形	31	30	6	
Pit294	円形	27	26	11	
Pit295	円形	28	26	8	Pit303を切る
Pit296	円形	31	—	14	
Pit297	略円形	32	30	15	41号土壙を切る
Pit298	不整形	67	50	34	45号土壙に切られる
Pit299	円形	31	30	29	
Pit300	略円形	24	22	10	
Pit301	略円形	36	32	13	Pit297に切られる
Pit302	円形	31	30	12	
Pit303	略円形	(31)	31	20	
Pit304	円形	30	—	24	
Pit305	不整円形	33	29	8	
Pit306	略円形	26	20	8	
Pit307	円形	37	36	18	
Pit308	(円形)	50	47	10	20号溝跡、56号土壙に切られる
Pit309	(円形)	68	(32)	22	
Pit310	(円形)	66	(48)	14	
Pit311	略円形	23	22	14	Pit356を切る
Pit312	不整形	42	30	19	
Pit313	略円形	34	30	43	
Pit314	略円形	33	30	23	
Pit315	略円形	34	30	51	
Pit316	円形	22	20	8	
Pit317	楕円形	32	(29)	14	
Pit318	略円形	2	19	13	Pit366を切る
Pit319	円形	21	19	22	
Pit320	略円形	34	32	17	Pit342を切る
Pit321	円形	20	18	11	Pit342を切る
Pit322	略円形	48	46	12	
Pit323	略円形	21	20	14	Pit364、Pit382を切る
Pit324	(略円形)	38	(17)	15	
Pit325	楕円形	32	24	26	
Pit327	略円形	35	(30)	11	
Pit328	略円形	30	(24)	8	
Pit329	円形	22	—	30	
Pit330	円形	19	—	9	21号溝跡を切る

単位：cm　（　）は現存値

番号	平面形態	長径	短径	深さ	備　　考
Pit331	略円形	46	42	14	
Pit332	楕円形	30	24	14	
Pit333	略円形	26	24	11	
Pit334	楕円形	32	23	20	
Pit335	楕円形	47	29	55	
Pit336	円形	19	18	9	Pit362を切る
Pit337	楕円形	57	47	20	76号土壙を切る
Pit338	略円形	24	22	31	
Pit339	楕円形	49	32	34	
Pit340	円形	18	16	32	
Pit341	楕円形	32	27	30	Pit322、Pit323に切られる
Pit342	略円形	(32)	(31)	27	
Pit343	略円形	32	27	12	
Pit344	円形	26	—	16	
Pit345	略円形	34	29	15	
Pit346	不整形	32	30	55	
Pit347	略円形	31	27	44	
Pit348	不整楕円形	40	29	28	
Pit349	略円形	35	30	26	
Pit350	略円形	31	28	20	
Pit351	略円形	26	23	6	
Pit352	楕円形	28	22	29	
Pit353	略円形	33	30	34	
Pit354	略円形	26	24	49	
Pit355	略円形	32	30	51	Pit313に切られる
Pit356	不整形	(62)	(50)	10	
Pit357	(円形)	32	(29)	31	
Pit358	不整楕円形	31	26	56	
Pit359	円形	50	45	43	2号水溜状遺構に切られる
Pit360	(楕円形)	(86)	(33)	14	
Pit361	円形	26	23	16	Pit337に切られる
Pit362	略円形	22	20	16	
Pit363	楕円形	38	30	28	
Pit364	略円形	23	20	11	Pit325に切られる
Pit365	円形	30	28	52	
Pit366	円形	22	20	8	Pit320に切られる
Pit367	円形	27	24	24	
Pit368	略円形	24	27	54	
Pit369	(円形)	34	(14)	9	
Pit370	楕円形	40	32	14	
Pit371	略円形	36	31	2	Pit379を切る
Pit372	略円形	21	20	18	
Pit373	(楕円形)	(20)	26	10	
Pit374	略円形	22	—	8	
Pit375	楕円形	22	18	22	
Pit376	略円形	22	16	38	
Pit377	略円形	18	16	19	
Pit378	楕円形	41	26	31	
Pit379	円形	20	18	12	
Pit380	楕円形	30	22	20	
Pit381	円形	16	—	7	
Pit382	略円形	34	(33)	16	Pit371に切られる
Pit383	円形	22	18	20	
Pit384	円形	18	17	30	
Pit385	円形	14	—	25	Pit325に切られる
Pit386	略円形	32	(25)	24	
Pit387	略円形	36	3	27	
Pit388	楕円形	34	25	30	
Pit389	円形	20	18	21	
Pit390	円形	32	30	14	
Pit391	楕円形	32	26	32	15号集石遺構に切られる
Pit392	略円形	24	21	31	
Pit393	楕円形	33	26	15	
Pit394	略円形	20	18	18	
Pit395	円形	28	27	18	
Pit396	略円形	26	24	38	
Pit397	楕円形	30	23	42	
Pit398	略円形	38	36	20	
Pit399	円形	19	18	13	
Pit400	円形	32	30	14	
Pit401	円形	22	21	22	
Pit402	円形	34	—	18	
Pit403	(円形)	25	(12)	17	
Pit404	楕円形	22	16	8	
Pit405	略円形	58	54	13	
Pit406	楕円形	32	21	14	
Pit407	(円形)	48	(36)	54	15号集石遺構に切られる
Pit408	(楕円形)	82	(82)	12	

番号	平面形態	長径	短径	深さ	備　　考
4号土壙	円形？	80	37	16	
5号土壙	不整円形	77	70	18	Pit46に切られる
8号土壙	円形？	45	—	14	3号土壙に切られる 1号竪穴状遺構を切る
9号土壙	円形？	79	—	15	6号土壙に切られる
10号土壙	不整形	150	141	6	Pit33に切られる Pit152を切る
12号土壙	楕円形	136	107	46	11号溝跡を切る
13号土壙	円形	118	106	17	植栽痕か？
14号土壙	不整円形	72	70	i	2号集石遺構を切る
15号土壙	不整円形	126	108	26	Pit118に切られる
16号土壙	楕円形	142	78	13	
17号土壙	楕円形	70	57	30	11号溝跡を切る
19号土壙	不整形	105	34	14	2号竪穴状遺構に切られる
21号土壙	不整楕円形	102	76	31	
23号土壙	円形	119	110	51	Pit127、185、187、215に切られる
28号土壙	円形	139	126	37	古銭出土
31号土壙	楕円形	71	52	18	
32号土壙	円形	87	—	17	土塁跡に切られる
33号土壙	不整円形	15	83	26	土塁跡に切られる
36号土壙	(楕円形)	260	154	16	
37号土壙	不整形	132	97	56	
38号土壙	略円形	184	182	10	
39号土壙	楕円形	136	91	6	
40号土壙	円形	190	102	30	Pit229に切られる
41号土壙	(不明)	41	110	32	46号土壙、53号土壙を切る
42号土壙	不整形	131	49	50	47号土壙を切る
43号土壙	(円形)	125	118	28	植栽痕か？
45号土壙	円形	145	138	68	42号土壙に切られる 53号土壙を切る　植栽痕か？
46号土壙	(不明)	66	37	36	43号土壙に切られる
47号土壙	(円形)	102	90	27	
48号土壙	不整円形	70	59	9	
49号土壙	楕円形	88	61	17	
50号土壙	(円形)	114	14	60	
51号土壙	(略円形)	108	93	8	Pit282に切られる
52号土壙	楕円形	189	115	27	
55号土壙	不整楕円形	146	112	16	59号土壙を切る
56号土壙	略円形	118	103	18	18号溝跡に切られる 59号土壙を切る
58号土壙	(不明)	216	58	17	70号土壙を切る
63号土壙	(略円形)	152	74	22	16号溝跡に切られる
64号土壙	(円形)	140	67	14	62号土壙に切られる
66号土壙	(楕円形)	91	66	26	62号土壙に切られる
67号土壙	(略円形)	75	43	22	15号集石遺構に切られる 73号土壙を切る
68号土壙	(円形)	73	57	22	65号土壙に切られる 79号土壙を切る
69号土壙	(円形)	92	63	14	65号土壙に切られる
71号土壙	楕円形	138	123	105	
72号土壙	(楕円形)	110	23	8	Pit338に切られる
76号土壙	楕円形	111	84	10	
77号土壙	(楕円形)	138	111	9	
78号土壙	(不明)	389	83	31	
81号土壙	(円形)	94	40	13	16号集石遺構を切る
82号土壙	(円形)	92	42	13	

表２　出土遺物観察表

単位：cm　（　）は反転実測による推定値

図版番号	番号	出土位置・遺構	器種	法量 口径	法量 器高	法量 底径	推定生産地	色調	焼成	備考
図24	1	堀跡	土器・焙烙	(34.4)	(10.5)	(31.2)	在地	7.5YR 明褐灰 7/2	良好	外面スス添着 内面指頭跡・砂底
〃	2	堀跡・下層	灰釉陶器・壺	—	—	—	美濃	5PB 明青灰 7/1	良好	
〃	3	堀跡	土器・かわらけ	—	—	(3.6)	在地	2.5YR 鈍い赤褐 4/4	良好	
〃	4	1号堀跡・下層	須恵器・壺か甕	—	—	—	在地	N 7/ 白灰	良好	
〃	5	1号堀跡	須恵器・甕か壺	—	—	—	在地	10YR 褐灰 6/1	良好	
〃	6	1号堀跡	土器・土鍋か	(24.0)	—	—	在地	5YR 鈍い橙 7/3	良好	
〃	7	1号堀跡	陶器・輪禿皿	11.8	3.6	4.9	肥前	2.5Y 灰黄 7/2 銅緑釉	良好	
〃	8	1号堀跡・下層	土器・焙烙	(24.4)	(5.5)	(24.0)	在地	2.5YR 鈍い橙 6/4	良好	外面スス付着
〃	9	1号堀跡	陶器・皿	—	—	(4.6)	古瀬戸	2.5Y 灰白 8/1	良好	古瀬戸後Ⅳ新
〃	10	1号堀跡・下層	陶器・鉄釉碗	—	(5.0)	—	産地不明	10YR 灰白 7/1 鉄釉	良好	
〃	11	1号堀跡	陶器・鉄釉碗	—	—	(5.4)	瀬戸美濃	10YR 浅黄橙 8/3 鉄釉	良好	２次被熱
〃	12	1号堀跡	陶器・志野皿	—	—	(7.0)	瀬戸美濃	2.5Y 灰白 8/1 長石釉	良好	
〃	13	1号堀跡	陶器・片口鉢	(20.0)	—	—	瀬戸美濃	10YR 灰白 8/2	良好	
〃	14	1号堀跡	陶器・鍋	18.0	—	—	瀬戸美濃か	10YR 灰白 8/1	良好	
〃	15	1号堀跡	陶器・行平鍋の把手	—	—	—	在地(須玉)	2.5Y 黄灰 5/1	良好	小倉焼
〃	16	1号堀跡	磁器・くらわんか碗	(9.3)	(5.2)	(3.8)	肥前	染付	良好	18世紀後半
〃	17	1号堀跡	磁器・端反碗	(10.8)	(5.7)	(4.5)	肥前	染付	良好	焼継あり
〃	18	1号堀跡	磁器・丸碗	11.0	5.9	4.0	肥前	染付	良好	19世紀前半
〃	19	1号堀跡	磁器・徳利	—	—	—	肥前	染付	良好	やや陶胎
〃	20	1号堀跡	磁器・徳利	—	—	4.5	瀬戸か	型押・青白釉	良好	
〃	21	1号堀跡	磁器・輪花皿	12.2	3.1	6.2	産地不明	染付	良好	
〃	22	1号堀跡・下層	陶器・油壺	—	—	5.4	瀬戸美濃	2.5Y灰白 8/1 透明釉	良好	
〃	23	1号堀跡	磁器・徳利	—	—	—	肥前	染付（蛸唐草）	良好	
図25	24	1号堀跡	瓦・軒平瓦	—	—	—	在地	N 4/ 灰	良好	
〃	25	1号堀跡	瓦・軒平瓦	—	—	—	在地	N 4/ 灰	良好	
〃	26	1号堀跡	瓦・軒平瓦	—	—	—	在地	N 4/ 灰	良好	
〃	27	1号堀跡・下層	陶器・擂鉢	(31.3)	(14.5)	(11.2)	瀬戸	2.5Y 灰白 8/1	良好	
〃	28	1号堀跡	硝子製品・化粧瓶	—	—	—	産地不明		—	
〃	29	1号堀跡	石製品	—	—	—	—		—	
〃	30	1号堀跡	石製品・印	—	—	—	—		—	
〃	31	1号土塁跡	陶器・灰釉皿	—	—	5.4	瀬戸美濃	2.5Y 灰白 7/1 灰釉	良好	大窯Ⅲ後半
〃	32	1号土塁跡	陶器・鉄釉皿	—	—	5.1	瀬戸美濃	5Y 灰白 8/1 鉄釉	良好	
〃	33	1号土塁跡	陶器・志野織部皿	—	—	8.2	美濃	10YR 鈍い黄橙 7/4 長石釉・鉄絵	良好	第１小期
〃	34	1号土塁跡	陶器・山茶碗	—	—	5.0	美濃	2.5Y 灰白 7/1	良好	14世紀前半
〃	35	1号土塁跡	緑釉陶器・碗	—	—	6.6	美濃	N 灰白 7/ 緑釉	良好	
〃	36	1号土塁跡	土器・火鉢	—	—	—	在地	5YR 橙 6/6	良好	
〃	37	1号土塁跡	陶器・黄瀬戸鉢	31.0	—	—	瀬戸美濃	2.5Y 淡黄 8/3 黄釉・緑釉	良好	第１小期
〃	38	1号土塁跡	陶器・志野皿	11.4	—	—	瀬戸美濃	N 灰白 8/ 長石釉	良好	
〃	39	1号土塁跡	陶器・鉄釉碗	(10.8)	—	—	産地不明	N 灰白 7/	良好	
〃	40	1号土塁跡	土器・焙烙	(32.0)	8.9	(30.0)	在地	5YR 鈍い橙 6/4	良好	外面スス付着・砂底
〃	41	1号土塁跡	土器・柱状高台	—	—	5.6	在地	5YR 赤褐 4/6	良好	
図26	42	1号溝跡	陶器・天目茶碗	(11.0)	—	—	瀬戸美濃	10YR 灰白 8/1 鉄釉	良好	17世紀前半
〃	43	1号溝跡	灰釉陶器・碗	—	—	(7.0)	美濃	10YR 灰白 7/1	良好	
〃	44	2号溝跡	陶器・天目茶碗	(10.3)	—	—	瀬戸美濃	10YR 灰白 8/2	良好	17世紀第１四半期
〃	45	2号溝跡	土器・かわらけ	8.0	1.7	4.6	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良好	タール付着
〃	46	2号溝跡	陶器・茶壺	—	—	(6.4)	瀬戸美濃	10YR 灰白 7/1 鉄釉	良好	17世紀前半
〃	47	2号溝跡	石製品・砥石	—	—	—	—		—	
〃	48	2号溝跡	土器・かわらけ	6.4	1.3	4.9	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良好	
〃	49	7号溝跡	土器・かわらけ	8.0	2.0	4.6	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良好	
〃	50	7号溝跡	瓦質土器・取瓶	(13.2)	—	—	在地	10YR 灰白 8/1	良	
〃	51	7号溝跡	土製品・土鈴	1.3	1.9	2.0	在地	10YR 灰白 8/2	良好	
〃	52	8号溝跡	瓦質土器・擂鉢	—	—	—	在地	10YR 灰白 8/2	良	内面磨耗している
〃	53	8号溝跡	陶器・常滑壺か	—	—	—	常滑	10YR 灰白 7/1	良	高台片内面に付着
〃	54	8号溝跡	土器・かわらけ	(14.7)	(3.0)	(8.1)	在地	5YR 橙 7/6	良好	
〃	55	9号溝跡	陶器・天目茶碗	—	—	—	瀬戸美濃	10YR 浅黄橙 8/3	良好	
〃	56	9号溝跡	土器・かわらけ	11.6	—	—	在地	5YR 橙 6/6	良好	
〃	57	9号溝跡	石製品・砥石	—	—	—	—		—	
〃	58	10号溝跡	瓦質土器・内耳鍋	27.5	—	—	在地	2.5Y 黄褐 6/1	良好	外面スス付着
〃	59	10号溝跡	土師器・坏	—	—	4.5	在地	5YR 鈍い橙 6/4	良好	
〃	60	13号溝跡	瓦質土器・茶釜	13.1	—	—	在地	2.5Y 黄灰 5/1	良好	
〃	61	13号溝跡	瓦質土器・内耳鍋	30.2	—	—	在地	10YR 鈍い黄橙 7/2	良好	外面スス付着
〃	62	13号溝跡	石製品・硯	7.0	3.5	1.9	—		—	墨付着
〃	63	13号溝跡	土器・土製円盤	—	—	—	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	内耳鍋転用
〃	64	13号溝跡	須恵器・長頸壺	—	—	—	在地	10YR 鈍い黄橙 7/2	良好	
図27	65	13号溝跡	土器・擂鉢	33.8	—	—	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良好	
〃	66	13号溝跡	土器・かわらけ	(11.8)	(2.5)	(6.6)	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	67	13号溝跡	土器・かわらけ	12.5	2.3	7.6	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	68	13号溝跡	土器・かわらけ	14.5	3.1	7.5	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	69	14号溝跡	磁器・蛇ノ目高台皿	—	—	8.6	肥前	染付	良好	18世紀後半
〃	70	14号溝跡	磁器・色絵筒形碗	6.0	—	—	肥前	赤・緑・白・紫釉	良好	18世紀後半

単位：cm　（　）は反転実測による推定値

図版番号	番号	出土位置・遺構	器種	法量 口径	法量 器高	法量 底径	推定生産地	色調	焼成	備考
図27	71	14号溝跡	磁器・鍋島皿	(15.0)	4.5	8.4	肥前	染付	良好	18世紀後半
〃	72	15号溝跡	土器・かわらけ	(10.0)	2.2	6.0	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良好	
〃	73	15号溝跡	土器・かわらけ	9.6	2.0	6.0	在地	5YR 鈍い赤褐 5/4	良好	
〃	74	15号溝跡	土器・かわらけ	8.6	2.3	5.3	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
〃	75	15号溝跡中層	土器・かわらけ	8.6	2.1	6.0	在地	10YR 鈍い黄褐 5/4	良好	
〃	76	15号溝跡	土器・かわらけ	(9.8)	2.1	5.6	在地	10YR 褐灰 4/1	良好	
〃	77	15号溝跡	土器・かわらけ	(9.3)	2.5	(5.7)	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	78	15号溝跡	土器・かわらけ	(9.2)	2.0	(6.1)	在地	7.5YR 鈍い褐 5/3	良好	
〃	79	15号溝跡中層	土器・かわらけ	9.0	2.6	5.6	在地	5YR 鈍い赤褐 5/4	良好	
〃	80	15号溝跡	土器・かわらけ	9.4	2.2	5.6	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	口縁部にスス付着
〃	81	15号溝跡	土器・かわらけ	9.6	2.8	4.4	在地	7.5YR 鈍い褐 5/4	良好	
〃	82	15号溝跡上層	土器・かわらけ	9.5	2.1	5.6	在地	7.5YR 鈍い褐 6/4	良好	
〃	83	15号溝跡	土器・かわらけ	9.5	2.7	4.5	在地	10YR 鈍い黄橙 7/4	良好	口縁部にスス付着
〃	84	15号溝跡中層	土器・かわらけ	9.2	2.9	(5.0)	在地	7.5YR 鈍い褐 5/3	良好	
〃	85	15号溝跡	土器・かわらけ	(9.0)	2.5	4.4	在地	10YR 鈍い黄褐 6/4	良好	
〃	86	15号溝跡	土器・かわらけ	9.4	2.9	4.3	在地	10YR 鈍い黄褐 6/3	良好	
〃	87	15号溝跡	土器・かわらけ	10.0	2.8	4.7	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
図28	88	15号溝跡下層	土器・かわらけ	(10.4)	2.5	5.0	在地	10YR 黒褐 3/1	良好	
〃	89	15号溝跡	土器・かわらけ	8.8	2.7	4.7	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
〃	90	15号溝跡	土器・かわらけ	8.0	1.7	5.5	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良好	口縁部にスス付着
〃	91	15号溝跡下層	土器・かわらけ	7.2	1.6	5.0	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
〃	92	15号溝跡	土器・かわらけ	7.2	1.5	4.6	在地	10YR 鈍い黄橙 6/4	良好	内面一部にスス付着
〃	93	15号溝跡	土器・かわらけ	5.3	1.6	3.4	在地	5YR 鈍い赤褐 5/4	良好	
〃	94	15号溝跡	土器・かわらけ	5.3	1.7	3.5	在地	5YR 鈍い赤褐 5/4	良好	口縁部にスス付着
〃	95	15号溝跡	土器・かわらけ	5.4	2.0	3.3	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良好	
〃	96	15号溝跡	土器・かわらけ	5.4	1.6	3.4	在地	10YR 鈍い黄褐 5/4	良好	
〃	97	15号溝跡	土器・かわらけ	5.4	1.7	5.5	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
〃	98	15号溝跡	土器・かわらけ	5.4	1.7	3.5	在地	2.5YR 黄褐 5/3	良好	
〃	99	15号溝跡	土器・かわらけ	5.3	1.7	3.6	在地	5YR 鈍い赤褐 5/4	良好	
〃	100	15号溝跡	土器・かわらけ	5.5	1.6	3.1	在地	10YR 鈍い黄褐 6/3	良好	
〃	101	15号溝跡	土器・かわらけ	5.5	1.3	4.0	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
〃	102	15号溝跡	土器・かわらけ	5.6	1.6	3.4	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
〃	103	15号溝跡	土器・かわらけ	5.0	1.6	3.2	在地	7.5YR 鈍い褐 6/3	良好	
〃	104	15号溝跡	土器・かわらけ	5.3	1.3	3.7	在地	7.5YR 鈍い褐 5/3	良好	
〃	105	15号溝跡	土器・かわらけ	5.7	1.6	4.0	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
〃	106	15号溝跡	土器・かわらけ	5.3	1.2	3.2	在地	5YR 鈍い赤褐 5/4	良好	
〃	107	15号溝跡	土器・かわらけ	6.0	1.7	3.3	在地	2.5Y 黄褐 5/3	良好	
〃	108	15号溝跡	土器・かわらけ	5.4	1.6	4.1	在地	10YR 鈍い黄褐 6/4	良好	
〃	109	15号溝跡	土器・かわらけ	5.3	1.7	4.3	在地	10YR 鈍い黄褐 5/4	良好	
〃	110	15号溝跡	土器・かわらけ	5.2	1.5	4.2	在地	10YR 鈍い黄褐 5/4	良好	
〃	111	15号溝跡石積	土器・かわらけ	5.6	1.4	3.6	在地	10YR 鈍い黄褐 5/4	良好	
〃	112	15号溝跡下層	土器・かわらけ	(5.1)	1.6	3.0	在地	2.5Y 暗灰黄 5/2	良好	
〃	113	15号溝跡	土器・かわらけ	5.2	1.5	3.7	在地	10YR 灰黄褐 6/2	良好	
〃	114	15号溝跡	土器・かわらけ	5.2	1.5	4.0	在地	5YR 鈍い赤褐 5/4	良好	
〃	115	15号溝跡	土器・かわらけ	4.8	1.1	3.5	在地	7.5YR 鈍い褐 6/4	良好	口縁部にスス付着
〃	116	15号溝跡	土器・かわらけ	4.5	1.1	3.3	在地	10YR 鈍い黄褐 6/3	良好	
〃	117	15号溝跡	陶器・鉄釉小碗	8.6	4.8	3.7	美濃	10YR 灰白 8/1 鉄釉	良好	
〃	118	15号溝跡	陶器・鉄釉小碗	(8.8)	—	—	美濃	10YR 灰白 8/1 鉄釉	良好	
〃	119	15号溝跡	陶器・鉄釉小碗	(8.0)	4.2	4.2	美濃	10YR 灰白 8/1 鉄釉	良好	
〃	120	15号溝跡	陶器・鉄釉小碗	—	—	(4.0)	美濃	2.5Y 灰白 8/1 鉄釉	良好	
〃	121	15号溝跡	陶器・鉄釉丸碗	(11.7)	—	—	美濃	2.5Y 灰白 8/1 鉄釉	良好	
〃	122	15号溝跡	陶器・鉄釉丸碗	(11.8)	—	—	瀬戸	2.5Y 灰白 8/1 鉄釉	良好	
〃	123	15号溝跡	陶器・端反碗	(11.6)	—	—	瀬戸	2.5Y 灰白 8/1 鉄釉	良好	
〃	124	15号溝跡	陶器・尾呂茶碗	—	—	5.4	美濃	10YR 灰白 8/1 鉄釉	良好	
〃	125	15号溝跡	陶器・鉄釉丸碗	9.7	6.7	4.6	美濃	2.5Y 灰白 8/1 鉄釉	良好	
〃	126	15号溝跡	陶器・尾呂茶碗	10.4	7.2	4.4	美濃	2.5Y 灰白 8/1 鉄釉	良好	
〃	127	15号溝跡	陶器・尾呂茶碗	—	—	(5.6)	美濃	5Y 灰白 8/1飴釉	良好	
〃	128	15号溝跡中層	陶器・尾呂茶碗	11.0	7.6	4.6	美濃	2.5Y 灰黄 7/2 飴釉	良好	
図29	129	15号溝跡中層	陶器・尾呂茶碗	(11.2)	7.2	5.2	美濃	10YR 灰白 7/1飴釉	良好	
〃	130	15号溝跡	陶器・尾呂茶碗	(12.2)	7.5	5.7	美濃	2.5Y 灰白 8/1 薄い飴釉	良好	
〃	131	15号溝跡	陶器・尾呂茶碗	(11.9)	7.3	5.8	美濃	2.5Y 灰白 8/1 飴釉	良好	
〃	132	15号溝跡	陶器・尾呂茶碗	(11.7)	—	—	美濃	10YR 褐灰 6/1 飴釉	良好	
〃	133	15号溝跡	陶器・尾呂茶碗	(11.8)	—	—	美濃	10YR 灰白 7/1 飴釉	良好	
〃	134	15号溝跡	陶器・尾呂茶碗	(11.2)	—	—	美濃	2.5Y 灰白 8/2 黄釉	良好	
〃	135	15号溝跡	陶器・尾呂茶碗	(11.8)	—	—	美濃	2.5Y 灰白 7/1 飴釉	良好	
〃	136	15号溝跡	陶器・尾呂茶碗	(11.6)	7.5	5.4	美濃	2.5Y 灰白 7/1 飴釉	良好	
〃	137	15号溝跡	陶器・尾呂茶碗	(10.8)	7.1	5.4	美濃	10YR 灰白 7/1 鉄釉	良好	
〃	138	15号溝跡中層	陶器・尾呂茶碗	11.4	6.7	5.4	美濃	10YR 灰白 7/1 黄釉	良好	
〃	139	15号溝跡	陶器・灰釉丸碗	(11.6)	6.5	(5.5)	瀬戸	2.5Y 灰白 8/2 灰釉・銅緑釉	良好	
〃	140	15号溝跡	陶器・灰釉丸碗	(10.7)	—	—	瀬戸	2.5Y 灰白 8/2 灰釉	良好	鉄絵あり

単位：cm　(　)は反転実測による推定値

図版番号	番号	出土位置・遺構	器種	法量			推定生産地	色調	焼成	備考
				口径	器高	底径				
図29	141	15号溝跡中層	陶器・灰釉丸碗	(10.6)	7.45	(5.2)	瀬戸	2.5Y 灰白 7/1 灰釉	良好	
〃	142	15号溝跡上層	陶器・灰釉丸碗	(10.3)	7.0	(5.3)	瀬戸	2.5Y 灰白 8/2 灰釉	良好	
〃	143	15号溝跡	陶器・灰釉丸碗	(10.8)	6.5	(5.3)	瀬戸	2.5Y 灰白 8/2 灰釉	良好	
〃	144	15号溝跡中層	陶器・呉器手碗	(10.4)	7.1	(4.4)	肥前	2.5Y 灰白 8/1 透明釉	良好	
〃	145	15号溝跡	陶器・呉器手碗	—	—	5.6	肥前	2.5Y 灰白 8/2 透明釉	良好	
〃	146	15号溝跡	陶器・呉器手碗	(10.2)	6.9	4.5	肥前	2.5Y 黄灰 8/2 透明釉	良好	畳付部分無釉17C後～18C初
〃	147	15号溝跡	陶器・呉器手碗	—	—	4.4	肥前	2.5Y 灰白 8/2 透明釉	良好	
〃	148	15号溝跡	陶器・呉器手碗	(11.0)	6.9	(5.0)	肥前	2.5Y 灰白 8/2 透明釉	良好	
〃	149	15号溝跡	陶器・呉器手碗	(10.6)	7.4	4.5	肥前	2.5Y 灰白 8/2 透明釉	良好	高台部分無釉17C後～18C初
〃	150	15号溝跡	陶器・京焼風陶器碗	—	—	5.2	肥前	10YR 鈍い黄橙 7/2 褐釉	良好	
〃	151	15号溝跡	陶器・京焼風陶器碗	(9.8)	5.9	(5.0)	肥前	2.5Y 灰白 8/1 透明釉	良好	
〃	152	15号溝跡中層	陶器・京焼風陶器碗	(8.8)	5.8	(5.0)	肥前	5Y 灰白 7/2 透明釉	良好	
〃	153	15号溝跡	陶器・京焼風陶器碗	—	—	(5.0)	肥前	2.5Y 灰白 8/1 透明釉	良好	底部に「福次」の銘あり
〃	154	15号溝跡	陶器・刷毛目碗	(10.2)	6.2	4.0	唐津	10YR 灰黄褐 6/2	良好	
図30	155	15号溝跡	陶器・鉄釉片口鉢	—	—	(7.2)	美濃	2.5Y 灰白 8/2 鉄釉	良好	
〃	156	15号溝跡	陶器・片口鉢	(19.4)	—	—	美濃	N 7/ 灰白 外・口縁鉄釉	良好	
〃	157	15号溝跡下層	陶器・片口鉢	—	—	(10.4)	瀬戸	2.5Y 灰白 8/2 鉄釉	良好	
〃	158	15号溝跡	陶器・輪禿鉢	(21.4)	—	—	肥前	2.5Y 灰白 7/2 透明釉	良好	
〃	159	15号溝跡中層	陶器・灰釉丸皿	(13.3)	2.9	6.4	美濃	2.5Y 黄灰 6/1 灰釉	良好	
〃	160	15号溝跡	陶器・菊皿	(14.4)	2.8	8.0	瀬戸美濃	2.5Y 灰白 8/1	良好	
〃	161	15号溝跡中層	陶器・輪禿皿	(11.4)	3.3	4.0	肥前	2.5Y 灰白 7/1 銅緑釉	良好	
〃	162	15号溝跡	陶器・片口鉢	(14.0)	—	—	美濃	2.5Y 灰白 8/2 飴釉	良好	
〃	163	15号溝跡	陶器・片口鉢	(15.7)	—	—	美濃	2.5Y 灰白 8/2 薄い飴釉	良好	
〃	164	15号溝跡	陶器・徳利	—	—	6.6	美濃	2.5Y 灰白 8/2 透明釉	良好	
〃	165	15号溝跡	陶器・香炉	(10.0)	6.8	(8.2)	美濃	2.5Y 灰白 7/1 薄い飴釉	良好	
〃	166	15号溝跡	陶器・香炉	(8.4)	3.8	(7.0)	美濃	2.5Y 灰白 7/1 鉄釉	良好	
〃	167	15号溝跡	陶器・香炉	(10.8)	—	—	美濃	2.5Y 灰白 8/2 黄釉	良好	
〃	168	15号溝跡	陶器・土瓶	—	—	—	美濃	2.5Y 灰白 7/2 透明釉	良好	
〃	169	15号溝跡	陶器・ニ彩鉢	—	—	(11.6)	唐津	10YR 灰黄褐 6/2 鉄釉・銅緑釉	良好	
〃	170	15号溝跡	陶器・仏飯器	8.5	5.6	5.3	美濃	2.5Y 灰白 8/1灰釉	良好	
〃	171	15号溝跡中層	陶器・仏飯器	(8.6)	6.4	5.4	美濃	2.5Y 灰白 8/2 飴釉	良好	
〃	172	15号溝跡中層	陶器・水注	3.4	6.8	4.0	美濃	2.5Y 灰白 7/1 鉄釉	良好	
〃	173	15号溝跡下層	陶器・小壺	—	—	2.4	美濃	10YR 鈍い黄橙 7/3 透明釉	良好	
〃	174	15号溝跡中層	陶器・合子	2.5	2.7	2.8	古瀬戸	2.5Y 黄灰 6/1 灰釉	良好	古瀬戸中期。底部に墨書
図31	175	15号溝跡中層	磁器・丸碗	—	—	(4.2)	肥前	染付	良好	17C後半「大明年製」
〃	176	15号溝跡	磁器・丸碗	—	—	4.0	肥前	染付	良好	17C後半
〃	177	15号溝跡	磁器・丸碗	—	—	4.0	肥前	染付	良好	17C後半
〃	178	15号溝跡上層	磁器・丸碗	—	—	4.3	肥前	染付	良好	18C初頭「角枠渦福」
〃	179	15号溝跡下層	磁器・丸碗	(8.8)	4.9	(3.8)	肥前	染付	良好	17C後半
〃	180	15号溝跡	磁器・丸碗	(9.8)	6.25	(4.2)	肥前	染付	良好	17C後半
〃	181	15号溝跡上層	磁器・丸碗	(16.0)	6.0	(4.4)	肥前	染付	良好	18C初頭（高尾窯）
〃	182	15号溝跡下層	磁器・丸碗	10.7	—	—	肥前	染付	良好	18C初頭か
〃	183	15号溝跡上層	磁器・丸碗	10.6	5.9	4.4	肥前	染付	良好	18C初頭「丸福」
〃	184	15号溝跡下層	磁器・白磁大碗	(19.8)	—	—	肥前	白磁	良好	
〃	185	15号溝跡下層	磁器・白磁小坏	(6.1)	—	—	肥前	白磁	良好	
〃	186	15号溝跡中層	磁器・青磁瓶	—	—	(7.0)	肥前	青磁	良好	
〃	187	15号溝跡下層	磁器・仏飯器	—	—	3.0	肥前	染付	良好	
〃	188	15号溝跡	磁器・小香炉	2.8	2.9	2.1	肥前	染付	良好	
〃	189	15号溝跡	磁器・油壺	—	—	(4.6)	肥前	色絵・緑釉・赤釉	良好	
〃	190	15号溝跡	陶器・灰おとし	10.0	9.6	5.8	肥前	陶胎染付	良好	
〃	191	15号溝跡上層	磁器・皿	(14.6)	2.7	(9.0)	肥前	染付	良好	
〃	192	15号溝跡中層	磁器・徳利	—	—	6.6	肥前	染付	良好	
〃	193	15号溝跡	磁器・徳利	—	—	(4.8)	肥前	色絵・緑釉・赤釉	良好	17C後半
〃	194	15号溝跡中層	磁器・徳利	—	—	(6.0)	肥前	染付	良好	17C前半(初期伊万里)
〃	195	15号溝跡中層	磁器・端反皿	(13.8)	—	—	肥前	染付	良好	17C前半(初期伊万里)
〃	196	15号溝跡中層	磁器・徳利	—	—	—	肥前	染付	良好	17C後半
図32	197	15号溝跡	陶器・擂鉢	(34.0)	—	—	瀬戸	2.5Y 灰白 8/2 鉄釉	良好	第4小期
〃	198	15号溝跡	陶器・擂鉢	(33.0)	—	—	瀬戸	5Y 灰白 8/2 鉄釉	良好	第4小期
〃	199	15号溝跡中層	陶器・擂鉢	(28.4)	—	—	瀬戸	5Y 灰白 8/1 錆釉	良好	
〃	200	15号溝跡中層	陶器・擂鉢	(32.0)	—	—	瀬戸	5Y 灰白 8/1 鉄釉	良好	第5小期
〃	201	15号溝跡中層	陶器・擂鉢	(31.0)	(14.0)	(10.0)	瀬戸	10YR 浅黄橙 8/3 鉄釉	良好	第4小期
〃	202	15号溝跡中層	瓦・丸瓦	—	—	—	在地	7.5Y 灰 5/1	良	
〃	203	15号溝跡上層	瓦・軒瓦	—	—	—	在地	N 灰 5/	良	
〃	204	15号溝跡石積	瓦・丸瓦	—	—	—	在地	10Y 灰 4/1	良	石積の部材として転用
図33	205	15号溝跡中層	土器・焙烙鍋	(30.2)	6.9	(28.4)	在地	10YR 鈍い黄橙 6/3	良	
〃	206	15号溝跡中層	土器・焙烙鍋	(19.2)	2.4	(17.6)	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
〃	207	15号溝跡	土器・焙烙鍋	29.5	7.0	27.5	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良	
〃	208	15号溝跡中層	土器・焙烙鍋	(33.6)	7.9	(29.6)	在地	10YR 鈍い黄橙 4/3	良	
〃	209	15号溝跡中層	土器・焙烙鍋	31.6	8.3	29.0	在地	10YR 灰黄褐 5/2	良	
〃	210	15号溝跡	土器・焙烙鍋	31.2	7.1	29.6	在地	10YR 鈍い黄褐 4/3	良	

単位：cm　（　）は反転実測による推定値

図版番号	番号	出土位置・遺構	器種	法量 口径	法量 器高	法量 底径	推定生産地	色調	焼成	備考
図33	211	15号溝跡	土器・焙烙鍋	30.0	8.5	29.6	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
〃	212	15号溝跡	土器・焙烙鍋	29.6	7.45	28.5	在地	10YR 鈍い黄褐 5/4	良	
〃	213	15号溝跡	土器・焙烙鍋	(28.6)	8.1	(27.0)	在地	10YR 鈍い黄橙 6/3	良	
〃	214	15号溝跡	土器・焙烙鍋	31.8	7.5	30.1	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
図34	215	15号溝跡	土器・香炉	11.2	—	(8.0)	在地	5YR 鈍い橙 6/4	良	
〃	216	15号溝跡	土器・香炉	(11.6)	6.2	(11.8)	在地	7.5YR 鈍い褐 5/3	良好	
〃	217	15号溝跡中層	土器・香炉	(12.4)	5.1	(9.0)	在地	7.5YR 鈍い褐 5/4	良	
〃	218	15号溝跡	土器・香炉	(11.2)	—	(10.4)	在地	5YR 鈍い橙 6/6	良好	
〃	219	15号溝跡	土器・焼塩蓋	—	—	7.2	産地不明	10YR 浅黄橙 8/4	良好	「泉州麻生」の蓋か
〃	220	15号溝跡中層	土器・土錘	—	—	—	在地	7.5YR 鈍い褐 5/7	良好	
〃	221	15号溝跡中層	土器・かわらけ	(10.6)	2.8	(6.4)	在地	10YR 鈍い黄橙 7/3	良好	
〃	222	15号溝跡	土器・かわらけ	(9.6)	3.0	4.8	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
〃	223	15号溝跡	土師器・皿	(12.0)	2.7	(3.0)	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	224	15号溝跡	土師器・坏	(12.0)	3.6	5.8	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	225	15号溝跡	土師器・坏	(12.0)	3.3	6.0	在地	7.5YR 橙 7/6	良好	
〃	226	15号溝跡	土師器・坏	(11.0)	4.0	5.6	在地	5YR 明赤褐 5/6	良好	底部に墨書「大親」甲斐型Ⅶ期
〃	227	15号溝跡下層	土師器・皿	—	—	(5.0)	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良好	底部に墨書
〃	228	15号溝跡中層	土師器・坏	—	—	(5.4)	在地	5YR 明赤褐 5/6	良好	底部に墨書
〃	229	15号溝跡上層	土師器・碗	—	—	6.1	在地	10YR 鈍い黄褐 7/4	良好	
〃	230	15号溝跡旧路	陶器・尾呂茶碗	—	—	(5.2)	美濃	2.5Y 灰白 8/1 飴釉	良好	
〃	231	15号溝跡旧路	陶器・天目茶碗	—	—	4.5	瀬戸	5Y 灰白 8/1 鉄釉	良好	
〃	232	15号溝跡旧路	土器・かわらけ	9.4	1.9	5.4	在地	10YR 鈍い黄橙 6/3	良好	
〃	233	15号溝跡旧路	磁器・碗	—	—	4.7	肥前	青磁釉	良好	内面蛇ノ目釉剥　高台部砂付着
〃	234	15号溝跡旧路	土器・S字甕	15.0	—	—	—	2.5Y 浅黄 7/3	良好	
〃	235	15号溝跡	漆器・椀蓋	10.4	2.7	5.4	産地不明	外・黒 内・朱	—	
〃	236	15号溝跡	漆器・椀蓋	—	—	—	産地不明		—	
〃	237	15号溝跡	漆器・椀蓋	—	—	—	産地不明		—	
〃	238	15号溝跡	漆器・椀蓋	10.8	—	—	産地不明	外・黒 内・朱	—	
〃	239	15号溝跡	漆器・椀蓋	(9.8)	2.5	(5.4)	産地不明	外・内朱	—	
〃	240	15号溝跡	漆器・椀蓋	—	—	—	産地不明	外・内朱	—	中心に穿孔
〃	241	15号溝跡	漆器・椀蓋	—	—	—	産地不明	外・黒 内・朱	—	
〃	242	15号溝跡	漆器・椀蓋	10.9	—	—	産地不明	外・黒 内・朱	—	
〃	243	15号溝跡	漆器・椀蓋	—	—	—	産地不明	外・内朱 絵・黒	—	
〃	244	15号溝跡	漆器・椀蓋	10.4	2.8	5.2	産地不明	外・内朱	—	
〃	245	15号溝跡	漆器・椀蓋	10.3	3.6	5.7	産地不明	外・黒 内・朱 絵・朱	—	中心穿孔
〃	246	15号溝跡	漆器・椀蓋	8.9	2.5	4.5	産地不明	外・黒 内・朱 絵・黒	—	
図35	247	15号溝跡	漆器・椀蓋	12.4	2.7	4.4	産地不明	外・黒 内・朱	—	
〃	248	15号溝跡	漆器・平椀	—	—	—	産地不明	外・茶 内・朱	—	
〃	249	15号溝跡	漆器・壺椀	—	—	—	産地不明	外・黒 内・朱	—	
〃	250	15号溝跡	漆器・汁椀	—	—	5.6	産地不明	外・内朱	—	
〃	251	15号溝跡	漆器・汁椀	—	—	6.6	産地不明	外・黒 内・朱 絵・朱	—	
〃	252	15号溝跡	漆器・汁椀	14.4	6.0	6.6	産地不明	外・黒 内・絵・朱	—	
〃	253	15号溝跡	漆器・飯椀	(13.6)	7.5	(6.8)	産地不明	外・黒 内・朱 絵・朱	—	
〃	254	15号溝跡	漆器・飯椀	—	—	6.2	産地不明	外・黒 内・絵・朱	—	
〃	255	15号溝跡	漆器・飯椀	11.4	—	—	産地不明	外・茶 内・朱 絵・黒	—	
〃	256	15号溝跡	漆器・飯椀	12.4	8.4	6.8	産地不明	外・内茶	—	
〃	257	15号溝跡	漆器・飯椀	—	—	6.4	産地不明	外・内朱	—	
〃	258	15号溝跡	漆器・飯椀	—	—	(6.3)	産地不明	外・黒 内・朱	—	
〃	259	15号溝跡	漆器・飯椀	—	—	—	産地不明	外・黒 内・朱	—	
〃	260	15号溝跡	漆器・飯椀	12.1	6.5	6.1	産地不明	外・内朱	—	
〃	261	15号溝跡旧路	漆器・飯椀	13.2	7.8	6.9	産地不明	外・黒 内・絵・朱	—	
〃	262	15号溝跡	漆器・不明品	6.0	3.1	7.7	産地不明	外・内黒	—	
〃	263	15号溝跡	木製品・箆	—	—	—	産地不明		—	
〃	264	15号溝跡	木製品・箆	—	—	—	産地不明		—	
〃	265	15号溝跡	木製品・不明品	—	—	—	産地不明		—	
〃	266	15号溝跡	木製品・不明品	—	—	—	産地不明		—	先端部金属
〃	267	15号溝跡	木製品・人形頭部	—	—	—	産地不明		—	
〃	268	15号溝跡	木製品・不明品	—	—	—	産地不明		—	
図36	269	15号溝跡	木製品・桶	—	—	—	産地不明		—	
〃	270	15号溝跡	木製品・不明品	—	—	—	産地不明		—	
〃	271	15号溝跡	木製品・不明品	—	—	—	産地不明		—	
〃	272	15号溝跡	木製品・曲物	—	—	—	産地不明		—	
〃	273	15号溝跡	木製品・曲物	—	—	—	産地不明		—	
〃	274	15号溝跡	木製品・曲物	—	—	—	産地不明		—	
〃	275	15号溝跡	木製品・曲物	—	—	—	産地不明		—	
〃	276	15号溝跡	木製品・曲物	—	—	—	産地不明		—	
〃	277	15号溝跡	木製品・曲物	—	—	—	産地不明		—	
〃	278	15号溝跡	木製品・曲物	—	—	—	産地不明		—	
図37	279	15号溝跡	木製品・曲物	—	—	—	産地不明		—	
〃	280	15号溝跡	木製品・不明品	—	—	—	産地不明		—	燃えた痕跡がある

単位：cm　（　）は反転実測による推定値

図版番号	番号	出土位置・遺構	器種	法量 口径	法量 器高	法量 底径	推定生産地	色調	焼成	備考
図37	281	15号溝跡	木製品・桶	—	—	—	産地不明		—	
〃	282	15号溝跡	木製品・箸	—	—	—	産地不明		—	
〃	283	15号溝跡	木製品・箸	—	—	—	産地不明		—	
〃	284	15号溝跡	木製品・箸	—	—	—	産地不明		—	
〃	285	15号溝跡	木製品・箸	—	—	—	産地不明		—	
〃	286	15号溝跡	木製品・箸	—	—	—	産地不明		—	
〃	287	15号溝跡	木製品・箸	—	—	—	産地不明		—	
〃	288	15号溝跡	木製品・箸	—	—	—	産地不明		—	
〃	289	15号溝跡	木製品・鍬	—	—	—	産地不明		—	
〃	290	15号溝跡	木製品・櫛	—	—	—	産地不明		—	
〃	291	15号溝跡	木製品・櫛	—	—	—	産地不明		—	
〃	292	15号溝跡	木製品・櫛	—	—	—	産地不明		—	
〃	293	15号溝跡	竹製品・不明品	—	—	—	産地不明		—	
〃	294	15号溝跡	木製品・包丁	—	—	—	産地不明		—	
図38	295	15号溝跡	木製品・下駄	—	—	—	産地不明		—	
〃	296	15号溝跡	木製品・下駄	—	—	—	産地不明		—	
〃	297	15号溝跡	木製品・下駄	—	—	—	産地不明		—	
〃	298	15号溝跡	木製品・不明品	—	—	—	産地不明		—	
〃	299	15号溝跡	石製品・凹石	—	—	—	—		—	
〃	300	15号溝跡	石製品・凹石	—	—	—	—		—	
〃	301	15号溝跡	石製品・凹石	—	—	—	—		—	
〃	302	15号溝跡中層	石製品	4.4	1.8	—	—		—	
図39	303	17号溝跡	磁器・小丸碗	(8.6)	—	—	肥前	染付	良好	
〃	304	17号溝跡	陶器・小坏	(7.0)	4.4	(3.2)	瀬戸美濃	2.5Y 灰白 8/1 灰釉	良好	
〃	305	17号溝跡	陶器・碗	—	—	(4.0)	瀬戸美濃	2.5Y 灰白 8/1 灰釉	良好	
〃	306	18号溝跡	土器・かわらけ	(13.4)	2.9	(7.5)	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	307	18号溝跡	土器・かわらけ	(13.0)	2.6	(6.4)	在地	10YR 鈍い黄橙 7/2	良好	
〃	308	18号溝跡	土器・かわらけ	(12.6)	(2.5)	(8.0)	在地	10YR 灰黄褐 6/2	良好	
〃	309	18号溝跡	土器・かわらけ	(11.6)	2.6	(6.4)	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	310	18号溝跡	土器・かわらけ	(11.6)	2.2	(6.4)	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良好	
〃	311	18号溝跡	土器・かわらけ	10.7	2.6	5.6	在地	7.5YR 橙 7/6	良好	
〃	312	18号溝跡	土器・かわらけ	9.4	2.2	5.7	在地	7.5YR 浅黄橙 7/4	良好	
〃	313	18号溝跡	土器・かわらけ	13.4	2.8	8.0	在地	10YR 鈍い黄橙 6/4	良好	
〃	314	18号溝跡	土器・かわらけ	8.0	1.8	5.8	在地	10YR 鈍い黄橙 7/4	良好	
〃	315	18号溝跡	土器・かわらけ	6.8	1.7	3.8	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	316	18号溝跡	土器・かわらけ	(7.0)	(1.6)	(4.0)	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	317	18号溝跡	土器・かわらけ	7.8	1.8	3.7	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良好	
〃	318	18号溝跡	土器・茶釜	(17.0)	—	—	在地	5YR 橙 6/6	良好	
〃	319	18号溝跡	土器・茶釜	13.6	—	—	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	320	18号溝跡	土器・擂鉢	—	—	(15.0)	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
〃	321	18号溝跡	土器・火鉢	(23.6)	—	—	在地	5YR 鈍い赤褐色 5/4	良好	内外面にミガキ
〃	322	18号溝跡	土器・内耳鍋	—	—	—	在地	10YR 鈍い黄橙 7/4	良好	
〃	323	18号溝跡	土器・擂鉢	—	—	—	在地	7.5RY 橙 7/6	良好	
〃	324	18号溝跡	土器・鉢	—	—	—	在地	2.5Y 灰白 8/1	良好	
図40	325	18号溝跡	土器・焙烙鍋	33.6	8.6	30.0	在地	10YR 灰黄褐 6/2	良好	
〃	326	18号溝跡	土器・焙烙鍋	33.4	10.0	29.6	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	
〃	327	18号溝跡	陶器・天目茶碗	—	—	—	瀬戸美濃	2.5Y 灰白 8/1 鉄釉	良好	大窯２・３
〃	328	18号溝跡	陶器・鉄絵皿	—	—	(7.6)	瀬戸美濃	2.7Y 灰白 8/1 長石釉鉄絵	良好	第１小期
〃	329	18号溝跡	陶器・小坏	(6.8)	(4.4)	(4.4)	初山	N 黒 2/ 鉄釉	良好	大窯３後半
〃	330	18号溝跡	陶器・鉄釉皿	(10.6)	1.9	(6.0)	瀬戸美濃	2.5Y灰白 8/2 鉄釉	良好	大窯３
〃	331	18号溝跡	陶器・茶入	4.2	—	—	瀬戸美濃	2.5Y灰白 8/2 鉄釉	良好	大窯期（不明）
〃	332	18号溝跡	陶器・船徳利	—	—	(12.6)	瀬戸美濃	2.5Y淡黄 8/3 錆釉	良好	大窯３
〃	333	18号溝跡	陶器・擂鉢	—	—	—	瀬戸美濃	10RY 浅黄橙 7/3	良好	大窯３後半
〃	334	18号溝跡	陶器・擂鉢	—	—	—	瀬戸美濃	10RY 浅黄橙 8/3	良好	大窯２・３
〃	335	18号溝跡	陶器・卸目大皿	—	—	(14.1)	瀬戸美濃	2.5Y 灰白 8/2	良好	古瀬戸後Ⅳ新
〃	336	18号溝跡	陶器・黄瀬戸鉢	(28.2)	—	—	瀬戸美濃	2.5Y 灰白 8/2 黄釉	良好	第１小期　2次被熱
〃	337	18号溝跡	陶器・甕	—	—	—	中津川か	2.5Y 黄灰 7/1 灰釉	良好	
〃	338	18号溝跡	陶器・常滑甕	—	—	—	常滑	5RY 橙 6/6	良好	常滑11期
〃	339	18号溝跡	陶器・志戸呂鉢	—	—	(11.6)	志戸呂	7.5Y 灰 5/1 鉄釉	良好	第１小期　２次被熱
〃	340	18号溝跡	石製品・凹石	—	—	—	—		—	
図41	341	18号溝跡	漆器・杓子	—	—	—	産地不明	外・黒 内・朱	—	
〃	342	18号溝跡	石製品・凹石	—	—	—	—		—	
〃	343	18号溝跡	石製品・凹石	—	—	—	—		—	
〃	344	19号溝跡	土器・かわらけ	(14.0)	(3.0)	(7.8)	在地	10YR 鈍い黄橙 6/3	良好	スス付着
〃	345	19号溝跡	土器・かわらけ	14.5	2.8	7.6	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良好	スス付着
〃	346	19号溝跡	土器・かわらけ	(12.6)	(2.7)	(6.3)	在地	10YR 灰黄褐 6/2	良好	スス付着
〃	347	19号溝跡	土器・かわらけ	12.6	3.0	6.5	在地	10RY 浅黄橙 8/3	良好	
〃	348	19号溝跡	土器・かわらけ	(10.6)	(2.4)	(5.7)	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	349	19号溝跡	土器・かわらけ	10.6	2.7	5.5	在地	10YR 鈍い黄橙 6/3	良好	口縁部周辺にスス付着
〃	350	19号溝跡	土器・かわらけ	(9.6)	(2.0)	(5.4)	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良	

単位：cm　（　）は反転実測による推定値

図版番号	番号	出土位置・遺構	器種	法量 口径	器高	底径	推定生産地	色調	焼成	備考
図42	351	19号溝跡	土器・かわらけ	—	—	(7.4)	在地	10YR 鈍い黄橙 7/2	良好	見込み部にナデ調整
〃	352	19号溝跡	土器・かわらけ	12.2	3.3	7.0	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	353	19号溝跡	土器・かわらけ	(12.2)	(2.8)	(7.3)	在地	10YR 鈍い黄橙 6/4	良好	
〃	354	19号溝跡	土器・かわらけ	9.9	2.6	4.0	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
〃	355	19号溝跡	土器・かわらけ	9.8	2.6	6.6	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	356	19号溝跡	灰釉陶器・碗	—	—	7.3	美濃	5RY 灰白 8/1	良好	貼りつけ高台
〃	357	19号溝跡	土器・内耳鍋	(26.2)	15.3	(21.2)	在地	10YR 鈍い黄橙 7/3	良好	
〃	358	19号溝跡	土器・内耳鍋	—	—	—	在地	10YR 鈍い黄橙 6/4	良好	
〃	359	19号溝跡	土器・茶釜	(12.8)	—	—	在地	10YR 鈍い黄橙 6/4	良好	ミガキ痕あり
〃	360	19号溝跡	瓦質土器・茶釜	—	—	—	在地	2.5Y 灰白 7/1	良好	
〃	361	19号溝跡	瓦質土器・火鉢	(31.4)	—	—	在地	N 暗灰 3/	良好	
〃	362	19号溝跡	土器・香炉	9.0	4.6	6.9	在地	10YR 鈍い黄橙 7/3	良好	
〃	363	19号溝跡	土器・香炉	(13.4)	7.4	(9.6)	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	364	19号溝跡	土器・土錘	—	—	—	在地	5RY 灰白 8/1	良好	
〃	365	19号溝跡	土器・土製円盤	—	—	—	在地	10RY 鈍い黄褐 5/3	良好	内耳鍋を転用
〃	366	19号溝跡	瓦質土器・擂鉢	—	—	—	在地	10YR 鈍い黄橙 7/3	良好	
〃	367	19号溝跡	瓦質土器・擂鉢	—	—	(17.0)	在地	7.5Y 灰 4/1	良好	
図43	368	19号溝跡	土器・擂鉢	—	—	(13.4)	在地	5YR橙 6/6	良好	
〃	369	19号溝跡	土器・擂鉢	—	—	(15.0)	在地	10RY 鈍い黄橙 7/3	良好	
〃	370	19号溝跡	土器・擂鉢	35.2	11.4	14.9	在地	10YR 鈍い黄橙 6/3	良好	
〃	371	19号溝跡	磁器・白磁輪花皿	—	—	—	中国	N 灰白 8/ 透明釉	良好	
〃	372	19号溝跡	磁器・青磁碗	—	—	5.3	中国	N灰 白 7/ 青磁釉	良好	15C
〃	373	19号溝跡	陶器・古瀬戸瓶子か	—	—	—	瀬戸	2.5Y 灰黄 6/2	良好	
〃	374	19号溝跡	陶器・瀬戸祖母懐壺	—	—	12.3	瀬戸	2.5Y 黄灰 6/1 灰釉	良好	15C
〃	375	19号溝跡	陶器・常滑甕	—	—	—	常滑	2.5Y 黒褐 3/1 灰釉	良好	
〃	376	19号溝跡	陶器・常滑甕	—	—	—	常滑	2.5Y 黄灰 6/1 灰釉	良好	
〃	377	19号溝跡	陶器・常滑甕	—	—	—	常滑	5Y 灰 4/1	良好	
〃	378	19号溝跡下層	土師器・坏	—	—	5.0	在地	10YR 浅黄橙 8/2	良好	墨書「小介」
〃	379	19号溝跡下層	土師器・坏	—	—	4.0	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	墨書「安」
〃	380	19号溝跡	漆器・椀	16.8	—	—	在地	外・黒 内・黒 絵・朱	—	
〃	381	19号溝跡	漆器・椀	—	—	(7.2)	在地	外・黒 内・朱	—	
〃	382	19号溝跡	木製品・下駄	—	—	—	在地		—	
図44	383	19号溝跡	木製品・下駄	—	—	—	在地		—	
〃	384	19号溝跡	石製品・凹石	—	—	—	—		—	
〃	385	19号溝跡	石製品・凹石	—	—	—	—		—	
〃	386	19号溝跡	石製品・凹石	—	—	—	—		—	
〃	387	19号溝跡	石製品・凹石	—	—	—	—		—	
〃	388	19号溝跡	石製品・凹石	—	—	—	—		—	
〃	389	22号溝跡	土師器・坏	12.0	4.0	5.0	在地	5YR 橙 6/6	良好	
〃	390	22号溝跡	土師器・坏	—	—	4.6	在地	10YR 鈍い黄褐 7/2	良好	
〃	391	22号溝跡	土師器・内黒坏	(18.0)	5.9	(10.0)	在地	10YR 灰黄褐 5/2	良好	
〃	392	22号溝跡	土師器・皿	(13.0)	3.1	(5.0)	在地	5YR 橙 6/6	良好	墨書「太」
〃	393	22号溝跡	土師器・坏	—	—	6.0	在地	7.5YR 橙 6/6	良好	墨書「安」
〃	394	22号溝跡	土師器・坏	—	—	5.0	在地	5YR 橙 6/6	良好	墨書
〃	395	22号溝跡	土師器・坏	10.8	4.3	5.1	在地	5YR 橙 6/6	良好	墨書「円」か？
図45	396	22号溝跡	土師器・蓋	(17.0)	—	—	在地	5YR 明赤褐 5/6	良好	
〃	397	22号溝跡	灰釉陶器・蓋	(15.0)	—	—	美濃	N 灰 6/	良好	
〃	398	22号溝跡	黒色土器・坏か碗	—	—	6.0	在地	5Y 灰 5/1	良好	
〃	399	22号溝跡	内黒土器・片口鉢	—	—	—	在地	7.5YR 橙 6/6	良好	
〃	400	22号溝跡	土師器・皿	—	1.9	—	在地	5YR 橙 6/6	良好	
〃	401	22号溝跡	土師器・皿	(12.6)	2.8	(4.7)	在地	7.5YR 橙 6/6	良好	墨書記号か？
〃	402	22号溝跡	土師器・皿	(13.0)	—	—	在地	5YR 橙 6/6	良好	
〃	403	22号溝跡	土師器・大型坏	19.0	8.6	7.0	在地	5YR 橙 6/6	良好	
〃	404	22号溝跡	土師器・皿	13.3	2.5	5.2	在地	5YR 明赤褐 5/6	良好	墨書「小介」か？
〃	405	22号溝跡	土師器・高坏	—	—	—	在地	10YR 灰黄褐 5/2	良好	
〃	406	22号溝跡	土師器・高坏	—	—	—	在地	2.5YR 明赤褐 5/6	良好	
〃	407	22号溝跡	土師器・小型甕	(14.0)	9.0	(6.0)	在地	7.5Y 鈍い褐 5/4	良好	
〃	408	22号溝跡	土師器・甕	20.0	—	—	在地	5YR 明赤褐 5/6	良好	
〃	409	22号溝跡	須恵器・壺	(13.0)	—	—	在地	7.5Y 灰 5/1	良好	
〃	410	22号溝跡	須恵器・壺	—	—	(17.0)	在地	7.5Y 灰 5/1	良	
図46	411	22号溝跡	須恵器・壺	—	—	—	在地	5YR 灰褐 5/2	良	
〃	412	22号溝跡	緑釉陶器・皿	—	—	8.0	美濃か猿投	7.5Y 灰白 8/1 緑釉	良好	内面陰刻花弁
〃	413	22号溝跡	緑釉陶器・皿	—	—	—	美濃か猿投	7.5Y 灰白 8/1 緑釉	良好	
〃	414	22号溝跡	灰釉陶器・碗	14.0	—	—	猿投	5Y 灰白 7/1 灰釉	良好	
〃	415	22号溝跡	灰釉陶器・碗	—	—	8.4	美濃	5Y 灰白 7/1	良好	
〃	416	22号溝跡	灰釉陶器・碗	—	—	8.0	美濃	2.5Y 灰白 7/1	良好	
〃	417	22号溝跡上層	内黒土器・碗か坏	(17.0)	—	—	在地	10YR 鈍い黄褐 7/4	良好	
〃	418	22号溝跡上層	土師器・坏	(12.0)	4.4	(4.0)	在地	5YR 橙 6/6	良好	墨書「安」か？
〃	419	22号溝跡上層	土師器・皿	12.8	2.7	4.0	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良好	記号か？
〃	420	22号溝跡上層	土師器・坏	—	—	4.4	在地	7.5YR 橙 6/6	良好	墨書「安」

単位：cm　（　）は反転実測による推定値

図版番号	番号	出土位置・遺構	器種	法量 口径	法量 器高	法量 底径	推定生産地	色調	焼成	備考
図46	421	22号溝跡上層	土師器・坏	(12.2)	(4.3)	(5.0)	在地	2.5YR 明赤褐 5/6	良	
〃	422	22号溝跡上層	灰釉陶器・壺か甕	—	—	9.0	美濃か	N 灰 6/	良	
〃	423	22号溝跡上層	須恵器・坏	(16.0)	(5.7)	(11.2)	在地	5YR 灰褐 4/2	良	
〃	424	22号溝跡上層	須恵器・壺	—	—	(12.0)	在地	5Y 灰 5/1	不良	
〃	425	22号溝跡上層	土師器・甕	36.0	—	—	在地	7.5YR 鈍い褐 5/4	良好	
図47	426	1号土壙	石製品・凹石	—	—	—	—		—	
〃	427	2号土壙	陶器・刷毛目碗	(10.3)	5.9	4.0	唐津	5YR 橙 6/6	良	
〃	428	3号土壙	陶器・端反碗	(10.0)	—	—	瀬戸	N 灰白 8/	良好	17C後半
〃	429	3号土壙	土師器・坏	(11.0)	—	—	在地	5YR 赤褐 4/2	良好	
〃	430	3号土壙	陶器・不明	(18.8)	—	—	美濃か	N 灰白 7/	良好	
〃	431	3号土壙	土師器・羽釜	—	—	—	在地	5YR 赤褐 4/8	良好	
〃	432	3号土壙	磁器・碗蓋	8.6	2.3	3.2	瀬戸美濃	染付	良	
〃	433	3号土壙	磁器・広東碗	(11.8)	6.2	(6.4)	肥前	染付	良	
〃	434	3号土壙	陶器・碗	(8.4)	6.2	4.1	美濃	2.5Y 黄灰 6/1 鉄釉・飴釉	良	第8小期
〃	435	3号土壙	土器・かわらけ	—	—	(5.6)	在地	5YR 鈍い橙 6/4	良	
〃	436	3号土壙	石製品・砥石	—	—	—	—		—	
〃	437	6号土壙	陶器・天目茶碗	(10.0)	—	—	瀬戸美濃	N7 灰白 7/	良好	
〃	438	6号土壙	陶器・尾呂茶碗	(9.8)	—	—	美濃	N 灰白 7/	良好	
〃	439	6号土壙	土器・かわらけ	(11.8)	—	—	在地	5YR 鈍い橙 6/6	良好	
〃	440	6号土壙	土師器・羽釜	(26.5)	—	—	在地	10YR 鈍い黄橙 7/4	良好	
〃	441	6号土壙	土器・鍋？	—	—	(26.0)	在地	2.5YR 鈍い橙 6/4	良好	
〃	442	6号土壙	磁器・皿	—	—	(5.4)	中国	染付	良	
〃	443	6号土壙	石製品・砥石	—	—	—	—		—	
〃	444	7号土壙	土器・かわらけ	—	—	(4.6)	在地	2.5YR 橙 6/6	良好	
図48	445	11号土壙	土器・擂鉢	—	—	(15.8)	在地	5YR 淡橙 8/4	良好	
〃	446	11号土壙	土器・かわらけ	—	—	(5.8)	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	447	18号土壙	土器・かわらけ	9.2	2.9	4.9	在地	5YR 橙 6/6	良	
〃	448	18号土壙	土器・かわらけ	(8.8)	(2.6)	(4.6)	在地	5YR 橙 6/6	良	
〃	449	18号土壙	土器・かわらけ	(9.0)	(2.9)	(4.8)	在地	5YR 橙 6/6	良	
〃	450	18号土壙	土器・かわらけ	(9.0)	(2.5)	(4.4)	在地	5YR 橙 6/6	良	
〃	451	18号土壙	土器・かわらけ	8.8	2.6	4.9	在地	5YR 橙 6/6	良	
〃	452	18号土壙	土器・かわらけ	8.7	2.7	4.3	在地	5YR 橙 6/6	良	
〃	453	18号土壙	土器・かわらけ	8.4	2.5	5.6	在地	5YR 橙 6/6	良	
〃	454	18号土壙	土器・かわらけ	8.6	2.5	5.0	在地	5YR 橙 6/6	良	
〃	455	22号土壙	土器・甕	(35.0)	—	—	在地	5YR 橙 6/6	良	
〃	456	24号土壙	土器・かわらけ	(11.6)	—	—	在地	2.5YR 橙 7/6	良好	
〃	457	24号土壙	灰釉陶器・坏	(11.8)	—	—	美濃	7.5YR 明褐灰 7/	良好	
〃	458	25号土壙	土師器・坏	14.5	4.4	7.1	在地	2.5YR 橙 7/6	良好	
〃	459	26号土壙	土師器・坏	(13.0)	—	—	在地	5YR 橙 6/6	良好	
〃	460	26号土壙	土師器・坏	(15.8)	—	—	在地	5YR 橙 7/6	良好	
〃	461	27号土壙	土器・擂鉢	(15.5)	—	—	在地	5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	462	29号土壙	土器・灯明皿	8.6	2.2	5.0	在地	2.5YR 橙 6/6	良好	
〃	463	29号土壙	土器・かわらけ	(9.0)	(2.0)	(5.0)	在地	2.5YR 鈍い橙 6/4	良好	
〃	464	30号土壙	灰釉陶器・碗？	—	—	8.0	美濃	10YR 鈍い黄橙 7/4	良	
〃	465	30号土壙	緑釉陶器・皿？	(14.0)	—	—	美濃か	10YR 灰黄褐 5/2	良	
〃	466	30号土壙	土器・かわらけ	—	—	(7.0)	在地	7.5YR 橙 6/6	良	
〃	467	30号土壙	土製円盤	4.4	4.8	1.0	在地	7.5YR 橙 6/6	良	擂鉢を転用
〃	468	30号土壙	土製円盤	4.2	4.8	0.6	在地	10YR 鈍い黄褐 5/3	良	内耳鍋を転用
〃	469	30号土壙	土器・かわらけ	8.5	1.6	5.6	在地	10YR 黒褐 3/1	良	
〃	470	30号土壙	土器・かわらけ	—	—	(8.0)	在地	7.5YR 橙 6/6	良	
図49	471	30号土壙	陶器・常滑甕	—	—	—	常滑	5Y オリーブ黒 3/2	良	
〃	472	30号土壙	陶器・甕か壺	—	—	—	常滑	2.5Y 黒褐 3/1	良	
〃	473	30号土壙	瓦質土器・擂鉢	35.6	—	—	在地	7.5Y 灰 4/1	良	
〃	474	30号土壙	土器・擂鉢	27.1	—	—	在地	10YR 鈍い黄橙 6/4	良	
〃	475	30号土壙	土器・内耳鍋	30.0	—	—	在地	7.5YR 鈍い褐 5/3	良	
〃	476	30号土壙	土器・内耳鍋	30.0	16.0	21.0	在地	10YR 明黄褐 7/6	良	外面スス付着
〃	477	30号土壙	瓦質土器・擂鉢	—	—	12.0	在地	N 灰 4/	良	
〃	478	30号土壙	瓦質土器・擂鉢	—	—	12.8	在地	10Y 灰 4/1	良	
〃	479	34号土壙	灰釉陶器・壺	—	—	—	美濃か	2.5Y 黄褐 6/1	良	
〃	480	34号土壙	土師器・小型甕	(14.3)	—	—	在地	7.5YR 鈍い褐 5/4	良	
〃	481	34号土壙	土師器・坏	(14.9)	—	—	在地	10YR 鈍い黄橙 6/4	良	
〃	482	34号土壙	土師器・坏	(13.7)	—	—	在地	10YR 鈍い黄橙 6/4	良	
〃	483	34号土壙	土師器・坏	(14.6)	—	—	在地	7.5YR 橙 6/6	良	
〃	484	34号土壙	須恵器・坏	—	—	(6.8)	在地	10BG 青灰 5/1	良	
図50	485	35号土壙	瓦質土器・内耳鍋	(23.8)	—	—	在地	2.5Y 黄灰 6/1	良	
〃	486	35号土壙	灰釉陶器・皿？	—	—	7.0	美濃	2.5Y 灰黄 7/2	良好	
〃	487	35号土壙	土器・かわらけ	13.0	2.5	8.0	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良	
〃	488	35号土壙	土器・かわらけ	—	—	4.0	在地	5YR 鈍い赤褐 5/4	良	
〃	489	44号土壙	土器・かわらけ	(9.7)	2.8	(5.7)	在地	7.5YR 鈍い褐 5/3	良好	
〃	490	44号土壙	磁器・くらわんか碗	9.2	5.0	4.1	肥前	染付	良好	18C後半

単位：cm　（　）は反転実測による推定値

図版番号	番号	出土位置・遺構	器種	法量 口径	法量 器高	法量 底径	推定生産地	色調	焼成	備考
図50	491	44号土壙	磁器・くらわんか碗	(9.4)	5.0	3.6	肥前	染付	良好	18C後半
〃	492	44号土壙	陶器・半球碗	9.2	5.6		京・信楽	5Y 灰白 8/1 透明釉青・赤・緑釉	良	18C後半
〃	493	44号土壙	陶器・碗	—	—	5.9	瀬戸	5Y 灰白 8/1 鉄釉	良好	
〃	494	44号土壙	磁器・神酒徳利	—	—	5.3	肥前	染付	良好	
〃	495	44号土壙	木製品・曲物	—	—	—	産地不明		—	
〃	496	44号土壙	土器・かわらけ	(10.0)	2.4	5.0	在地	5YR 橙 7/6	良好	
〃	497	53号土壙	土器・かわらけ	12.3	2.9	7.3	在地	5YR 橙 7/6	良好	
〃	498	54号土壙	土器・かわらけ	10.2	—	—	在地	5YR 橙 6/6	良好	
〃	499	57号土壙	土師器・坏	12.4	—	—	在地	5YR 橙 6/6	良好	
〃	500	57号土壙	石製品・五輪塔	—	—	—	—		—	地輪・水輪との接点にスス
〃	501	57号土壙	陶器・常滑甕	—	—	—	常滑	2.5Y 黄灰 5/1	良好	
〃	502	57号土壙	須恵器・長頸壺	—	—	—	在地	5YR 鈍い赤褐 4/3	良好	
〃	503	61号土壙	土師器・坏	(12.0)	—	—	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	504	61号土壙	土師器・坏	—	—	7.0	在地	7.5YR 浅黄橙 8/6	良好	
図51	505	61号土壙	土師器・甕	34.0	—	—	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良好	2次被熱
〃	506	62号土壙	陶器・呉器手碗	(11.8)	—	—	肥前	2.5Y 灰白8/2 透明釉	良好	
〃	507	62号土壙	土器・かわらけ	(5.7)	2.0	(4.6)	在地	7.5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	508	62号土壙	陶器・灰釉皿	—	—	(5.6)	瀬戸美濃	10YR 灰黄褐 6/2 灰釉	良好	
〃	509	65号土壙	土器・かわらけ	(13.6)	2.9	(7.8)	在地	5YR 橙 7/6	良好	
〃	510	73号土壙	土器・焙烙鍋	(28.4)	6.4	(26.4)	在地	5YR 鈍い赤褐 5/4	良好	
〃	511	73号土壙	土器・かわらけ	(9.4)	2.4	5.7	在地	7.5YR 鈍い橙 6/3	良好	
〃	512	74号土壙	土器・かわらけ	(8.0)	1.7	(5.0)	在地	7.5YR 鈍い橙 6/4	良好	
〃	513	74号土壙	土器・かわらけ	—	—	(6.9)	在地	5YR 鈍い橙 6/4	良好	
〃	514	1号集石遺構	石製品・石臼	—	—	—	—		—	
〃	515	2号集石遺構	土器・かわらけ	—	—	(5.8)	在地	5Y 灰白 8/2	良好	
〃	516	2号集石遺構	須恵器・長頸壺？	—	—	—	在地	N 灰 4/0	良好	
図52	517	2号集石遺構	土器・擂鉢	(33.4)	—	—	在地	N 灰 6/0	良好	
〃	518	3号集石遺構	灰釉陶器・壺	—	—	(4.0)	美濃	2.5Y 黄灰 6/1	良好	
〃	519	3号集石遺構	石製品・凹石	—	—	—	—		—	
〃	520	5号集石遺構	灰釉陶器・壺	—	—	(11.0)	猿投	5Y 灰白 8/1	良好	
〃	521	6号集石遺構	土器・かわらけ	(11.6)	2.35	(3.0)	在地	10YR 灰白 7/1	良好	
〃	522	6号集石遺構	土器・かわらけ	(12.6)	—	—	在地	5YR 鈍い赤褐 5/4	良好	
〃	523	6号集石遺構	青磁・碗	—	—	(5.2)	中国	N 灰白 8/0 青磁	良好	
〃	524	7号集石遺構	土器・かわらけ	(11.0)	—	—	在地	7.5YR 褐灰 4/1	良好	
〃	525	7号集石遺構	土器・かわらけ	—	—	(5.8)	在地	7.5YR 灰白 8/2	良好	
〃	526	7号集石遺構	土器・土錘	—	—	—	在地	2.5YR 鈍い赤褐 5/4	良好	
〃	527	7号集石遺構	土器・土錘	—	—	—	在地	10YR 鈍い黄橙 7/3	良好	
〃	528	8号集石遺構	土器・内耳鍋	(29.0)	—	—	在地	2.5Y 黄灰 6/1	良好	
〃	529	10号集石遺構	土器・擂鉢	—	—	(7.5)	在地	7.5YR 明褐灰 7/	良好	
〃	530	10号集石遺構	土器・擂鉢	—	—	—	在地	N 灰白 7/	良好	
〃	531	12号集石遺構	青磁・碗	—	—	—	中国	N 灰白 8/	良好	
〃	532	12号集石遺構	瓦質土器・内耳鍋	—	—	—	在地	N 灰白 8/	良好	
〃	533	12号集石遺構	陶器・常滑甕	—	—	—	常滑	N 灰白 7/	良好	
〃	534	13号集石遺構	土器・かわらけ	(13.0)	—	—	在地	7.5YR 浅黄橙 8/4	良好	
〃	535	13号集石遺構	土器・かわらけ	(12.4)	—	7.4	在地	7.5YR 鈍い橙 7/3	良好	
〃	536	13号集石遺構	瓦質土器・内耳鍋	(27.0)	—	—	在地	N 灰白 7/	良好	
〃	537	14号集石遺構	灰釉陶器・壺	—	—	—	美濃	N 灰白 8/	良好	
〃	538	15号集石遺構	陶器	—	—	6.0	瀬戸美濃	10YR 浅黄橙 8/3 灰釉	良好	2次被熱
図53	539	1号井戸跡	土器・擂鉢	—	—	(7.0)	在地	7.5YR 明褐灰 7/2	良好	
〃	540	1号井戸跡	石製品・石臼	—	—	—	—		—	
〃	541	1号井戸跡	凹石	—	—	—	—		—	
〃	542	1号井戸跡	須恵器・甕	—	—	—	在地	N 灰4/	良好	
〃	543	2号井戸跡	白磁・皿	(15.0)	—	—	中国		良好	
〃	544	2号井戸跡	土器・かわらけ	(7.6)	1.7	(3.8)	在地	5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	545	2号井戸跡	土器・かわらけ	(8.8)	2.1	(5.5)	在地	2.5YR 橙 /6	良好	
〃	546	2号井戸跡	土器・擂鉢	—	—	—	在地	7.5YR 褐灰 5/1	良好	
〃	547	1号竪穴状遺構	陶器・天目茶碗	—	—	—	瀬戸美濃	5Y 灰白 8/2 鉄釉	良好	2次被熱
〃	548	1号竪穴状遺構	灰釉陶器・皿	(10.6)	—	—	美濃	5Y 灰白 8/1	良好	
〃	549	1号竪穴状遺構	灰釉陶器・碗	—	—	(6.4)	美濃	10YR 灰白 7/1	良好	
〃	550	1号竪穴状遺構	土器・かわらけ	5.6	1.2	3.6	在地	5YR 鈍い赤褐 5/4	良好	
〃	551	4号竪穴状遺構	磁器・青磁盤	(26.6)	—	—	中国	10Y 灰白 8/1 青磁	良好	
〃	552	4竪穴状遺構	土器・かわらけ	(7.4)	1.4	(4.8)	在地	7.5YR 鈍い褐 5/4	良好	
〃	553	4号竪穴状遺構	土器・かわらけ	—	—	(6.0)	在地	7.5YR 橙 7/6	良好	
〃	554	6号竪穴状遺構	土師器・坏	(15.2)	—	—	在地	7.5YR 褐灰 4/1	良好	
〃	555	6号竪穴状遺構	土師器・坏	12.6	—	—	在地	5YR 鈍い赤褐 5/4	良好	
〃	556	6号竪穴状遺構	土師器・蓋	—	—	(15.0)	在地	5YR 橙 6/6	良好	
〃	557	6号竪穴状遺構	土師器・坏	(18.5)	—	—	在地	5YR 鈍い橙 7/4	良好	
〃	558	6号竪穴状遺構	土師器・坏	(13.6)	—	—	在地	2.5YR 橙 6/6	良好	
図54	559	ピット1	砥石	—	—	—	—		良好	
〃	560	ピット13	土器・擂鉢	—	—	12.6	在地	5YR 灰白 8/1	良好	

単位：cm　（　）は反転実測による推定値

図版番号	番号	出土位置・遺構	器種	法量 口径	法量 器高	法量 底径	推定生産地	色調	焼成	備考
図54	561	ピット33	土器・土錘	—	—	—	在地	5YR 鈍い橙 6/3	良好	
〃	562	ピット66	土器・かわらけ	8.8	2.5	4.8	在地	5YR 橙 6/6	良好	
〃	563	ピット76	土器・かわらけ	7.2	1.6	4.7	在地	5YR 橙 7/4	良好	
〃	564	ピット103	須恵・甕	—	—	—	在地	2.5YR 黄灰 5/1	良好	
〃	565	ピット128	須恵器・壺	—	—	—	在地	10YR 褐灰 5/1	良好	
〃	566	ピット146	土器・擂鉢	31.4	11.3	10.0	在地	5YR 橙 6/6	良好	
〃	567	ピット157	灰釉陶器・壺	—	—	13.4	美濃か猿投	7YR 灰白 7/1	良好	
〃	568	ピット158	土器・かわらけ	7.5	2.1	5.0	在地	5YR 橙 6/6	良好	
〃	569	ピット183	土製品・人形	—	—	—	在地	10YR 灰白 8/1	良好	
〃	570	ピット204	土師器・甕	—	—	11.1	在地	2.5YR 明赤褐 5/6	良好	
〃	571	3号土壙	銅製品・銭貨	2.7	—	—	—		—	不明
〃	572	3号土壙	銅製品・銭貨	2.7	—	—	—		—	寛永通宝
〃	573	3号土壙	銅製品・銭貨	2.4	—	—	—		—	寛永通宝
〃	574	22号土壙	銅製品・銭貨	2.4	—	—	—		—	皇宋通宝
〃	575	22号土壙	銅製品・銭貨	2.3	—	—	—		—	皇宋通宝
〃	576	22号土壙	銅製品・銭貨	2.4	—	—	—		—	元祐通宝
〃	577	22号土壙	銅製品・銭貨	2.6	—	—	—		—	永楽通宝
〃	578	22号土壙	銅製品・銭貨	2.4	—	—	—		—	不明
〃	579	22号土壙	銅製品・銭貨	2.5	—	—	—		—	祥符元宝
〃	580	70号土壙	銅製品・銭貨	(1.5)	—	—	—		—	治平元宝
〃	581	70号土壙	銅製品・銭貨	2.4	—	—	—		—	治平元宝
〃	582	75号土壙	銅製品・銭貨	2.2	—	—	—		—	皇宋通宝
〃	583	75号土壙	銅製品・銭貨	2.4	—	—	—		—	元豊通宝
〃	584	75号土壙	銅製品・銭貨	2.4	—	—	—		—	元祐通宝
〃	585	75号土壙	銅製品・銭貨	2.4	—	—	—		—	政和通宝
〃	586	75号土壙	銅製品・銭貨	2.4	—	—	—		—	皇宋通宝
〃	587	75号土壙	銅製品・銭貨	2.3	—	—	—		—	景祐元宝
〃	588	79号土壙	銅製品・銭貨	2.4	—	—	—		—	開元通宝
〃	589	18号溝跡	銅製品・銭貨	2.4	—	—	—		—	皇宋通宝
〃	590	19号溝跡	銅製品・銭貨	2.4	—	—	—		—	元豊通宝
〃	591	19号溝跡	銅製品・銭貨	2.4	—	—	—		—	至道元宝
〃	592	19号溝跡	銅製品・銭貨	2.4	—	—	—		—	正隆元宝
〃	593	15号溝跡	銅製品・和鏡	(6.4)	—	—	—		—	
〃	594	15号溝跡	銅製品・キセル	—	—	—	—		—	
〃	595	E－7	銅製品・銭貨	2.4	—	—	—		—	元豊通宝
〃	596	E－7	銅製品・銭貨	2.0	—	—	—		—	淳化元宝
〃	597	E－7	銅製品・銭貨	2.4	—	—	—		—	元祐通宝
〃	598	E－7	銅製品・銭貨	2.3	—	—	—		—	元豊通宝
〃	599	E－7	銅製品・銭貨	2.4	—	—	—		—	皇宋通宝
図55	600	D－7	土師器・坏	—	—	6.0	在地	7YR 橙 6/6	良好	線刻あり
〃	601	D－8	土師器・坏	(13.1)	4.5	(6.7)	在地	7.5YR 橙 7/6	良好	甲斐型XⅠ型
〃	602	D－9	土師器・坏	(14.0)	4.0	(4.6)	在地	5YR 橙 6/6	良好	
〃	603	G－10	土器・かわらけ	—	—	5.8	在地	7.5YR 鈍い褐 5/4	良好	
〃	604	D－8	土師器・坏	—	—	(6.4)	在地	5YR 橙 6/6	良	甲斐型XⅠ期
〃	605	G－10	緑釉陶器・碗	—	—	5.4	美濃か猿投	2.5Y 灰黄 6/1	良好	
〃	606	G－10	緑釉陶器・碗	(14.2)	—	—	美濃か猿投	2.5Y 灰黄 6/2	良好	
〃	607	D－7	緑釉陶器・碗	—	—	(8.8)	美濃か猿投	2.5Y 灰白 7/1 緑釉	良	
〃	608	E－5	陶器・卸目大皿	(32.0)	—	—	古瀬戸	5Y 灰 /1 灰釉	良好	後Ⅳ古
〃	609	E－7	陶器・常滑甕	—	—	—	常滑	5Y 灰白 7/1 灰釉	良好	12世紀後半
〃	610	E－6	青磁・碗	—	—	—	中国	2.5Y 灰黄 6/2 青磁	良好	13C
〃	611	F－6	瓦質土器・擂鉢	(29.6)	8.3	(16.0)	在地	N 灰 6/	良好	
〃	612	F－6	陶器・常滑甕	—	—	—	常滑	N 灰 6/	良好	
〃	613	F－12	土器・かわらけ	9.3	2.4	4.8	在地		良好	
〃	614	D－8	陶器・灰釉丸碗	(10.0)	2.8	(5.5)	瀬戸美濃	2.5Y 灰黄 7/2 灰釉	良好	大窯Ⅲ段階　2次被熱
〃	615	F－7	陶器・折縁皿	—	—	—	瀬戸美濃	5Y 灰白 8/2 灰釉	良好	大窯Ⅲ後半
〃	616	D－7	陶器・向付	(12.8)	—	—	唐津	5Y 灰 5/1 鉄釉	良好	17C前半
〃	617	F－10	陶器・折縁皿	(13.6)	—	—	瀬戸美濃	2.5Y 灰白 8/2 灰釉	良好	
〃	618	E－6	陶器・天目茶碗	—	—	5.1	瀬戸美濃	2.5Y 浅黄 7/3	良好	17C前半
〃	619	D－8	陶器・天目茶碗	(10.7)	—	—	瀬戸美濃	10YR 鈍い黄褐 7/4 鉄釉	良好	大窯Ⅳ段階
〃	620	D－8	陶器・鉄釉丸碗	(10.8)	—	—	美濃	2.5Y 灰白 7/1 鉄釉	良好	17C後半
〃	621	一括	陶器・徳利	—	—	(6.8)	瀬戸美濃	2.5Y 浅黄 7/3 鉄釉	良好	
〃	622	D－4	陶器・菊皿	(12.4)	—	—	美濃	2.5Y 灰黄 7/2 灰釉	良	17C後半
〃	623	D－5	陶器・菊皿	(12.6)	3.0	(7.0)	美濃	2.5Y 黄灰 6/1 灰釉	良好	17C後半
〃	624	E－5	陶器・皿	(12.4)	2.9	(6.7)	美濃	2.5Y 黄灰 6/1 灰釉	良好	18C初
〃	625	一括	磁器・広東碗	11.0	6.2	6.0	肥前	染付	良好	焼継あり
〃	626	F－8	陶器・陶胎染付碗	10.3	7.0	5.0	肥前	5Y 灰 6/1 灰釉	良好	18C
〃	627	I－12	磁器・皿	—	—	(4.7)	肥前	染付	良好	
〃	628	I－12	陶器・碗	—	—	(3.3)	唐津か	10YR 褐灰 6/1	良好	

第4章　考　　察

第1節　古　　代

1．検出遺構について

古代の遺構として、大規模な水路ではないかと判断した東西方向の22号溝跡について考察を加えたい。検出した22号溝跡の断面中には、常時流水のある河川ような土砂の堆積状況はなく、自然流路とは考えにくい。また検出状況から判断して南北方向に延びる他の溝が接している可能性があり、22号溝跡の性格として、9世紀後半代から10世紀にかけて主に機能した、条里などに関連する地割の一画、あるいは現在本遺跡東と西に流れる荒川と沼川を結ぶ運河的な役割を有する水路としての利用が考えられる。ただし、条里などの地割の一画と考えるには検出範囲が余りに部分的であり、可能性を示唆するに留める。

古代の交通路に関しては、甲府から荒川を渡り、高畑、西条を経由して鰍沢へつながる駅路の記述を『甲斐叢記』『甲斐国志』に確認できる。渡河地点は定かではないが、高畑には、社記によれば、創建が奈良時代に遡るとされる水神を祭神とする住吉神社があり、この近くを経由していた可能性もある。22号溝跡の調査は部分的であり、安易ではあるが、関わりもあったのではないかと思われる。

22号溝跡からは甲斐型土器IX・X期の土師器を主体として、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器を含んだ良好な一括資料が得られた。土師器の構成は、坏・皿などの食膳具がほぼ7割を占め、煮炊具は少ない。食膳具の中には、黒色土器（註1）が多く混じり、破片数にして黒色処理しない土師器食膳具のおおよそ3割ほどを占める。黒色処理しない土師器食膳具の作りは丁寧で内面に暗文を施すものが大半である。黒色土器は内面のみ、黒色処理が施され、内外面黒色処理する遺物は検出していない。特記すべき事項として、黒色土器の中に、甲斐型IX期の大型坏（図45）が出土している。大型坏は、口径19cm、器高8.5cm、底径7cm、体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部はやや外に開き、端部は若干玉縁状となる。器壁はやや厚めで、外面撫で調整、体部下半より回転ヘラ削り、底部は糸切り後、ナデ調整を施し、土器内面には放射状の暗文を施している。県内での出土例は少なく、韮崎市宮ノ前遺跡などで1点みられるのみである。また全体に占める割合は非常に少ないが、祭祀行為を目的としたと思われる墨書土器を検出している。墨書土器については後述する。この他、特殊な土器として、8面の面取りをした高坏が出土している。高坏は軸部分を検出したが、胎土は甲斐型の土器とは異なり、粒子が非常に細かく、外面を面取りした後、丁寧なナデ調整が施されている。こうした形式の高坏は平城京などで高坏Aと分類される土器に類似している。高坏Aは、奈良時代から出土例があり、器形の変化が余り見られない器種であることから（古代の土器研究会1993)、時期比定には用いられないが、本遺跡出土土器群の特殊性を物語るものではないかと思われる。部分的な検出による一括資料であるが、22号溝跡出土土器群の構成は平安時代の一般的な集落の出土遺物とは考えにくい点が多い。

9世紀前半代には、韮崎市宮の前第2遺跡、甲府市桜井畑遺跡などからの発見例によって、村落内に小規模な寺院などの公的施設が設けられていることも証明されつつあり、少なくとも9世紀後半代には高畑周辺にそうした施設を有した大規模な古代の集落跡が存在していた可能性が高いと考えられる。

註1）黒色処理を施した土器の中には処理の違いから甲斐型黒色土器と黒色土器に区別す

ることもあるが（韮崎市教育委員会1992）今回は細かな分析をしておらず、一括して黒色土器と呼ぶことにする。

2．墨書土器について

墨書土器は、15号溝跡より３点、19号溝跡下層より２点、22号溝跡より６点、23号溝跡より３点検出している。最も多い文字は「安」で、他に「小介」、「太」の文字を判読している。15号溝跡の資料で「大親」と判読したものは、甲斐型Ⅶ期の資料で他と時期が若干異なる。出土総数に比し、資料の絶対数は限られているが、墨書のある土器は内黒処理や暗文が施された特殊な資料の他に、ごく普通の調整を施した坏、皿などの食膳具であり、いずれの土器も甲斐型土器Ⅸ・Ⅹ期に属する資料である。墨書が施されているのは体部あるいは底部である。

律令期から平安時代にかけての高畑周辺は、先学の研究により、巨麻郡青沼郷（坂本1984）に属していたと考えられており、荒川両岸には青沼遺跡など該期の遺跡が点在している。

旧郡域内の墨書土器の集成が平野（平野1992）によってなされているが、出土資料は単漢字のものが多く、北巨摩地域中心に非常にバラエティに富む資料であり、文字資料を遺跡に還元して郷名の比定など集落周辺の様相を読み取ることは難しい。

９～10世紀代の墨書土器は、官衙・寺院を選ばず、住居内の竈周辺などより検出される事例も多く、一概に墨書土器＝公的施設を連想することはできないが、９世紀後半代には秋山氏館跡周辺に、文字を扱える集団が存在していたことは確かであり、平安時代の甲府盆地内の様子を窺える事例の一つとして重要な資料になると思われる。今後の資料の蓄積を待ちたい。

第２節　中　　世

1．中世遺構の変遷（図56）

調査成果で明らかとなったように、中世の秋山氏館跡一帯は墓域となる。墓は、土壙墓、集石墓を検出しているが、木村（木村1997）の分類に基づき、土葬を目的とした墓を土葬墓、石を集積して造った火葬墓の用語として集石墓を使用している。

中世段階と判断した遺構群には、３時期の変遷が確認できる。

中世第１期には、19号溝を境として、土壙墓、集石墓を配置した墓域が形成される。

19号溝跡西側には、対応する溝跡として13号溝跡がつくられ区画内南寄りに２・３・６・８・９号集石遺構が配置される。19号溝跡東側に対応する溝跡は、検出していないが、74・75号土壙などの土壙墓が配置される。

墓域の構成に、計画性が考えられることから、墓域を管理する宗教施設が調査区北側に存在していたと思われる。

秋山氏館跡に近接する宗教施設については、高源寺、永照寺２寺がある。高源寺は本遺跡北側に所在し、室町中期の創建と伝える。永照寺はもとは永正寺と言い、永正年間に創建されたとも伝える。２寺のいずれかが検出した墓壙群に関連するかは不明であるが、本遺跡一帯が突然墓域となる背景には、造墓主体である村落の居住形態の変化、宗教の変化など、社会の変化が大きく関わってくると思われ、15世紀代には中世の村落としての形態を整えつつあった高畑の様子を窺うことができる。

中世第２期には、13号溝跡は機能しなくなり、18号溝跡を利用した８・11・12号溝跡による区画が最初の墓域を破壊する形でつくられる。区画内には、１号井戸、４号建物跡、５・７・10・13号集石遺構が造られる。区画外ではあるが、西側に造られる４・11号集石

遺構もこの段階と判断している。

18号溝跡東側には土壙墓とは判断できなかったが、多数の土壙を確認しており、土壙墓の造墓も続いて行われていたものと考えられる。

中世第３期には、新たに９・18号溝跡の区画がつくられるが、墓域としての土地利用はこの段階に終了したものと判断している。

２．墓壙群について

検出した墓壙は、15世紀から16世紀初頭に造られたとみられる土壙墓７基、集石墓16基、墓に関わる施設として、荼毘状遺構を２基検出している。

土壙墓、集石墓各々の分布をみると、調査区の南北とほぼ中央に位置する19号溝を境とする空間を看取できる。調査区の南北に関しては特に区画は検出していないが塀などなんらかの施設は設けられていた可能性もある。

土壙墓は、円形を呈するもの、やや方形を呈するもの、楕円形を呈するものがあるが、楕円形を呈するものが全体の７割を占める。

土壙墓は調査区北側に分布しており、配置に特に規則性、切り合いはみられない。検出した土壙墓のうち、人骨を検出したのは22号土壙、74号土壙、75号土壙である。骨の埋葬方法は、土葬、北枕であり、22号土壙を除き、西向きの埋葬である。墓標などは確認していない。確認した土壙墓以外に19号溝西側Ｄ７グリッドから六道銭とみられる銭貨が出土しており、土壙墓が存在した可能性が高い。副葬品を伴う土壙墓のうち、初鋳年代の古い銭貨を出土する74号土壙、75号土壙は、土壙墓の中でも最も古いと考えられる。19号溝跡を挟んで、西側に造られている22号土壙は永楽銭を含んでおり、六道銭を伴う土壙墓の中では、新しい遺構とみることができる。

集石墓は、調査区南側に分布しており、蔵骨器を伴うものは検出していない。構造から、以下の３形態に分類している。

１群．石組みをもち内部に石を充塡する集石墓

２群．掘り込みが浅くまばらに石を配置する集石墓

３群．掘り込みが深く集石は墓壙の上面のみに認められる集石墓

遺存状態が悪いことから残りの集石墓は分類していないが集石の縁帯を設け、内部に土を充塡する形式の集石墓も存在していた可能性がある。

１群の集石墓は２・３・６・８・９号集石遺構を分類している。平面形には方形と円形の２種類が認められる。規模はまちまちである。埋葬方法は、ほぼ均等な大きさの石を用いて、２段程度の石組みをつくり、内部に火葬した人骨を埋納し、埋めていく過程で拳大の礫を集積する。

２群の集石墓には５・７・10・13・15号集石遺構を分類している。平面形は特に区画が設けられないことからきちんとした形を呈さず、不整形となる。埋葬方法は、浅い掘り込みを設け、火葬した骨を埋納し、拳大の礫を平積みして埋葬する。礫は均等に集石されず、まばらに配置される。遺物は１群の集石墓と同じく小片であるが、15号集石墓からは大窯期の灰釉陶器の底部を検出している。

３群の集石墓には４・11号集石遺構を分類している。平面形は、円形である。埋葬方法は、２群の集石墓とほぼ同じであるが、２群の集石墓より、掘り込みを深く設け、火葬した骨を土で埋葬した後に、上面に拳大の礫を集石する。２群の集石墓に比較して、骨の遺存状態がよい。

１群に属する集石墓はＥ６・７、Ｆ６～Ｆ８グリッド周辺にまとまって検出している。２群に属する集石墓は１の西隣、Ｄ５・６グリッド周辺に分布し、19号溝跡を挟んでＩ―13

グリッドにも検出している。３群に属する集石墓は、集石墓の分布範囲の最も西側Ｃ３グリッド周辺に位置している。分類ごとに切り合いはみられないことから、若干の時期差はあるものの、ほぼ同時期に造られた墓である可能性が高い。出土遺物が少ないことから時期差の比較ができないが、区画を伴う１群の集石墓が若干古いと考えられ、大窯期の灰釉皿の底部を出土する集石墓を含む２群の集石墓、３群の集石墓がほぼ同時期に墓域を形成していったのではないかと思われる。

今回検出した集石墓には、興味深い現象として、３・５・11・14号集石墓から、くぼみ石の出土が確認できた。くぼみ石の用途は不明な点が多く、副葬とみてよいものか、判断に迷う。中世の墓制の中では、地下式壙から臼を伴う事例を考察した論文がある（今井1994)。今井氏は、地下式壙の性格を墓壙と位置づけた上で葬式の際、臼を使用する事例として枕団子をつくる、死体を運び出した後に臼、あるいは箕やザルを転がして、霊魂を付着させて追い出すという民俗事例を引き、使用した石臼を破壊して、魂の依り代としての器物の破壊を行い、一部を副葬したのではないかとしている。地下式壙の事例との共通性は不明だが、検出した集石墓に伴う事例の一つとして報告しておく。

荼毘状遺構は、楕円形、方形を呈しており、煙道などは確認していない。出土遺物も少なく時期比定はできないが火葬を目的としたであろう遺構の性格から、集石墓に関連した施設の遺構である可能性は高い。

19号溝跡を挟んで分割された墓域空間は、19号溝跡東側の空間に土壙墓の構築が始まるのとほぼ同時期に、13・19号溝跡に区画された西側の空間に分布する１群の集石墓の造墓が始まり、13号溝跡埋設後、１群の集石墓と若干の時期差を持ちながら、２群、３群の集石墓が造られたと考えられる。また今回は土壙墓と判断できなかったため、土壙としているが、２群、３群の集石墓が造られた時期にも、東側の空間には、最初に造られた土壙墓を切る形で、副葬品を持たない土壙墓が造られ続けていたと思われる。土壙墓、集石墓の時期、造墓期間の比較はできなかった。

墓域全体の時期としては、15世紀前半代に遡る墓もあるのではないかと思われるが、区画となる19号溝跡の年代観から、15世紀中頃に造墓が盛んとなり、16世紀初頭まで営まれていた墓域と判断している。

墓域にみられる意識された空間は、造墓主体である集団内の階層差などが反映されたものと思われるが、造墓期間が長いことから、空間を管理する寺などの施設が近接していた可能性が高い。

山梨県内の中世墓の集成は、野代幸和氏によって行われている（野代2000)。県内の中世墓の事例は、13世紀代から報告されており、野代氏によれば14世紀以前では、平安時代の方形プランを引き継いだ形式を呈するものが多く、主軸方位に関する意識はみられない。15～17世紀にかけては、長方形・方形・隅丸方形を呈し、覆土に礫を伴う形式のもののほか、集石墓や五輪塔を伴う墓が報告されている。

秋山氏館跡で検出した墓域は、村落に伴う墓址と思われるが、山梨県内で火葬墓、土壙墓がある程度まとまった状態で検出された事例は韮崎市石之坪遺跡のほか、明野村深山田遺跡、高根町横森赤台（東下）遺跡の報告例があり、いずれも14～15世紀代に機能した墓域であるが、甲府盆地内でのまとまった中世墓地の検出はほとんどなく、本遺跡の事例は重要な資料となる。

墓域のみの検討に終始したが、山梨県内での中世墓の調査事例は近年、急激に増加しつつあり、墓単独で取り上げるのではなく、墓域成立の経過を中世村落との関連のなかで位置付けていける研究の進展が望まれる。　（山﨑雅恵）

図56　22号溝跡想定図・秋山氏館跡中世遺構変遷図

第３節　近世・近代

１．検出遺構の変遷

本遺跡の名称にもなっている秋山氏の館跡に関連する遺構群であり、17世紀初頭から近現代まで継続した土地利用が認められた。調査当初は地割と伝承に基づき中世の方形居館として周知されていた遺跡であったが、調査成果で明らかにしたように、中世段階には居館ではなく墓域が存在し、寺院との関連性が考えられるため、正しくは近世の秋山氏屋敷跡と言った方が正しいだろう。残されている文書等から秋山氏は当初郷士であったが、江戸後期には高畑村名主や長百姓として位置づけられていることから、ある段階から村役人として在地支配の一翼を担っていたようである。秋山家に伝わる由緒によると慶長10年（1605）に当地に居を構えたとされ、万延元年（1860）に秋山長四郎から弟の仕官について、大和郡山藩主であった柳沢保申に宛て出された奉公願書の中にもその詳細が記されている。幕末の史料であるため中世段階に関してはどこまで溯るか不明であり、歴史背景として調査に関係すると思われる部分のみ簡単に整理しておくと次のとおりである。

○秋山氏は武田家に仕えて各地を転戦し、武田滅亡後は西郡中野村（現櫛形町か）に蟄居していたが、慶長10年に兵部介が当地に移転し居を構える。

○甲府城主となった松平甲斐守（柳沢吉里）の在城時に召し抱えられたが、吉里が甲斐から大和郡山に転封された際には、当主幼少の理由により甲斐に残留した。

以上のように高畑と秋山氏のつながりは定かではないものの、慶長10年に当地に移転したほか秋山氏は柳沢吉里在城時に召し抱えられていることが記載されている。したがって、少なくとも宝永７年（1710）以降には、柳沢家の家臣となっていることがわかる。おそらく実質的な甲斐国内の整備に乗り出した柳沢氏にとっては、領国経営をより確かなものにしていくため地理に明るい在地の人材が必要となったのであろう。その後は柳沢吉里の大和郡山国替には同行せず在地に残ったため、名主を始め村方三役に組み込まれていくのは享保９年（1724）以降と考えられる。

同時に秋山家には天保７年（1836）に描かれた屋敷絵図が残されている。絵図には南北１町、東西半町規模の長方形の敷地の中に幾つかの屋敷と付随する施設等が描かれ、調査区となった場所には長屋門と厠が描かれていることから、ちょうど屋敷の前庭的な空間であったことがわかる。このことを踏まえて、調査成果と照らし合わせると実に興味深いことがわかる。

近世面は遺構の切り合いや展開状況から幾つかの変遷が確認された。ただし、掘立柱建物跡や柱穴列については共伴遺物等の制限もあり、どの段階に位置づけられるか判然としなかった。

近世第１期（17世紀～18世紀初頭）

秋山氏による初期の屋敷割に関わる遺構群である。屋敷地西側は検出された１号堀跡と１号土塁跡によって屋敷地を囲い込んでいたと考えられるが、東側では同規模の施設は確認できなかった。Ｃ区北側の調査区隣接地に小規模土塁らしき土山が存在するものの、延長上にあるＣ区では堀跡ないしは溝跡を確認できなかったため、秋山氏屋敷の東側については、15号溝跡が屋敷境と想定される（図57）。15号溝跡については、18・19号溝跡とほぼ並行する形で掘られていることから、中世段階からの土地区割りをある程度踏襲しつつ、屋敷地の造成が行われたようである。

また、１号堀跡と15号溝跡で区画される屋敷地内には、掘立柱建物跡及び柱穴列が重複して検出されており、数次にわたり建て替えが行われたものと考えられるが、区画外であ

る東側の状況については時期を断定できる遺構が検出されなかった。

時期的には土塁跡内部から16世紀末～17世紀初頭の瀬戸美濃・唐津・漳州窯系の陶磁器群が出土したことと、15号溝跡に隣接する18号溝跡の廃絶期を考慮すると、近世初頭には屋敷が形成されつつあったと考えられる。このことから、高畑への移転時期を慶長10年とする由緒とも大きなズレは生じていない。

近世第２期（18世紀前葉～19世紀前半）

１号土塁跡を利用しつつ、南側に６号建物跡が設けられ、東側は15号溝跡が廃絶し、代わって１号石垣が築かれる。６号建物跡は位置や建物構造からみて、絵図に描かれている長屋門と考えられる。１号石垣は調査区Ａ・Ｂ区のちょうど境界から検出されており、現在の地境とほぼ重複する。石垣を隔ててＡ区側が一段高く、Ｂ区側が低い構造となっていたようである。不透明であった調査区東側には生垣跡と考えられる17・21号溝跡による小区画が形成され、１号石垣と17号溝跡の間には43～45号土壙を伴う５号建物跡が出現する。17・21号溝跡内側には柱穴列は確認できなかったものの、多数の柱穴が検出されているため、何らかの施設が存在した可能性が高い。Ａ区北側で検出された３号土壙及び１号竪穴状遺構は、別々の遺構として記録したが、検出位置や検出状況から判断して、絵図にある厠である可能性が想定される。

幕末～近代

Ａ地区では建物群が機能を停止し、１・２・４号溝跡に見られるような畑の畝が確認されることから、耕作地となったようである。畑内には水溜や埋桶も検出されており、貯水施設等も存在したようである。明治40・43年に県下を襲った大洪水の砂層が調査区に堆積していたことから、畑の機能もこの段階で一時終了している。調査対象がこの段階までであったため、現代までの間は撹乱として扱われたため以降については言及を避けたい。

以上のように調査成果から大きく３つの画期が存在したと考えられ、秋山氏屋敷の変遷を概略的にまとめた。秋山氏屋敷の母屋は調査区北側に存在したと考えられ、地元での聞き取りでも昭和まで屋敷に存在した池跡が窪地として残されていたことが記憶されており、調査区は前庭空間であったと考えられることから、今回報告された遺構・遺物はほんの一部に過ぎないと考えられる。近世の村落遺跡については、県埋蔵文化財センターで調査された宮沢中村遺跡を始め、近年調査例が増加傾向にある。宮沢中村遺跡の場合は寺院関連の遺跡であり、本遺跡は名主クラスの人物の屋敷であったため、今後は社会の底辺を支えた作人層の屋敷に関わる調査例が増加することを期待したい。

２．15号溝跡出土の陶磁器について

15号溝跡出土資料については、時期的に17世紀後半から18世紀初頭に位置づけられる土器・陶磁器群とともに木製品、金属製品といった当時の生活用品がまとまって出土している。特に南側ではかわらけや焙烙鍋等の土器類の集中箇所があり、何らかの理由により一括廃棄されたものと考えられる。

陶磁器の組成は、全体的に磁器に比べて陶器の割合が高いと言える。陶器の中でも美濃製品が55％を占めており、次いで肥前唐津製品が24％、瀬戸製品が21％となっている。美濃の中でも多くは下半田川村（現瀬戸市）の尾呂窯で生産された製品で全体の約８割を占めており、特に碗類の多くはいわゆる尾呂茶碗である。器種組成は碗を主体とし、皿、香炉、水注、片口鉢、徳利、仏飯器、土瓶など多岐に渡るが、碗類に比して皿が極めて少ない。

尾呂茶碗の出土状況は、過去にも甲府市内を始め県内各地で確認されているが、15号溝跡のように量的にまとまって出土したのは今回が初めてである。尾呂茶碗については『瀬戸市史　陶磁史篇六』で検討が行われ、「名古屋城三の丸遺跡では当該期の他の瀬戸・美濃焼に比べると量的に少なく、江戸や南関東でも、尾張藩邸を除くとほとんどみることができない。」とした上で、「東海地方では遠江・三河・尾張・美濃の村落部、さらに北関東や東北北部太平洋側沿岸の村落部では一定量出土しており、尾呂茶碗は、明らかに都市ではなく村落を対象に生産されている。」と述べられている。甲斐では甲府城下町内でも少ないながら出土するが、やはり他県の事例同様、郊外の村落内の方がよりまとまって出土する傾向が認められる。

流通経路については、『瀬戸市史　陶磁史篇六』では、享和２年（1802）尾張藩による陶磁器専売制度の導入に大きな画期を求めているものの、それ以前の流通状況については未だ不明な部分が多いようである。東海地方や関東、東北沿岸部へは海上輸送されたものが流通していると考えられ、内陸部にある甲斐、上野などは江戸後期の史料から分析すると、上野には江戸経由で陶磁器が搬入されていることが想定されている。おそらく利根川水系を利用したものもあるだろうと思われる。甲斐についても、やはり海運によりもたらされたものが富士川舟運により鰍沢河岸等を通じて荷揚げされ、各地に流通していたものと思われる。しかし、15号溝跡の主体年代である17世紀後半から18世紀初頭段階の流通経路は果たして江戸後期と同じといえるだろうか。

分布に特徴のある尾呂茶碗についてみてみると、甲斐や上野では出土量が多いのに対して、村落という共通の性格の遺跡群であるはずの江戸郊外や多摩地区、相模、駿河等での出土例は極めて少ない。また15号溝跡出土陶磁器に占める美濃製品の割合に比べ、擂鉢を除く瀬戸製品の割合が少ないところにも疑問点が残る。美濃製品が何らかの形で尾張藩及び名古屋商人を経由しているのであれば、同時に流通するであろう瀬戸製品の占める割合がもう少し高くても良いと思われるが、15号溝跡では肥前産の呉器手碗及び京焼風陶器碗が比較的高い割合を占めている。このような状況から江戸前期には美濃製品は瀬戸製品とは違う独自の販売ルートで甲斐に搬入されていた可能性も考えられる。

甲斐は美濃からみれば距離的に水陸どちらからでも輸送可能な位置にあり、船を利用した場合は美濃から桑名まで出て、駿河から富士川を上ってくる経路が最も妥当と考えられる。陸路を想定するのであれば、信濃経由で馬の背に荷を積んで輸送することとなる。江戸後期には信濃（高遠・諏訪方面）から甲斐へ米の輸送が盛んであったが、信濃への帰荷の中に瀬戸物の記載もあり、この頃には名古屋経由の船便の荷が富士川を上がって信濃まで流通していたことが窺える。史料内容だけみれば、海運を通じての流通とも捉えられなくはないが、逆に信濃までの移動距離を考えれば、美濃から甲斐への陸送も決して不可能ではなかったと思われる。仮に時代が下って美濃から甲斐への直接的な陸送があったとすれば、信濃でも北信濃や松本城下町近辺では尾呂茶碗はほとんど出土しないことから、中山道を利用しつつ、諏訪を分岐点として上野と甲斐へ枝分かれしていたと想定したい。残念ながら、中継となる南信濃の状況が不明であるため現段階で断定は難しく、今後美濃製品の流通状況の把握につながる調査成果の蓄積を待ちたい。

肥前陶磁器の中ではいわゆる初期伊万里図31-194・195が確認され、図化できなかった中には初期伊万里ではないかと思われる染付吹墨鷺文皿の破片も出土している。他の磁器類は17世紀後半～18世紀初頭のもので占められ、染付を主体として青磁、白磁、色絵のものも少ないながら出土している。磁器碗皿類は染付主体で、瀬戸美濃同様皿の占める割合が極めて低い。また、良質な磁器が少ない割に漆継ぎの痕跡を残すものが多く、破損したものも丁寧に修復して使用している様子が窺われる。そこまでして使用してきた肥前陶磁器

の廃棄と尾呂茶碗など安価であったと考えられる美濃製品の廃棄状況の背景には新たな製品の補充が考えられ、ちょうどこの時期前後から流通が活発化していた肥前磁器への切り替えがあったのではないかと考えられる。遺物の廃棄状況と年代幅、遺構の変遷を考慮すると、背景として柳沢氏による秋山氏召し抱え、ないしは柳沢氏の転封による村方支配への移行が契機となっていると考えられることから、15号溝跡出土陶磁器の年代は、柳沢氏在城の宝永７年（1710）から享保９年（1724）に設定できる。更に限定すれば、15号溝跡上層には洪水によると考えられる粗粒砂層が部分的に堆積していた。享保13年（1728）に大洪水の記録があり、15号溝跡は最終的にこの段階には埋没したと考えられる。

３．秋山氏出土の鍋島焼について

一般に鍋島と言った場合、鍋島藩によって将軍家への献上品や大名への贈答品として厳しい管理体制のもと生産されていた高級磁器を思い浮かべる。したがって、当遺跡のような村落遺跡から出土することは鍋島本来の性格からすれば極めて特異な例と言えるが、大名屋敷以外の場所から出土した鍋島については、水本氏により興味深い検討がなされている（水本1998)。氏は消費地における鍋島を集成する中で、下級武士や町人地等からの出土例を取り上げて「鍋島」の様相や性格について言及している。更に18世紀後半以降町家で検出される鍋島が木盃形の染付皿であることに着目し、文様の構成も柳文・岩牡丹文・菊文に裏文様は七宝結文、高台は櫛目文に限定されてくることから、町人向けに商品として販売されたものが存在する可能性を示唆すると同時に、江戸後期以降鍋島というブランドの価値が低下したことを指摘している。

その上で本遺跡から出土した図27・71をみると、文様は染付菊文皿で裏文様は七宝結文に高台が櫛目文で、器形も木盃形であるため、氏の指摘する町家等で出土している鍋島とまったく同じ文様構成であると言える。類例に新宿内藤町遺跡出土資料があり、時期的にも18世紀後半以降のものと考えられる。甲府ではこの他に同様の鍋島が平成７年度に調査された甲府城関係遺跡でも１点出土している（図59)。甲府城関係遺跡は18世紀前半には柳沢氏の国家老であった柳沢権太夫保格の屋敷の一部であり、柳沢氏転封後は山之手勤番支配役宅として機能していた甲斐の政治中枢に近い場所であるが、鍋島の時期からすると山手勤番支配役宅に存在したものと考えられる。価値の低い菊文皿であるのは江戸から派遣される勤番士の階級によるものと考えられる。それでは本遺跡の場合はどうだろうか。

18世紀後半段階の秋山氏は、大和郡山に移動することを選択せず、在地にあって村方三役として名主ないしは長百姓の地位にあり、幕府機構の末端に位置していた。出土した鍋島は、水本氏の指摘する価値の低いものであるため、商品としての購入も充分考えられる。しかし、出土地点や数量からみて、大量生産され誰でも簡単に入手できるものではなかったと推測され、鍋島の中では価値の低い製品であったとしても、鍋島という商品価値自体は他の製品に比べ高かったものと考えられる。したがって、甲府における商品流通の流れが不明な状況下で、江戸を離れた甲斐の一村落での入手法を考慮すれば、商品として購入したものとは断定しがたい。むしろ村役人としての側面を捉えれば、商品としてではなくあくまで下賜されたものとして位置づける方が考え易い。秋山氏は奉公願書に柳沢吉里により絞付土器の御盃等を拝領し、今でも所有していることを記しているため、柳沢氏段階では実際に秋山氏への下賜行為が行われていたようである。絞付土器の御盃が如何なるものであったか不明であり、現段階での年代観からも今回検出された鍋島とは残念ながら断定はできない。鍋島藩から直接贈与される可能性はないため、二次的、または三次的な下賜品としての性格が高いことを示唆しておく。（佐々木満）

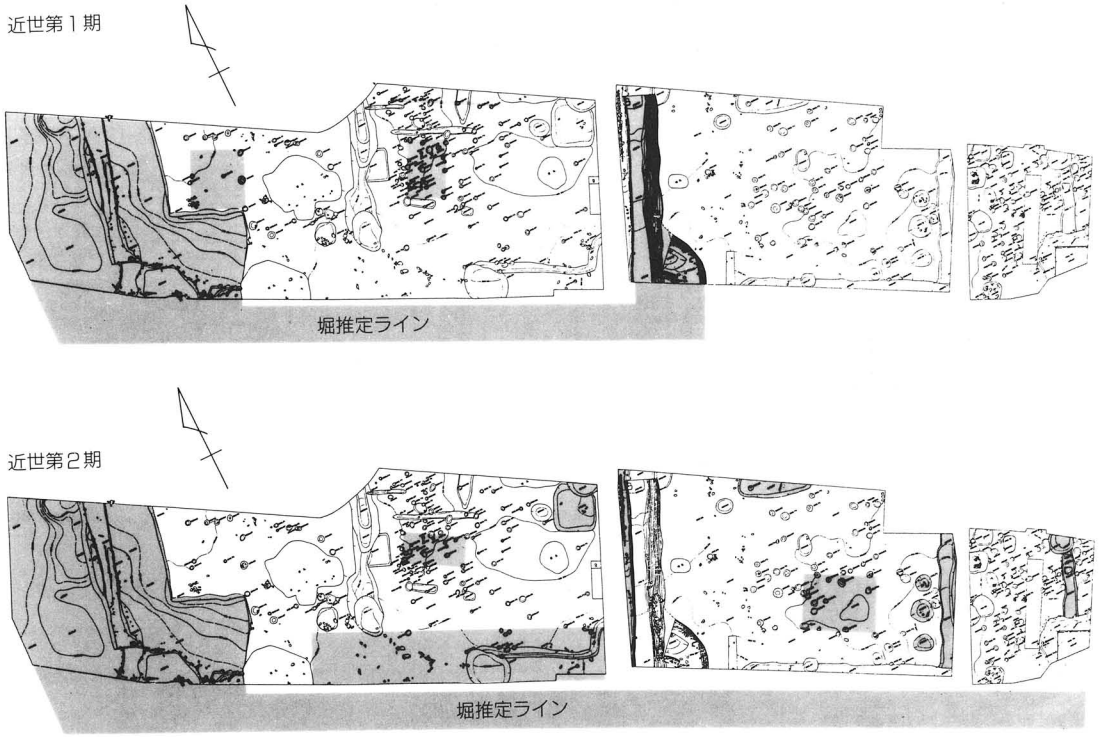


図57　秋山氏館跡近世遺構変遷図

秋山氏館跡15号溝跡陶器

産地	器種	破片点数
美濃	碗	48
美濃	小碗	5
美濃	皿	2
美濃	片口鉢	5
美濃	香炉	5
美濃	仏飯器	5
美濃	小壷	1
美濃	徳利	1
美濃	水注	1
美濃	土瓶	1
瀬戸	碗	15
瀬戸	擂鉢	11
瀬戸	片口鉢	3
肥前	碗	28
肥前	皿	2
肥前	鉢	1
唐津	碗	1
唐津	鉢	1
合計		136

秋山氏館跡15号溝跡磁器（肥前のみ）

種別	器種	破片点数
染付	碗	31
染付	小碗	2
染付	皿	3
染付	大皿	1
染付	端反皿	1
染付	仏飯器	4
染付	小香炉	1
染付	猪口	1
染付	徳利	10
染付	灰落し	1
染付	油壷	1
染付	不明	4
青磁	瓶	1
青磁	丸碗	1
青磁	折縁皿	1
白磁	大碗	1
白磁	小坏	1
色絵	徳利	3
色絵	油壷	1
合計		69

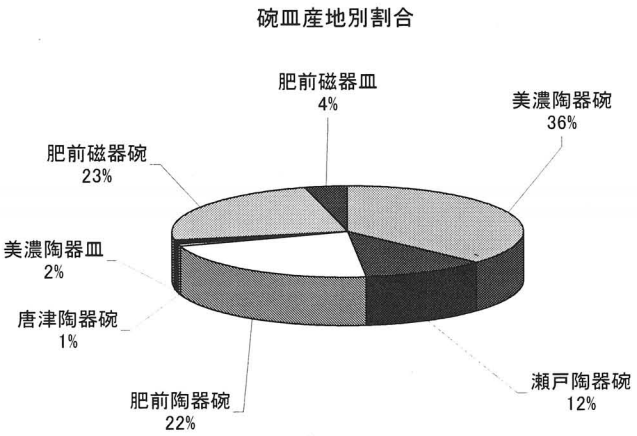


図58　15号溝跡陶磁器一覧・碗皿産地別割合

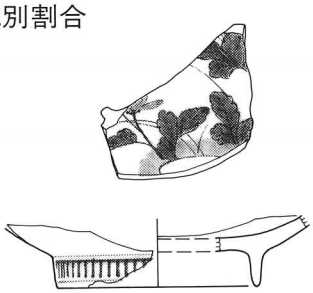
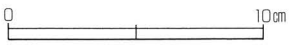


図59　甲府城関係遺跡出土鍋島



第5章　結　　語

調査の結果、出土遺物からみると古墳時代から近現代まで連綿と続く土地利用が裏付けられたものの、検出された遺構群は時期的に大きく３つの画期が設定され、前章において古代・中世・近世として時代別に本遺跡の状況を整理し、若干の考察を加えた。

古代では甲斐型Ⅸ･Ⅹ期を主体とする集落に関連すると思われる溝跡を確認したが、我々の力量不足から充分な調査を行うことができないまま発掘を終了している。そのため全体像の解明までは至らなかったものの、少なくとも本地区北側には９～10世紀段階に古代寺院を有する大規模な集落が展開している可能性が高くなった。また、東西方向に延びる大溝跡も条里地割の一部とみられ、規模と溝跡覆土の堆積状況から水の流れは緩やかであったと考えられる。荒川を始めとする付近の河川が当時どの流路であったのかは定かではないため推測の域を脱しないが、おそらく本遺跡の西を流れる沼川と荒川本流を結ぶ水路として利用されていたものであることも考えられ、人や小規模な物資を運搬する程度の小船が航行可能な規模であったと想定される。

中世では時期的に15世紀から16世紀にかけて営まれた墓跡や火葬場が検出されている。土壙墓と集石墓が同時に検出されているが、調査区を中央から南北に分けると北側に土壙墓、南側には集石墓が展開する領域が存在し、住み分けがなされていることがわかった。集石墓は、Ｂ区18・19号溝跡付近を挟んでＡ区側とＣ区側に分かれており、異なる造墓集団が存在していた可能性がある。時期的には土壙墓・集石墓とも年代決定資料となる遺物が少ない中で、土壙墓については六道銭と考えられる銭貨の副葬がみられたが、22号土壙には永楽銭が１枚含まれていた。集石墓には大窯段階の灰釉皿の底部が出土していることから16世紀中葉までに造営されたものがあることが明らかになり、銭と数点の遺物だけで判断しがたいが、土壙墓と集石墓が概ね同時期に登場することが想定できた。しかし、集石墓自体も、掘り込みを石組で囲むものと、石組を持たず石を集めて投げ込んだだけのものと３類型に分類できるため、時期差が存在する可能性もある。石組を伴うものには確認段階で掘り方周囲に薄い白色の細粒砂層が確認されたが、砂質の土壌であり、造墓当日に雨が降ったために形成されたものと考えられ、墓穴を掘り、石組をして納骨するまでに時間差があったことも想定できた。墓域自体が何らかの理由で機能を停止したのか、意図的に墓域を破壊する目的であったか定かではないが、墓地群を破壊する形で８・11・12号溝跡に区画される４号建物跡が登場する。共伴する遺物が少なく、正確な時期設定はできないが、集石墓の廃絶時期と調査区全体での大窯３段階の遺物群のまとまった出現状況を考慮すると、16世紀後半以降の土地利用に大きな変化が起こったものと考えられる。

出土遺物からみると、市内の武田氏館跡や城下町等では大窯１・２段階の瀬戸美濃が多く、３段階以降については極めて少ない。しかし、本遺跡では大窯１・２段階の製品が少なく、３段階以降のものが比較的まとまっている。中でも静岡で生産された初山窯の製品は県下でも類例がほとんどなく、当時の物流を考える上で貴重な発見となった。

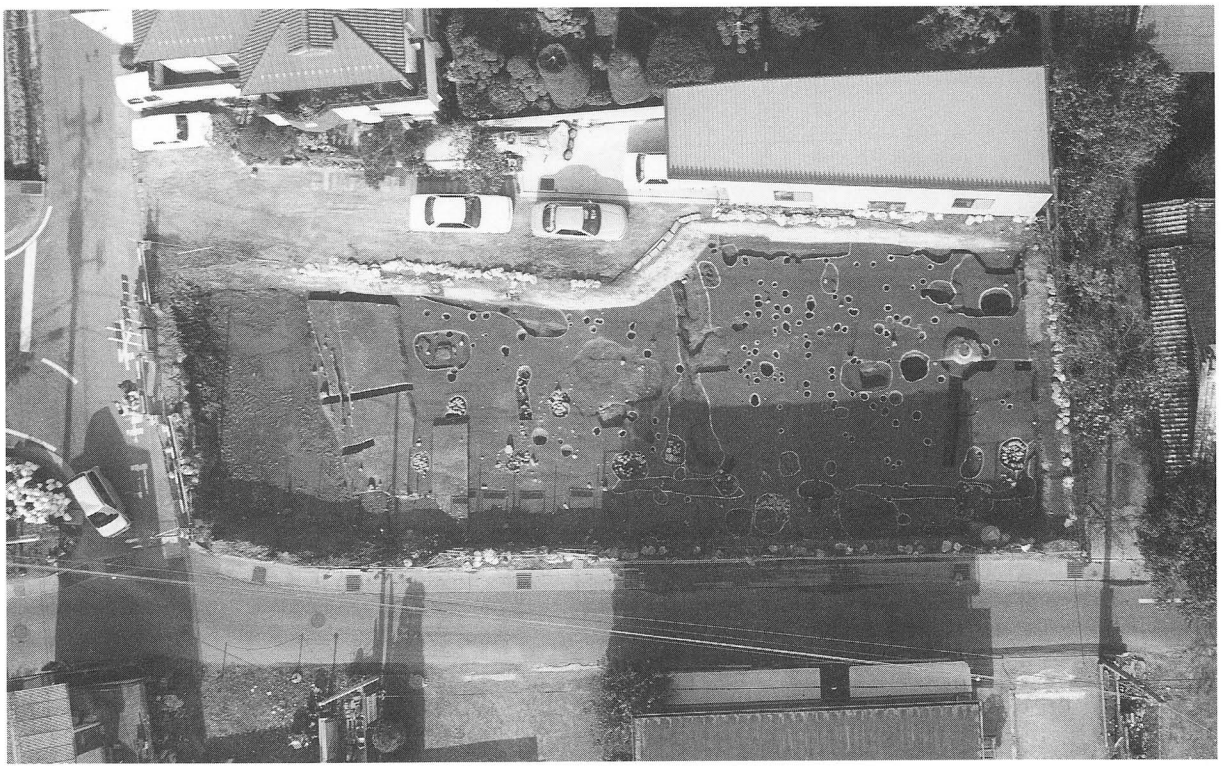
近世については、中世から続く郷士で、江戸後期には高畑村の村方三役を歴任した秋山氏の屋敷前庭部が調査され、江戸期における甲府城下町郊外の村役人の生活を知る貴重な資料が検出された。特に15号溝跡出土資料は土器・陶磁器に加え、漆製品もまとまって出土した一括資料であり、時期的にも17世紀後半から18世紀初頭と限定される。今後の調査研究において甲斐における一つの指標となろう。陶器は尾呂窯の製品がまとまって出土している。県下でも農村部を中心に出土が確認されていたが、今回のようにまとまった量が出土したのは初めてで、当時の流通を考える上で様々な問題を提起してくれた。

近世遺跡の取り扱いについては各自治体の判断するところとなったが、ともすればこうした近世村落は調査対象としては最初に除外される可能性が高い遺跡である。近世に限らず、当時の社会構造を明らかにする上で、社会基盤の根底となる村落遺跡を無視する訳にはいかない。その意味ではより実証的な歴史を語るための材料として、今回のような調査事例が増加することが望ましいが、同時に村落遺跡そのものの価値や評価について今後問い直さねばならないだろう。（佐々木満）

引用・参考文献

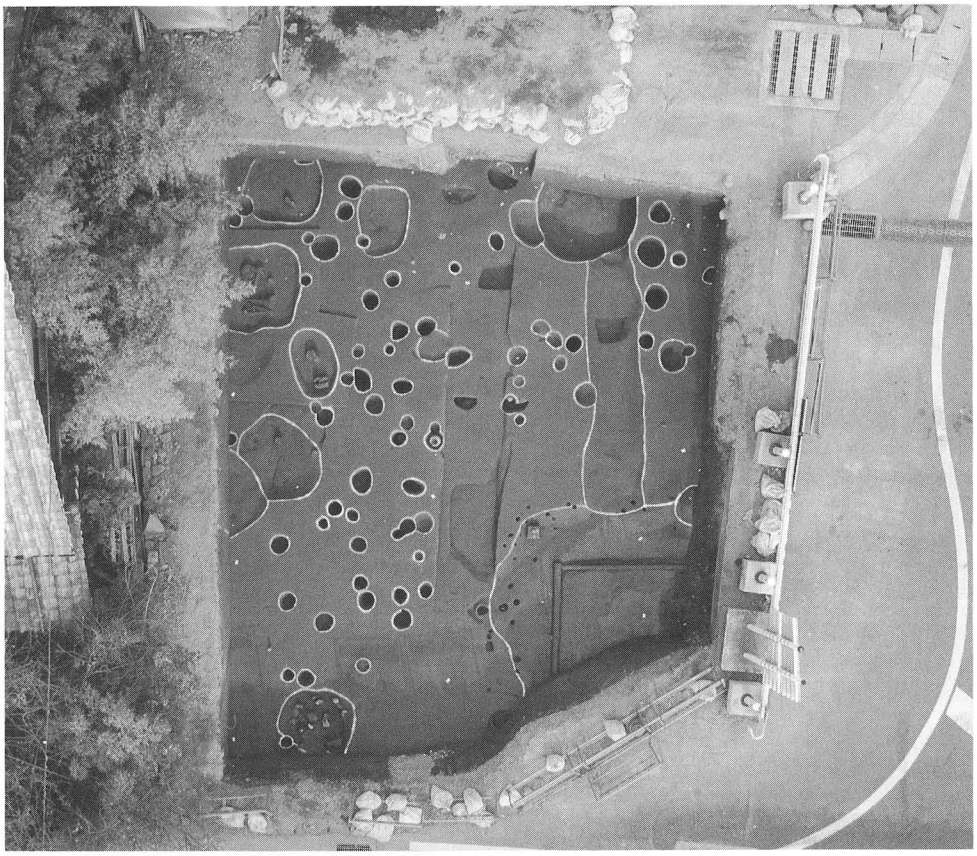
雄山閣　1982『甲斐国志』第２巻
佐賀県立九州陶磁文化館　1984『国内出土の肥前陶磁』
坂本美夫　1984「甲斐の郡（評）郷制」『研究紀要１』山梨県埋蔵文化財センター
末木　健　1986「甲斐国巨麻郡の成立と展開」『研究紀要３』山梨県埋蔵文化財センター
八巻與志夫　1986「古代甲斐国の郷配置の基礎的操作」『山梨考古学論集１』
　山梨県考古学協会
甲府市役所　1989『甲府市史史料編第５巻　近世Ⅳ』
甲府市役所　1991『甲府市史通史編第１巻　原始・古代・中世』
韮崎市教育委員会・峡北土地改良事務所　1991『宮ノ前第２遺跡・北堂地遺跡』
山梨県教育委員会・山梨県商工労部　1990『桜井畑遺跡Ａ・Ｃ地区』
甲府市役所　1992『甲府市史通史編第２巻　近世』
韮崎市遺跡調査会・韮崎市教育委員会　1992『宮ノ前遺跡』
山梨県考古学協会甲斐型土器研究グループ　1992『甲斐型土器―その編年と年代―』
　第１回研究集会資料　山梨県考古学協会
平野　修　1992「山梨県内出土の墨書土器と線刻土器」『帝京大学山梨文化財研究所研究報
　告』第４集　帝京大学山梨文化財研究所
瀬戸市役所　1993『瀬戸市史　陶磁史篇四』
古代の土器研究会編　1993『古代の土器２・都城の土器集成Ⅱ』
豊島区教育委員会　1994『巣鴨Ⅰ』
今井惠昭　1994「地下式壙出土の石臼について」『研究論集Ⅷ』東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財センター　1994『丸の内三丁目遺跡』
山梨県教育委員会・山梨県林務部『狐原遺跡』　1996
木村弘之　1997「中世墓の種類と変遷」『静岡県における中世墓』静岡県考古学会
東京都埋蔵文化財センター　1997『汐留遺跡Ⅰ』
東京都埋蔵文化財センター　1998『島屋敷遺跡』
豊島区教育委員会　1998『伝中・上富士前Ⅱ』
水本和美　1998「消費地遺跡出土の鍋島」『東京考古』16　東京考古談話会
瀬戸市役所　1998『瀬戸市史　陶磁史篇六』
群馬町教育委員会　1999『井出地区遺跡群』
金沢市教育委員会　2000『打木町東遺跡』
山梨県教育委員会・日本道路公団東京建設局　2000『石橋北屋敷』
山梨県教育委員会・日本道路公団東京第二建設局　2000『宮沢中村遺跡』
九州近世陶磁学会　2000『九州陶磁の編年』
韮崎市教育委員会・峡北土地改良事務所　2000『石之坪遺跡』
山梨県教育委員会・山梨県土木部　2000『横森赤台（東下）遺跡』

調　査　区　全　景

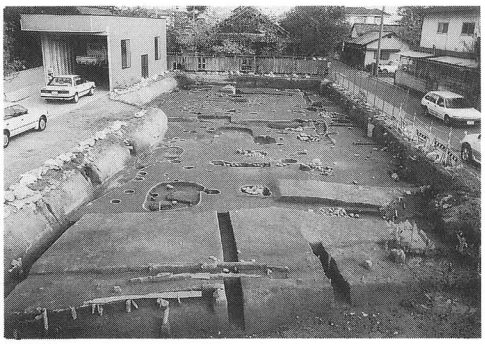


A　地　区　全　体　写　真

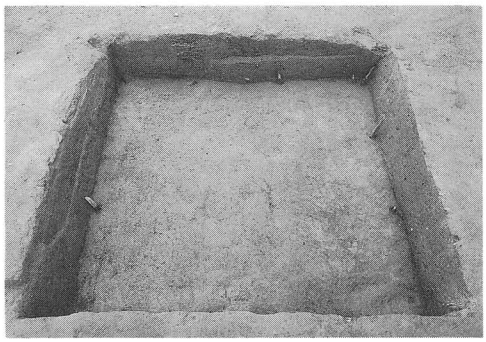
B地区
全体写真



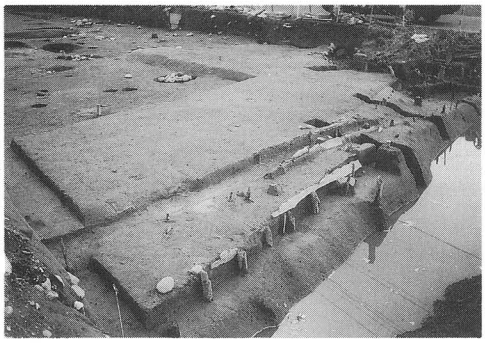
C地区
全体写真



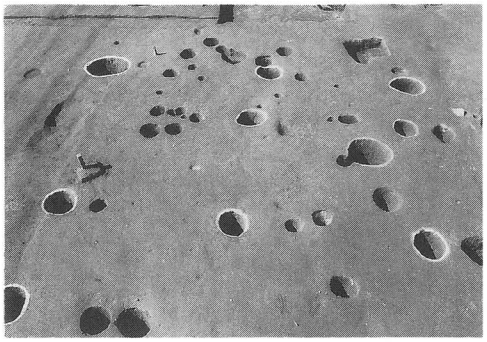
A地区
全　景



1号水溜状
遺構



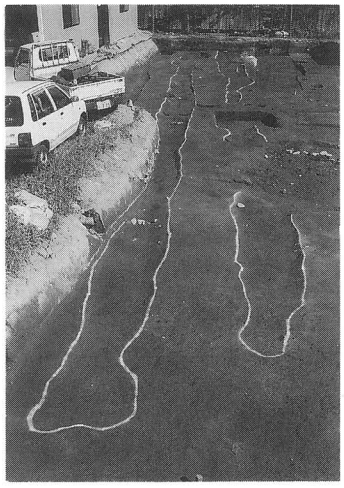
1号堀跡
1号土塁跡



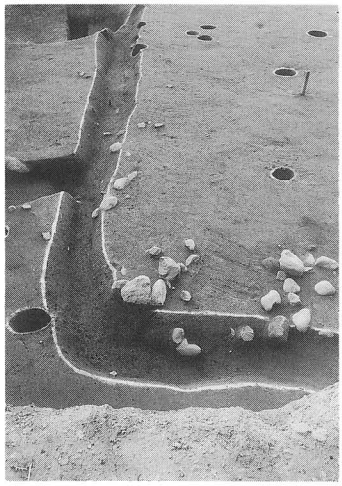
3号建物跡

1号堀跡護岸

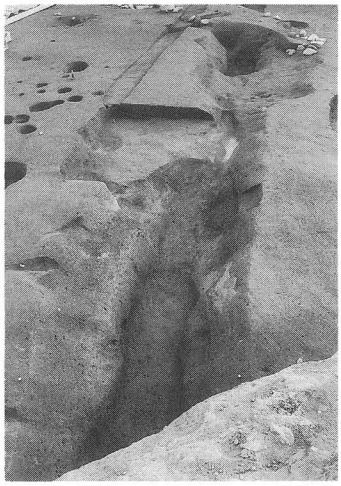
6号建物跡



1号・2号溝跡

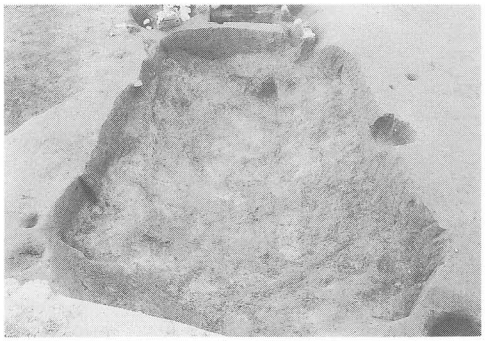


8号溝跡



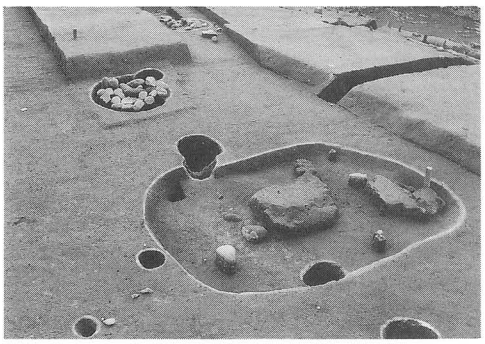
9号溝跡

22号土壙



30号土壙

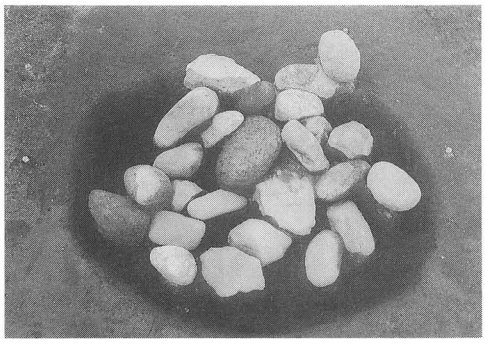
13号溝跡



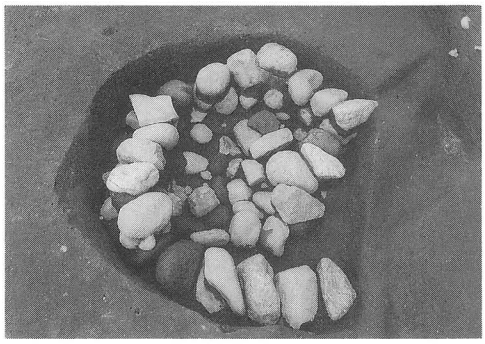
35号土壙

35号土壙

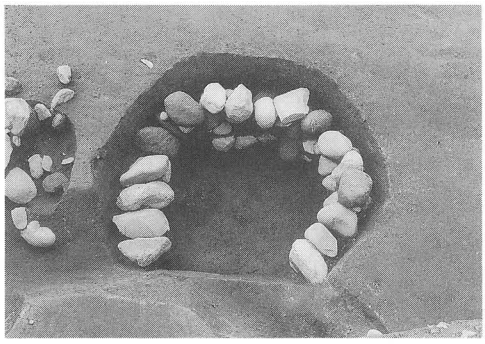
2号集石
遺構



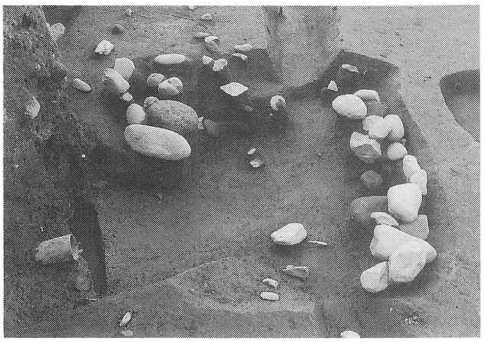
4号集石
遺構



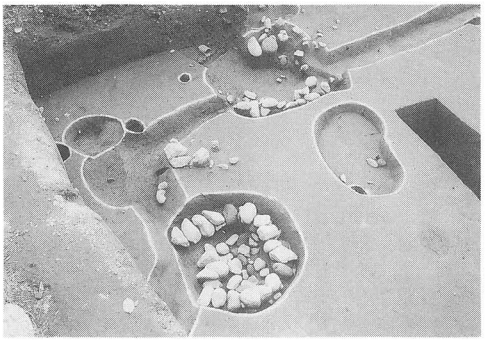
3号集石
遺構



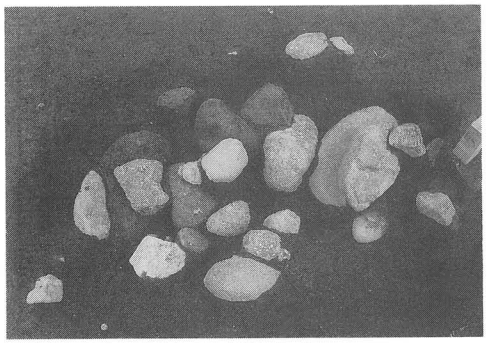
3号集石
遺構



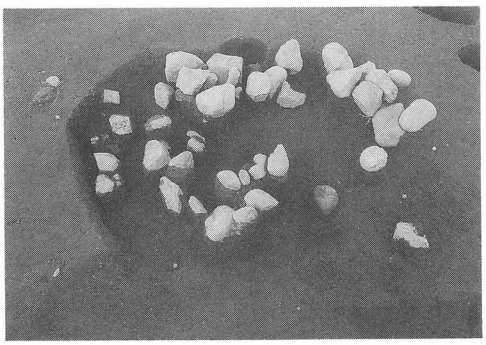
6号集石
遺構



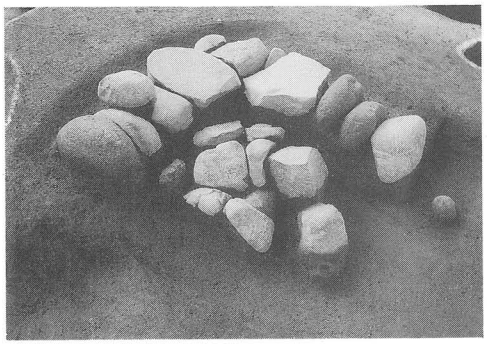
3号・6号集石
遺構集合



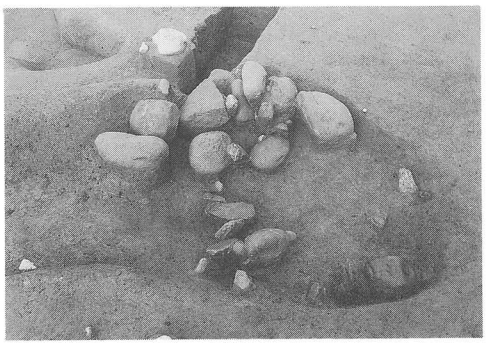
5号集石
遺構



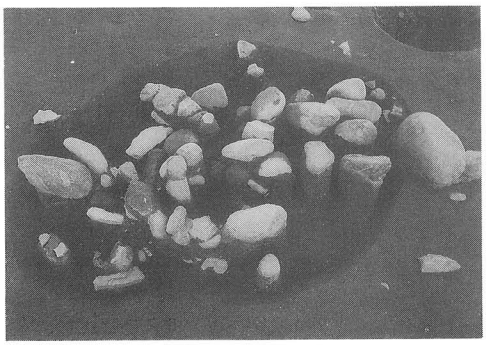
7号集石
遺構



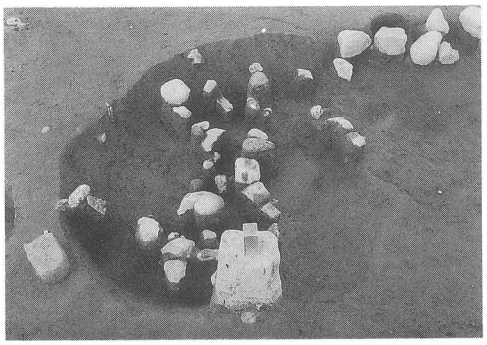
8号集石
遺構



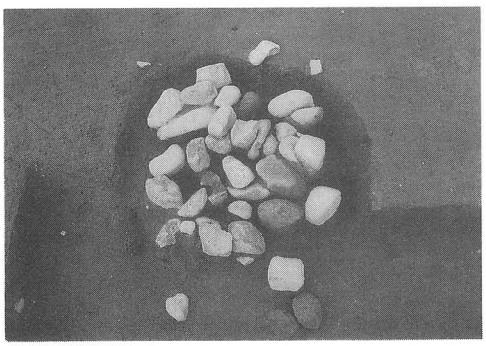
9号集石
遺構



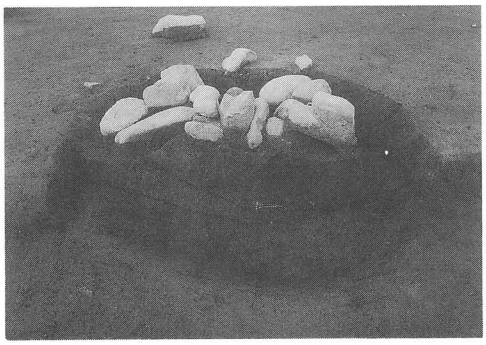
10号集石
遺構



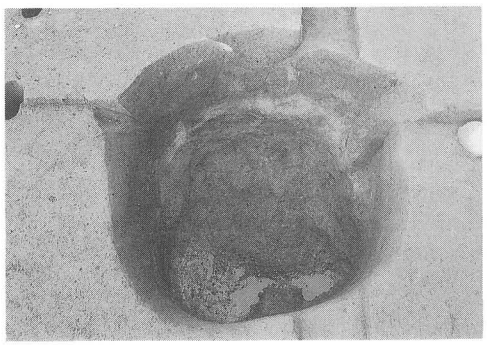
13号集石
遺構



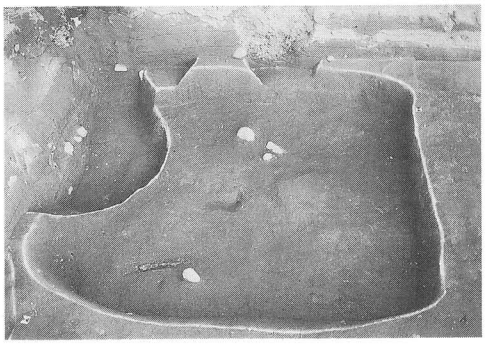
11号集石
遺構



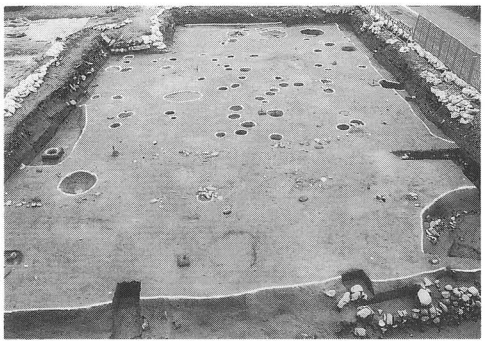
11号集石
遺構断面



2号井戸跡

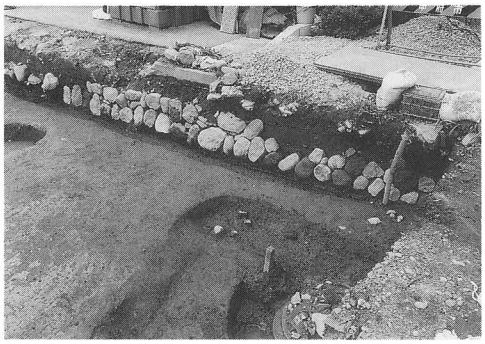


3号土壙
1号竪穴状
遺構

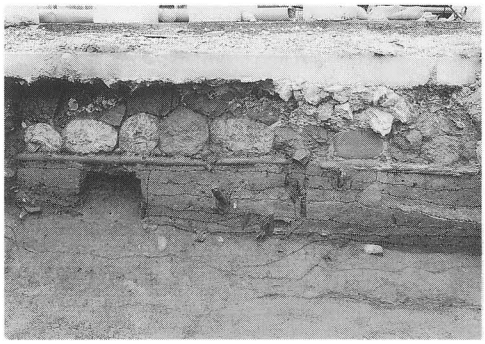


B 区全景
（1 回目）

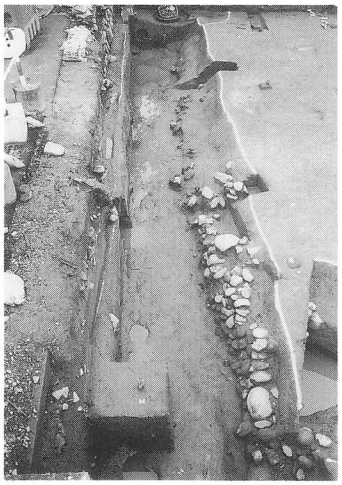
B 区全景
（2 回目）



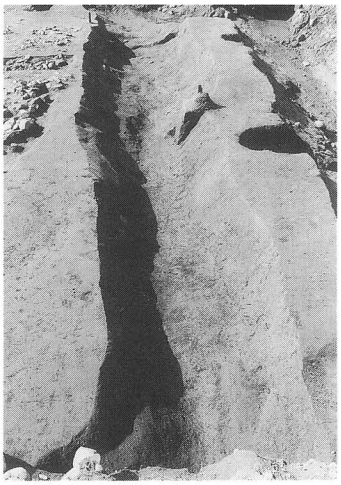
1 号石垣
14号溝跡



1 号石垣



15号溝跡

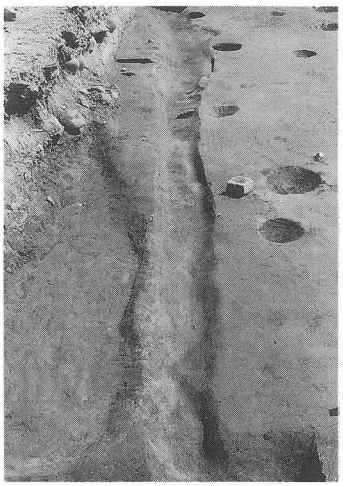


18号溝跡

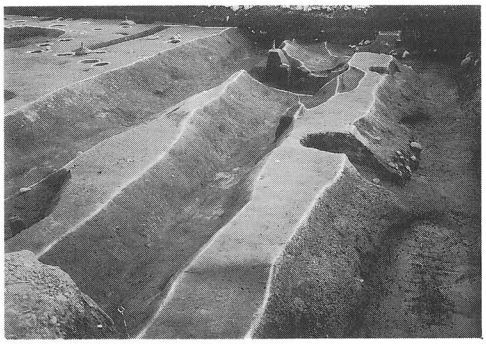
19号溝跡確認状況

19号溝跡

17号溝跡



20号溝跡



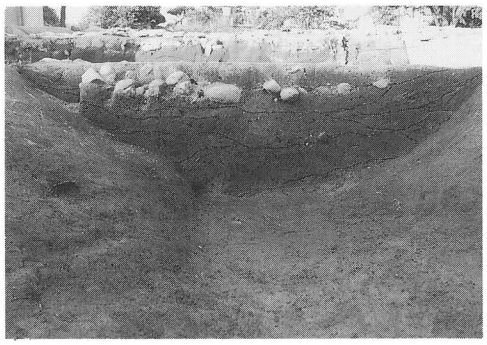
15号・18号
・19号溝跡

18号・19号
溝跡断面

15号溝跡
石積

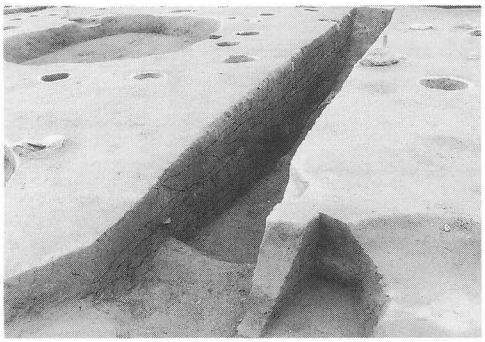
15号溝跡
出土遺物

15号溝跡
断面

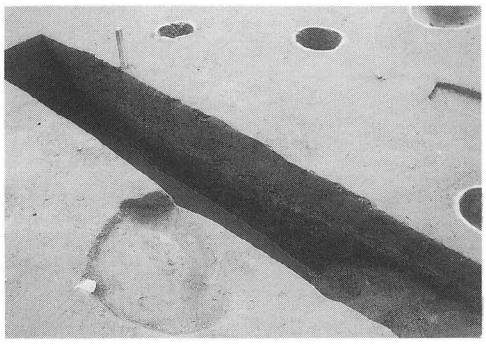


19号溝跡
断面

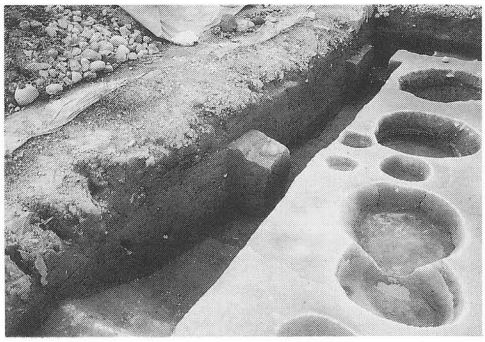
22号溝跡
サブトレンチ



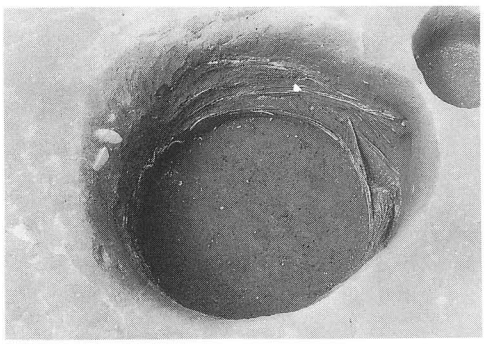
22号溝跡
サブトレンチ



22号溝跡
サブトレンチ

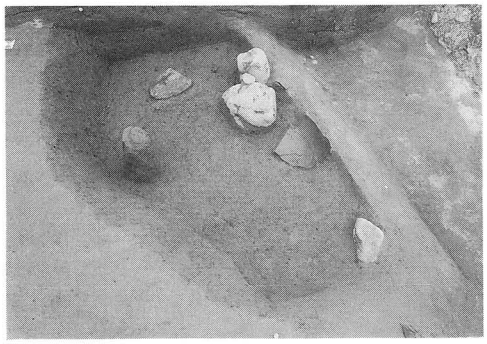


22号溝跡
サブトレンチ

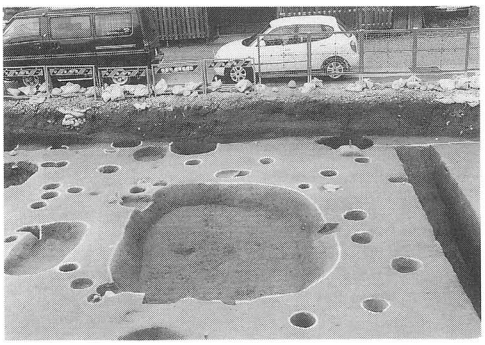


44号土壙

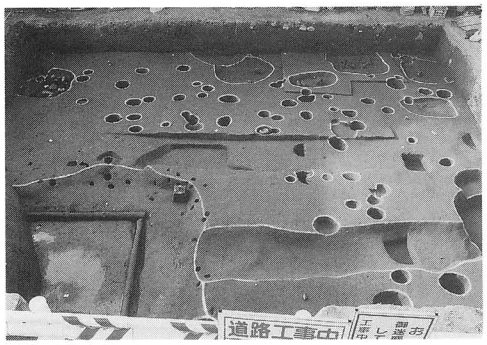
57号土壙



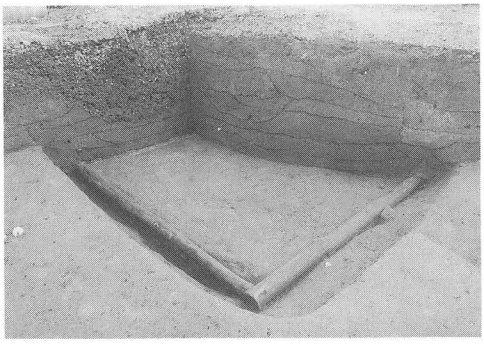
61号土壙



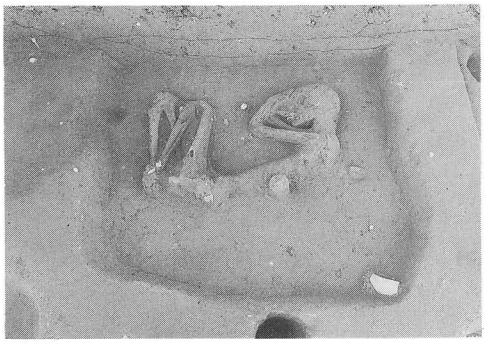
4号竪穴状
遺構



C地区
全　景



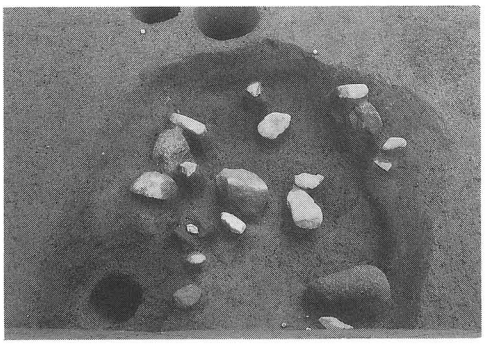
2号水溜状
遺構



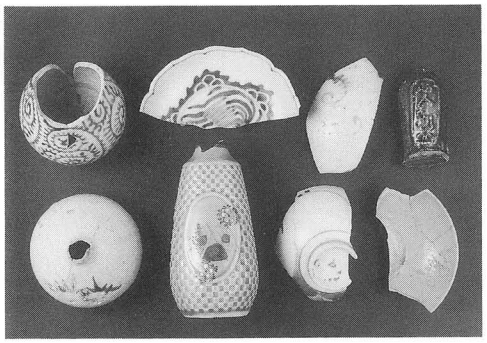
75号土壙

75号土壙

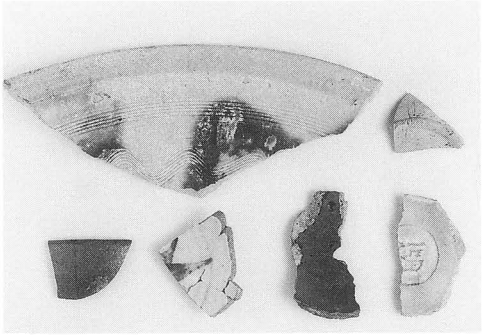
74号土壙



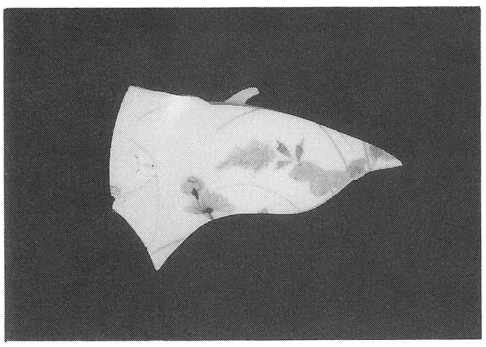
15号集石
遺構



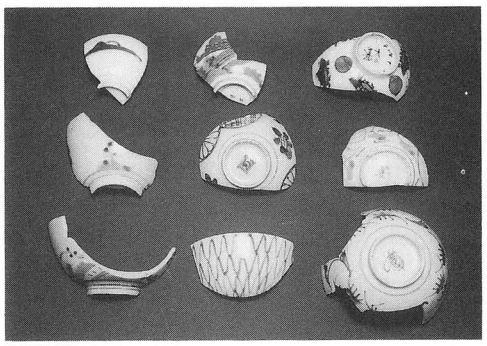
1号堀跡



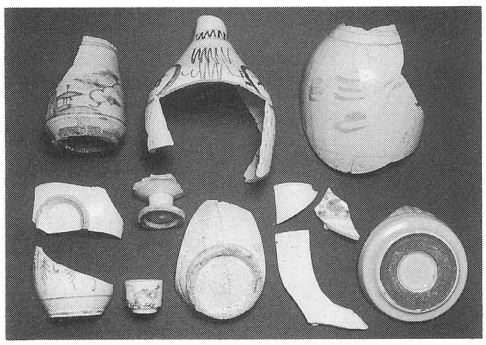
1号土塁跡



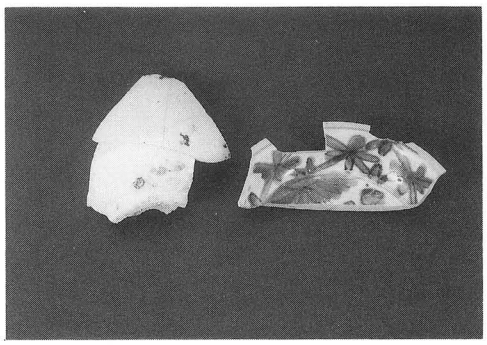
14号溝跡
鍋　　島



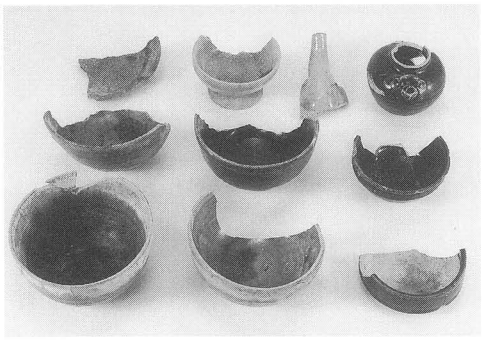
15号溝跡
肥前磁器碗



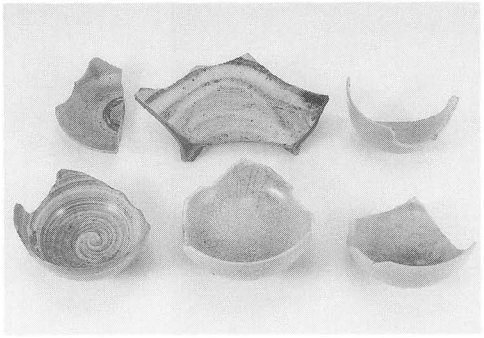
15号溝跡
肥前磁器



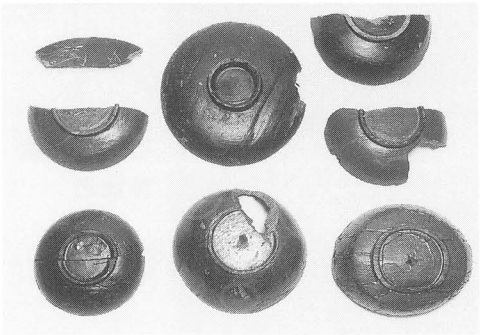
15号溝跡
初期伊万里



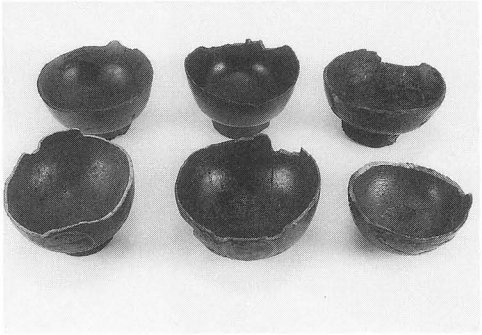
15号溝跡
美濃陶器



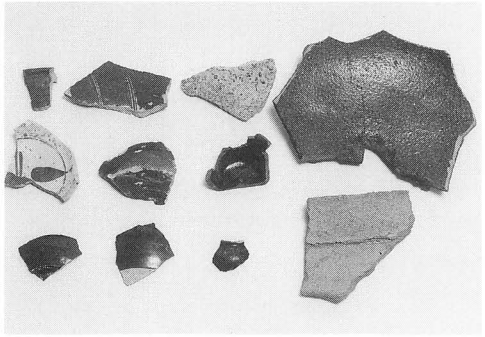
15号溝跡
肥前・唐津
陶器



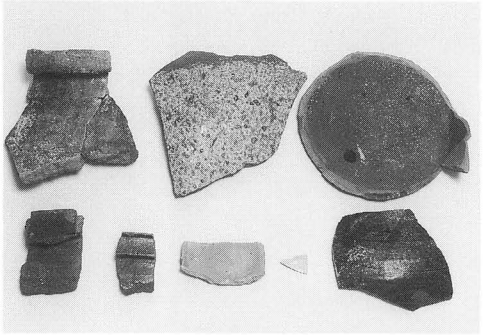
15号溝跡
漆椀蓋



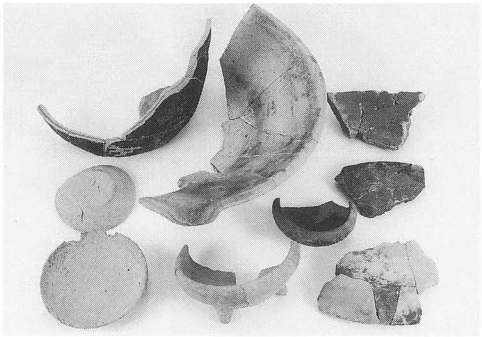
15号溝跡
漆　椀



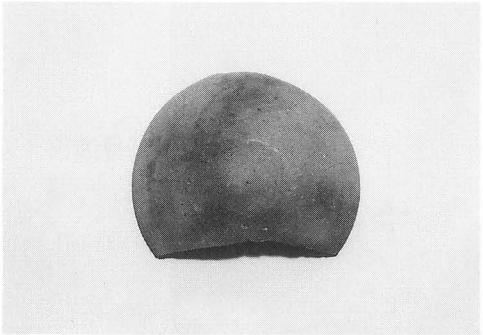
18号溝跡
陶　器



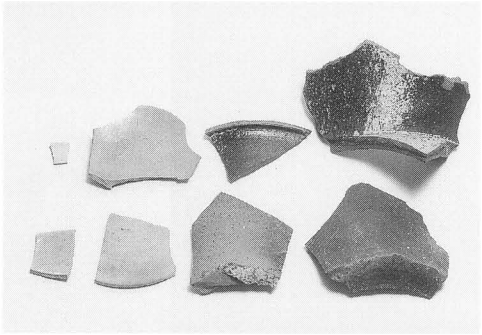
19号溝跡
陶磁器



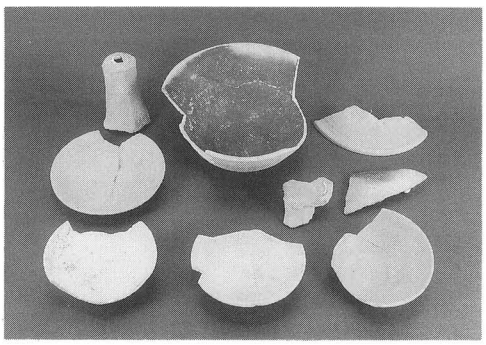
19号溝跡
在地土器



22号溝跡
墨書土器



22号溝跡
灰釉・緑釉
陶器、須恵器

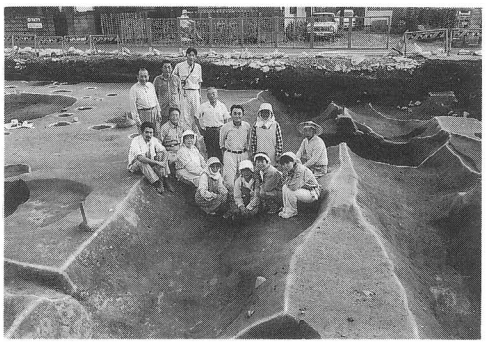


22号溝跡
甲斐型土器

平成11年度
参加者

平成11年度
参加者

平成11年度
現地説明会



平成12年度
参加者

報　告　書　抄　録

ふ り が な	あきやましやかたあと
書　　名	秋山氏館跡
副　書　名	甲府都市計画街路高畑町昇仙峡線建設工事に伴う発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	甲府市文化財調査報告書
シリーズ番号	16
編 集 機 関	甲府市教育委員会
所　在　地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号　電話 055(223)7324
発行年月日	平成13年３月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調 査 原 因
あきやましやかたあと 秋山氏館跡	やまなしけんこうふし 山梨県甲府市 たかばたけ 高畑一丁目	19201	181	35° 38′ 50″	138° 34′ 0″	19990621 ～ 20001221	市道拡幅 工事に伴う 発掘調査

所収遺跡名	種　別	主な時代	主 な 遺 構	特　記　事　項
秋山氏館跡	城館跡	中　　世	堀跡・土塁跡・建物跡・溝跡・集石遺構・井戸跡・竪穴状遺構・ピット土壙	平安　寺院関連遺物 中世　集石墓と土壙墓群 近世　村方三役を勤めた秋山氏屋敷関連の遺構遺物

甲府市文化財調査報告16

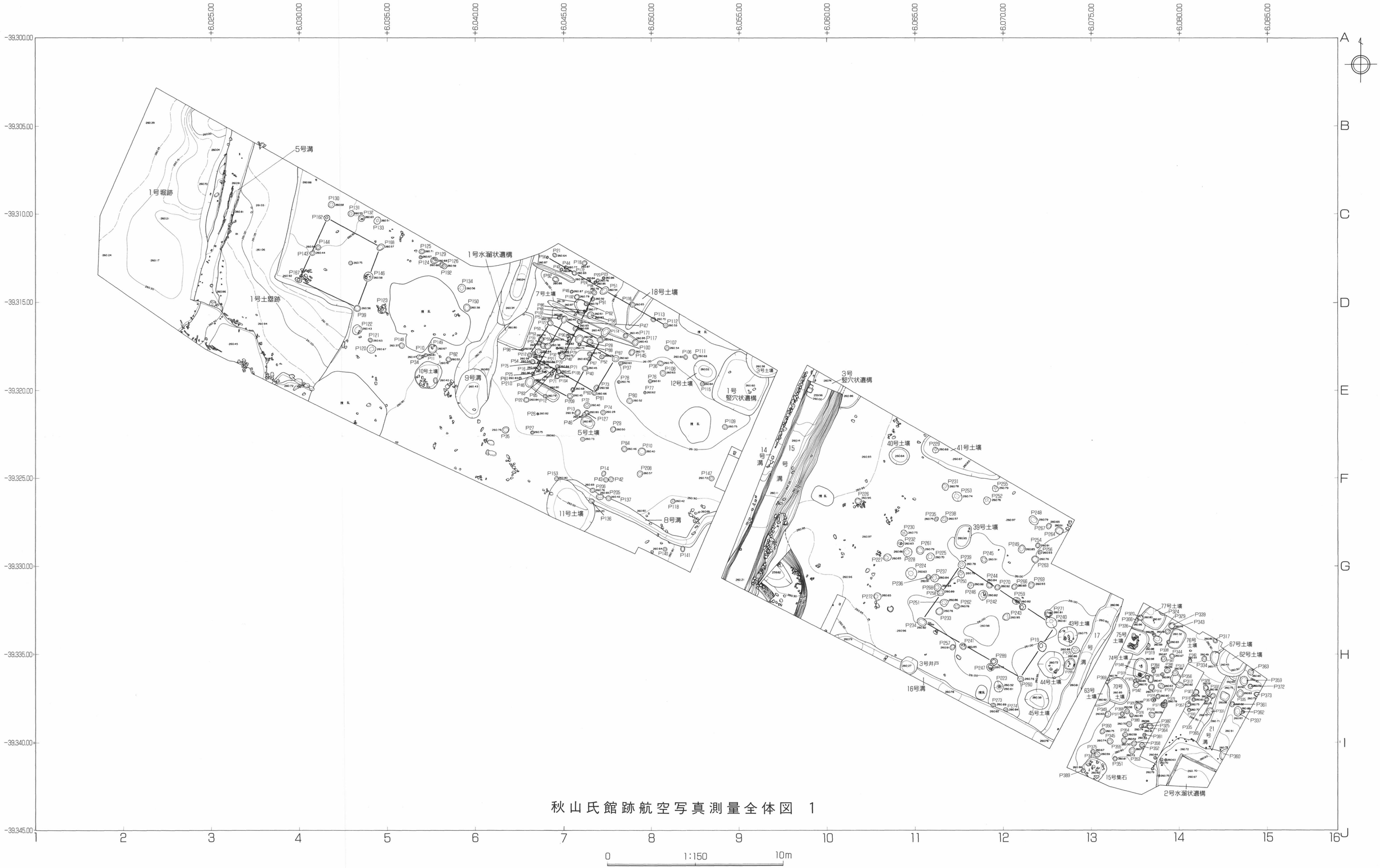
秋　山　氏　館　跡

―甲府都市計画街路高畑町昇仙峡線建設工事に伴う発掘調査報告書―

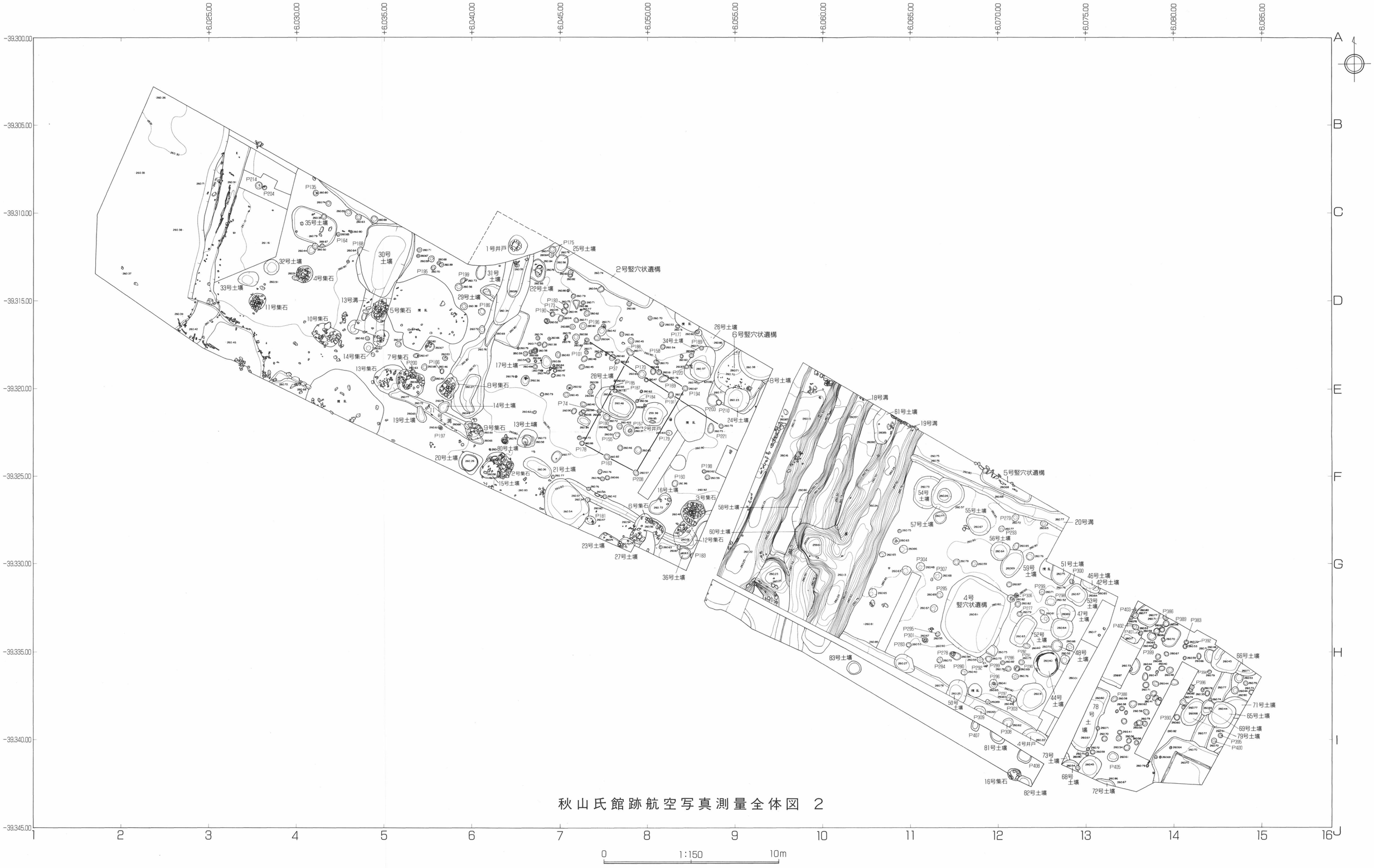
平成13年３月30日

発　行　甲府市・甲府市教育委員会
〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番１号
TEL ０５５（２２３）７３２４
FAX ０５５（２２６）４８８９

印　刷　㈱内田印刷所
〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10-18



秋山氏館跡航空写真測量全体図 1



秋山氏館跡航空写真測量全体図 2

0 1:150 10m